

II 縄紋時代の調査

1 調査の概要

本道跡の調査区は大きく台地部と谷地部に分かれており、台地部をⅡ～Ⅵ区、谷地部をⅠ区として調査を行った。

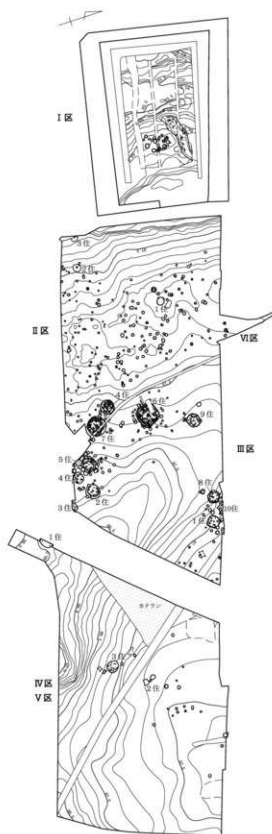
台地部では第3層のローム層上面を確認面とし、漸移層である第2層を包含層として調査をすすめた。その結果、地点を違えて前期後半と後期初頭の2時期の集落が展開することが確認された。Ⅲ区を中心として前期後半の住居14棟が展開し、Ⅱ区西端つまり台地の縁辺部に後期初頭の住居2棟が展開する。また両者からは離れたⅡ区中央付近の位置で、前期末葉の住居1棟が検出された。

土坑は341基が検出されたが、Ⅱ区を中心とした分布が見られ、東へ行くにつれて希薄な分布を示す。Ⅱ区とⅢ区の土坑を比較すると、形状、分布に明確な相違が見られ、用途・機能に起因するものと考えられた。

包含層からは前期後半を主体として、草創期後半燃糸紋期から後期にわたる遺物が出土した。前期後半～末葉期は諸磯b式、諸磯c式、十三善提式の在り土器のほかには東関東地方の浮島式、興津式、中部地方の下鳥式、晴ヶ峯式、南東北地方の大木5式、大木6式、北陸地方の鍋屋町式、福浦上層式、真脇式など、広範な地域にわたる土器が出土しており、交流の広さを物語っている。

またⅣ区南東部において、草創期前半に帰属すると考えられる石器群が検出された。尖頭器・有茎石鏃・打製石斧が組成するが、土器の伴出は確認されなかった。

谷地部では、土坑が21基検出された。土坑内からクルミ片が出土するものも多く見られ、水さらしや貯蔵に関わる遺構と考えられる。包含層からは、前期後半、中期後半～後期の遺物が主体に出土している。



第7図 縄紋面全体図 (1/1800)

2 竪穴住居

本遺跡からは竪穴住居17棟が検出された。

住居の時期は、前期後半諸磯c式期14棟、前期末葉十三菩提式期1棟、後期初頭称名寺I式（後期加曾利E系）期2棟である。

諸磯c式期の住居は、Ⅲ区中央付近を谷頭とし、南東方向に延びる低地を臨むように馬蹄形に集落を形成する。初期のものは、構築時期が諸磯b式の新しい段階に遡るものも見られ、数棟ずつのまとまりをなして脈々と集落を形成していたことが分かる。Ⅲ-6号やⅢ-7号については、建て替え・拡張を繰り返しながら、直径が10mにも及ぶような大形の住居となっている。もっとも大きいⅢ-6号からは、埋燵炉8基、地床炉4基が検出された。Ⅲ-7号においても埋燵炉8基が検出されており、建て替え・拡張を繰り返しながら長期にわたって住居が存続していたことがうかがい知れよう。

またⅢ-2号、Ⅲ-6号、Ⅲ-7号、Ⅳ-3号からは黒曜石製の石鏃や石核とともに、それぞれ500点を越す剥片・チップ類が出土している。このことは当地において石鏃を製作していたことを物語るものであり、原材を持ち込み、廃絶後の住居の凹地を利用して石鏃を製作していたと考えられよう。

十三菩提式期は、諸磯c式期の集落からは離れたⅡ区中央付近で1棟が検出された。掘り込みは明瞭だが、住居内からは炉および明瞭な柱穴は確認されていない。調査区内からはこの1棟のみで、ほかに当該期の住居は全く検出されておらず、散在的な集落だった様相がうかがえる。

後期初頭の2棟はⅡ区西端、台地の縁辺部で検出された。台地縁辺部は後世の削平によりローム層下位まで掘削されており、検出された2棟については壁の立ち上がりがころうじて確認できる状況であったことから、周囲にも住居があった可能性が考えられる。I区の谷を挟んだ西の台地には天ヶ堤遺跡があり、当該期の集落が展開していることから、両者の関連が考えられよう。

●Ⅱ-4号住居

位置 815, 820-645, 650

形状 周溝の痕跡から、最低2回の建て替え・拡張が認められる。最終段階3期は不整形を呈し、最大径6.9mを測る。初期段階1期は北西に角をもつ五角形状を呈しており、最大長は5.1mを測る。北部において、3期壁面の内側に周溝が検出されており2期と認定しうるが、3期の周溝と連続するため、規模は3期とほとんど変わらなかったと考えられる。

床面 床面レベルの差から、初期段階の1期と拡張後の2・3期の段階が確認できる。初期段階1期は確認面から最大60cm掘り込んで床面を構築する。床面レベルは標高86.70m程でほぼ平坦である。2期は拡張に際し、1期床面にローム粒を含む暗褐色土を10cm前後埋め戻して床面を構築する。調査時に2期床面を明確にとらえることはできなかったが、東から南にかけての内環周溝-外環周溝間の床面レベルが86.80m程であり、また最終段階に伴うと判断される1号埋燵の上端レベルも86.80mであることから、ほぼ平坦だったと想定できる。

周溝 内環周溝と塋際をめぐる2重の周溝が検出された。両周溝とも南西部では検出されなかったが、1年次における限定された部分的な調査であったために、周溝を認定できなかった可能性がある。溝幅は10-20cm程、深さ2-5cmを測る。

炉 埋燵炉4基が検出された。いずれも南西部に偏った配置となっており、南西部が火処空間だったことが認識できる。

1号は径30cm、深さ25cmほど掘り下げて、底部付近と口縁の大部分を欠いた深鉢を正置させる。埋燵土の2層と3層の境界に焼土面が存在することから、この位置が火床面と考えられよう。1号は上端が3期床面レベルの86.80m程であること、2号と3号を壊して埋め込まれていること、硬化床面に覆われていないことから4基の埋燵のなかで、もっとも新しいものと判断される。炉体土器は全面に縄紋を施する土器(1)である。

2号は1号の前身ともなる炉体で、1号の西側下位から壊された状態で検出された。掘り方は径24cm、深さ11cmを測り、底部を欠いた胴下半部のみを深鉢を埋設する。上端レベルは86.75m程で、上位にロームを主体とする土で埋められ、2期あるいは3期床面が形成されている。炉体土器は諸磯c式(2)で、1号埋設時に壊されたらしく外周が回らず、1/2程が残っているにすぎない。

3号は1号の北側に隣接するように埋め込まれているが、上端レベルは1号よりも7~11cm低い。径25cm、深さ20cmほど掘り下げて、口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設している。炉体土器は下島式(3)である。

4号は1号の南東に85cmほど離れて設けられている。径25cm、深さ15cmほど掘り下げて、やはり口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。上端レベルは86.81cmで3期床面とはほぼ同レベルであるため、3期床面に伴うとも考えられるが、上位をローム混土で覆い、硬化床面が形成されていることから2期床面以前に伴い、最終段階の3期では埋められて機能しなかったと想定できる。4層上位で焼土粒の集積が認められることから、この位置が火床面と判断される。炉体土器は諸磯c式(4)である。

それぞれの埋壘の先後関係であるが、上記したとおり1号がもっとも新しく、最終段階3期に伴ったことは間違いないであろう。しかしながら2号、3号、4号の関係については確定しうる根拠に乏しく、断定はできない。

柱穴 84基が検出された。それぞれの規模については別表の通りである。P8、P9、P24、P26など規模の大きいものについては柱穴ではなく、住居とは時期を異にする土坑と考えられる。ピットの数が多く、それぞれどう組むのが判然としないが、規模や配置から推察すると最終段階3期で、P1-P45-P65-P11-P82-P19のような6本主柱であった可能性が考えられる。あるいはP43、P14を加えて8本主柱の可能性も考えられようか。

遺物 諸磯c式を主体に、諸磯b式から前期末葉あ

るいは中期初頭の土器が出土している。3期床面がとらえられなかったため床面密着の遺物は判然としませんが、調査時の記録写真と遺物分布図から判断すると、7、8、83、84、139がほぼ3期床面レベル出土と思われる。6、13、30は3期床面からやや浮いた状態で出土しており、住居廃絶後の埋設過程で廃棄されたものと考えられよう。137の石皿はP9、また114、115の打製石斧はP8出土のため、住居とは時期を異にする可能性が高い。

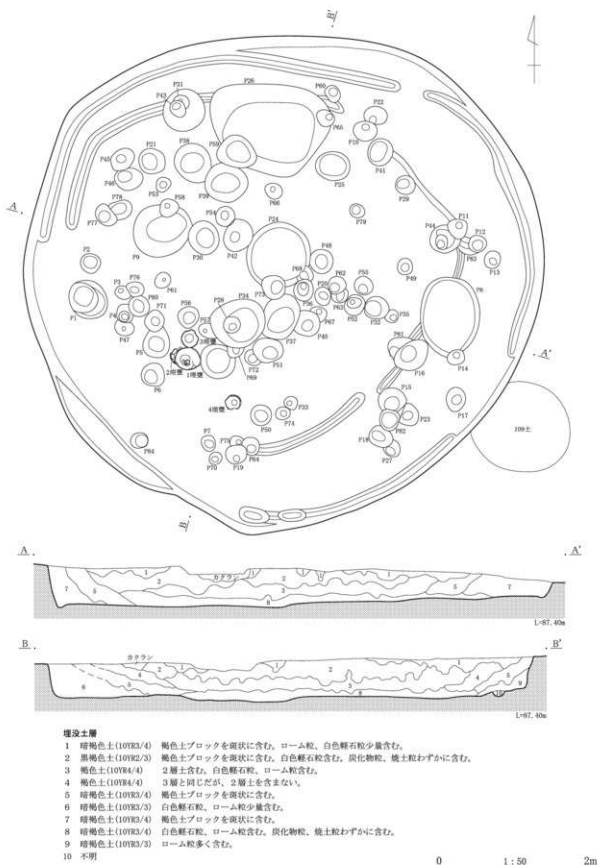
時期 炉体土器から諸磯c式期と考えられる。

重複 III-109号土坑と重複するが、新旧は不明。

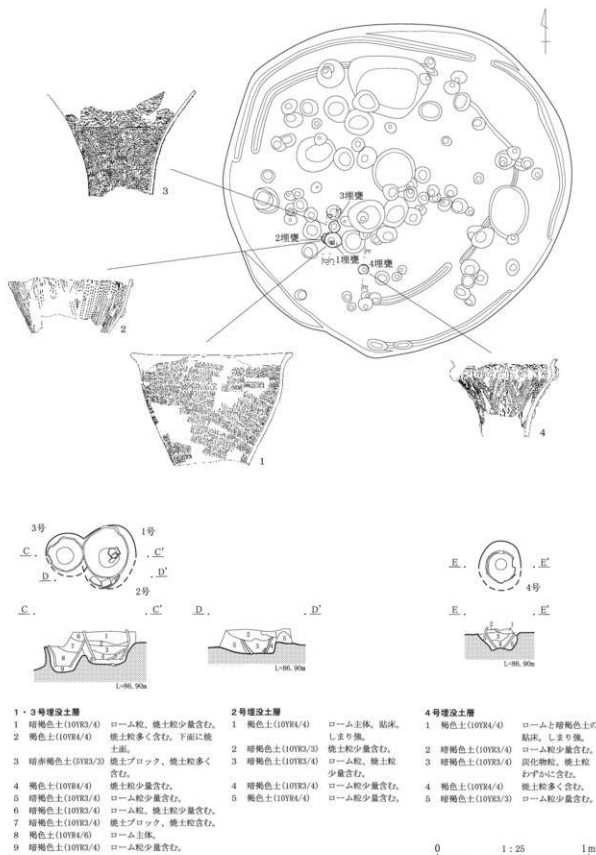
I-4号住居 柱穴計測表

番号	径	深さ	出土遺物	番号	径	深さ	出土遺物
1	55	43		43	56	60	135
2	27	16		44	37	37	
3	21	39		45	35	51	91, 92
4	24	50	94	46	37	37	138
5	35	26		47	26	59	
6	31	19		48	32	26	
7	21	42		49	22	27	
8	106	45	55, 114, 115	50	28	17	
9	79	11	137	51	40	38	7
10	31	44		52	29	63	
11	27	66		53	21	26	
12	23	27		54	16	34	106
13	23	43		55	25	63	
14	23	57		56	18	22	
15	35	34		57	19	43	
16	51	61		58	15	59	
17	32	33		59	51	48	
18	32	34		60	23	33	
19	28	65		61	23	33	
20	24	41		62	24	46	
21	37	37		63	23	32	
22	30	49		64	24	26	
23	28	44		65	25	51	
24	84	20		66	25	43	
25	45	23		67	21	36	
26	159	54		68	23	20	
27	22	35		69	22	35	
28	22	19		70	17	28	
29	26	30		71	26	25	
30	45	33		72	23	18	
31	21	57		73	32	59	
32	32	30		74	20	32	
33	18	19		75	19	47	
34	72	32		76	21	35	
35	17	36		77	31	52	
36	29	53		78	25	44	
37	63	20		79	20	33	
38	47	30		80	29	51	
39	57	35		81	33	57	
40	33	35		82	28	64	
41	37	36		83	23	26	
42	43	18		84	23	15	

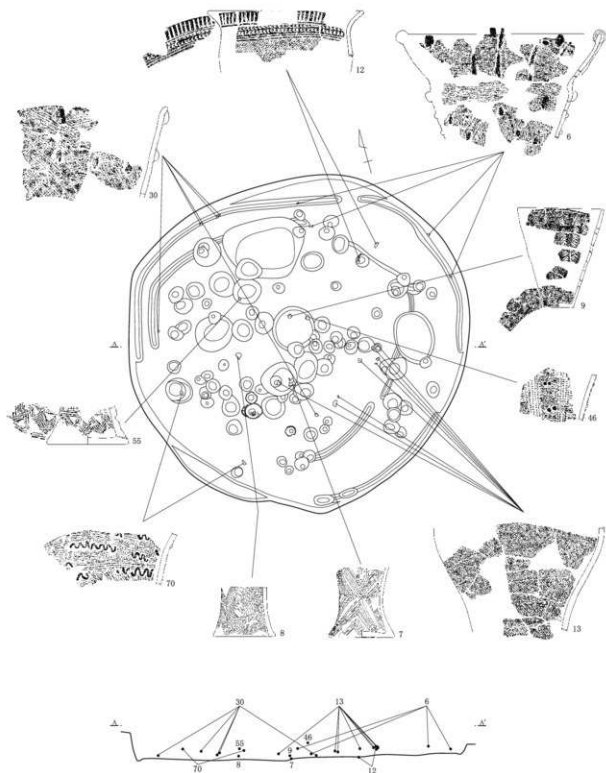
II 縄紋時代の調査



第8図 II-4号住居



第9図 II-4号住居埋設

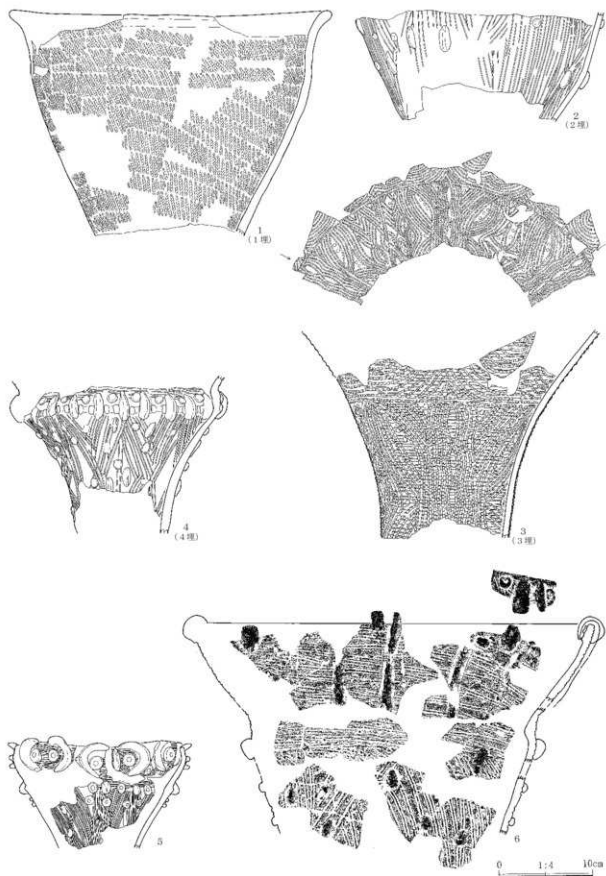


第10図 II-4号住居遺物出土状況(土器)

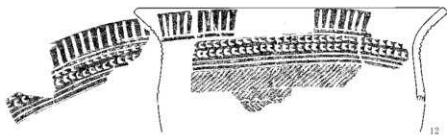
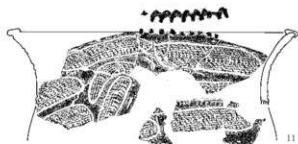
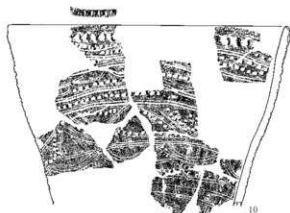
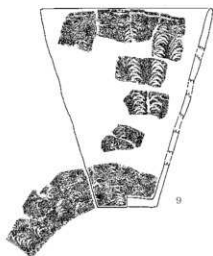
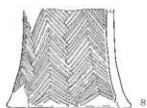


第11图 II-4号住居遺物出土狀況(石器)

II 縄紋時代の調査

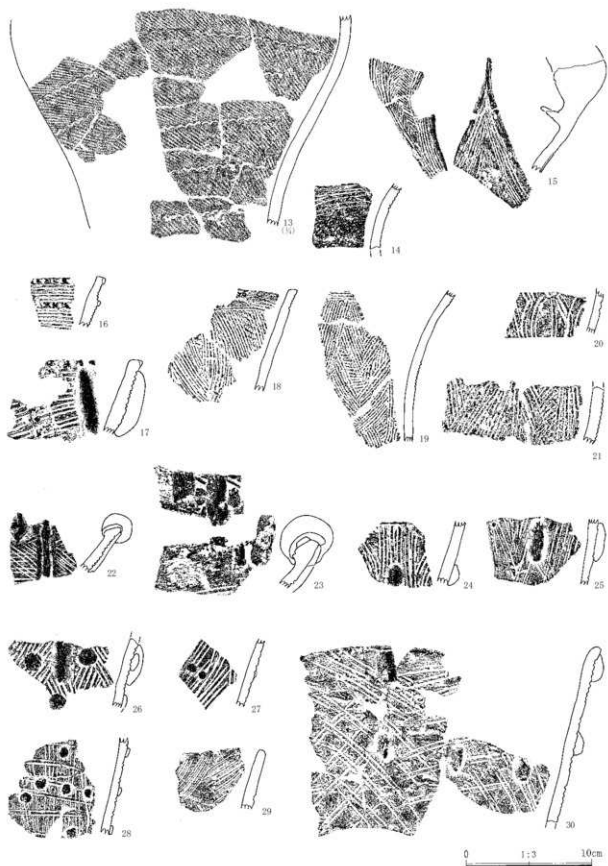


第12図 II-4号住居出土遺物(1)

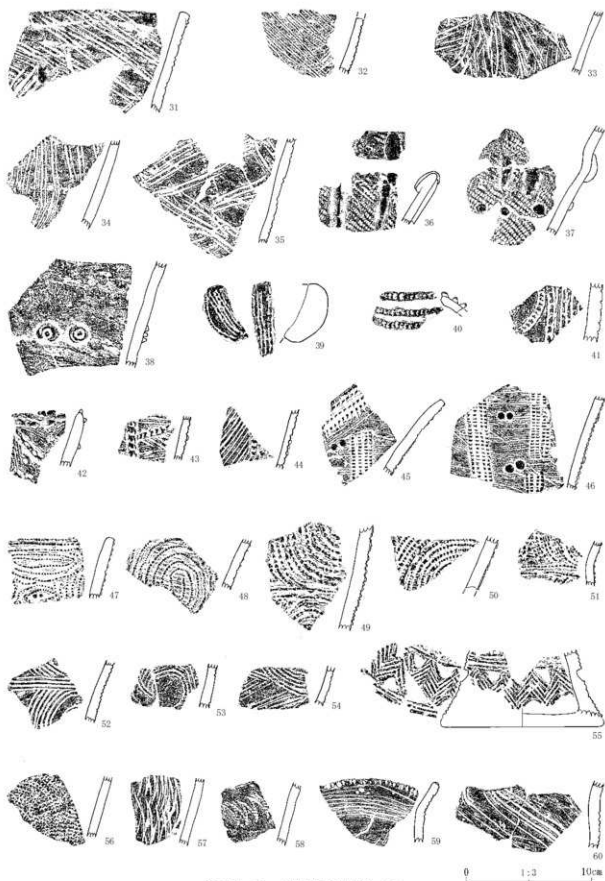


0 1:4 10cm

第13図 II-4号住居出土遺物(2)

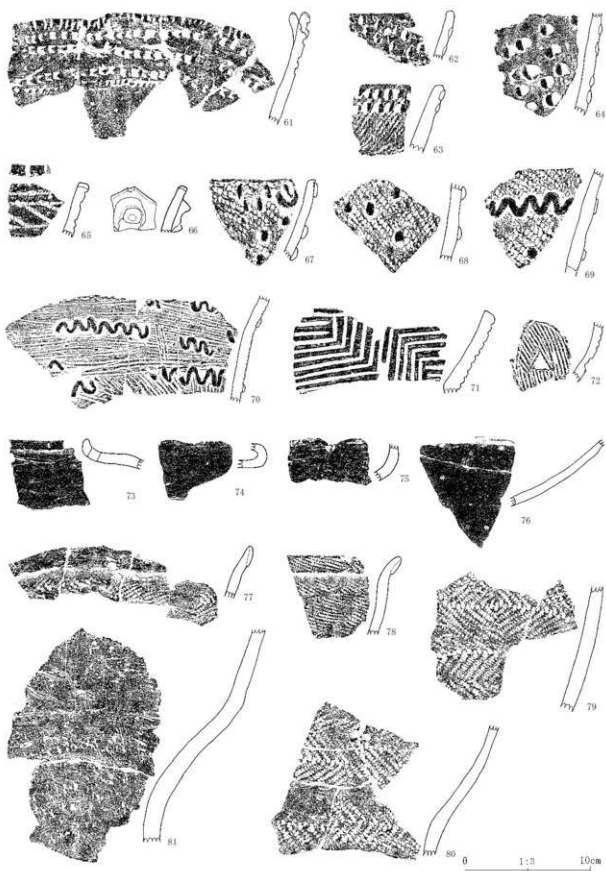


第14図 II-4号住居出土遺物(3)

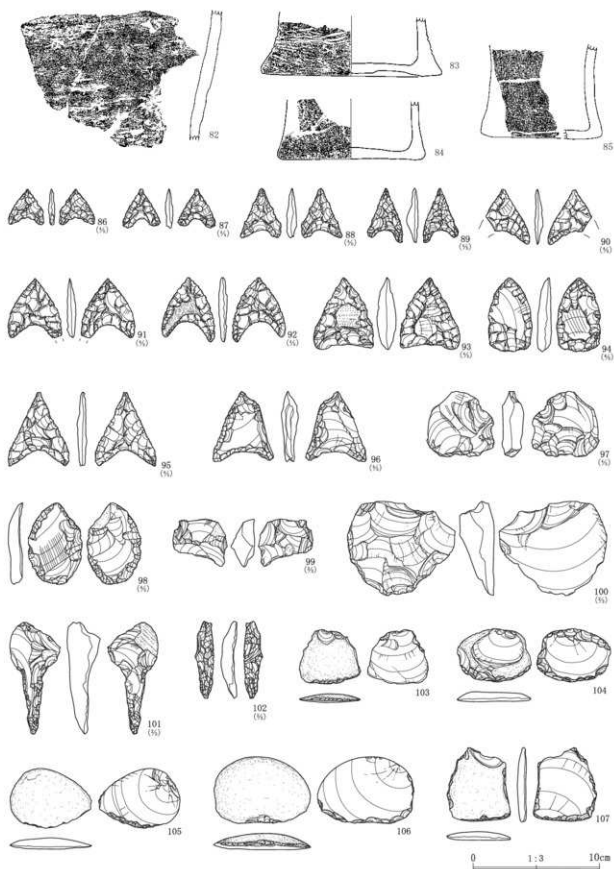


第15图 II-4号住居出土遺物(4)

II 縄紋時代の調査

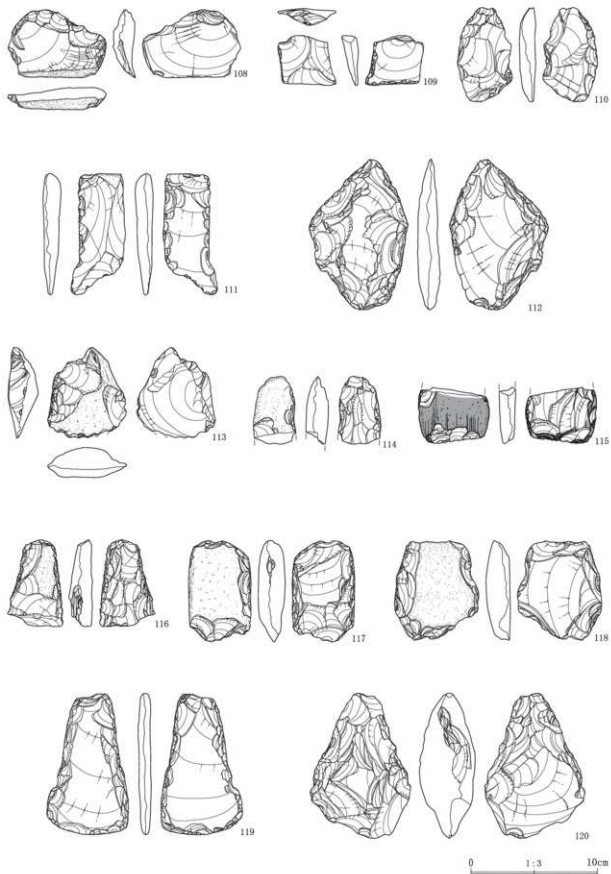


第16図 II-4号住居出土遺物(5)



第17图 II-4号住居出土遺物(6)

II 縄紋時代の調査



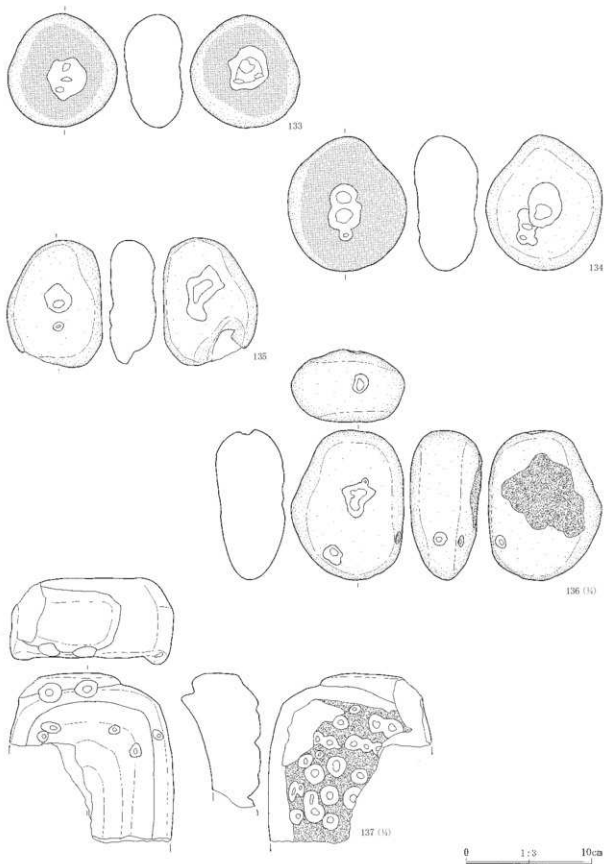
第18図 II-4号住居出土遺物(7)



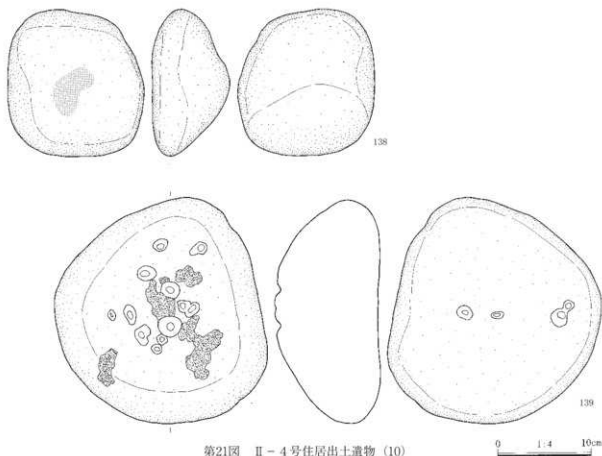
第19回 II-4号住居出土遺物(8)

0 1:3 10cm

II 縄紋時代の調査



第20図 II-4号住居出土遺物(9)



第21図 II-4号住居出土遺物(10)

●Ⅲ-1号住居

位置 845、850-580、585

形状 北西辺の中央が張り出す不整五角形状を呈す。規模は5.6m×5.6m。

床面 確認面から最大50cm掘り込んで床面を構築する。若干の凹凸はあるが、概ね平坦である。

炉 住居のほぼ中央で地床炉1基が検出された。床面とはほぼ同レベルで焼成を受けて赤変しており、その分布は60×40cm、深さ5cmを測る。

柱穴 18基が検出された。それぞれの規模(径×深さ)はP1:48×17cm、P2:38×23cm、P3:47×38cm、P4:35×26cm、P5:40×9cm、P6:21×20cm、P7:79×14cm、P8:53×24cm、P9:34×28cm、P10:30×57cm、P11:63×69cm、P12:32×43cm、P13:26×58cm、P14:20×51cm、P15:21×30cm、P16:22×21cm、P17:25×28cm、

P18:28×54cm。50cmを越える深さをもつことからP10、P11、P18とP13あるいはP14が主柱穴と考えられる。

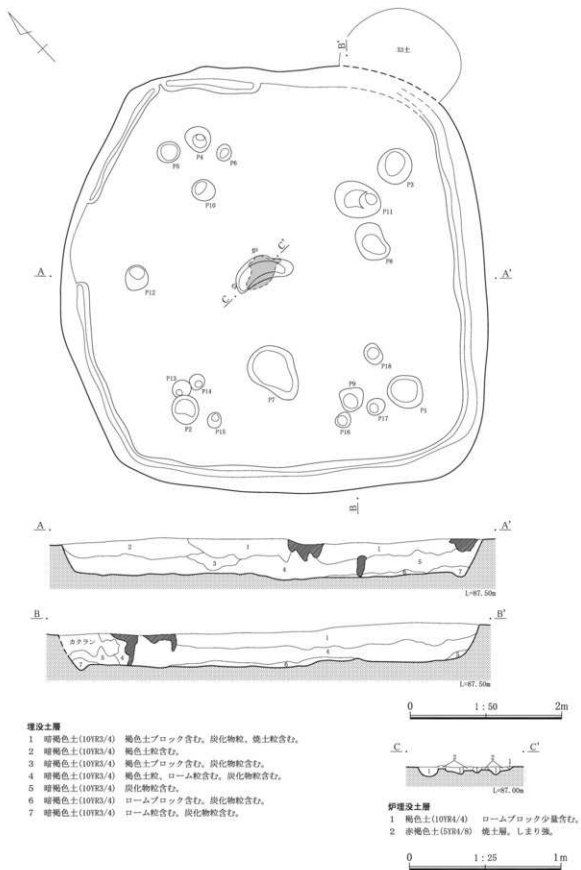
遺物 諸磯c式を主体として、諸磯b式、十三菩提式、浮島式、興津式などが埋没土中から出土している。1は床面から10cm弱浮いた状態で出土しており、住居廃絶後、時間があまり経過しない時期に廃棄されたと考えられる。また13、32、44、45、47が床直あるいは床面に近い位置で出土しているが、それ以外は床面から浮いた状態や埋没土一括の出土である。

石器については、P9から73が、P11から62が出土している。床直あるいは床面に近い位置で、51、58、59、63、71、72、76、77が出土している。

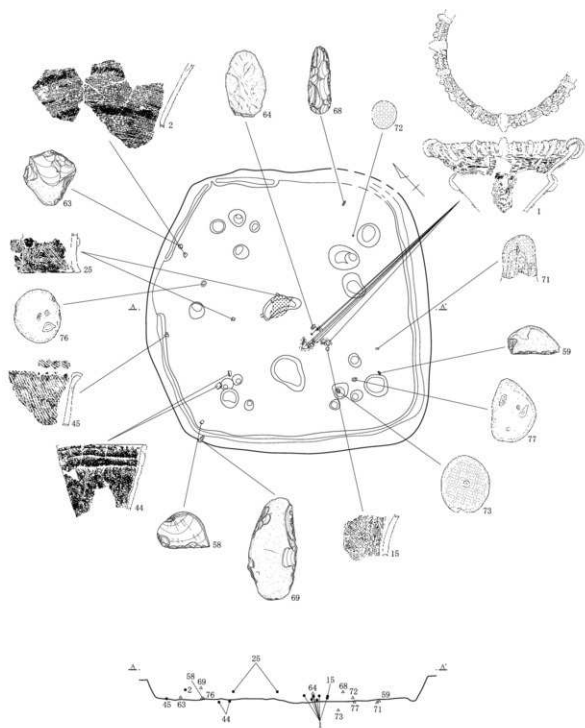
時期 諸磯c式期と考えられる。

重複 33号土坑を切る。25号土坑とは新旧不明。

II 縄紋時代の調査



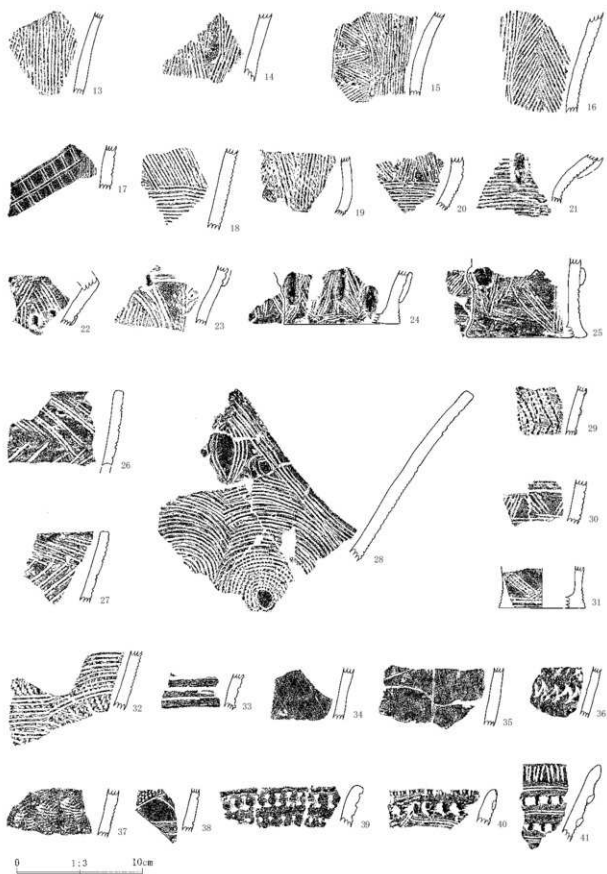
第22図 III-1号住居



第23图 III-1号住居遺物出土状況

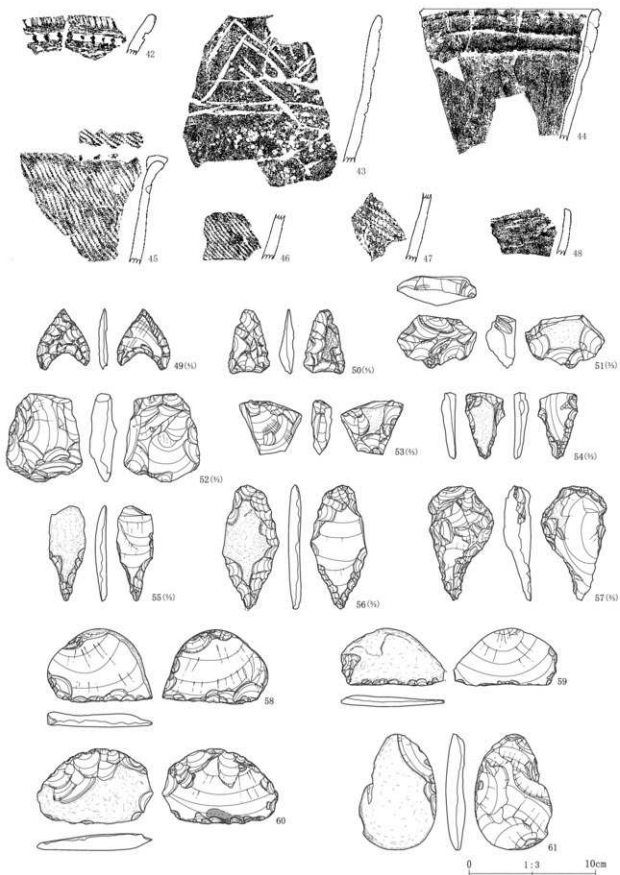


第24図 III-1号住居出土遺物(1)

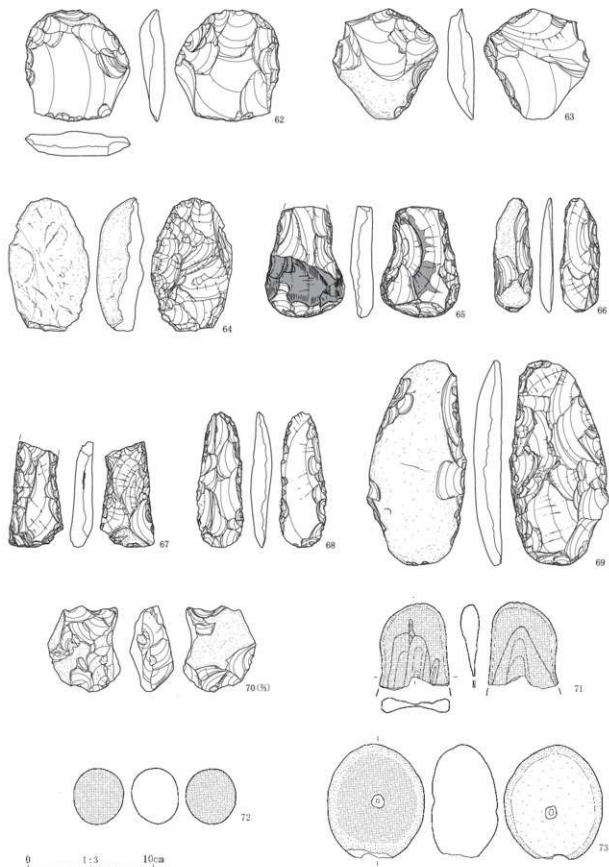


第25图 III-1号住居出土遺物(2)

II 縄紋時代の調査

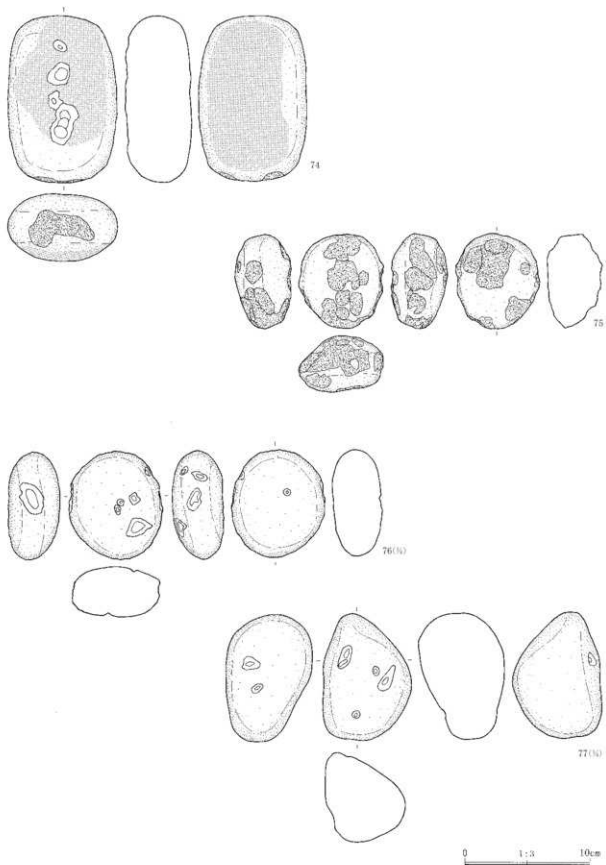


第26図 III-1号住居出土遺物(3)



第27図 III-1号住居出土遺物(4)

II 縄紋時代の調査



第28図 III-1号住居出土遺物(5)

●Ⅲ-2号住居

位置 795、800-610、615

形状 北東-南西に長軸をもつ楕円形状を呈す。周溝と床面の高低差から2度の拡張が認められる。初期段階1期はもっとも内側をめぐる周溝と考えられるが、北西から南西にかけては検出されておらず、全体の構造は不明である。北西-南東径は4.5mを測る。2期は1期のすぐ外側をめぐる周溝、壁面と考えられ、長径5.6m×短径4.6mの規模である。最終段階3期は、西壁に張り出しをもつ不整形円形状を呈す。長径7.0m×短径6.5mを測る。

床面 1期床面は、確認面から最大55cm掘り下げて床面を構築する。西部については不明であるが、レベル86.25m前後で全体的にほぼ平坦である。2期床面も1期と比高差は認められないが、西部は緩やかに高くなっており、東部に比べて10cm前後高い。3期床面は西部を除き、明らかに1、2期床面と段差をもち、5cm前後高くなっている。埋設土層の6層がロームブロックを含む暗褐色土であり、拡張に伴う人為的埋土ととらえられる。

炉 埋炭炉5基が検出された。1～3、5号の4基は住居の長軸方向にほぼ1列に並んで埋設され、1、2号は1期北東部周溝際、3、5号は中央やや西寄りにそれぞれ2個体一対のような状態で検出された。4号は2期南西部周溝際に埋設されている。

1号は径20cm、深さ13cm以上掘り込んで、口縁部を欠き、底部穿孔した深鉢を埋設する。上端レベルは86.29mである。炉体土器は諸磯c式(1)である。

2号は1号の南西側に隣り合うような状態で検出された。径28cm、深さ16cm掘り込んで、口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。上端レベルは86.24mで、隣り合う1号よりも5cm低い。炉体土器は諸磯c式(2)である。

3号は5号と隣り合うように埋設されているが、5号の掘り方との関係は明確にはとらえられていない。上端レベルは86.29mである。炉体土器は底部を欠いた諸磯c式(3)である。

隣り合う5号は上端レベル86.24mで、床面精査

時には埋没しており、検出されていない。このことから5号がもっとも古いといえるであろう。炉体土器は縄紋施紋土器(5)である。

単独で検出された4号は、上端レベル86.35mと5基中もっとも高い。炉体土器は口縁部と底部を欠いた諸磯c式(4)である。実測図では口縁部が存在するが、これは整理段階で接合したものであり、調査時は口縁部を欠いた状態で検出されている。

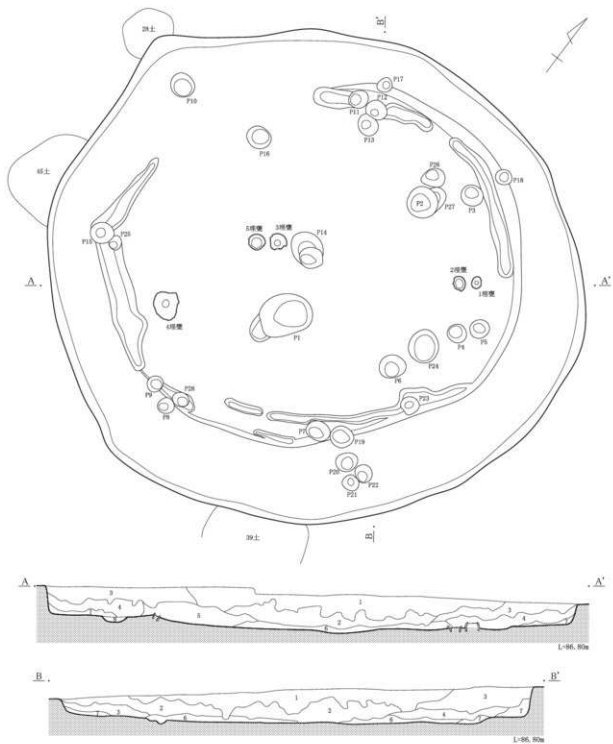
これら埋炭の変遷について、確実な根拠はないが、あえて可能性を言及すると、まず床面精査時に埋設していた5号が1期に伴い、もっとも古いと考えられる。また埋設位置から判断すれば、次は3号であろう。さらに上端レベルを根拠にすると、2号→1、5号と判断され、位置関係から2号→1号は連続するものと想定されることから、5号→3号→2号→1号→4号と移設された可能性が高い。

柱穴 28基が検出された。柱の配列は判然としなが、最終段階3期でP10-P17-P18-P5-P20-P8-P15の7本が考えられようか。1期、2期だが、西部から南部にかけて適当な柱穴が検出されていないため、詳細は不明である。それぞれの規模(径×深さ)は、P1:67×61cm、P2:41×58cm、P3:30×36cm、P4:25×41cm、P5:25×32cm、P6:32×48cm、P7:32×38cm、P8:22×41cm、P9:21×30cm、P10:32×40cm、P11:25×21cm、P12:28×38cm、P13:29×26cm、P14:51×42cm、P15:30×27cm、P16:33×17cm、P17:20×42cm、P18:23×47cm、P19:30×16cm、P20:27×31cm、P21:22×15cm、P22:24×14cm、P23:24×19cm、P24:43×30cm、P25:19×29cm、P26:28×28cm、P27:25×19cm、P28:23×32cm。

遺物 諸磯c式を主体に、諸磯b式～十三菩提式が出土しているが、そのほとんどが埋設土中であり、床面から浮いた状態で出土している。3期床面に近い位置で出土しているものは、23、34、39である。

石器については、黒曜石製の製品や剥片が多く出土していることが本住居の特徴としてあげられる。黒曜石製石器の数量は、石鏃16点、楔形石器5点、

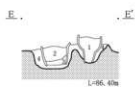
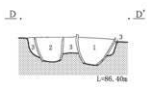
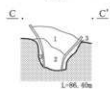
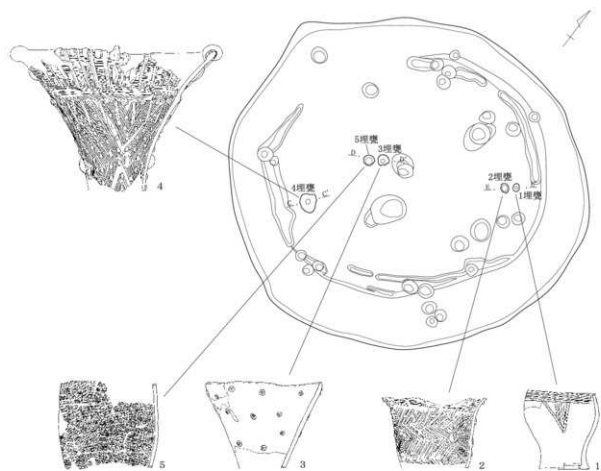
II 縄紋時代の調査



埋没土層

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 褐色土(10YR4/4) | 白色軽石粒多く含む。炭化物粒含む。 |
| 2 暗褐色土(10YR3/3) | 白色軽石粒多く含む。 |
| 3 褐色土(10YR4/3) | 褐色土ブロック主体。白色軽石粒多く含む。 |
| 4 暗褐色土(10YR3/4) | 褐色土ブロック多く含む。少ない。 |
| 5 褐色土(10YR4/6) | 白色軽石粒少量。炭化物粒含む。 |
| 6 暗褐色土(10YR3/3) | 2層と同質だが、ロームブロック含む。 |
| 7 暗褐色土(10YR3/4) | 4層と同質だが、ロームブロック含む。 |
| 8 不明 | |

第29図 III-2号住居



4号埋没土層

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック多く含む。焼土粒わずかに含む。
 2 褐色土(10YR4/4) ロームブロック多く含む。
 3 褐色土(10YR4/4) ローム粒少量含む、しまり強。

3・5号埋没土層

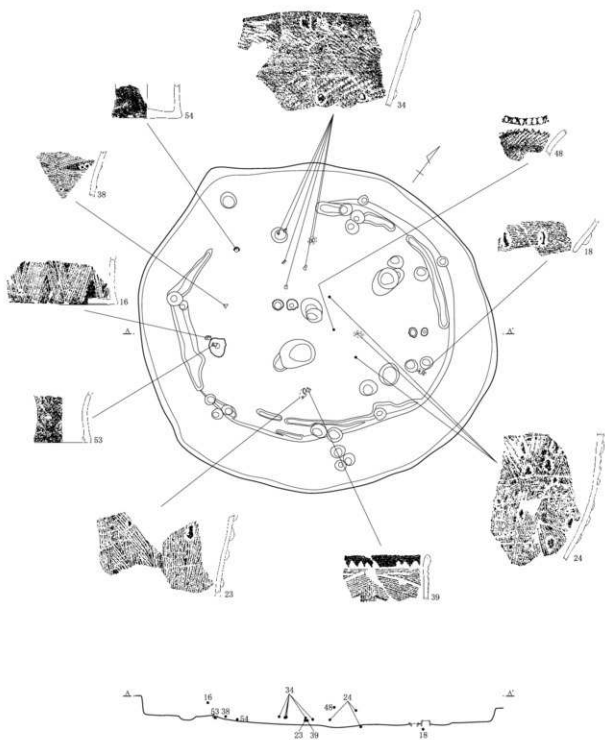
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石粒、焼土粒、ローム粒少量含む。
 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック多く含む。焼土粒少量含む。
 3 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石粒、焼土粒少量含む。ローム粒わずかに含む。

1・2号埋没土層

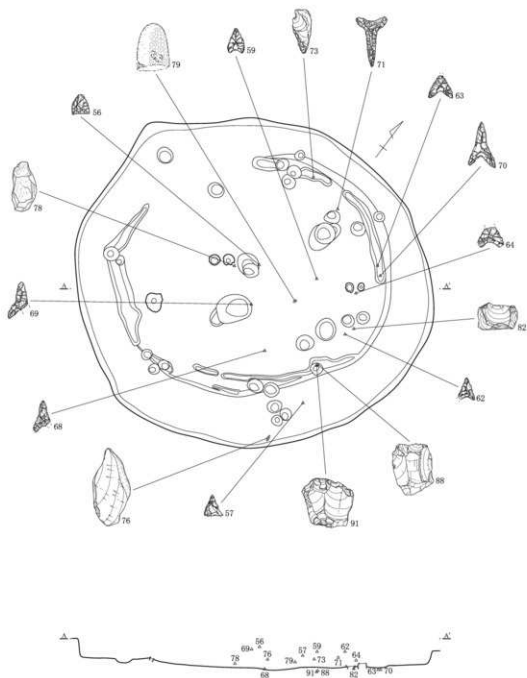
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石粒少量含む。
 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、焼土ブロック、焼土粒を含む。
 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒多く含む。
 4 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック含む、しまり強。

0 1:25 1m

第30図 III-2号住居埋堦



第31図 III-2号住居遺物出土状況(土器)



第32图 III-2号住居遺物出土狀況(石器)



第33図 III-2号住居黒曜石製石器出土状況

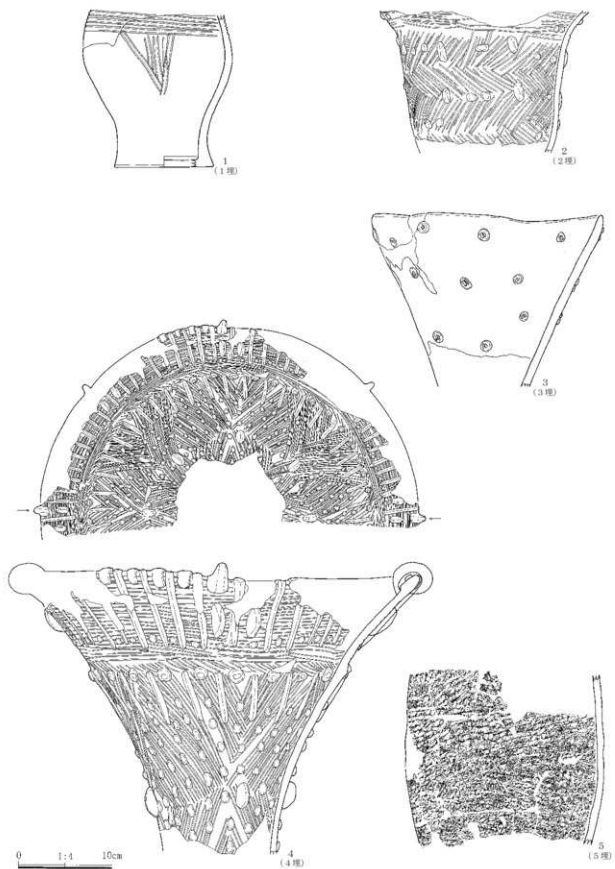
二次加工ある剥片7点、石核12点、原石1点、剥片514点であり、この出土状況は本住居内で石器製作を行っていたことを示すものであると考えられる。特に、器種として石鏃や微細な剥片類が多いことから、石鏃を製作していた痕跡であろう。調査時にドットで取り上げた遺物について分布図を作成してみたところ（第33図）、多くは埋設土上位に集中することが看取される。このことから、住居廃絶後の凹地を利用して石鏃製作を行っていたことが推察される。

また、黒曜石製の石核、剥片の集中箇所と、チャート製の石核、楔形石器、剥片の集中箇所が1ヶ所ずつ検出された。位置はともに2期床面の東壁際で

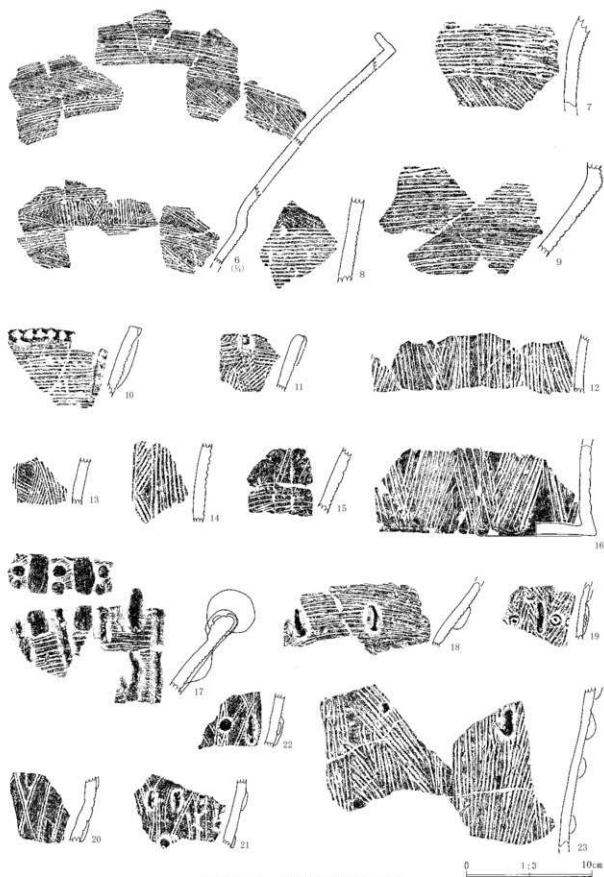
あり、黒曜石は第32図82の位置、チャートは第32図88、91の位置である。内訳は、黒曜石が石核5点、剥片2点の計7点であり、チャートが石核4点、楔形石器1点、剥片4点の計9点である。これらはそれぞれ床面以深のビット状の落ち込みから検出されており、住居存続時なのか廃絶後なのかは判断し難いが、埋納的な行為としてとらえられるであろう。

時期 埋甕炉体土器から、諸磯c式期と考えられる。

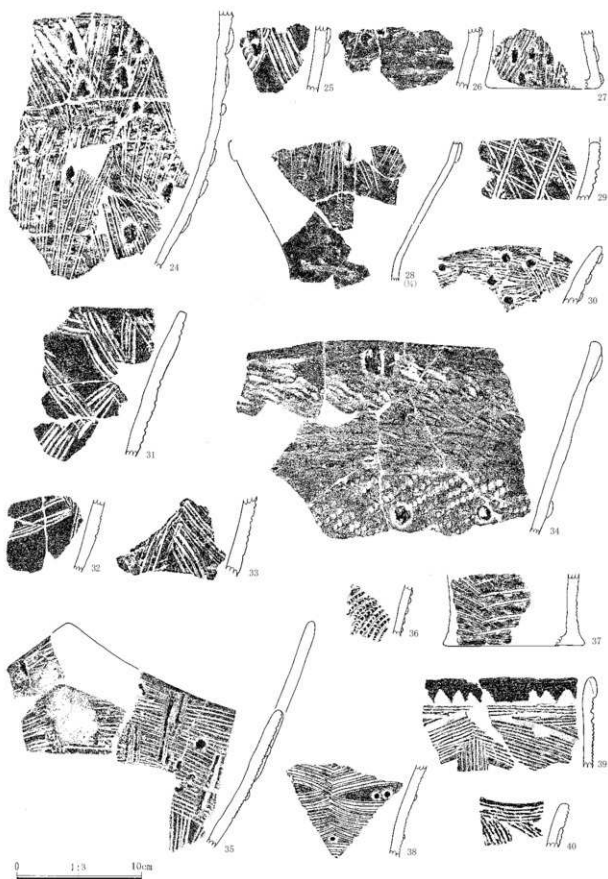
重複 45号土坑を切る。28号、39号土坑とも重複するが、切り合い関係は確認されていない。



第34図 III-2号住居出土遺物(1)

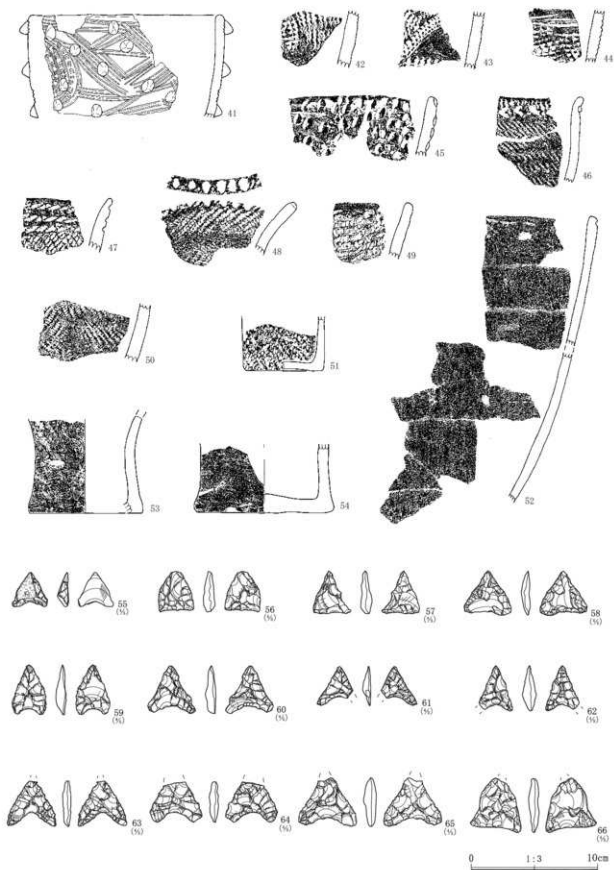


第35図 III-2号住居出土遺物(2)

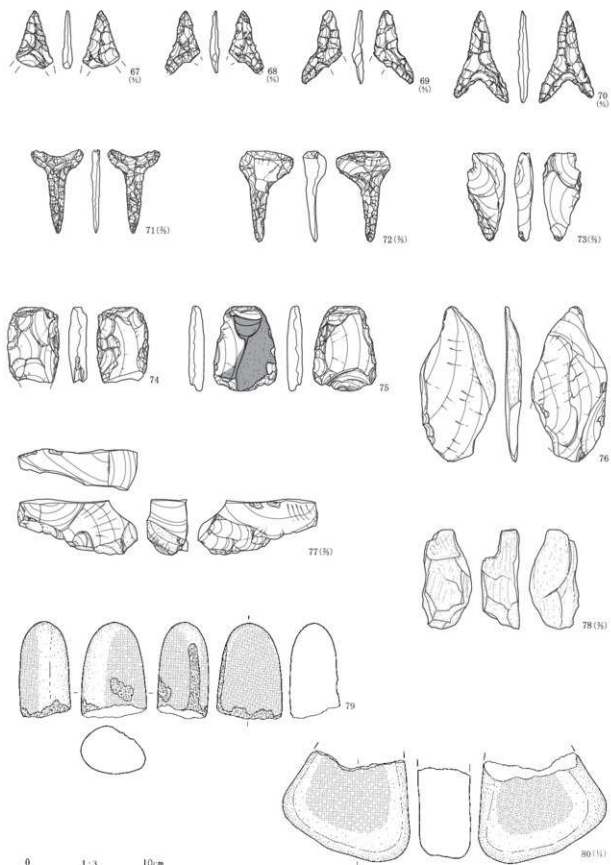


第36图 III-2号住居出土遺物(3)

II 縄紋時代の調査



第37図 III-2号住居出土遺物(4)

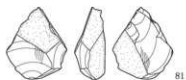


第38图 III-2号住居出土遺物(5)

II 縄紋時代の調査



黒曜石集中



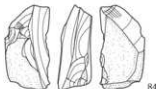
81



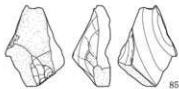
82



83



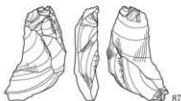
84



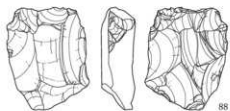
85



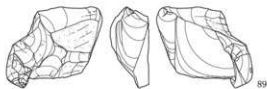
86



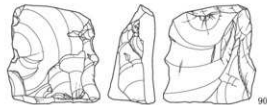
87



88



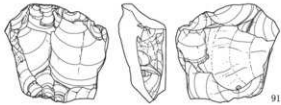
89



90



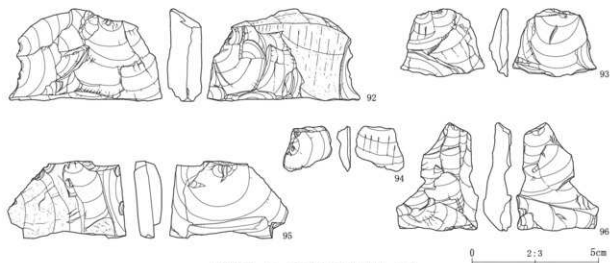
チャート集中



91

0 2.5 5cm

第39図 III-2号住居出土遺物(6)



第40図 III-2号住居出土遺物(7)

● III-3号住居

位置 785, 790-605, 610

形状 南部が調査区外のため全体の構造は不明であるが、北東-南西に軸をもつ長方形を呈すと推察される。北西辺長は4.3mを測る。

床面 確認面から最大23cm掘り込んで床面を構築する。床面はほぼ平坦である。

炉 調査した範囲には検出されなかった。

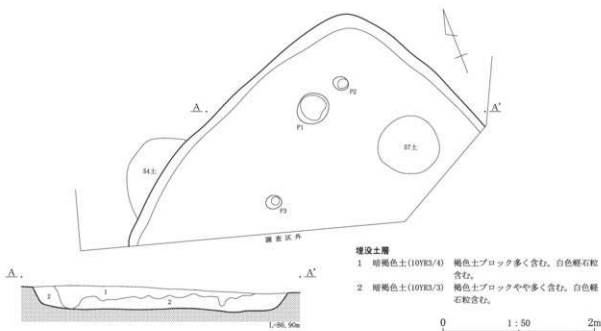
柱穴 3基検出された。規模(径×深さ)はP1 :

44×31cm, P2 : 20×38cm, P3 : 21×38cmである。平面プランに対しての規格性はうかがわれない。

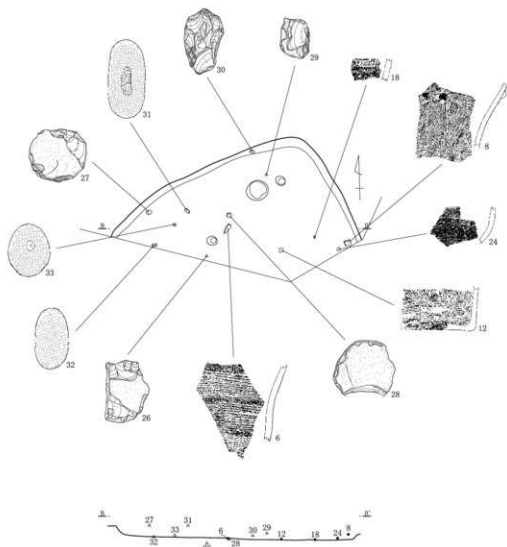
遺物 諸磯b式、諸磯c式、興津式が出土している。6, 12, 18, 28, 32が床面直上で出土している。

時期 時期を確定しうる出土状況はないが、主体的に出土する土器が諸磯c式であることから、諸磯c式期と考えられる。

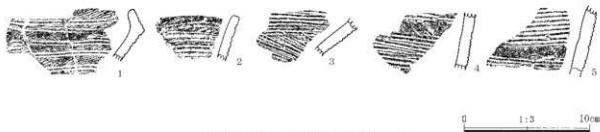
重複 54号土坑、57号土坑と重複するが、新旧は不明である。



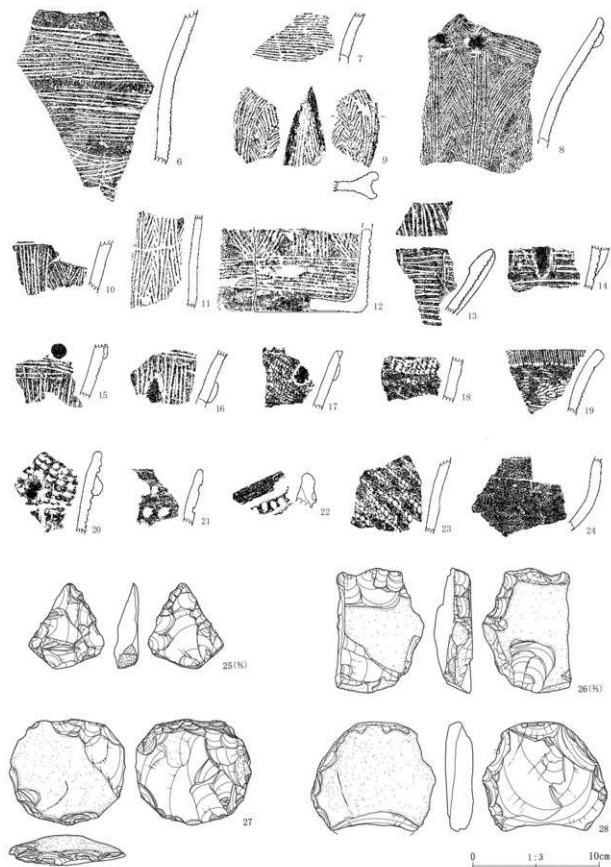
第41図 III-3号住居



第42図 III-3号住居遺物出土状況

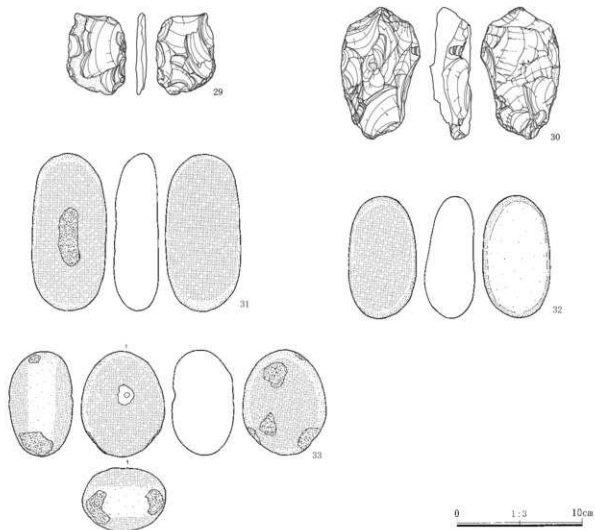


第43図 III-3号住居出土遺物(1)



第44图 III-3号住居出土遺物(2)

II 縄紋時代の調査



第45図 III-3号住居出土遺物(3)

●II-4号住居

位置 790, 795-620

形状 不整形を呈す。最大径は5.5mを測る。

床面 確認面から最大36cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。

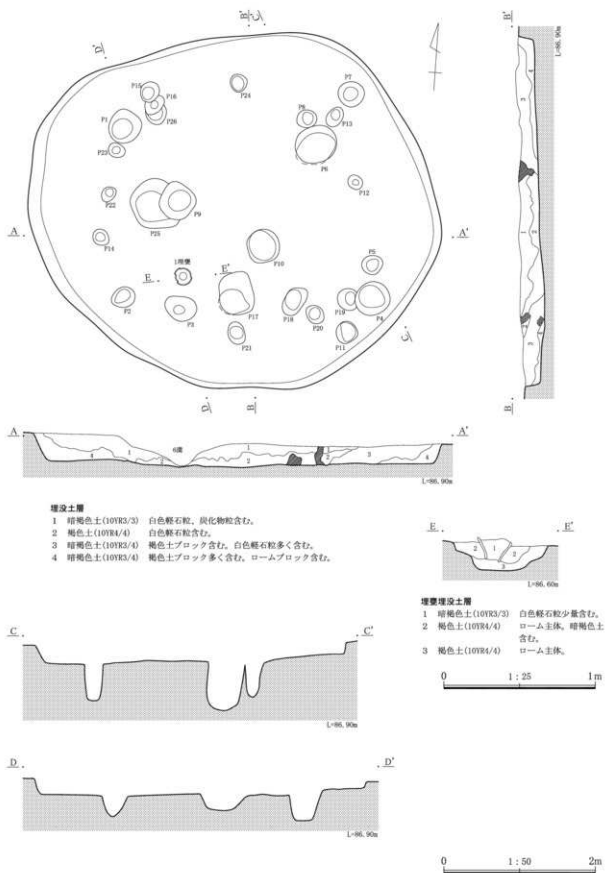
炉 埋燬炉1基が南西部で検出された。埋没土中に焼土粒や炭化物粒の混入は認められないが、他に炉として認定すべき痕跡が認められないことから埋燬炉と判断した。径63cm、深さ17cm掘り込んで、口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。炉体土器は縄紋施紋土器(1)である。

柱穴 26基が検出された。住居のプランに沿って分布する傾向があるが、主柱穴は判然としない。それぞれの規模(径×深さ)は、P1:45×35cm、P2

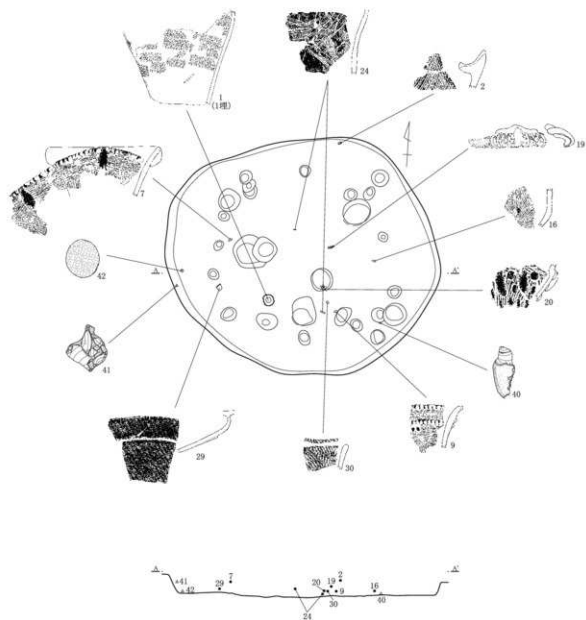
:30×20cm、P3:42×27cm、P4:46×21cm、P5:28×50cm、P6:54×63cm、P7:34×17cm、P8:26×37cm、P9:50×40cm、P10:45×44cm、P11:30×34cm、P12:19×43cm、P13:26×26cm、P14:22×42cm、P15:27×31cm、P16:25×32cm、P17:57×48cm、P18:36×32cm、P19:29×28cm、P20:24×42cm、P21:29×32cm、P22:20×28cm、P23:23×24cm、P24:24×27cm、P25:66×21cm、P26:30×26cm。

遺物 諸磯c式を主体に諸磯b式、興津式が出土している。床面密着の遺物はなく、みな埋没土中からの出土である。

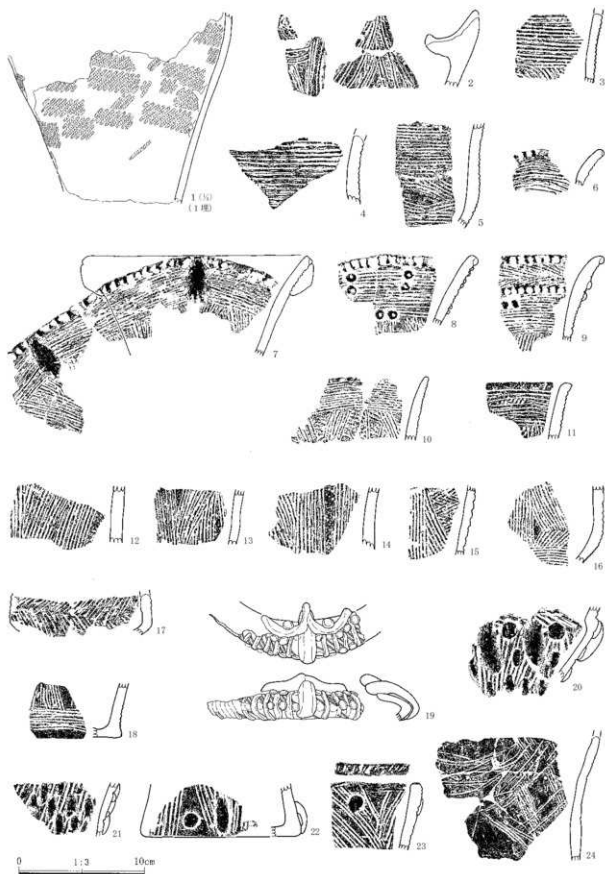
時期 諸磯c式期と考えられる。



第46図 III-4号住居

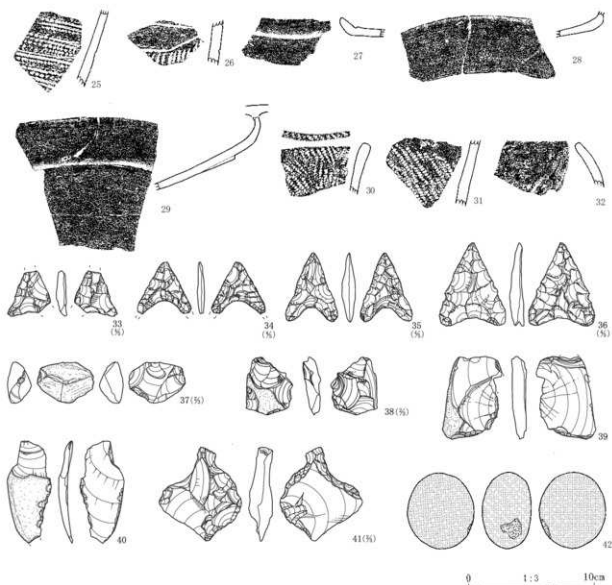


第47図 III-4号住居遺物出土状況



第48图 III-4号住居出土遺物(1)

II 縄紋時代の調査



第49図 III-4号住居出土遺物(2)

●III-5号住居

位置 795, 800, 805-620, 625, 630

形状 1ないし2度の建て替え・拡張が認められるが不明確なため、最終段階を2期、内環周溝の段階を1期としてとらえておく。2期は隅丸方形で、西辺は丸みが強い。規模は6.7m×6.6mを測る。1期は、検出された内環周溝から5.8m×5.4m程の規模と推定される。

床面 確認面から最大40cm掘り込んで床面を構築する。床面はほぼ平坦で、1期床面と2期床面の高低差は認められない。

周溝 最終段階の住居に伴う周溝は、南西部に検出された長さ約1.2mのみである。幅25cm前後、深さ5cm弱を測る。

さらに南壁の内側に50~80cm離れて、また東壁からは30cm前後離れて周溝がめぐる。これは南壁に沿った部分では明瞭だが、東~北~西壁に沿った場所では不明瞭で、東壁の中央部で20cmほど離れて長さ70cm、北壁の西半に沿い40cmほど離れて長さ1.5mが検出されたのみである。幅は15~30cmほど、深さは最大10cmを測る。この内側にめぐる溝が1期床面の周溝と想定される。

また住居北半中央付近で、北東-南西に延びる長さ約1.7mの浅く細い溝が検出された。幅6~20cm、深さ15cm前後の規模で、これを北壁に沿った周溝ととらえて最初段階の住居と想定することも可能だが、南北規模が3.5~4mで非常に小規模となり、またこの規模に相応する柱穴配置が確認できないため周溝ととらえることは難しいかもしれない。

炉 埋燧炉3基が検出された。住居の中央東寄り2号が、さらに2号の1mほど北東側で1号と3号が隣り合うような形で検出された。それぞれの土端レベルは1号:86.52m、2号:86.49m、3号:86.44mであり、床面精査時に検出されたのは1号のみで、2、3号は埋没した状況であった。

2号は平面形が歪んだ楕円形状で、90×50cm程、深さ5cm程の掘り方の中央に、土器に合わせた深さ15cmの坑を掘り込んで深鉢底部を埋設したものである。埋没土中に焼土粒が認められるとともに、土器の上端部脇に焼土塊が認められる。この2号は厚さ5cm前後の人為的埋土で覆われていることや、その埋設された位置から3基中もっとも古く、1期床面に伴う埋燧炉と推察される。炉体土器は諸磯b式(2)である。

3号は径60cm前後、深さ15cmほどの不整形の掘り方に土器を埋設したものである。埋没土中に焼土粒が認められる。炉体土器は諸磯c式(3)である。

1号は3号と同じ掘り方中に、3号の20cm外側に埋設されている。土器の外側に焼土塊が認められる。炉体土器は諸磯c式(1)である。1、3号埋燧炉の掘り方のさらに下位に深い掘り込みが存在するが、これは前段階の住居の柱穴と考えられる。この柱穴の埋没土はP13の埋没土と近似することから、人為的な埋土と判断される。このことから1、3号埋燧炉は1期床面に伴う柱穴を人為的に埋め戻した後につくられたと判断できるため、2期床面に伴うことは確実であろう。1号と3号の先後関係は、土端レベルから判断して、3号→1号と考えられる。まとめると、2号→3号→1号の変遷が考えられよう。

柱穴 44基が検出された。規模は別表のとおりである。最終段階で、P1-P41-P7-P22-P19-P34の6本主柱ないしP2、P10を加えて8本主柱だった可能性が高い。南辺列の内側にもP3-P15-P29などのピット列が並ぶことから、さらに古い段階の柱穴と考えられる。

P13からは、口縁部と底部を欠いた諸磯c式の深鉢(4)が逆位に埋設されていた。人為的な埋設と判断されることから、P13は住居の拡張に伴い、埋め戻されたと考えられる。

遺物 諸磯c式を主体に諸磯b式、下高式、十三善提式、興津式が出土している。5が床面密着から浮いた状態で散らばって出土した。また床面に近い位置で出土しているのが、13、27、34、42である。その他は破片のみで、埋没土中の浮いた状態がほとんどである。

石器については、47、48、53、54、57、58、61、65が床面に近い位置で出土している。P11から69、70が出土している。

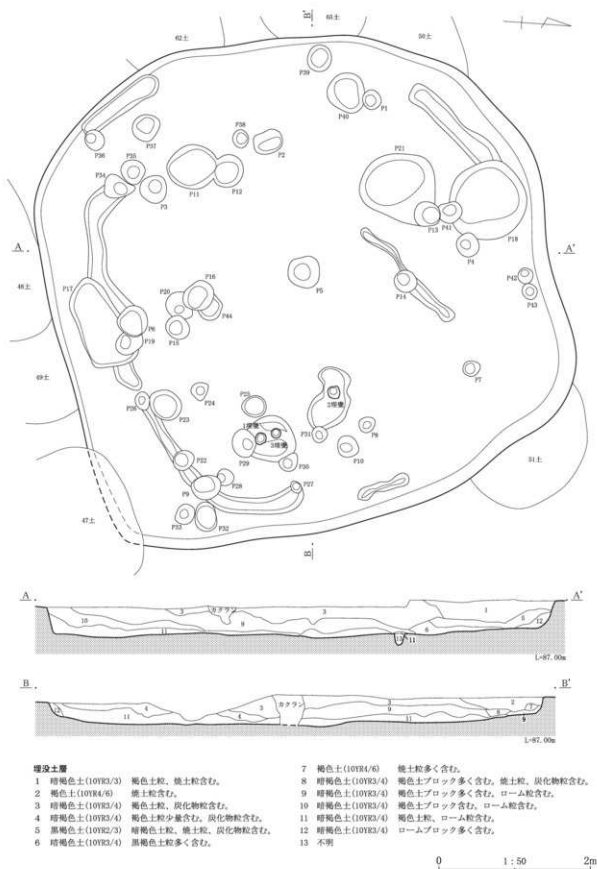
時期 埋燧炉体土器やP13内の遺物から、諸磯c式期と考えられる。

重複 48、49、50、51、62、65号土坑を切り、47号土坑に切られる。

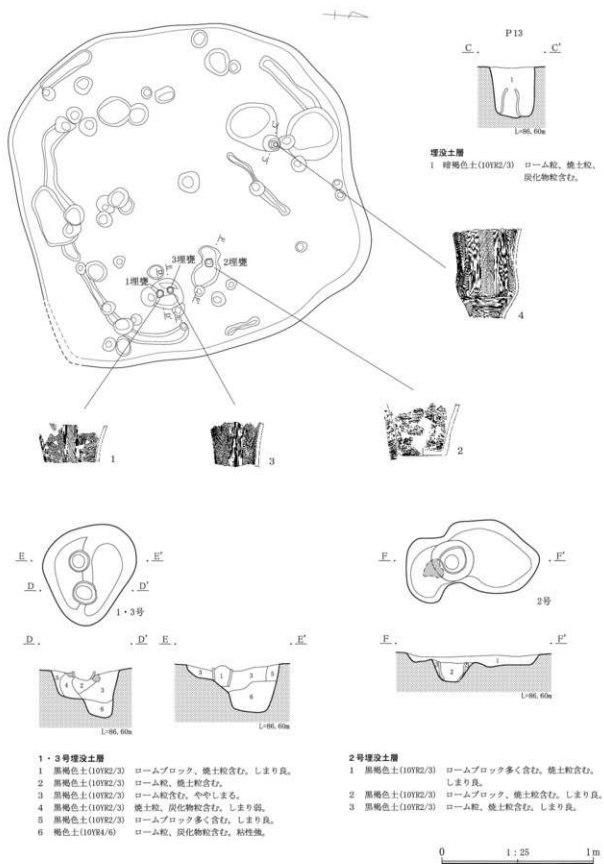
II-5号住居 柱穴計測表

番号	径	深さ	出土遺物	番号	径	深さ	出土遺物
1	26	23		23	45	22	6, 60
2	39	38		24	24	37	
3	37	36		25	33	18	
4	32	26		26	24	33	
5	44	40		27	17	28	
6	40	39		28	23	48	
7	24	34		29	38	65	
8	23	29		30	26	18	
9	40	45		31	21	24	
10	29	32		32	39	43	
11	61	13	69, 70	33	28	46	
12	44	11		34	41	59	
13	36	38	4	35	32	56	
14	30	32		36	28	48	
15	32	40		37	37	37	
16	41	26		38	22	29	
17	125	15		39	35	19	
18	104	31		40	52	34	
19	37	33		41	30	39	
20	40	39	68	42	20	32	
21	100	32		43	22	33	
22	29	53		44	31	12	

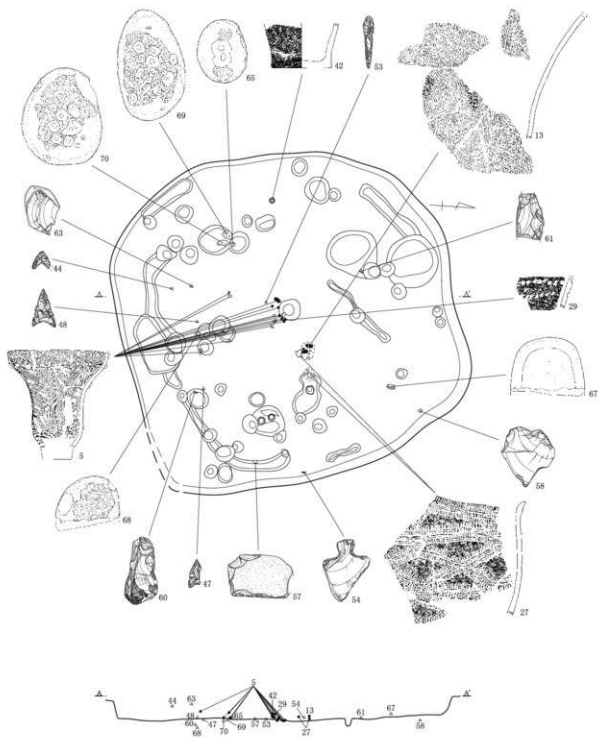
II 縄文時代の調査



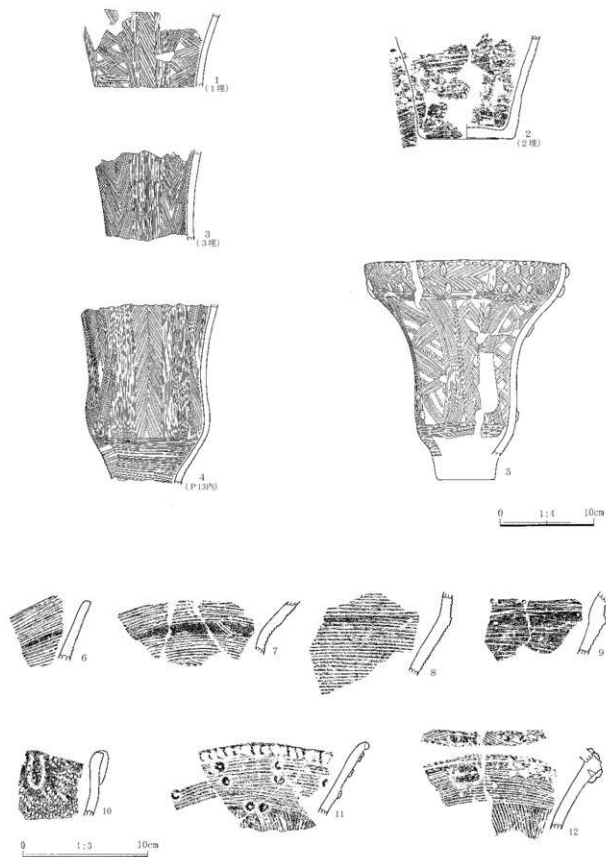
第50図 III-5号住居



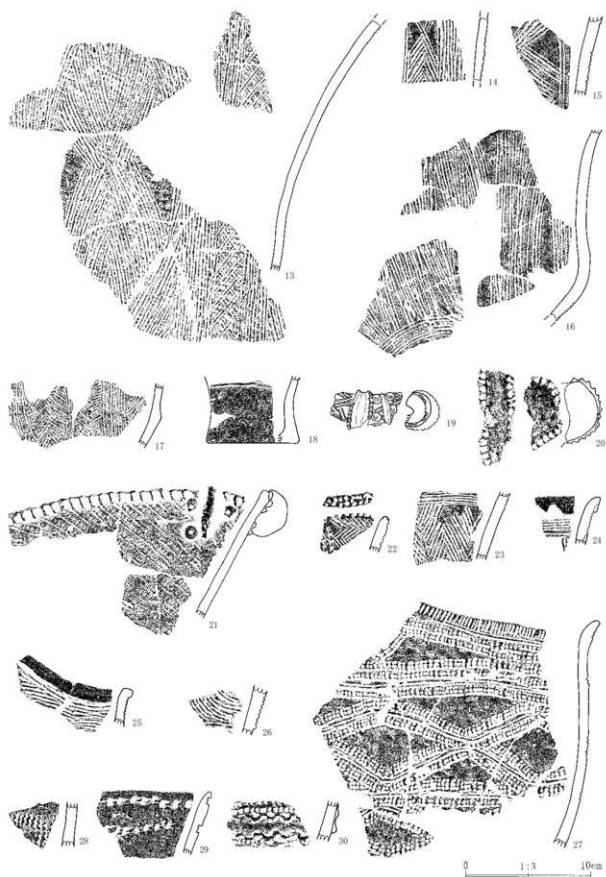
第51図 III-5号住居埋戻、ピット内遺物



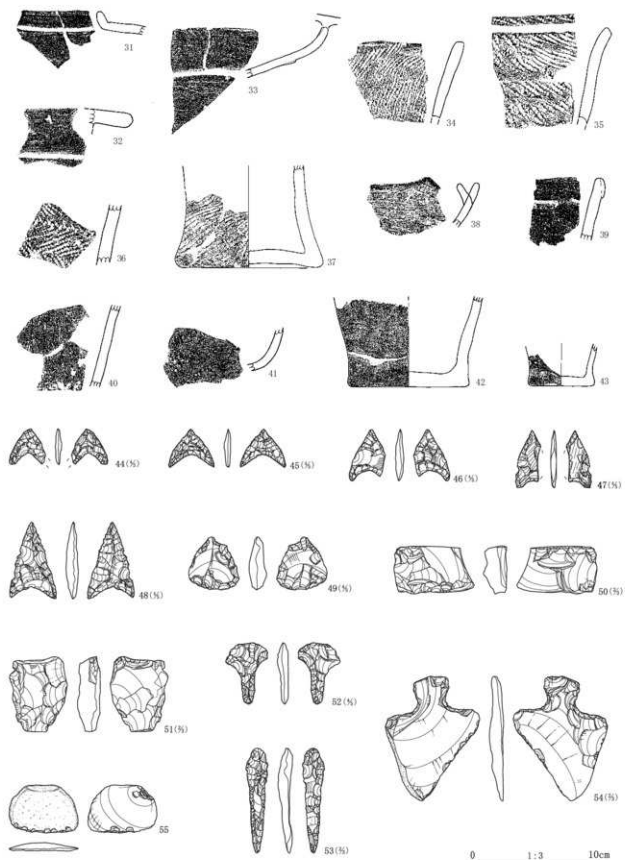
第52図 III-5号住居遺物出土状況



第53図 III-5号住居出土遺物(1)

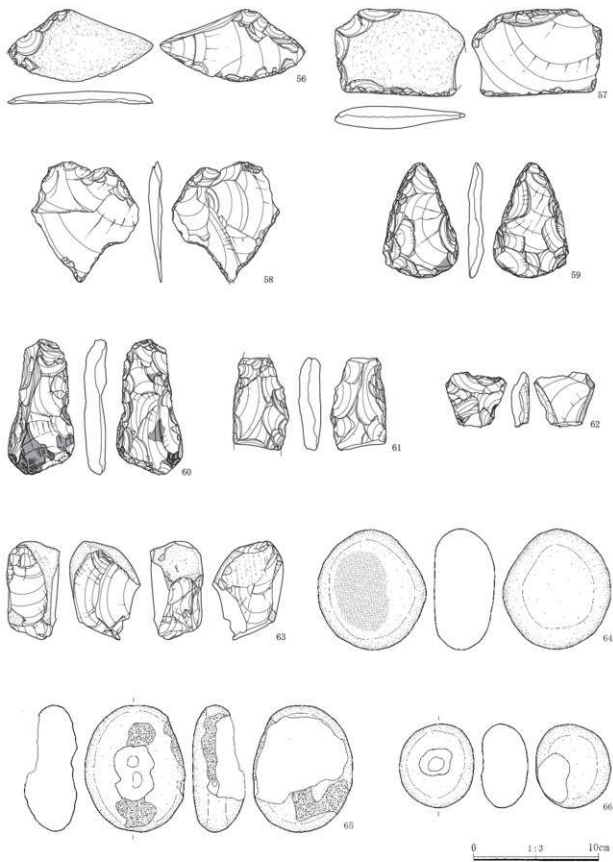


第54図 III-5号住居出土遺物(2)

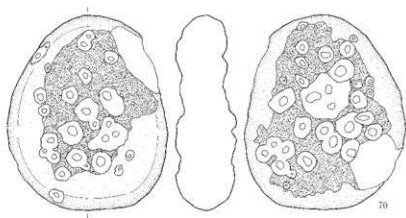
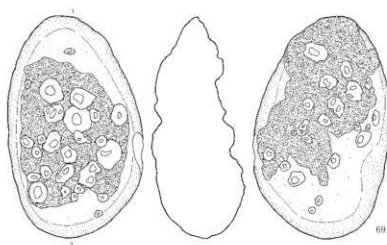
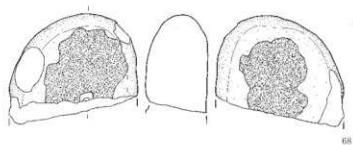
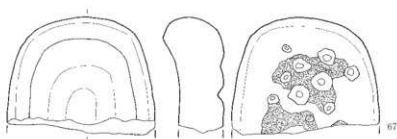


第55图 III-5号住居出土遺物(3)

II 縄紋時代の調査



第56図 III-5号住居出土遺物(4)



0 1:4 10cm

第57图 III-5号住居出土遺物(5)

●Ⅲ-6号住居

位置 830, 835, 840-635, 640, 645

形状 隅丸方形形状を呈す。周溝のあり方から2度の建て替え・拡張が確認できる。最終段階の規模は10.0m×10.1mを測り、調査した住居の中で最大の規模をもつ。中間をめぐる周溝は1度目の拡張による2期床面に伴うものと判断され、規模は8.7m前後×8.4m。もっとも内側をめぐる周溝の1期床面は8.2m前後×7.7m前後を測る。

床面 確認面から最大54cm掘り込んで床面を構築する。床面レベルは中央が86.40m程とやや低く、周縁（3期床面）に向かって86.60m程まで高くなる傾向がある。高低差は最大20cmあるが、1期→2期あるいは2期→3期の拡張に伴う明確な段差は認められない。3期床面レベルが最も高いが、前次の床面に貼り床をして床面を構築した痕跡は埋没土層からは確認できない。しかしながら垂直分布図（第60図）から、15の土器が86.52～86.55m程でまよって出土しており、3期床面に密着していた可能性が高いため、拡張に際して貼り床を施し、床面はほぼ平坦だったと考えられる。

3期床面において、南辺東端に周溝が途切れる部分があり、その中央部に幅50cmほど高さ10cmほどの帯状の高まりが認められる。出入口の痕跡であろうか。

周溝 3重にめぐる周溝が検出された。最終段階の周溝は、南辺東端の約1.8m、東辺中央の40cmが断絶する。中間の周溝は部分的に途切れるものの西～南～東をめぐるが、北辺には認められない。もっとも内側をめぐる周溝は北西角が鈍角に曲がるやや歪んだ方形で、西辺南部では中間の周溝と一致する。北東部と南東部は検出されなかった。それぞれの周溝の規模に大きな差はなく、幅20cm前後、深さ5cm前後を測る。

以上3条の周溝は、少なくとも2度の住居拡張があったことを示し、中心から放射状にほぼ相似形で拡張したと考えられる。

炉 地床が4基、埋燬炉8基が検出された。

1号炉は中央部やや北東寄りに位置し、55×30cmの不定形に焼土硬化面が見られる。特に掘りくぼめた痕跡はなく、炉床下10cmの深さまで焼土化が及ぶ。焼土の上面レベルは86.48mである。

2号炉は中央より東寄りで検出され、90×30cmの不定形を呈す。硬化した焼土がブロック状に分布しており、部分的に周辺床面よりも低レベルで確認された。焼土化は深さ10cmまで及ぶ。南隅を120号ピットが切っており、住居最終段階では炉として機能していなかったと想定される。焼土の上面レベルは86.47mである。

3号炉は中央部の南西寄りに位置し、80×30cmの不定形に焼土硬化面が検出された。床面で硬化した焼土はブロック状で、深さ5cmまで焼土化が及ぶ。東隅を浅い掘り鉢状のピットが切っており、住居最終段階では機能していなかったと考えられる。焼土の上面レベルは86.41mである。

4号炉は住居中央やや北西寄りに位置し、55×40cmの不整楕円形に焼土が分布する。東半を94号ピットが切っており、4号炉も住居最終段階では機能していなかったと判断される。焼土の上面レベルは86.43mである。

埋燬炉が住居の南半部で8基検出された。1、6号は東寄り、2、4、5号は西寄り、3、7、8号は南東部に埋設されている。また1号-6号-4、5号-2号は住居の主軸に沿ってほぼ一直線上に並んでおり、意図的な配置を感じさせる。7号を除き、土器内部の埋没土にはわずかではあるが焼土粒の混入が見られることから、それぞれが炉体土器として使用されていたと考えられよう。

1号は径48cm、深さ13cm掘り込んで、深鉢の口縁部を埋設する。土器内埋没土に焼土粒をわずかに混入する。炉体土器は諸磯c式(1)である。

2号は径40cm、深さ16cm掘り込んで、口縁の大部分と底部を欠いた深鉢を埋設する。炉体土器は諸磯c式(2)である。炉体土器の脇から打製石斧(3)が出土しており、炉体埋設時に石斧も同時に埋設したのと考えられる。

4号、5号は2号から1m程内側に埋設されている。隣接するように埋め込まれているが、切り合い関係は確認されていない。それぞれ口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。炉体土器は4号：諸磯c式(5)、5号：縄紋施紋土器(6)である。

3号は径18cm、深さ8cm掘り込んで、口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。その欠いた底部は8号埋裏として、3号の南45cm程離れた位置に底部穿孔して埋め込まれている。3号と8号は1個体を分割して埋め込むことから、同時に埋設された可能性が高い。炉体土器は諸磯c式(4)である。

6号は1号の90cm程内側に埋設されている。径45cm、深さ13cm掘り込んで、口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。炉体土器は諸磯c式(7)である。

7号は3号の北東40cm程離れた位置に埋設されている。径32cm、深さ16cm掘り込んで、深鉢の底部を埋設しているが、炉体土器上端レベルが床面より10cm程低いことから住居の拡張に伴い、上部が壊された可能性がある。あるいは埋没土に焼土粒が混入しないことから、柱穴の底面に埋設されたとも考えられるが、前者として考えておきたい。炉体土器は無紋土器(8)である。

それぞれの先端レベルは1号：86.57m、2号：86.59m、3号：86.50m、4号：86.48m、5号：86.47m、6号：86.46m、7号：86.37m、8号：86.45mを測る。もっとも外側に位置する1号と2号のレベルが高く、3期床面レベルとも合致することから、2号が3期に伴うと考えられよう。また位置関係から6号→1号、4・5号→2号の移設が想定できるだろう。しかし、より具体的な移設順序となると判断できず、また地床炉と埋裏炉との関係についても言及し得ない。

柱穴 繰り返し建て替えが行われた結果であろう、計154基のピットが検出された。それぞれの規模は別表の通りである。

あまりの数の多さに柱穴配置が特定できず、また拡張に伴う段階的な配置となるときらに困難を極める。推測の域を出ないが、おおまかな状況としてい

えることは、P33が繰り返し掘られていることから、P33を中心に建て、東辺に3本（P26周辺－P37周辺－P54周辺）、西辺に3本（P40周辺－P13周辺－カクラン内）、南辺の中間に2本（P73－P17など）、北辺も同様と考えると計11本は存在した可能性が考えられる。

遺物 諸磯c式を主体に諸磯b式～十三菩提式、下島式、浮島・興津系、大木式が出土している。大形破片を主に遺物出土状況図を作成したが（第60図）、そのほとんどが推定3期床面に近い位置や埋没土中位以下で出土する傾向にある。15か86.52～86.55mの高さでほぼまとまって出土しており、これが3期床面に密着していた可能性が高い。また85も86.55m前後でまとまっている。P49からは9の胴下半部がまとまって出土しており、本住居の構築時期を物語っているよう。

石器については、推定3期床面直上と思われるものは172、173で、砥石素材が並んで置かれているような状態で出土した。また139、188などが床面直上レベルである。ピット内出土も多く、P33から193、195、P34から166、178、P104から194、P145から190、P151から182、P152から181などが出土している。建て替えに伴い、人為的に埋められたものであろう。

また本住居からは、黒曜石製の石鏃25点、楔形石器5点、石鏃4点、二次加工ある剥片33点、石核20点、原石3点、剥片714点が出土しており、Ⅲ-2号住居と同様の様相を示す。剥片714点のうち、ドットで取り上げられた88点の出土状況を第62図に図示した。垂直分布図を見る限りは埋没土下位に集中する傾向に見えるが、埋没土上位から出土したものはドットで取り上げられていないことを考慮すると、埋没土中全域にわたって出土しているといえるだろう。このことはⅢ-2号住居と同様に、住居廃絶後の凹地を利用して黒曜石製の石鏃を製作していたことを示していると考えられる。

口絵にて、本住居出土の黒曜石製の石器の集合写真を掲載したが、ドットで取り上げられた剥片につい

II 縄紋時代の調査

ては注記の関係で他の遺物と混ぜることができなかつたため、写真のものはすべて埋没土一括で取り上げられたものである。そのため、実際には写真よりもさらに多くの量が出土していることを付け加えておきたい。

時期 建て替え・拡張を繰り返して、4基の地床炉と8基の埋燵炉を備えていることから比較的長期に存続したと考えられるが、埋燵炉体土器を見る限り、諸磯c式の古い段階を中心としているように見受けられる。構築時期はP49から諸磯b式の新しい段階が出土していることから、該期までさかのぼりうるであろう。また15が最終床面に密着していると考えられ、その時期に廃絶された可能性が高い。

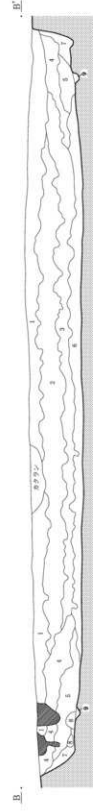
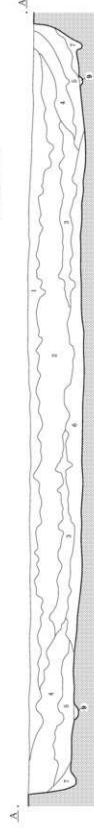
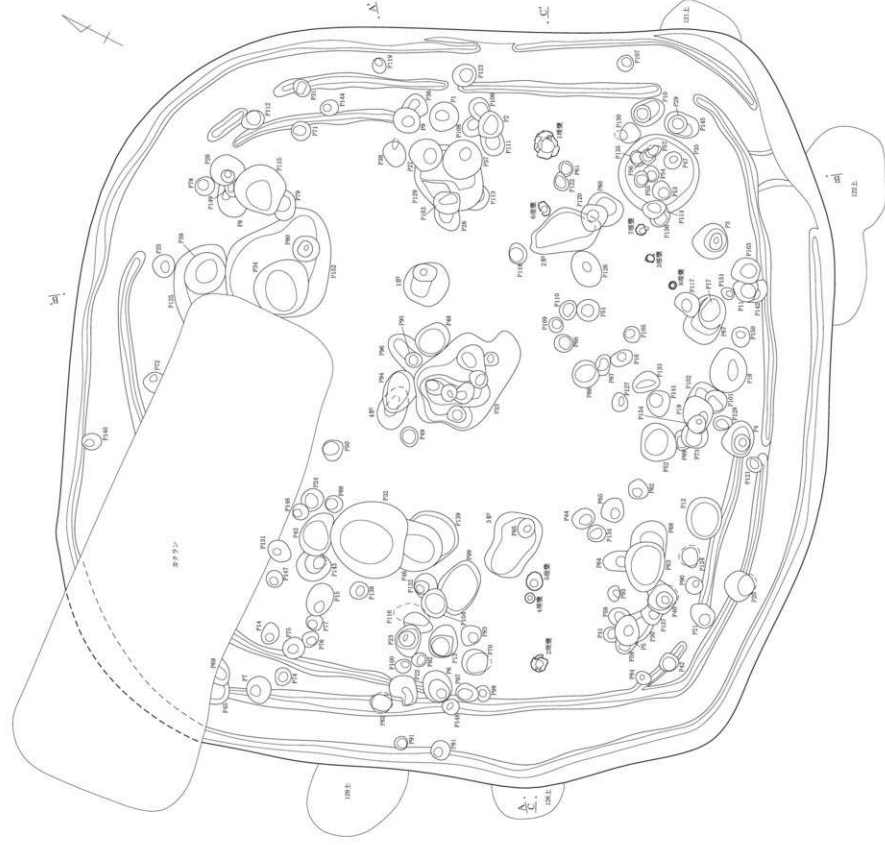
以上のことから、本住居は諸磯b式の新しい段階から諸磯c式の中段階くらいに時期に存続していたといえるであろう。

重複 121, 122, 126, 129号土坑をいずれも切る。

II-6号住居 柱穴計測表

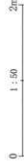
番号	径	深さ	出土遺物	番号	径	深さ	出土遺物
1	38	64		33	162	100	9, 18, 193, 195
2	35	49					
3	47	33	24	34	74	63	166, 178
4	48	71		35	104	40	
5	40	81		36	32	32	
6	43	87		37	52	71	137
7	36	46		38	33	62	
8	43	56		39	57	54	171
9	37	61		40	36	94	174
10	45	77		41	19	32	134
11	32	59		42	24	45	
12	55	32		43	60	66	88
13	43	85		44	30	67	187
14	28	33		45	36	22	
15	45	40		46	65	30	
16	29	47		47	24	88	
17	42	69		48	47	66	
18	59	29		49	26	10	9
19	50	79		50	27	33	
20	41	40		51	30	35	
21	36	62		52	52	62	
22	40	86		53	26	76	
23	43	90		54	22	73	164
24	30	22		55	22	72	89
25	30	34		56	19	69	
26	41	84	10	57	22	71	
27	44	70		58	25	35	
28	33	31		59	25	35	
29	25	81		60	48	29	
30	33	75		61	20	28	
31	24	26		62	26	61	
32	101	64	11, 34, 85, 95, 132	63	66	71	30
				64	26	32	

番号	径	深さ	出土遺物	番号	径	深さ	出土遺物
65	32	72		110	26	24	
66	24	60		111	30	31	
67	66	27		112	32	73	
68	47	70		113	35	35	
69	33	22		114	31	67	
70	34	79		115	65	69	
71	27	69		116	29	71	
72	26	51		117	34	60	129
73	35	64	136	118	28	72	
74	23	33		119	30	29	
75	29	54		120	37	66	
76	20	37		121	22	81	144
77	22	34		122	25	32	
78	26	67		123	32	75	
79	40	34		124	27	55	
80	35	80		125	69	26	
81	26	48		126	50	51	
82	28	64		127	25	42	
83	27	43		128	25	68	
84	20	62		129	89	69	
85	26	74		130	27	58	
86	36	63		131	30	54	
87	27	60		132	30	69	
88	22	49		133	37	29	
89	26	32		134	25	30	
90	23	71		135	22	67	
91	28	40		136	27	62	143
92	21	27		137	28	76	
93	21	37		138	25	56	
94	58	66		139	63	43	
95	22	69		140	26	32	
96	26	37		141	34	62	
97	30	37		142	28	56	
98	21	29		143	43	74	
99	74	67	149, 179	144	24	72	
100	21	89		145	46	43	190
101	31	34		146	20	44	
102	41	22		147	23	43	
103	36	71	117	148	22	47	
104	37	73	194	149	30	68	
105	21	29		150	26	40	
106	27	48		151	28	36	182
107	22	25		152	142	39	181
108	25	27		153	35	61	
109	20	23		154	24	87	

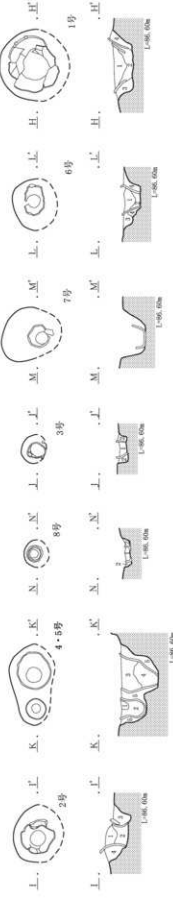
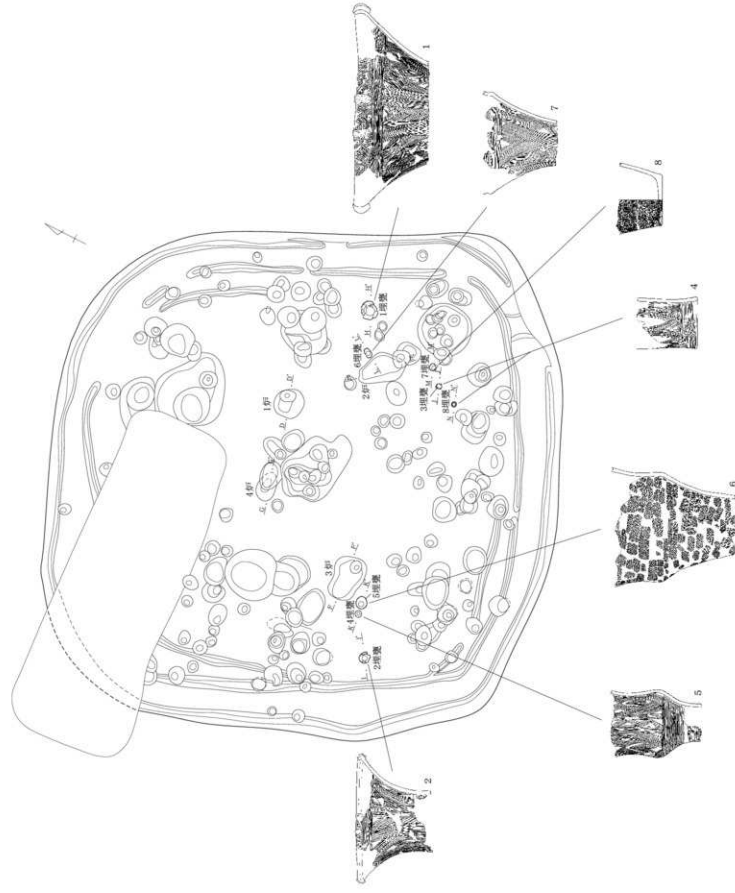


埋設土層

- 1 暗褐色土(107B3/4) 暗赤土ブロックを散状に含む、白色輝石粒少量含む、
- 2 暗褐色土(107B2/3) 暗赤土ブロックを散状に含む、白色輝石粒少量含む、粘土質、炭化植物わずかに含む、
- 3 暗赤土(107B4/4) 暗赤土を含む、ローム粒少量含む、
- 4 暗赤土(107B5/4) 暗赤土を含む、ローム粒少量含む、白色輝石を含む、
- 5 暗褐色土(107B3/3) ローム質、白色輝石少量含む、
- 6 暗褐色土(107B3/4) ローム粒少量含む、粘土質わずかに含む、
- 7 暗赤土(107B4/4) ローム粒少量含む、粘土質わずかに含む、
- 8 暗赤土(107B4/4) ローム質わずかに含む、
- 9 不明



第55図 III - 6号住居



2号階段土層
 1 白色軽石、ローム配少量含む。
 2 褐色土(100BK/4) ローム配少量含む。
 3 明褐色土(100BK/3) ローム配少量含む。
 4 褐色土(100BK/4) ローム配少量含む、しまり強。

4・5号階段土層
 1 明褐色土(100BK/3) ローム配少量含む。
 2 褐色土(100BK/4) 黄土粒が中に含む。
 3 明褐色土(100BK/3) 黄土粒が中に含む。
 4 明褐色土(100BK/3) 黄土粒が中に含む。
 5 明褐色土(100BK/3) ローム配少量含む、しまり強。

6号階段土層
 1 明褐色土(100BK/3) 黄土粒が中に含む。
 2 明褐色土(100BK/3) ローム配少量含む。

3号階段土層
 1 明褐色土(100BK/3) ローム配少量含む。
 2 明褐色土(100BK/3) ローム配少量含む。

6号階段土層
 1 明褐色土(100BK/3) ローム配少量含む。
 2 明褐色土(100BK/3) ローム配少量含む。
 3 明褐色土(100BK/3) ローム配少量含む。
 4 褐色土(100BK/4) ローム配少量含む。

1号階段土層
 1 褐色土(100BK/4) 白色軽石、ローム配多く含む、黄土粒が中に含む。
 2 褐色土(100BK/4) ローム配少量含む、黄土粒が中に含む。
 3 褐色土(100BK/4) ローム配少量含む、黄土粒が中に含む。
 4 明褐色土(100BK/3) 白軽石層、ローム配少量含む、しまり強。



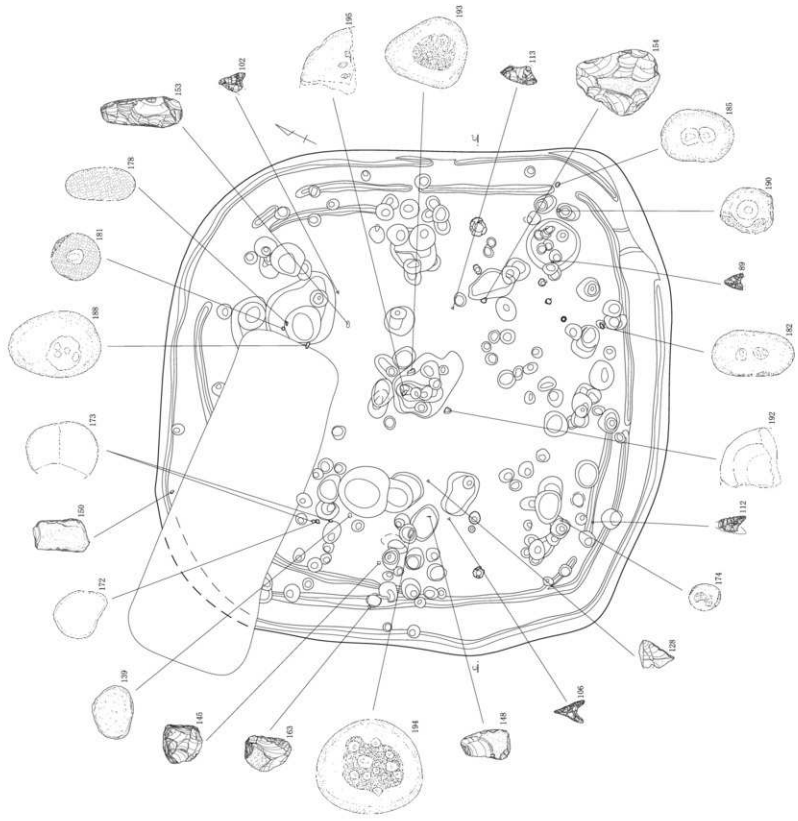
8号階段土層
 1 褐色土(100BK/4) 黄土粒含む。
 2 明褐色土(100BK/3) 黄土、しまり強。
 3 明褐色土(100BK/3) 黄土粒が中に含む、しまり強。
 4 明褐色土(100BK/3) 黄土粒が中に含む。

第59図 Ⅲ-6号柱原舞臺、地床切

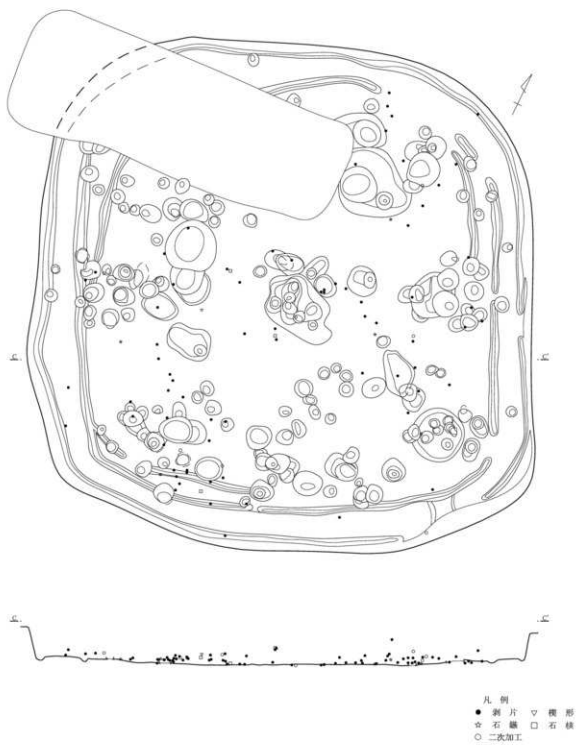
0 1:25 1m



第60圖 Ⅲ-6 居住區遺物出土狀況（土器）

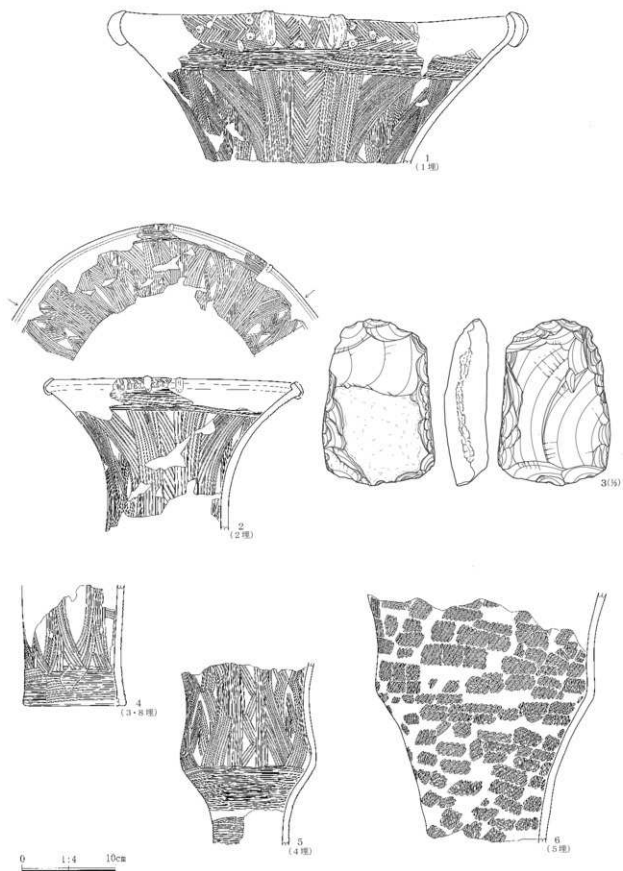


第61圖 Ⅲ-6号住居遺物出土状況(石器)

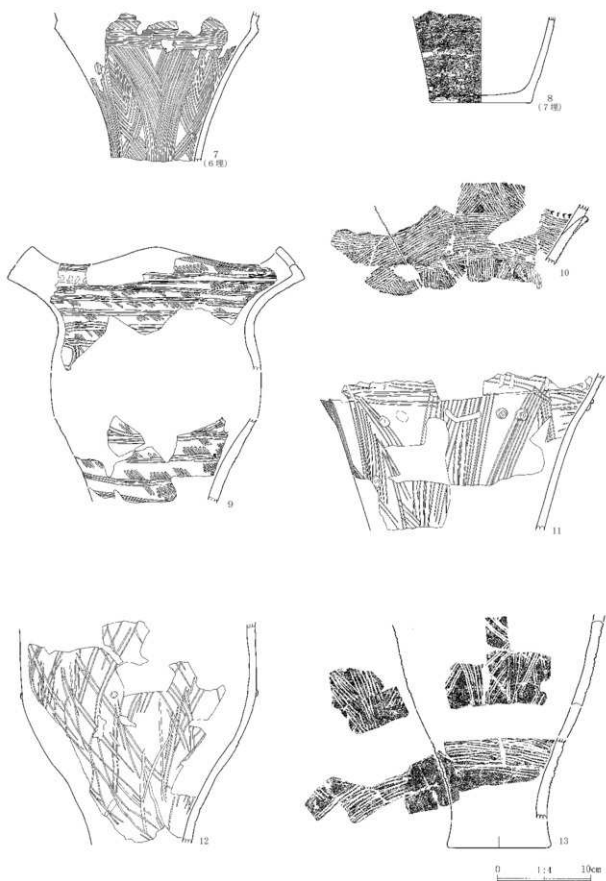


第62图 III-6号住居黑曜石製石器出土状况

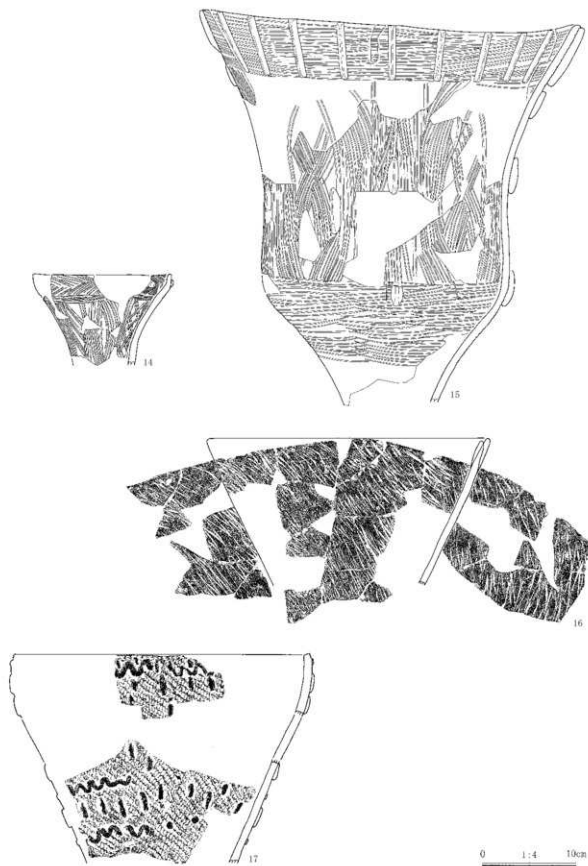
II 縄紋時代の調査



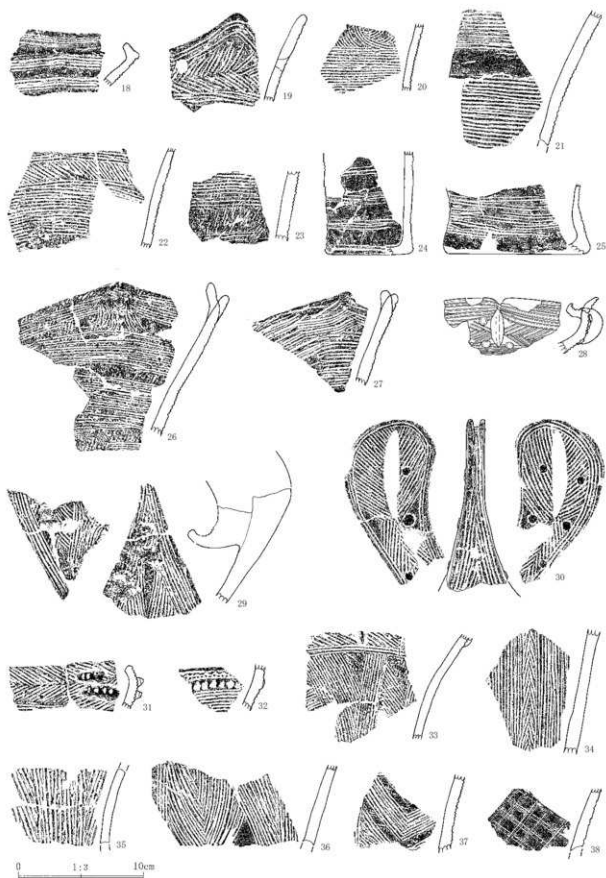
第63図 III-6号住居出土遺物(1)



第64图 III-6号住居出土遺物(2)

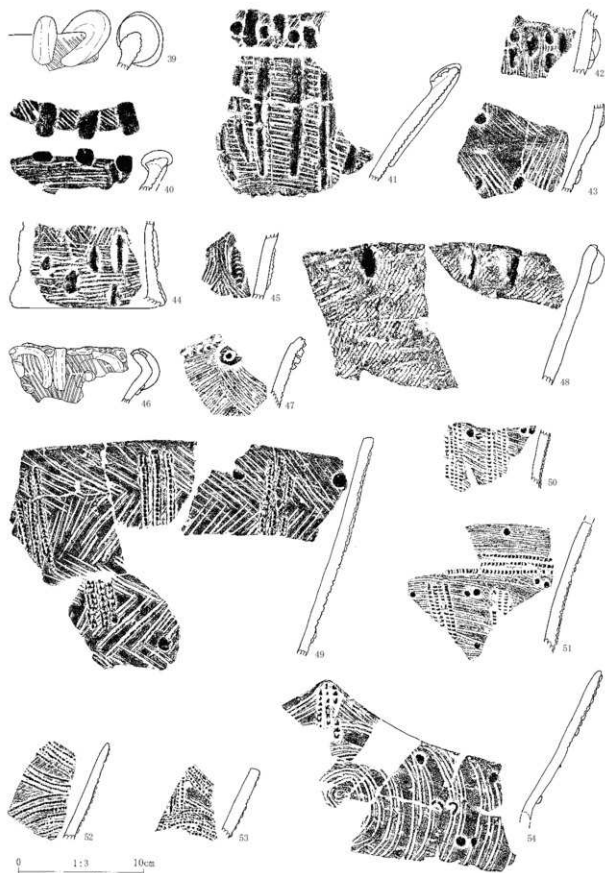


第65図 III-6号住居出土遺物(3)

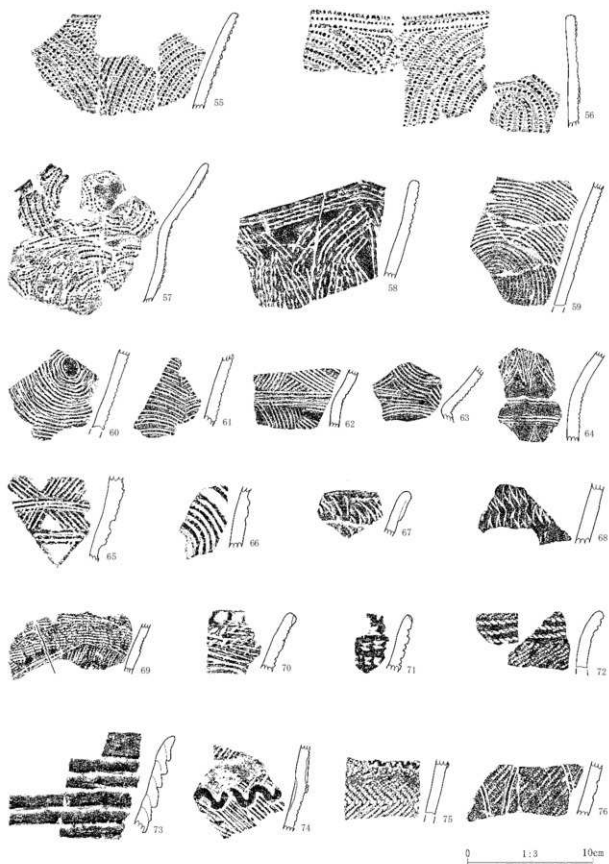


第66图 III-6号住居出土遺物(4)

II 縄紋時代の調査

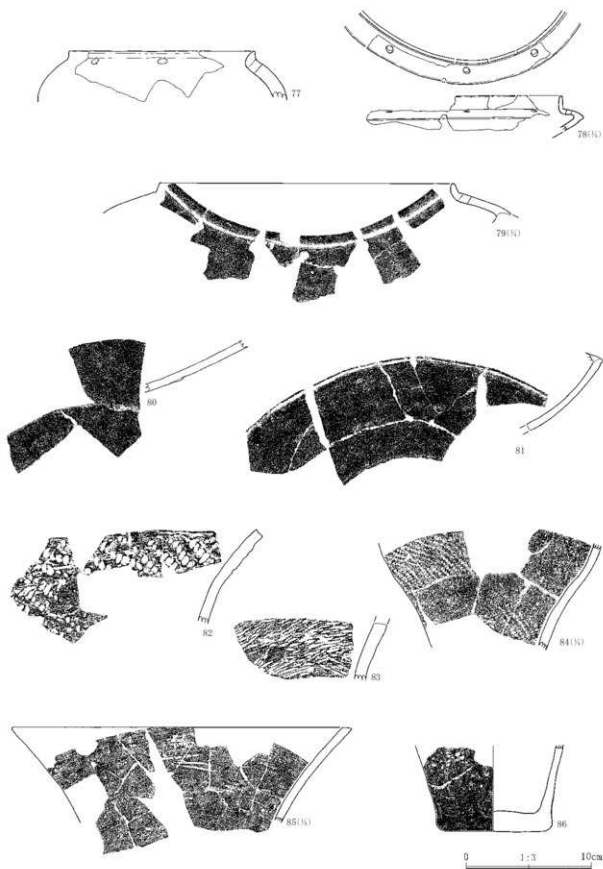


第67図 III-6号住居出土遺物(5)

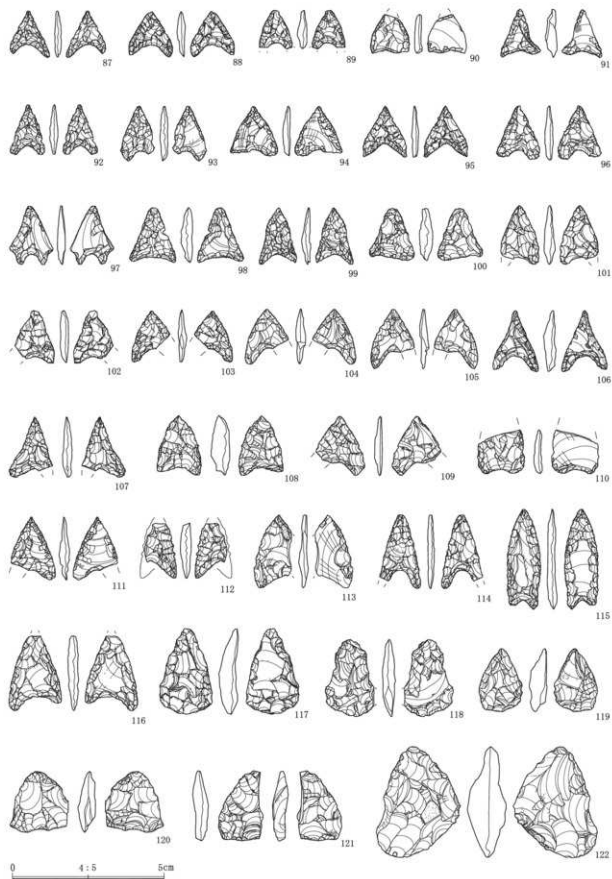


第68图 III-6号住居出土遺物(6)

II 縄紋時代の調査

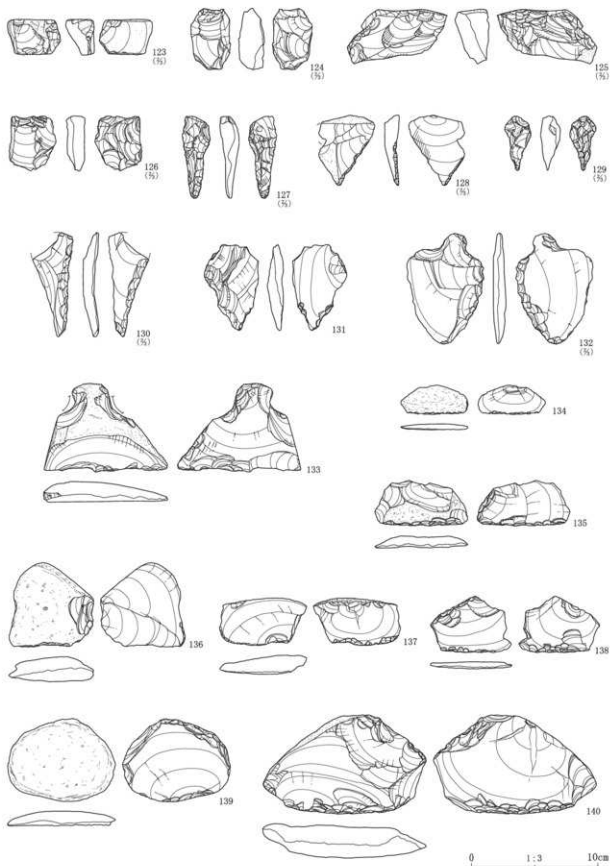


第69図 III-6号住居出土遺物(7)

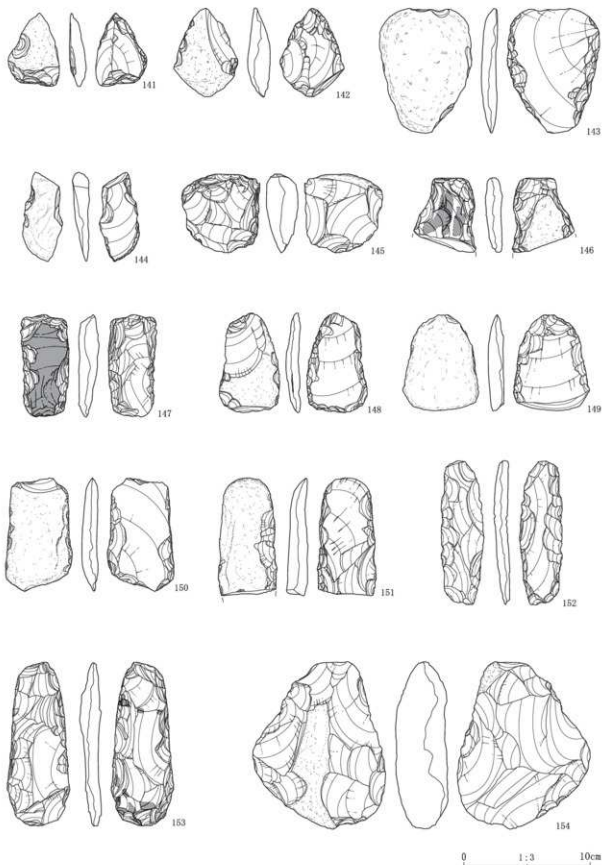


第70图 III-6号住居出土遺物(8)

II 縄紋時代の調査

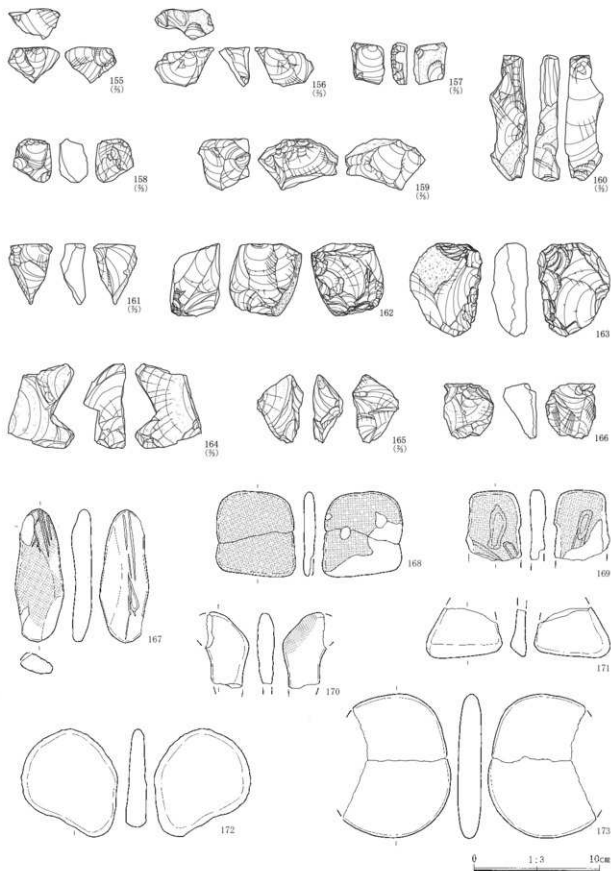


第71図 III-6号住居出土遺物(9)

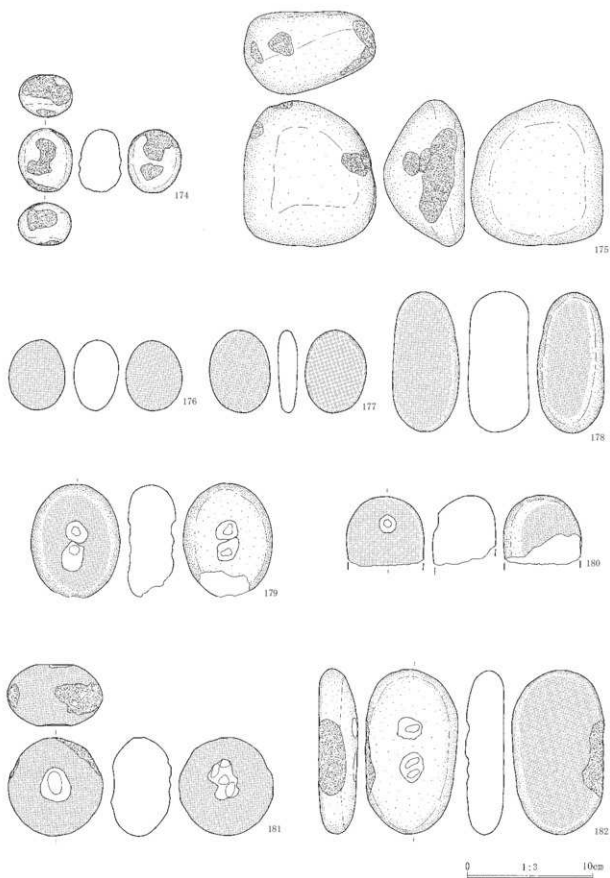


第72图 III-6号住居出土遗物(10)

II 縄紋時代の調査

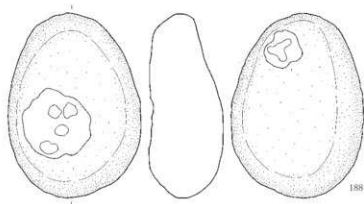
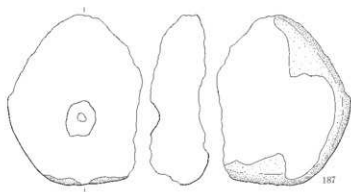
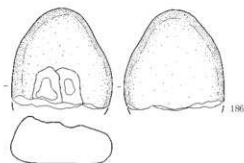
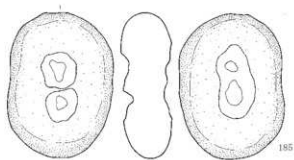
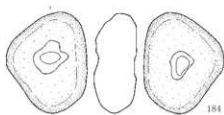
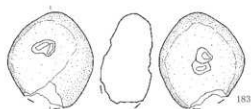


第73図 III-6号住居出土遺物(11)



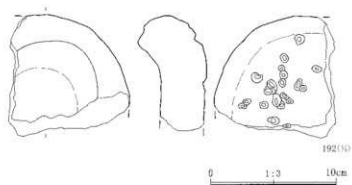
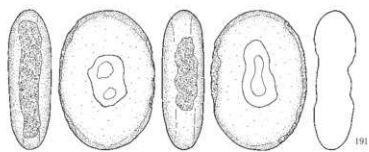
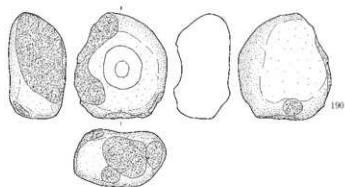
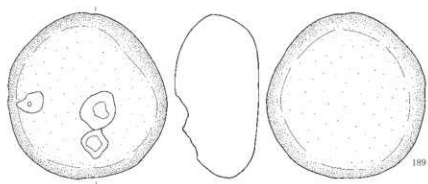
第74図 III-6号住居出土遺物 (12)

II 縄紋時代の調査



0 1:3 10cm

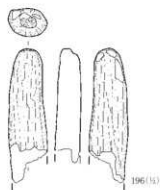
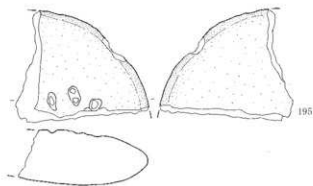
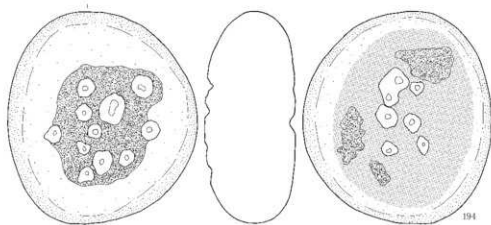
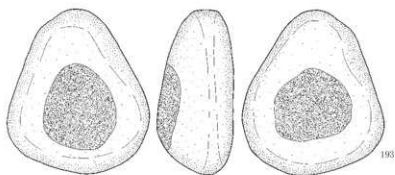
第75図 III-6号住居出土遺物(13)



0 1:3 10cm

第76図 III-6号住居出土遺物(14)

II 縄紋時代の調査



0 1:4 10cm

第77図 III-6号住居出土遺物 (15)

●Ⅲ-7号住居

位置 805, 810, 815-635, 640, 645

形状 周溝のあり方から単純に判断すれば、最低5回の建て替え・拡張が行われたことが推察される。最初期段階は隅丸形状を呈していると考えられ、北西-南東軸で4.9mを測る。南西-北東軸については攪乱により定かではない。以後、順次拡張が繰り返され、最終段階では不整形となり、長径9.1m、短径8.8mの規模をもつようになったと考えられる。

床面 確認面から最大45cm掘り込んで床面を構築する。中央部が低く、周縁部に向かって緩やかに高くなる傾向があり、高低差は最大20cmほどある。標高値でいうと中央部が86.65m前後、周縁部の高い部分86.85m前後であり、概ね1期で86.70mほど、最終段階で86.80mほどの高さであったと考えられる。2期から3期への拡張に伴い、北西-北東壁にかけて5cm前後の高低差をもつ明瞭な段差が認められるが、埋没土層からは貼り床を行って床面を構築した状況は確認できない。

周溝 6重の周溝が検出された。全周するものではなく、住居南西半に顕著である。規模は概ね、幅10cm弱、深さ5cm前後を測る。

炉 埋燬炉8基が検出された。1, 2, 8号は南西隅近く、3, 4, 5号は中央やや南西寄り、6, 7号は中央やや北東寄りで検出された。3~7号の5基は住居主軸上にはほぼ一直線に配置されている。2号を除き、土器内部の埋没土中に焼土粒の混入が認められることから、それぞれ炉体土器として機能していたと考えてよいだろう。

1号は径31cm、深さ18cm掘り込んで、波状口縁の波頂部と底部を欠いた深鉢を埋設する。炉体土器は下鳥式(1)である。炉体土器に沿わせて無紋土器(83)も同時に埋設している。

8号は1号の内側に隣り合うように埋設されているが、炉体の上端レベルが1号に比べて5cmほど低い。このことから8号→1号の先後関係は確実であろう。炉体土器は縄紋施文土器(8)である。

2号は8号の南東1.1mほど離れた位置で検出された。径25cm、深さ18cm掘り込んで、深鉢底部を埋設する。炉体土器は諸磯c式(2)である。炉体に沿わせて、諸磯c式の深鉢破片(34)を同時に埋設している。埋没土の1層が貼り床とされているため、最終段階には機能していなかったと判断される。

3号は径33cm、深さ25cm掘り込んで、口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。炉体土器は諸磯b式(3)である。

4号は3号の北東45cmほど離れた位置に埋設される。径20cm、深さ20cm掘り込んで、口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。炉体土器は興津式(4)である。

5号は4号のさらに北東30cmほどの位置に埋設されている。径22cm、深さ15cm掘り込んで、口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。炉体土器は諸磯c式(5)である。

6号、7号は住居北東側に隣り合うように埋設されるが、土層断面からは両者の先後関係は判断できない。それぞれ口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。炉体土器は6号：諸磯c式(6)、7号：諸磯c式(7)である。

それぞれの上端レベルは1号：86.83m、2号：86.76m、3号：86.75m、4号：86.71m、5号：86.73m、6号：86.72m、7号：86.74m、8号：86.78mを測る。

炉体の変遷については、3号が諸磯b式であること、初期の住居プランでは6, 7, 1, 8, 2号の位置だと壁際あるいは住居外になることから、3, 4, 5号の位置が初期的な位置と考えられる。おそらく3号→4号→5号と移設されたのだろう。また6, 7号と8, 1号および2号の関係については、先後関係を決定づける根拠がないため断定はできないが、6, 7号の位置が3, 4, 5号と同一軸上にあること、炉体土器の上端レベルが8, 1, 2号に比べ6, 7号が低いことから、6, 7号→8, 1, 2号と考えられる。また2号は上記した通り、最終段階には機能していなかったと判断できることから、

II 縄紋時代の調査

2号→8号→1号と考えられよう。

以上をまとめると、3号→4号→5号→6号→7号→2号→8号→1号と移設された可能性が高い。

柱穴 117基が検出された。それぞれの規模は別表の通りである。

各期の柱穴配置をとらえるのは困難なため、最終段階での配置の可能性を指摘するにとどめるが、最終段階で、P5-P6-P7-P25-P26-P29-P2-P3-P9の9本主柱で構成されていた可能性が考えられる。また住居中央部に柱穴群が確認されており、Ⅲ-6号住居の状況と類似する。住居が大形化するにつれ、中央にも配置していたことが考えられよう。

遺物 諸磯c式を主体に、諸磯b式から前期末～中期初頭、浮島・興津系、下鳥式さらには真腐式が出土している。

14が86.83mほどのレベルでまともに出土しており、最終床面に近い位置と考えられる。また垂直分布図(第80図)を見ると、出土レベルの低いものは86.80m付近にドットが落ちる傾向にあり、推定最終床面レベルと合致する。この判断が正しいとすれば、最終段階は86.80mレベルまで貼り床を行っていたことになり、床直出土は27.36、41、71、102、111、124、138、140、142となろう。また、石剣(146)が周溝埋没土上面から出土しており、人為的に埋められた可能性が高い。他に玦状耳飾の破損品(145)が北西壁際、床面から浮いた状態で出土している。おそらく埋没途中で廃棄されたか、流れ込んだものである。

また本住居から黒曜石製の石鎌25点、楔形石器5点、石錐2点、二次加工ある剥片7点、石核13点、原石1点、剥片839点が出土している。Ⅲ-2号、Ⅲ-6号住居同様、住居廃絶後の石器製作の痕跡と考えられよう。

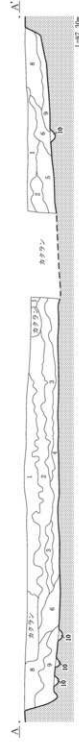
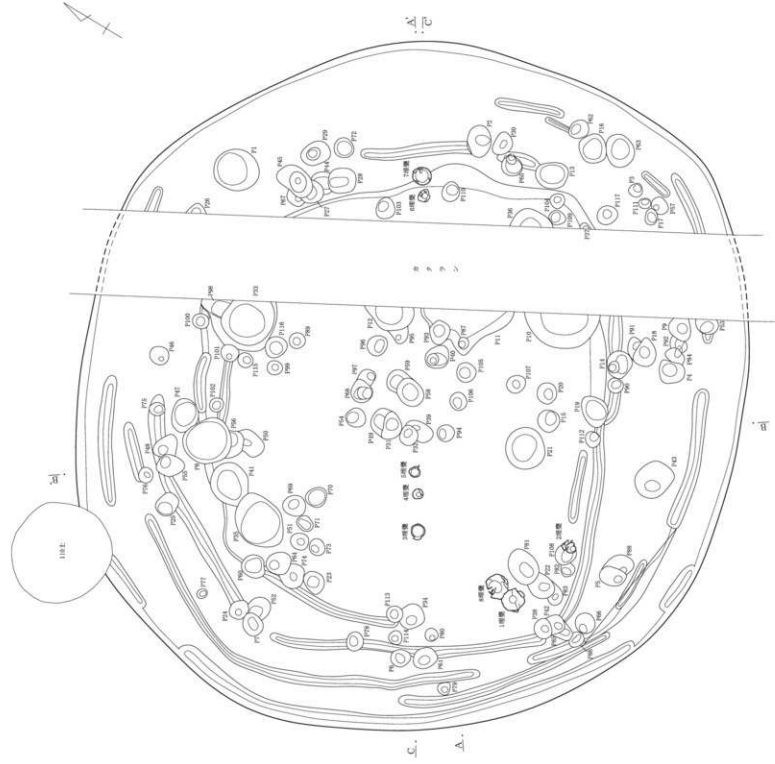
時期 3号埋壺炉体土器から、住居構築時期は諸磯b式の新しい段階で、諸磯c式期まで存続し、廃絶したと考えられる。

重複 110号土坑と重複するが、切り合いは確認さ

れていない。

Ⅲ-7号住居 柱穴計測表

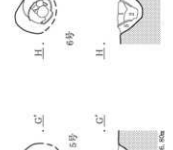
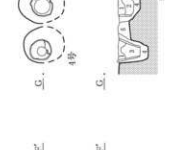
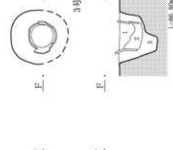
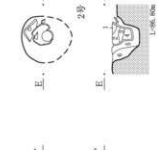
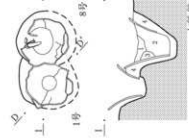
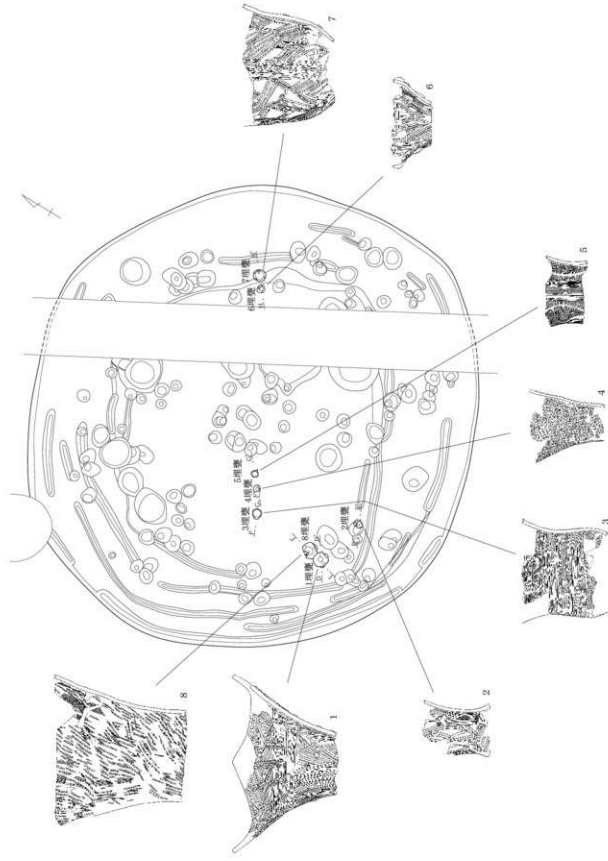
番号	径	深さ	出土遺物	番号	径	深さ	出土遺物
1	60	61		60	30	27	
2	42	50		61	33	51	
3	19	64	128	62	28	23	
4	34	47		63	44	24	
5	34	55	85	64	31	41	
6	25	52		65	27	38	
7	30	51		66	27	40	
8	64	68		67	27	36	
9	28	63		68	28	46	
10	100	53		69	30	51	
11	122	31		70	27	34	
12	65	47		71	22	21	
13	43	27	144	72	27	59	
14	35	37		73	23	33	
15	29	55	143	74	33	51	
16	37	26		75	22	19	
17	30	46		76	20	22	
18	36	36		77	14	13	
19	42	25		78	25	49	
20	28	35		79	17	31	
21	54	29		80	17	25	
22	30	27		81	46	69	
23	29	64		82	18	43	
24	27	52		83	21	18	
25	31	53	135	84	27	50	
26	26	51		85	21	16	
27	31	66		86	21	14	
28	36	45	117	87	15	51	
29	39	66		88	30	49	
30	31	62		89	21	35	
31	37	39		90	21	35	
32	25	36		91	24	21	
33	100	72		92	22	22	
34	34	32		93	30	31	
35	74	90	38	94	22	34	
36	56	83	114	95	25	73	
37	14	19		96	28	21	
38	26	46		97	20	29	
39	38	38		98	35	74	78
40	31	34		99	20	51	
41	54	33		100	22	23	
42	24	47		101	23	65	
43	51	36		102	18	34	
44	30	33		103	27	26	
45	51	83		104	19	13	
46	25	47		105	26	36	
47	35	37		106	23	37	
48	34	66		107	25	42	
49	35	33		108	29	58	
50	41	38		109	23	27	
51	24	62		110	26	31	
52	29	26		111	16	42	
53	30	46		112	21	22	
54	26	65		113	22	22	
55	31	73		114	19	41	
56	35	31		115	20	21	
57	24	34		116	29	40	
58	38	23		117	27	58	
59	29	18					



埋設土層

- 1 褐色土(10091/A) 褐色土ブロックを周状に多く含む、白色礫石を含む。
- 2 黒褐色土(10092/C) 褐色土ブロックを周状に多く含む。
- 3 褐色土(10093/A) 褐色土ブロックを周状に多く含む、自然礫石が少量含む。
- 4 褐色土(10094/A) 褐色土ブロックを周状に多く含む、自然礫石が少量含む。
- 5 褐色土(10095/A) 褐色土ブロックを周状に多く含む、黒面状に礫土を多く含む。
- 6 褐色土(10096/A) 褐色土ブロックを周状に多く含む。
- 7 暗褐色土(10097/C) 自然礫石が、ローム部少量含む。
- 8 褐色土(10098/A) 褐色土ブロックを周状に多く含む、自然礫石を含む。
- 9 褐色土(10099/C) 褐色土ブロック、自然礫石を含む。
- 10 不明

0 1:100 3m



1号標本土層

- 1 褐色土(100R3/4) 質化細胞壁が下の方に存在。
- 2 暗褐色土(100R3/3) 0→A散在。根土粒が下側に存在。
- 3 褐色土(100R3/4) 根粒が少量存在。
- 4 暗褐色土(100R3/4) 0→A散在。根土粒が少量存在。

2号標本土層

- 1 灰褐色土(100R5/6) 0→A散在。灰褐色の一部と考及される。
- 2 褐色土(100R3/4) 0→A散在が下側に存在。
- 3 暗褐色土(100R3/4) 0→A散在が下側に存在。
- 4 暗褐色土(100R3/4) 0→A散在が少量存在。しまりが全層。
- 5 暗褐色土(100R3/4) 0→A散在。根土粒。

3号標本土層

- 1 暗褐色土(100R3/2) 0→A散在。根土粒。質化細胞壁。
- 2 暗褐色土(100R3/2) 少量存在。
- 3 暗褐色土(100R3/4) 0→A散在が少量存在。

6・7号標本土層

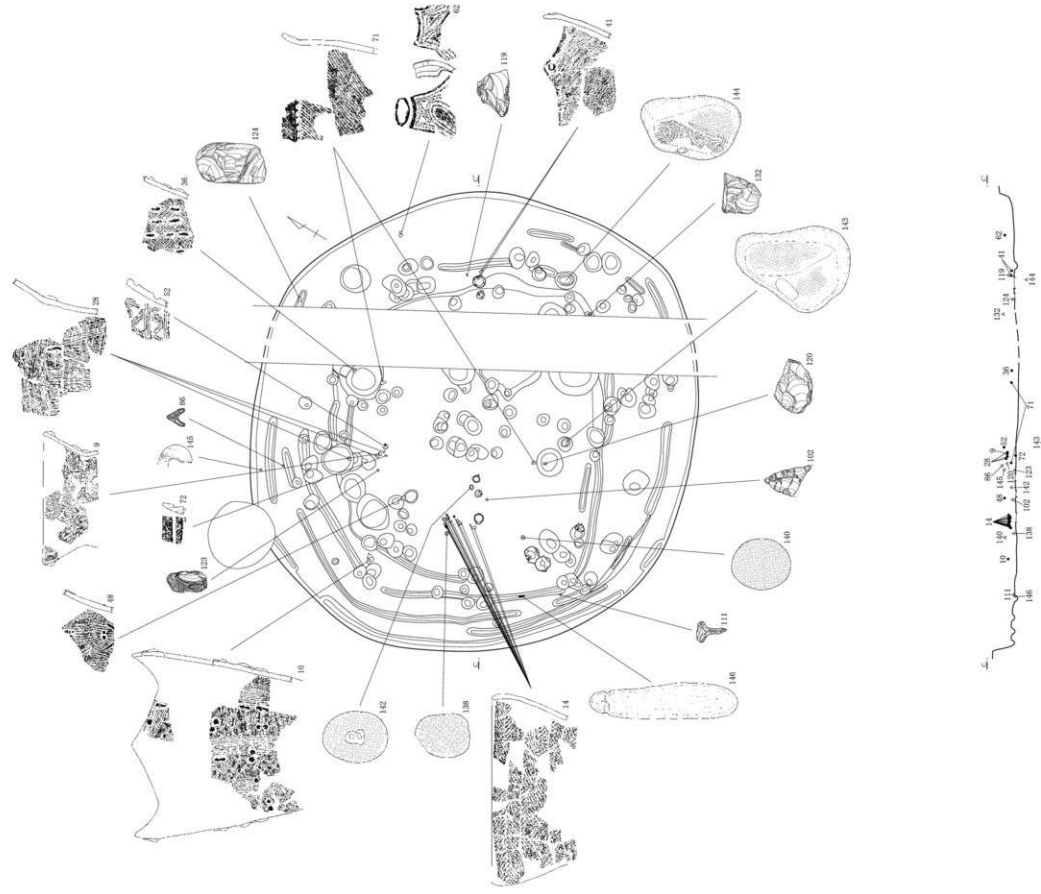
- 1 暗褐色土(100R3/3) 白色細胞壁。0→A散在少量存在。
- 2 褐色土(100R3/4) 0→A散在。根土粒が下側に存在。
- 3 暗褐色土(100R3/4) 0→A散在。根土粒が少量存在。
- 4 褐色土(100R3/4) 0→A散在。根土粒が少量存在。
- 5 暗褐色土(100R3/3) 0→A散在が少量存在。

8号標本土層

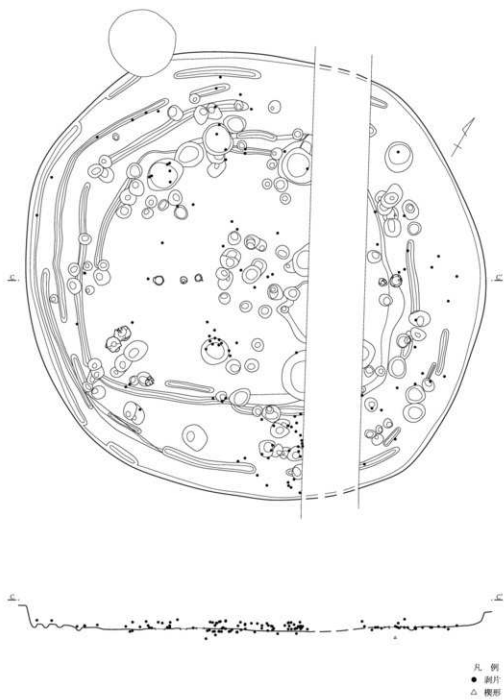
- 1 暗褐色土(100R3/4) 根土粒が多く存在。
- 2 暗褐色土(100R3/3) 0→A散在。根土粒が少量存在。
- 3 褐色土(100R3/4) 根土粒が少量存在。
- 4 暗褐色土(100R3/6) 0→A散在が少量存在。

4・5号標本土層

- 1 暗褐色土(100R3/2) 0→A散在。根土粒。質化細胞壁。
- 2 暗褐色土(100R3/2) 少量存在。
- 3 暗褐色土(100R3/2) 0→A散在が少量存在。質化細胞壁。
- 4 暗褐色土(100R3/4) 0→A散在が少量存在。
- 5 暗褐色土(100R3/4) 0→A散在が少量存在。

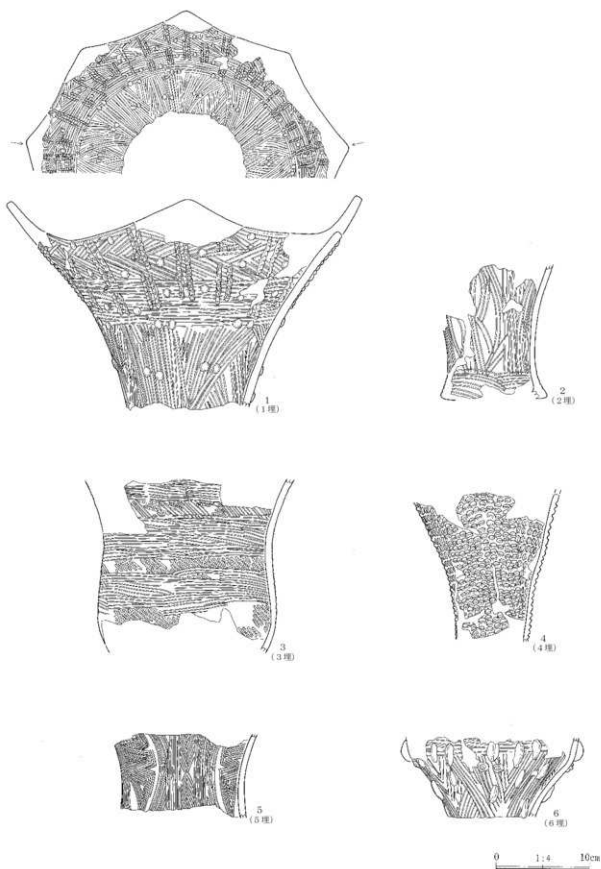


第800圖 Ⅲ-7号在居庸關出土狀況

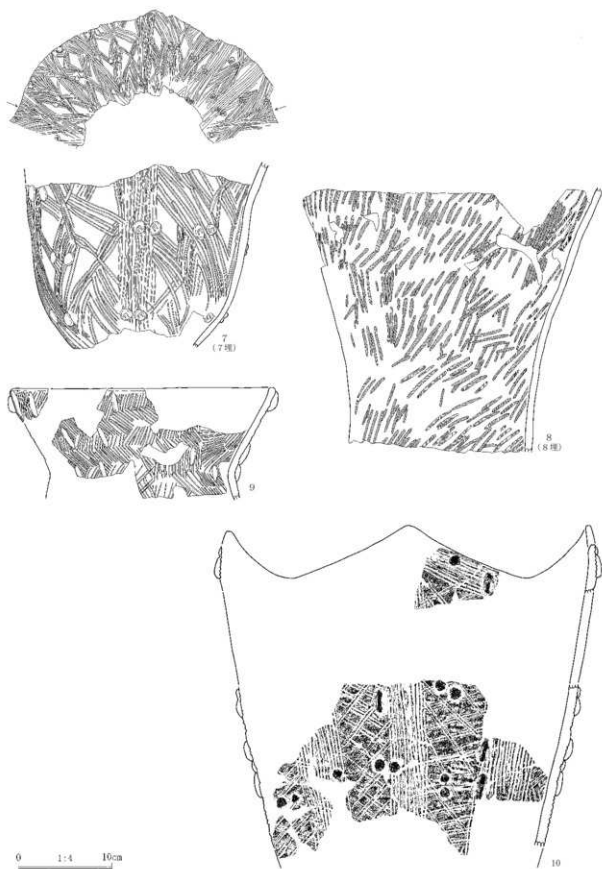


第81图 III-7号住居黑曜石製石器出土状况

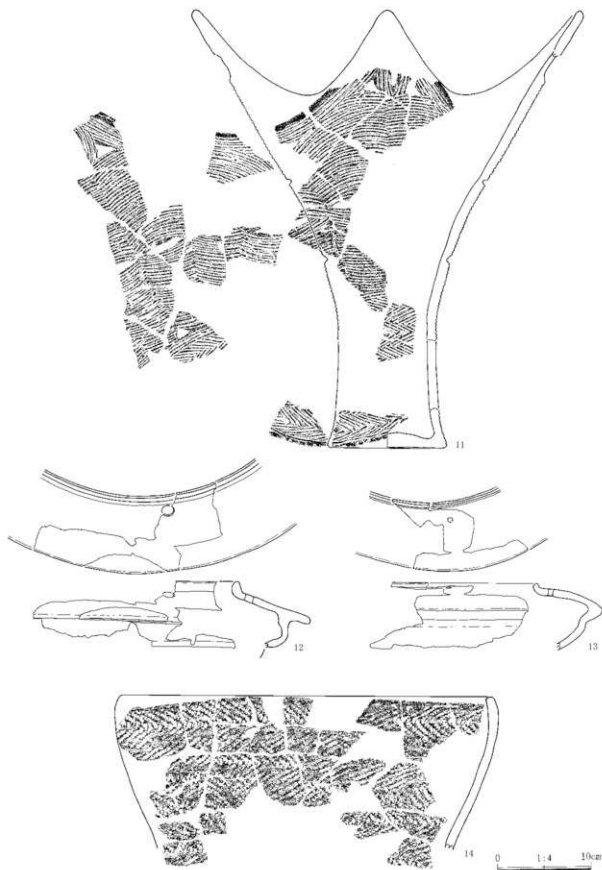
II 縄紋時代の調査



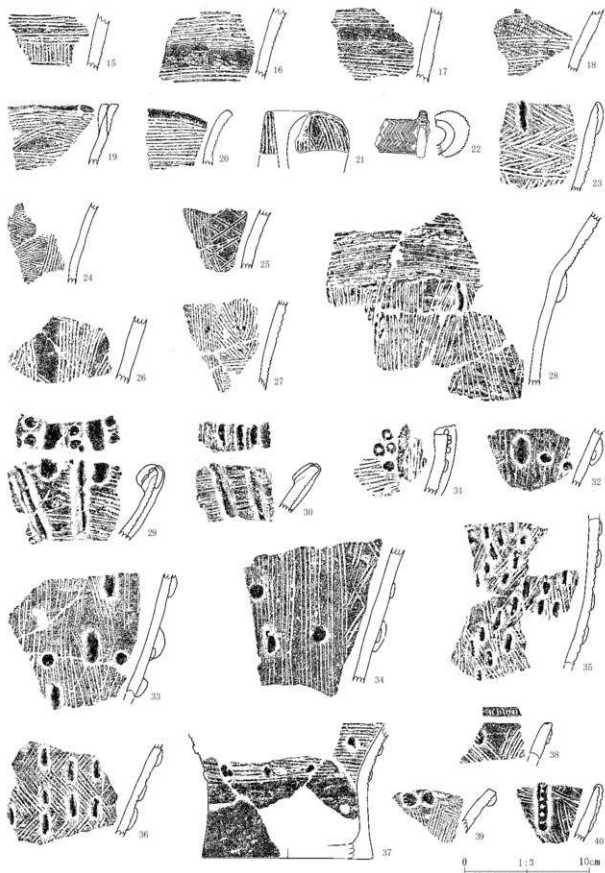
第82図 III-7号住居出土遺物(1)



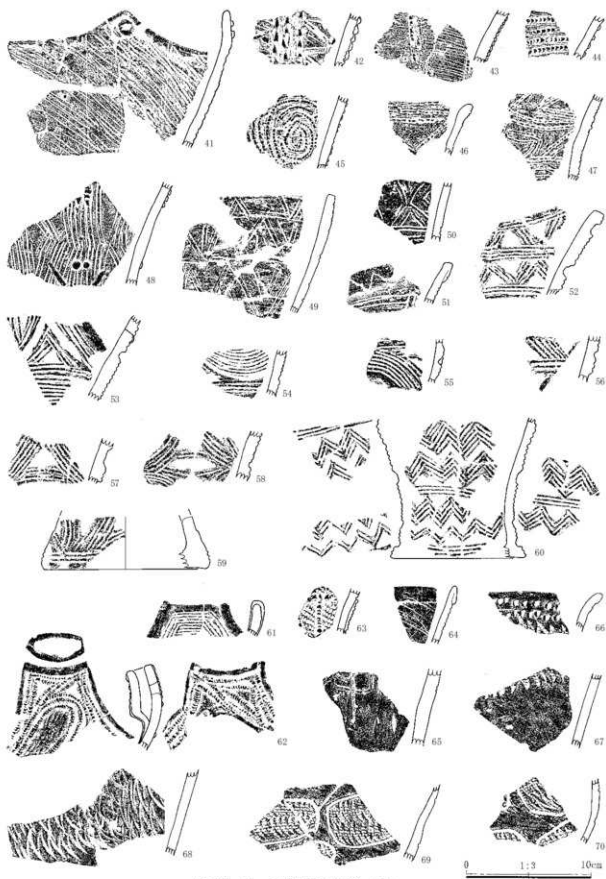
第83図 III-7号住居出土遺物(2)



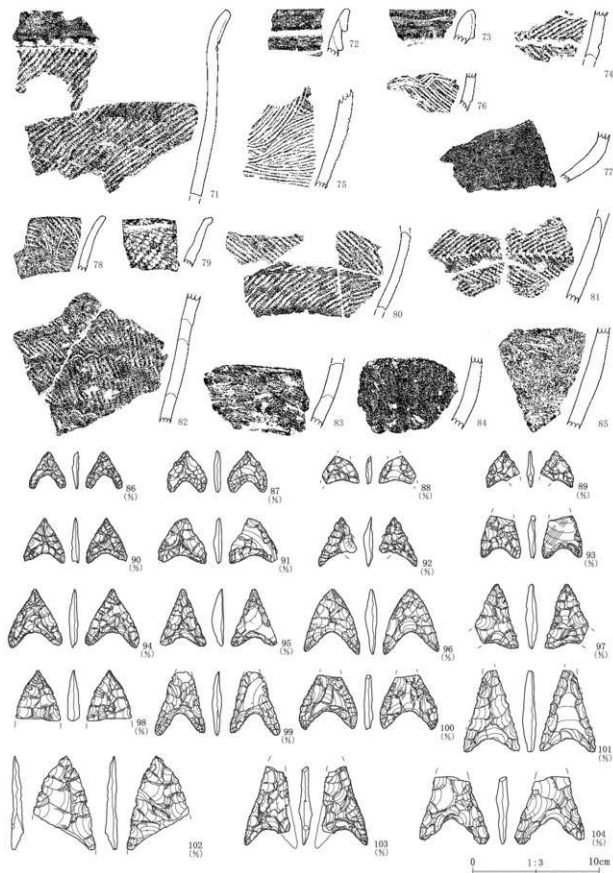
第84図 III-7号住居出土遺物(3)



第85图 III-7号住居出土遺物(4)

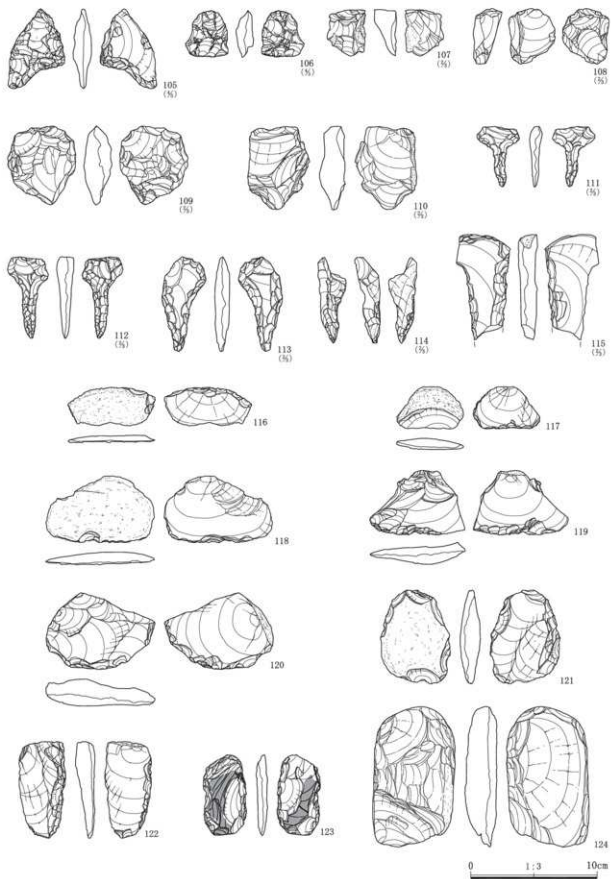


第86図 III-7号住居出土遺物(5)

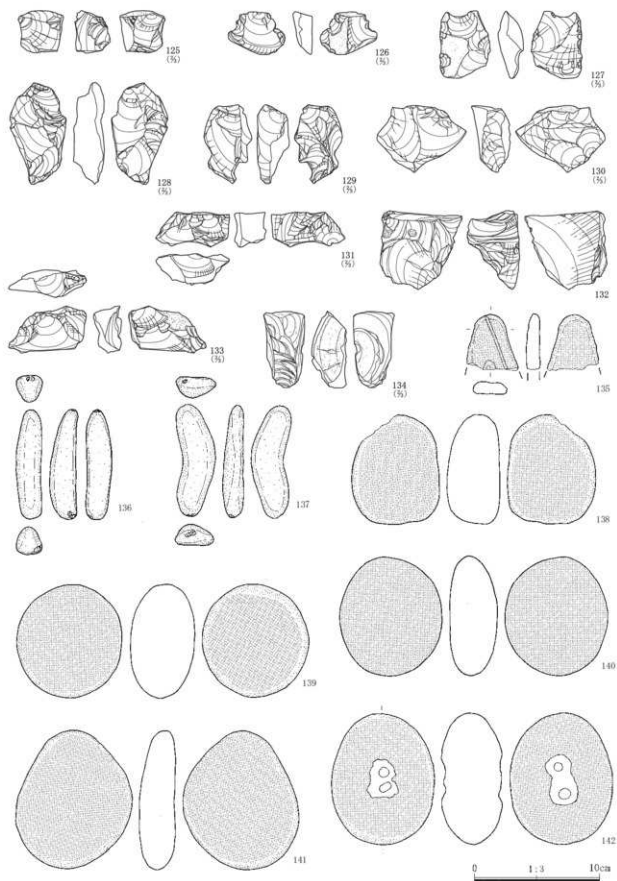


第87图 III-7号住居出土遺物(6)

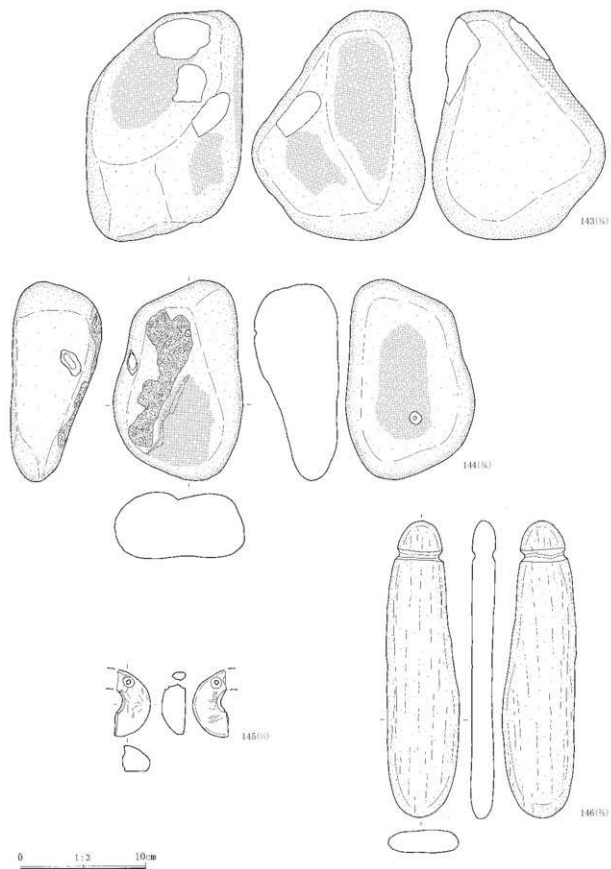
II 縄紋時代の調査



第88図 III-7号住居出土遺物(7)



第89図 III-7号住居出土遺物(8)



第90図 III-7号住居出土遺物(9)

●Ⅲ-8号住居

位置 850、855-590、595

形状 最低2回の建て替え・拡張が認められる。1期は隅丸方形状で、4.4m×4.5mの規模をもつ。2期は不明であるが、北東辺、南東辺ともに1期の20cm程外側に周溝が存在する。最終段階である3期は隅丸六角形状を呈し、5.7m×5.8mの規模となる。

床面 1期床面で、確認面から最大90cm掘り込んで床面を構築する。床面はほぼ平坦であるが、中央から周縁に向かって緩やかに高くなる傾向があり、中央のレベルが86.30m程、周縁の高い部分が86.40m程である。3期床面は1期床面と明瞭な段差をもち、拡張に際して最大20cm6層土を埋め戻して床面を構築する。床面レベルは86.50m～86.60m程である。2期と3期の関係については床面レベルの差は認められない。

周溝 各期に伴うと考えられる周溝が検出されているが、それぞれ部分的なものである。1期の周溝は幅15～20cmほど、深さ5～15cmほどを測る。2期は北東辺の東半、南東辺の中央のみ検出されている。幅15cm前後、深さ10～23cmを測る。3期は幅15cm前後、深さ10cm前後を測る。

炉 埋燵炉3基が検出された。1号は住居北西部、2号は北東-南西主軸上の北東寄り、3号は同主軸上の南西寄りでそれぞれ検出された。

1号は径40cm、深さ20cm掘り込んで、口縁の一部と底部を欠いた深鉢を埋設する。土器内外の埋没土中に焼土粒の混入が確認されており、埋燵炉と判断される。炉体の上端レベルは86.60mを測る。3期床面レベルと合致することから、1号が3期床面に伴う炉と判断される。炉体土器は大木5式(1)である。

2号は上端レベル86.44mを測り、1期床面と3期床面の中間に位置する。このことから2号は3期には床下に埋設していた可能性が高い。2期から3期への拡張時に上半部が壊されたとも考えられる。埋没土中からは焼土粒等は確認されていないが、2期に伴う埋燵炉の可能性が考えられよう。炉体土器

は諸磯c式(2)である。

3号は上端レベルは記録されていないが、下端レベルは86.30m前後で1期床面のレベルに近い。壊れた状態で検出されており、住居の拡張に際し壊されたと考えられよう。3号の掘り方を確認していないため埋没土は不明であるが、3号が1期床面に伴う炉ととらえてよいであろう。炉体土器は諸磯b式(3)である。

以上のことから3基の埋燵炉は、3号→2号→1号の移設を考えるのが妥当であり、それぞれ1期、2期、3期に伴う炉と考えられよう。

柱穴 25基が検出された。規模(径×深さ)はP1:37×36cm、P2:30×49cm、P3:35×33cm、P4:40×46cm、P5:23×41cm、P6:27×36cm、P7:20×30cm、P8:23×36cm、P9:27×21cm、P10:24×60cm、P11:27×36cm、P12:36×23cm、P13:14×24cm、P14:15×39cm、P15:26×25cm、P16:28×27cm、P17:29×30cm、P18:33×30cm、P19:24×32cm、P20:24×35cm、P21:27×51cm、P22:43×41cm、P23:35×33cm、P24:44×29cm、P25:19×32cm。

1期の柱穴配置は、P9-P10-P12-P21の4本主柱が考えられる。最終段階3期で、P1-P2-P4-P18-P14の5本主柱の可能性が考えられよう。

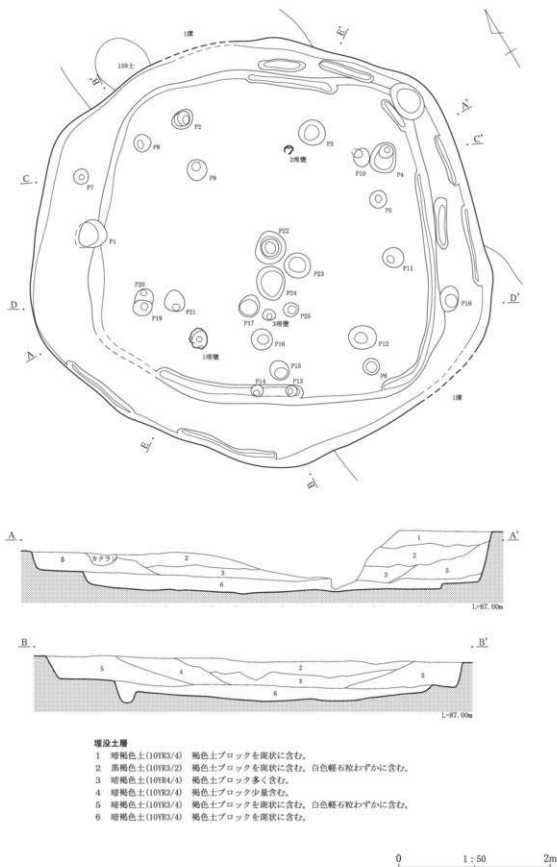
遺物 諸磯c式を主体に、諸磯b式、十三菩提式、浮島・興津系が出土している。

仮に最終床面レベルを86.50mとしても、それ以下のレベルで出土する遺物は少なく、床面レベルが間違っていないとすれば、これらは拡張に伴い床下に埋設していたことになる。86.45m以深のものは4、6、8、11、16、24、25、29、30、36、48、54である。

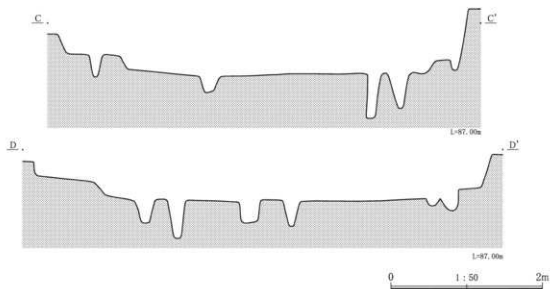
時期 3号埋燵の炉体土器から判断すると、住居構築時期は諸磯b式の新しい段階で、諸磯c式期まで続き、廃絶したと考えられる。

重複 159号土坑を切る。

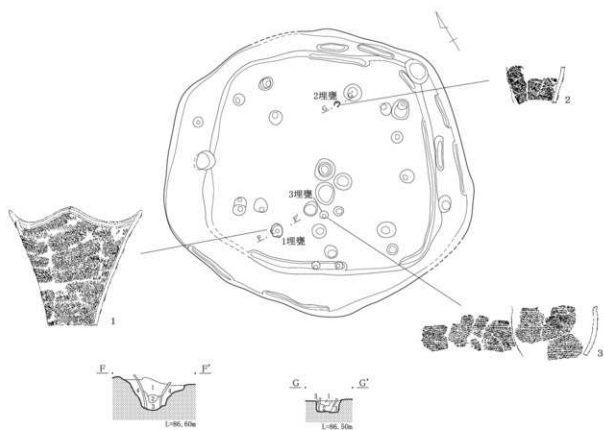
II 縄紋時代の調査



第91図 III-8号住居



第92図 III-8号住居断面



1号埋没土層

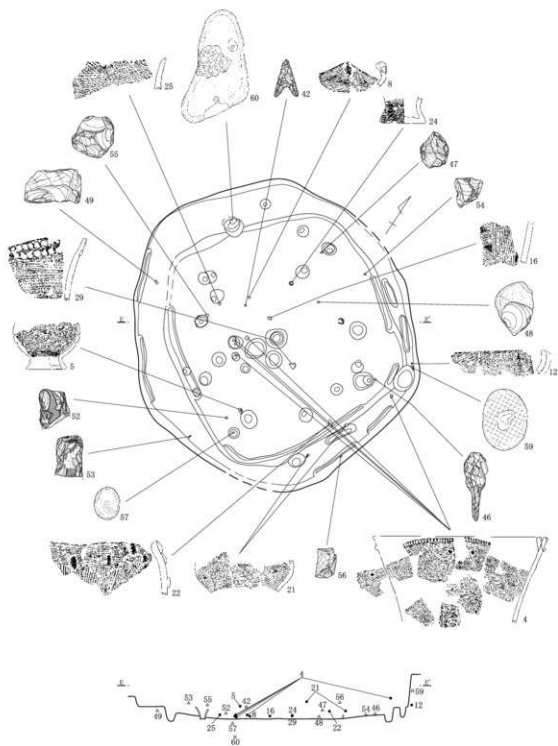
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒。焼土ブロック含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒少量含む。
- 4 褐色土(10YR4/4) 焼土粒少量含む。

2号埋没土層

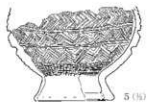
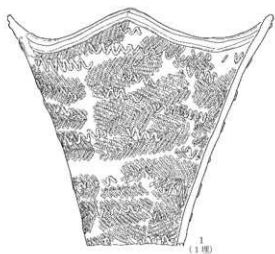
- 1 褐色土(10YR4/4) ローム粒少量含む。しまり強。
- 2 黄褐色土(10YR5/6) 粘質ローム主体。
- 3 褐色土(10YR4/6) ローム粒多く含む。しまり強。

0 1:25 1m

第93図 III-8号住居埋没



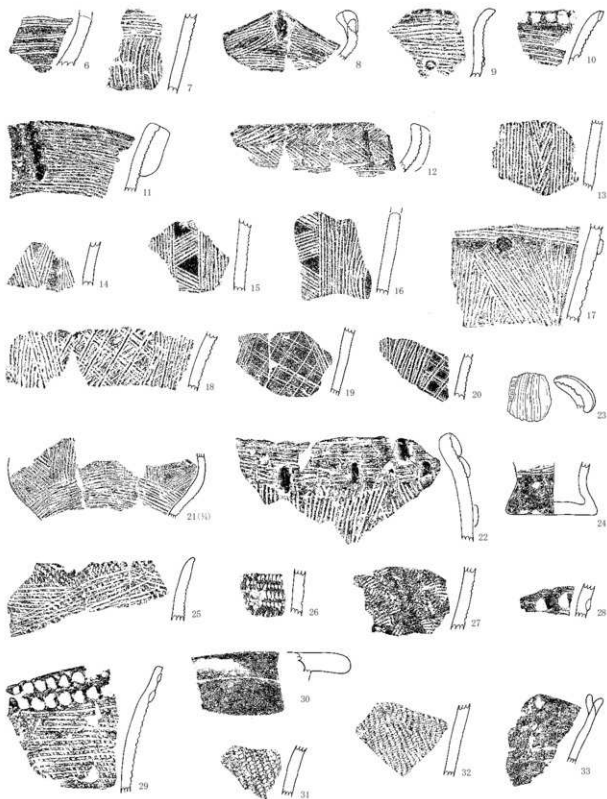
第94図 III - 8号住居遺物出土状況



0 1:4 10cm

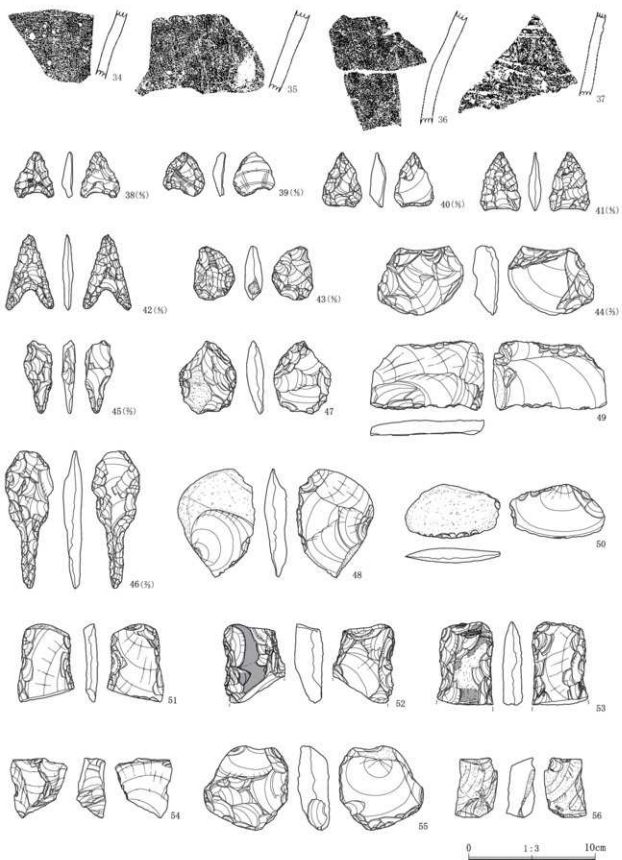
第95図 Ⅲ-8号住居出土遺物(1)

II 縄紋時代の調査



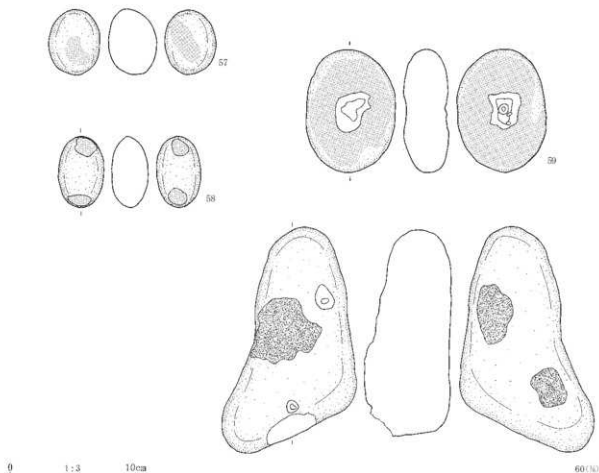
0 1:3 10cm

第96図 III-8号住居出土遺物(2)



第97图 III-8号住居出土遺物(3)

II 縄紋時代の調査



第98図 III-8号住居出土遺物(4)

● III-9号住居

位置 850, 855-625, 630

調査 本住居の調査時は、9 a号と9 b号は拡張ととらえられ、9 b号→9 a号とされた。しかし、古いとされる9 b号の北東壁が、新しいとされる9 a号の外側にずれること、また埋甕炉体土器の新旧が逆転していると考えられることから、現時点では拡張ではなく、9 a号→9 b号の切り合い関係ととらえたい。

形状 9 a号は不整五角形状を呈し、6.0m×6.0mほどの規模をもつ。西壁面の25cmほど内側に周溝が検出されており、この部分のみの検出なので判然としないが、1度の拡張があった可能性が考えられる。

9 b号は北東-南西に主軸をもつ隅丸長方形形状を呈す。長辺4.9m×短辺3.8mを測る。

床面 9 a号は、確認面から最大45cm掘り込んで床面を構築、床面レベルは86.35m前後である。

9 b号は床面レベル86.20m前後で9 a号より15cmほど低い。床面はほぼ平坦で、周縁部を除き硬化面が確認された。

周溝 9 a号は途切れる部分があるが、ほぼ全周をめぐる。幅15cm前後、深さ3cm前後を測る。西壁の25cmほど内側に長さ1.2mの周溝が検出された。幅15cm弱、深さ5cm前後を測る。

9 b号は東隅を除き、全周に周溝がめぐる。幅15cm前後、深さ5cm前後を測る。

炉 埋甕炉4基が検出された。9 a号住居に1, 4号が、9 b号住居に2, 3号と2基ずつ検出されている。

1, 4号は9 a号南西部で検出された。1, 4号

ともに土器内外に焼土粒が混入することから、炉体土器と判断できよう。1号と4号は隣り合う形で埋設されているが、1号が4号を切っており、4号→1号の移設は間違いないと思われる。1号は、径37cm、深さ18cm掘り込んで、口縁の大部分と底部を欠いた深鉢を埋設する。上端レベルは86.41mを測る。4号は1号の隣、住居中心側で径26cm、深さ15cm掘り込んで、口縁部と底部を欠いた深鉢を埋設する。この炉体土器は外周が回らず、1/5ほどが欠損している。上端レベルは86.28mで1号よりも13cm低く、炉体土器の残存状況の悪さからも、1号を埋設する過程で4号の上半部を含めて壊されたとも想定できよう。炉体土器は1号が諸磯c式(1)、4号が諸磯c式(2)である。

2号は9b号床面主軸上のやや南西寄りで検出された。径46cm、深さ10cm程掘り込んで、土器外周の1/5ほど欠損した深鉢の欠損部分に、別個体の大形口縁部破片を組み合わせて埋設している。2号の上端レベルは86.24mを測る。炉体土器は諸磯c式(3)、(4)である。

3号は9b号のほぼ中央で検出された。1個体を埋設するのではなく、土器の大形破片を組み合わせて炉を構築しており、一部に浅鉢の破片を用いている。炉体内部からは焼土粒の混入は認められていないが、周囲に焼土が分布しており、炉として機能していたと判断される。上端レベルは86.30mを測る。

2号と3号については、先後関係を判断する根拠が無いので、新旧は不明である。

柱穴 42基が検出された。規模は別表の通りである。

9a号の柱穴配置は、P1-P6-P10-P4-P3の5本主柱だった可能性が高い。P6-P10間にP14やP23を、P10-P4間にP16やP41を入れた可能性も考えられる。

9b号は、P6-P26-P20-P19あるいはP9の4本主柱だった可能性が高い。またはP7やあるいはP8を加えて5本主柱とも考えられる。

遺物 9a号から出土する土器は、諸磯b式を主体

としており、12、15、22-24、26が出土している。8は9a号、9b号にまたがって出土する。他に52、67が9a号出土である。石器は76、79がほぼ床直出土といえる。大形の石斧(86)が出土しているが、床面から40cm以上浮いた状態であり、埋設過程で廃棄されたものといえよう。

9b号は諸磯c式を主体に、諸磯b式、下島式、浮島・興津系、大木5式、浅鉢などが出土している。

床面から20cm前後浮いた状態で、10、11が出土している。中央西寄り、10の破片に挟まるような状態で11の破片が出土していることから、10、11は同時に廃棄された可能性が高い。床面密着あるいは床面に近い位置から出土しているものは17、27、28、35、37、62、70、石器は73、83、96、97である。

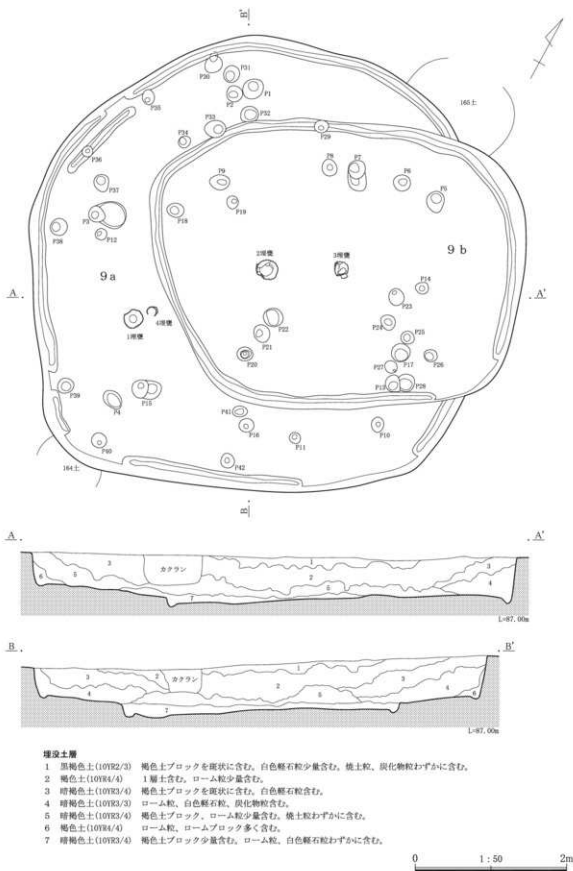
時期 埋蔵炉体土器から9a号、9b号ともに諸磯c式期と考えられ、前述したとおり、9a号→9b号と考えられる。

重複 164、165号土坑を切る。

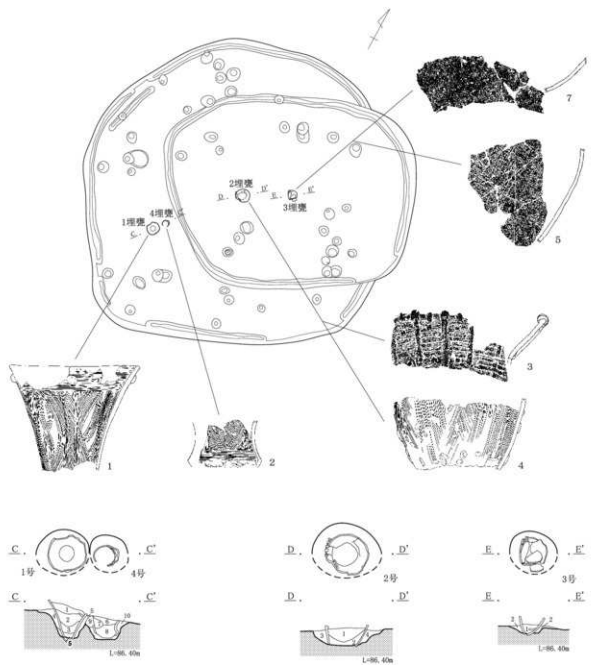
Ⅱ-9号住居 柱穴計測表

番号	径	深さ	出土遺物	番号	径	深さ	出土遺物
1	27	47	89	22	26	33	
2	21	47		23	22	31	
3	21	39		24	21	47	
4	26	45		25	17	25	
5	26	37		26	18	34	
6	22	51		27	16	44	
7	40	51		28	23	16	
8	22	47		29	17	30	
9	24	47		30	23	30	
10	19	35		31	22	34	
11	15	33		32	23	25	
12	15	32		33	25	41	
13	23	36		34	16	14	
14	17	43		35	18	18	
15	38	44		36	14	9	
16	19	31		37	22	37	
17	24	37		38	22	44	
18	22	38		39	21	43	
19	16	39		40	20	26	
20	20	32		41	20	31	
21	23	21		42	19	24	

II 縄紋時代の調査



第99図 III-9号住居



1・4号埋設土層

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石粒、ローム粒含む、焼土粒、炭化物粒わずかに含む。
 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、焼土粒含む。
 3 褐色土(10YR4/6) ローム粒主体、2層土少量含む、焼土粒わずかに含む。
 4 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒少量含む。
 5 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体、焼土粒含む。
 6 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、焼土粒含む。
 7 明赤褐色土(2.5YR5/8) 焼土ブロック。
 8 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒多く含む、焼土粒わずかに含む。
 9 明赤褐色土(2.5YR5/8) 焼土ブロック主体、暗褐色土含む、しまり強。
 10 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体、しまり強。

2号埋設土層

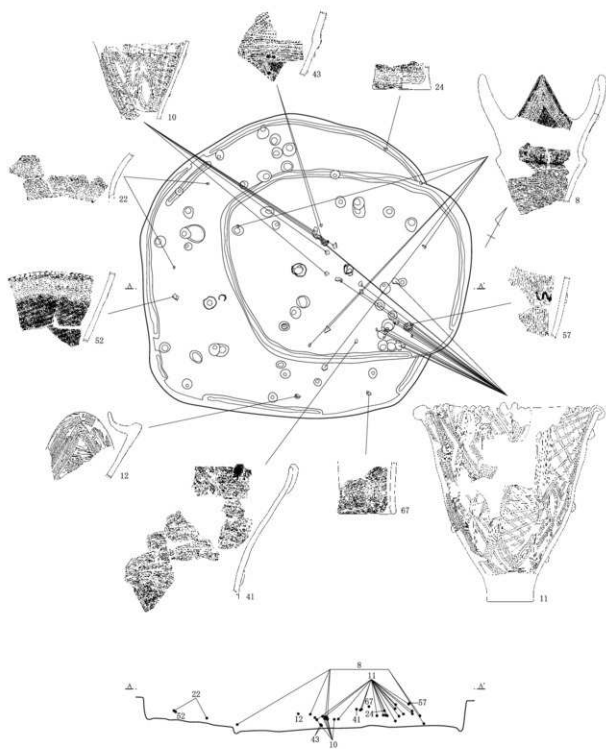
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒含む、焼土粒、炭を少量含む。
 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒少量含む、灰含む。
 3 暗褐色土(10YR3/3) 地山粘質ローム少量含む。
 4 暗褐色土(10YR3/4) 地山粘質ローム、焼土粒少量含む。

3号埋設土層

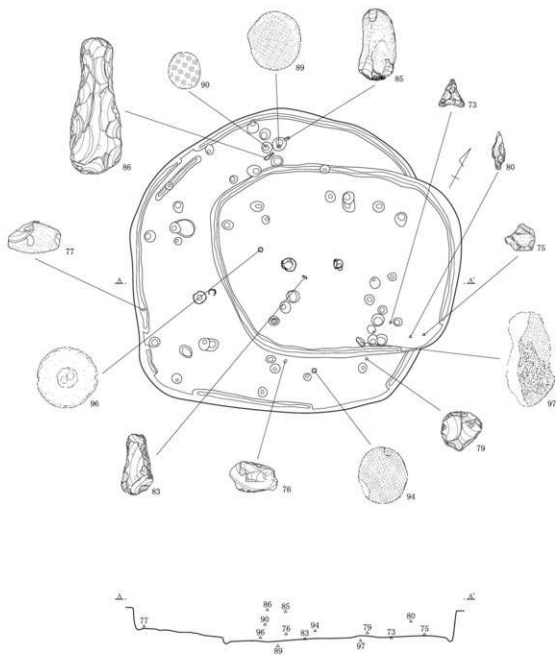
- 1 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒少量含む。
 2 暗褐色土(10YR2/3) ロームブロック含む、しまり強。

0 1:25 1m

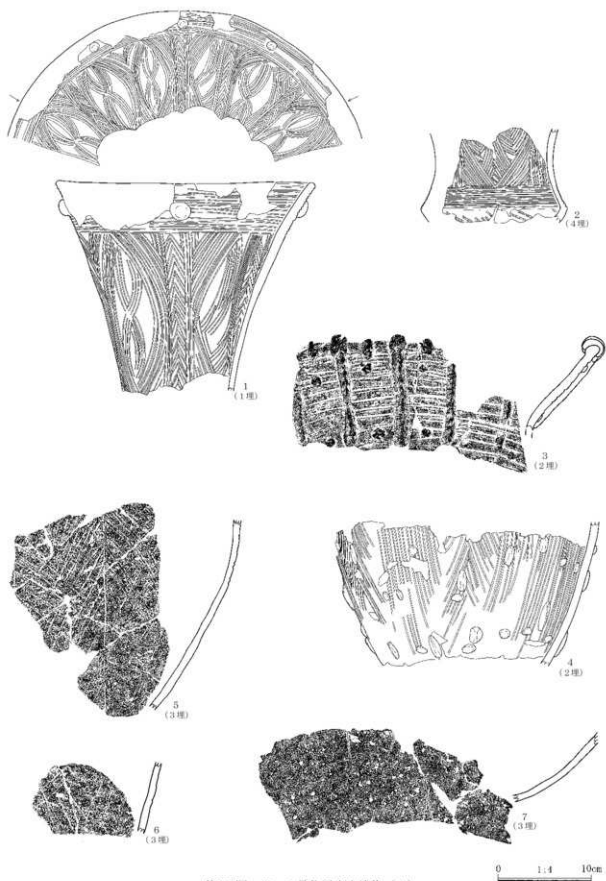
第100図 III-9号住居埋差



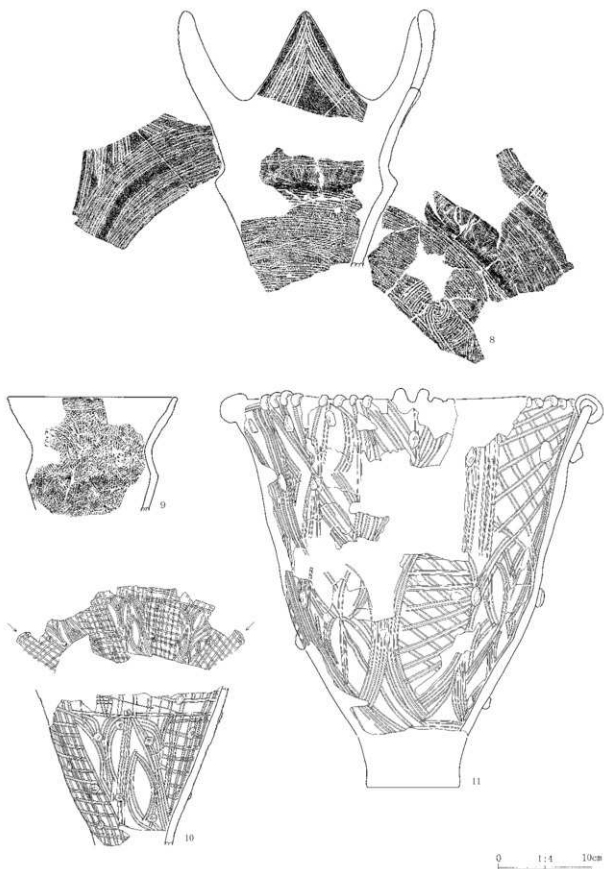
第101図 III-9号住居遺物出土状況(土器)



第102図 III-9号住居遺物出土状況(石器)



第103図 III-9号住居出土遺物(1)

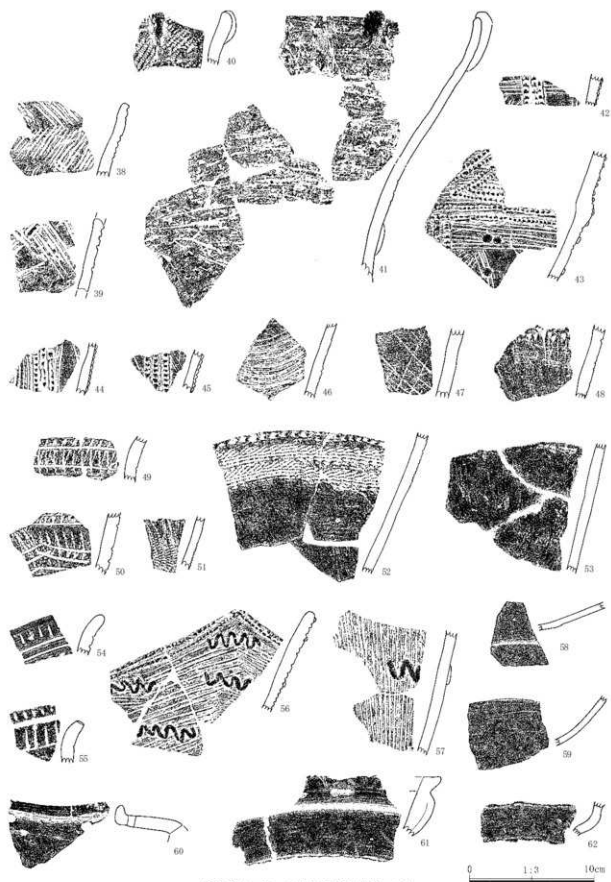


第104图 III-9号住居出土遺物(2)

II 縄紋時代の調査

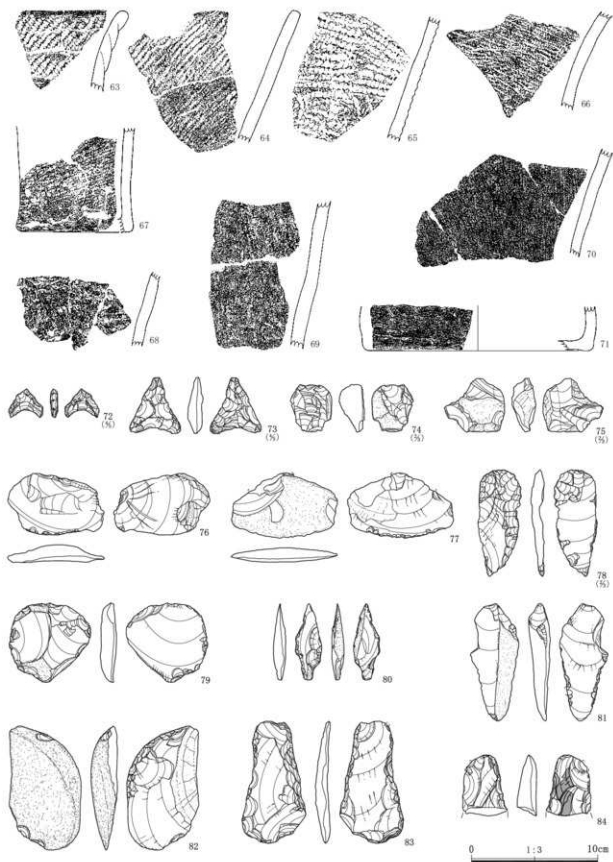


第105図 III-9号住居出土遺物(3)

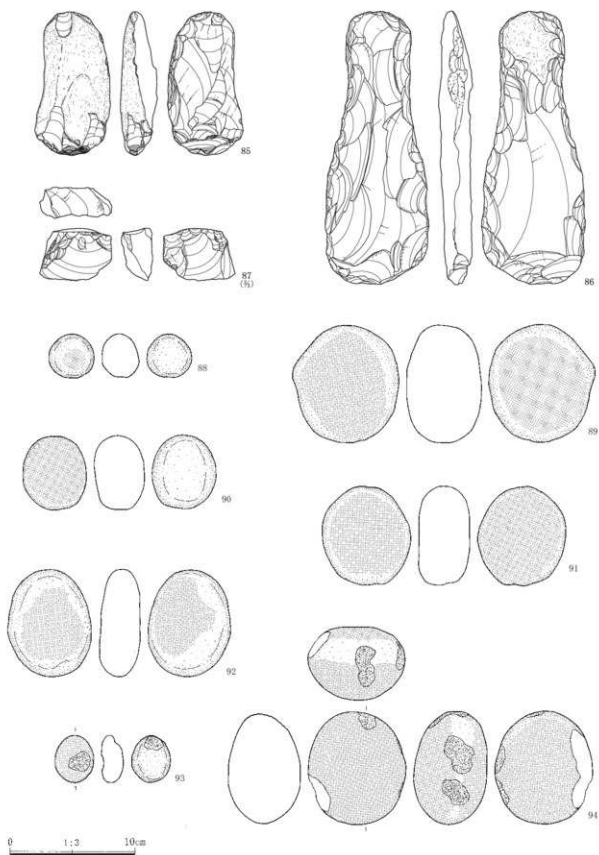


第106图 Ⅲ-9号住居出土遺物(4)

II 縄紋時代の調査

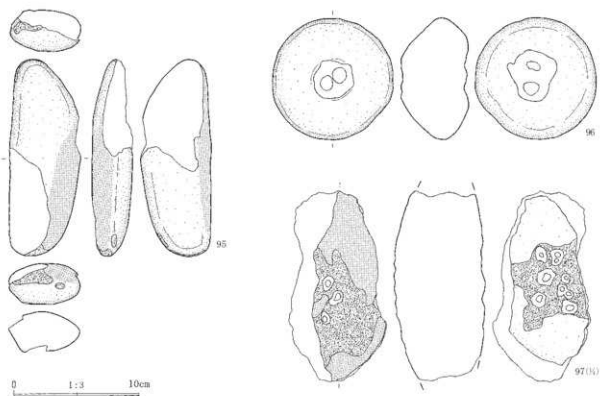


第107図 III-9号住居出土遺物(5)

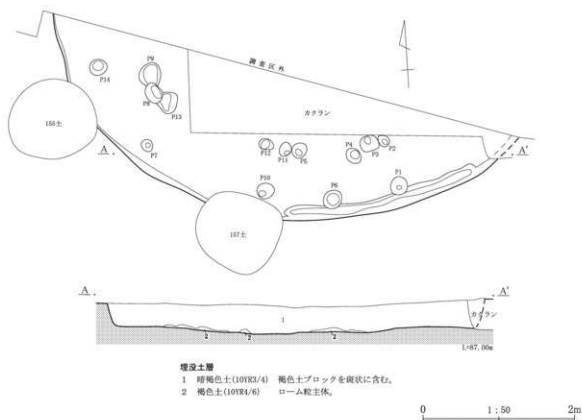


第108图 III-9号住居出土遺物(6)

II 縄紋時代の調査



第109図 III-9号住居出土遺物(7)



第110図 III-10号住居

●Ⅲ-10号住居

位置 855-585, 590

形状 北側が調査区外のため全体の構造は不明であるが、検出された壁面から判断する限り円形に近い形状を呈すると考えられる。調査部分の最大径は6.2mを測り、全体としては径7.0m前後の規模と推察される。

床面 確認面から最大36cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。北側の調査区境界付近は現在の擾乱によって破壊されており、残っていない。

周溝 南壁に沿って2.6mの長さで検出された。幅15cm前後、深さ2～5cmを測る。

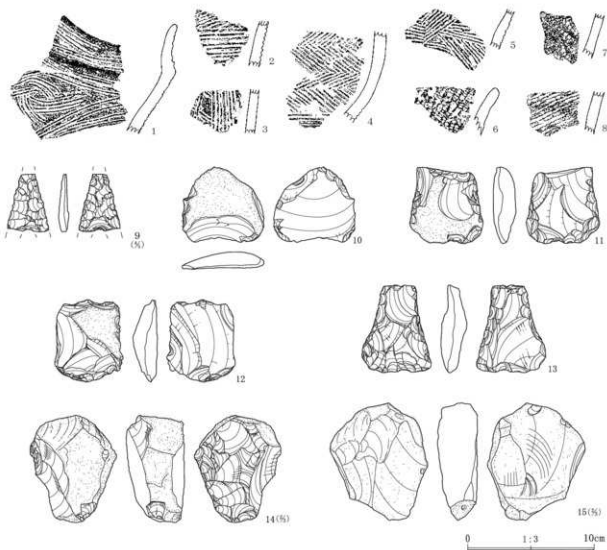
炉 調査した範囲には検出されなかった。

柱穴 14基が検出された。それぞれの規模（径×深さ）は、P 1：24×21cm、P 2：17×28cm、P 3：24×61cm、P 4：23×10cm、P 5：21×40cm、P 6：27×16cm、P 7：17×28cm、P 8：28×42cm、P 9：32×23cm、P 10：23×25cm、P 11：19×46cm、P 12：20×37cm、P 13：29×39cm、P 14：23×28cm。

遺物 図示したすべての土器が埋没土一括で取り上げられているため出土位置やレベルが不明であるが、諸磯b式、諸磯c式が出土している。

時期 出土遺物が少なく判然としないが、おそらく諸磯c式期であろう。

重複 155号、157号土坑と重複するが新旧不明。



第111図 Ⅲ-10号住居出土遺物

II 縄紋時代の調査

●IV-1号住居

位置 770-595

形状 北西部が調査区外のため南東部のみの検出であるが、隅丸方形状を呈すと思われる。調査部分の最大径は6.2mを測る。

床面 確認面から最大21cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。

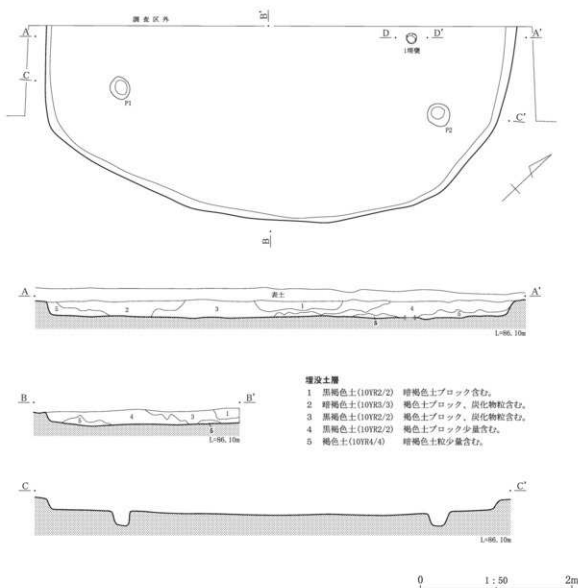
炉 住居の北東寄りで、埋塞炉1基が検出された。径27cm、深さ10cm掘り込んで、口縁部と底部を欠い

た深鉢を埋設する。埋設土に焼土粒は確認されていないが、炭化物粒が見られるため、炉と判断してよいと思われる。炉体土器は諸磯c式(1)である。

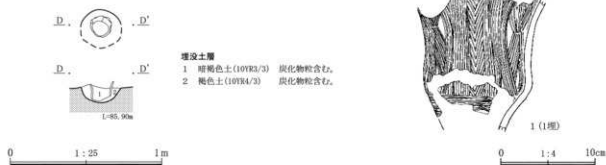
柱穴 2基が検出された。規模(径×深さ)はP1:31×19cm、P2:32×20cm。

遺物 諸磯b式-十三善提式、下鳥式、浮島・興津系、浅鉢が出土している。床面密着のものではなく、すべて床面から浮いた状態で出土している。

時期 炉体土器から諸磯c式期と考えられる。



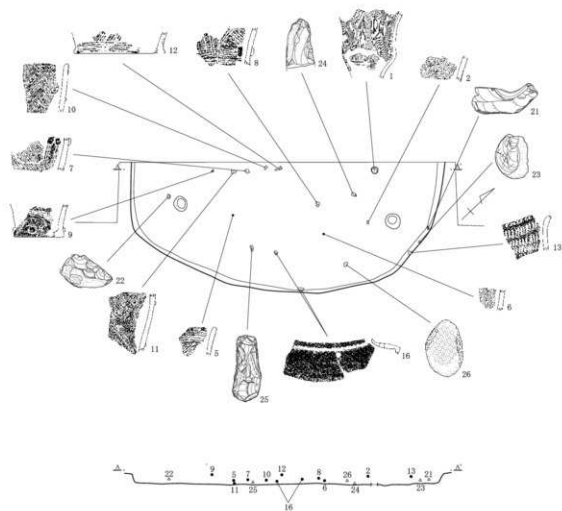
第112図 IV-1号住居



埋设土層

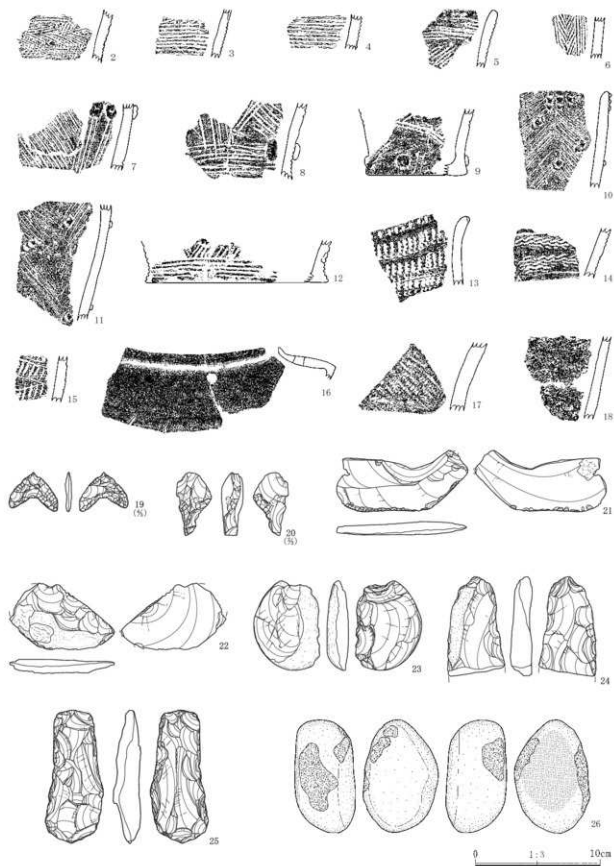
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物粒含む。
2 褐色土(10YR4/3) 炭化物粒含む。

第113图 IV-1号住居埋设



第114图 IV-1号住居遺物出土状況

II 縄紋時代の調査



第115図 IV-1号住居出土遺物

●Ⅳ-2号住居

位置 795-520

形状 東西に主軸をもつ不整形長方形を呈す。長辺2.7m×短辺2.2mを測る。

床面 確認面から最大6cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。

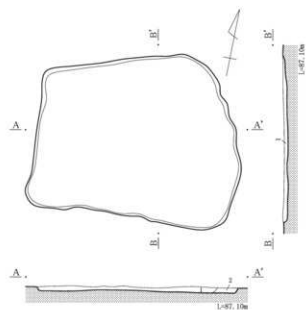
炉 検出されなかった。北部の床面から5cm浮いた位置で焼土分布が確認されたが、炉と認定するための根拠としては乏しいと言わざるを得ない。

柱穴 検出されなかった。

遺物 南西隅の床面から5cmほど浮いた位置で、1が正位の状態出土した。また1の脇、ほぼ同レベルで18が出土している。他に床面から21cm浮いた位置で土偶が出土した。

時期 諸磯c式期と考えられる。

その他 規模が小さいこと、掘り込みが浅く壁が明瞭でないこと、炉と柱穴が検出されていないことなどから総合的に判断すると、住居ではない可能性も否定できない。

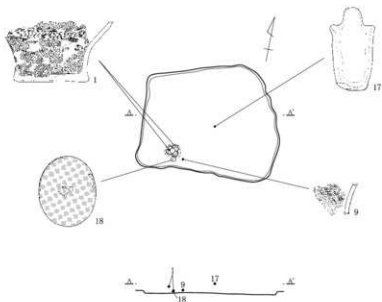


埋設土層

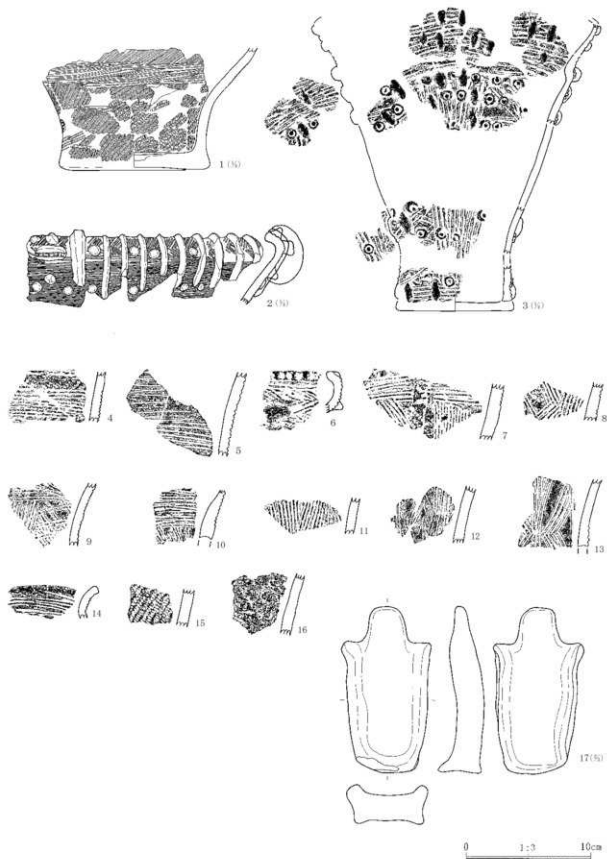
- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック少量含む、炭化物粒含む。
- 2 褐色土(10YR4/6) ロームブロック多く含む、炭化物粒含む。

0 1:50 2m

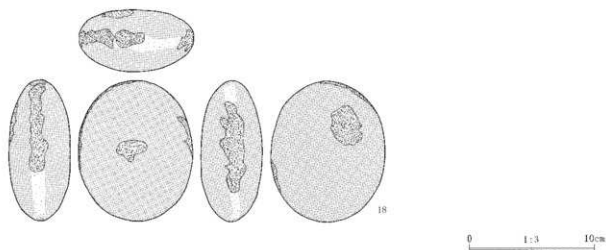
第116図 Ⅳ-2号住居



第117図 Ⅳ-2号住居遺物出土状況



第118図 IV-2号住居出土遺物(1)



第119図 IV-2号住居出土遺物(2)

●IV-3号住居

位置 780, 785-530, 535

形状 北西側に位置する1段低い住居が1期と考えられる。南西壁が不明であるが、おそらく不整形円形となろう。北西-南東径で3.9mを測る。1期床面の南東側に1段高い床面が検出されており、この高い床面の住居を2期と認定できる。2期の形状は、北西-南東に主軸をもつ不整形円形を呈し、4.7m×4.2mの規模をもつ。相似形の拡張ではないため、切り合いの可能性も考えられるが、土層観察からは切り合いが確認されていないこと、北西壁が一致すること、炉が1期ではなく2期に伴うと考えられることから拡張としてとらえておく。1期から2期への拡張は北西壁を共有し、南東側のみ拡張を行ったと考えられる。

床面 1期床面は確認面から最大45cm掘り込んで床面を構築する。床面レベルは86.30m~86.35m程で、概ね平坦である。2期は1期と最大10cmの段差をもち、床面レベルは86.40m~86.50m弱である。南西から北東に向かって緩やかに高くなっている。

炉 地床炉1基が検出された。2期床面の中央やや南西寄り検出され、位置関係から2期床面に伴う炉と判断される。62cm×38cmの楕円形で10cmの掘り込みをもち、埋没土には焼土粒や炭化物粒が確認された。

柱穴 16基が検出された。規模(径×深さ)は、P1:39×34cm, P2:38×35cm, P3:39×51cm, P4:26×23cm, P5:29×36cm, P6:27×51cm, P7:25×15cm, P8:28×36cm, P9:23×30cm, P10:20×24cm, P11:40×18cm, P12:18×16cm, P13:31×28cm, P14:23×25cm, P15:21×52cm, P16:21×22cm。

2期の柱穴配置は、P1-P2-P6-P13-P3-P11の6本主柱の可能性が考えられる。1期については適当な柱穴が検出されておらず、判然としない。

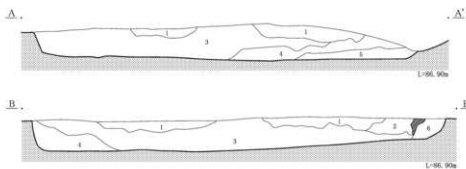
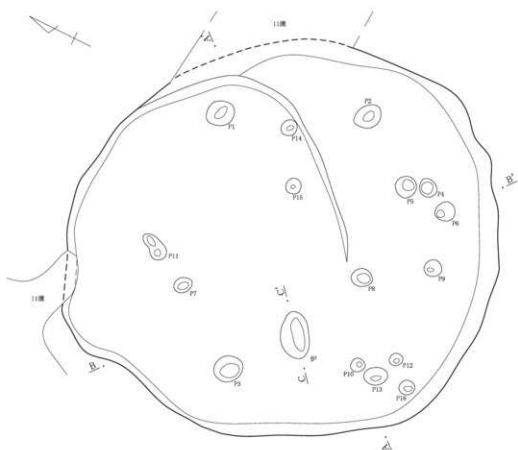
遺物 諸磯c式を主体に、諸磯b式、下島式、十三菅提式、浮島・興津系、浅鉢が出土している。

土器については床直のものではなく、みな床面から浮いた状態で出土している。西壁際、床面から12~17cm浮いた状態で、5, 15, 17, 21, 22, 27, 28, 30, 31, 33がまとまって出土した。レベル差5cm以内にまとまって出土していることから、これらは埋没途中に一括して廃棄された可能性が高いといえよう。

石器については、39, 61が床直レベルで出土している。また黒曜石製の石鎌5点、楔形石器6点、石核4点、原石2点、剥片605点等が出土した。石鎌など製品類の数量は少ないが、剥片の多からⅢ-2号住居やⅢ-6号住居と同様に、住居廃絶後の石器製作の痕跡を示しているものと考えられる。

時期 諸磯c式期と考えられる。

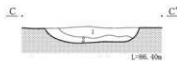
II 縄紋時代の調査



埋没土層

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、炭化物粒含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒少量含む。炭化物粒含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、炭化物粒少量含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒、褐色土粒、焼土粒、炭化物粒含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒、炭化物粒含む。
- 6 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土粒多く含む。炭化物粒含む。

0 1:50 2m

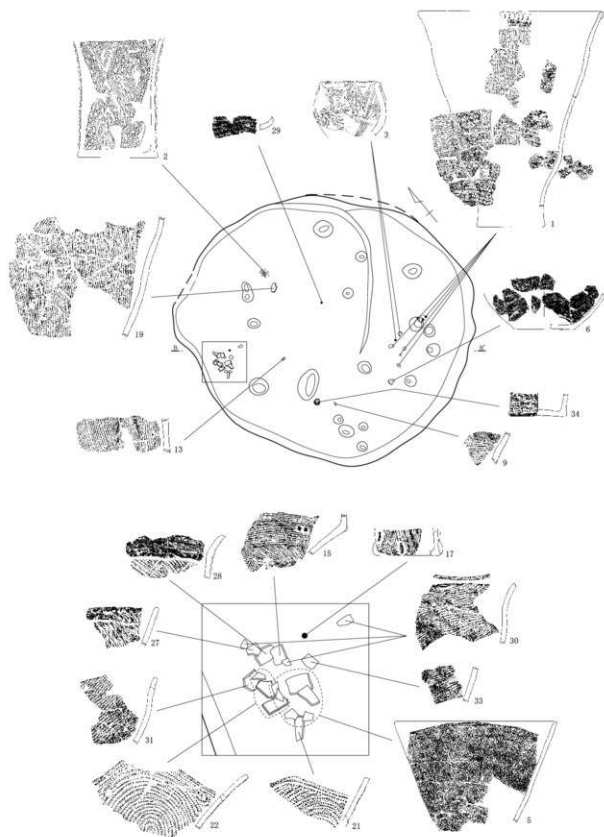


炉埋没土層

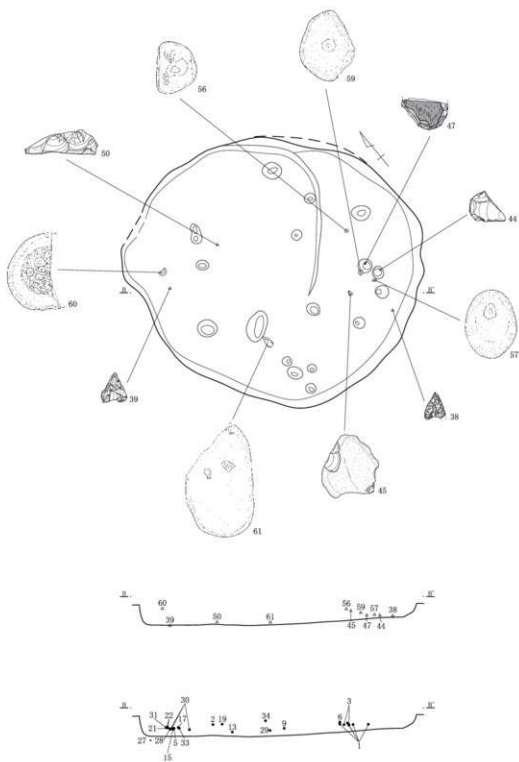
- 1 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、焼土粒、炭化物粒含む。
- 2 褐色土(10YR4/6) 焼土粒、炭化物粒含む。

0 1:25 1m

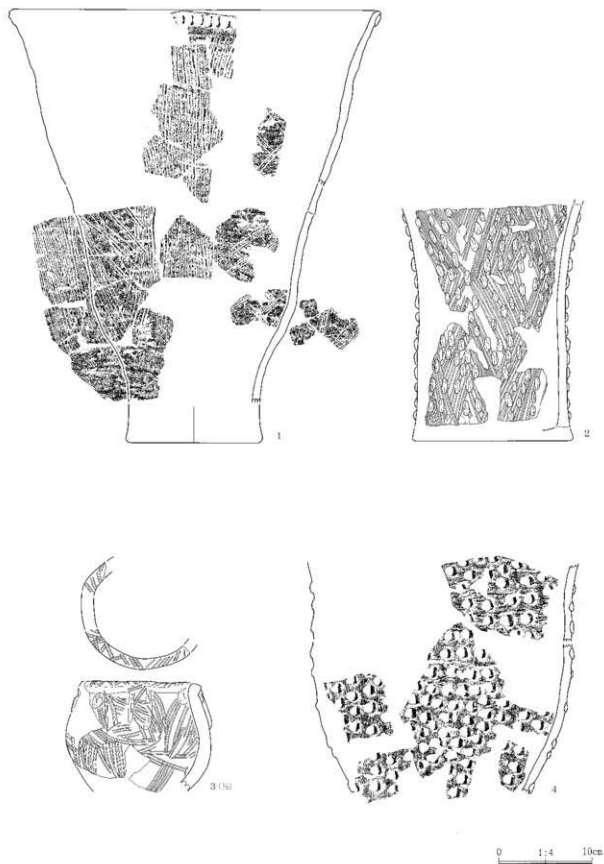
第120図 IV-3号住居



第121图 IV-3号住居遺物出土状況(土器)

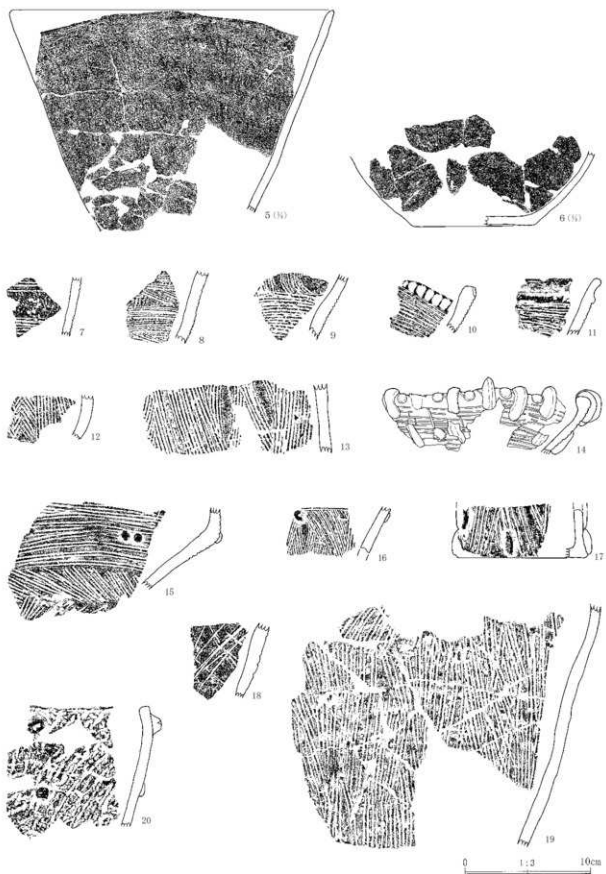


第122図 IV-3号住居遺物出土状況(石器)

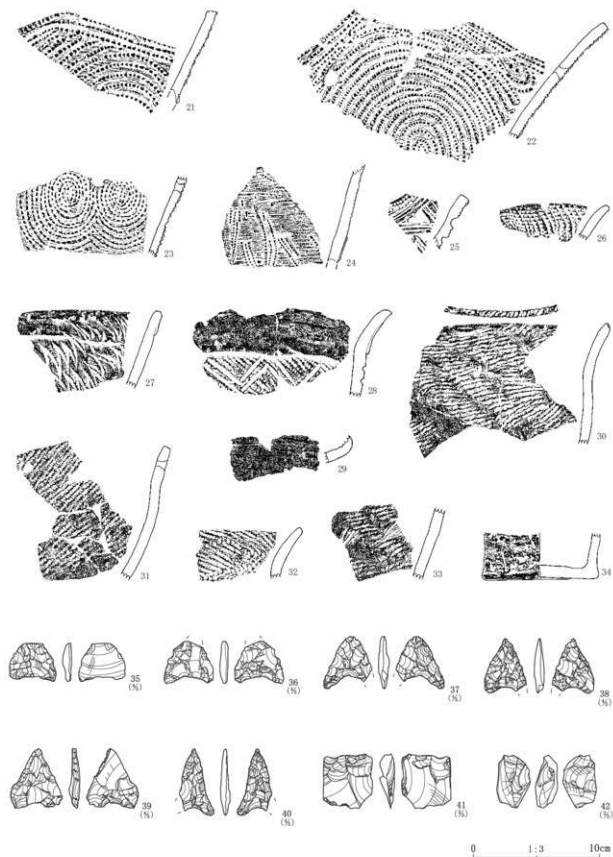


第123图 IV-3号住居出土遺物(1)

II 縄紋時代の調査

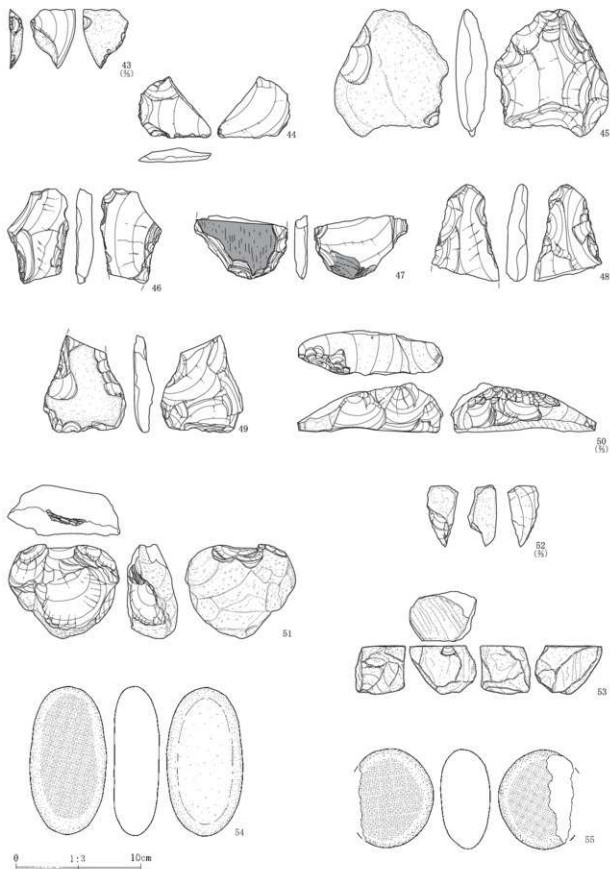


第124図 IV-3号住居出土遺物(2)

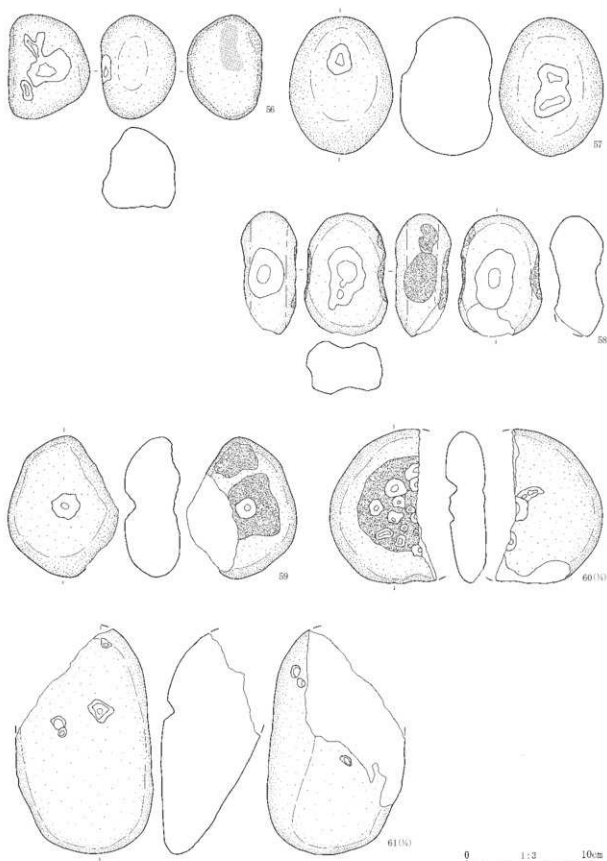


第125图 IV-3号住居出土遺物(3)

II 縄紋時代の調査

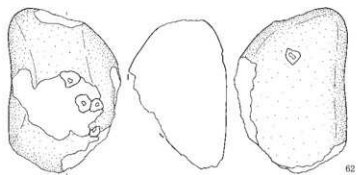


第126図 IV-3号住居出土遺物(4)

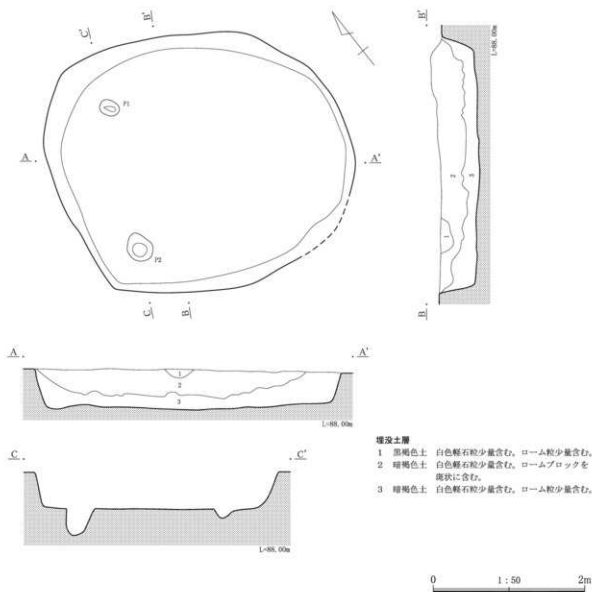


第127图 IV-3号住居出土遺物(5)

II 縄紋時代の調査



第128図 IV-3号住居出土遺物(6)



第129図 II-1号住居

● II-1号住居

位置 855、860-685、690

形状 北西-南東方向に長軸をもつ楕円形で、西半は方形状を呈す。長径4.0m×短径3.4mを測る。

床面 確認面から最大51cm掘り込んで床面を構築する。ほぼ平坦で凹凸面は認められない。

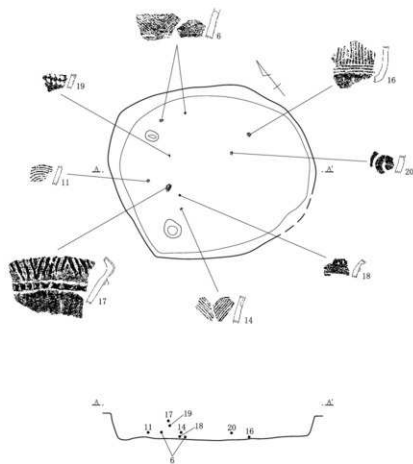
炉 検出されなかった。

柱穴 北西辺に沿って2基検出された。規模（径×深さ）はP1：26×9cm、P2：39×34cmで、P1

は浅い皿状を呈する。確認されたのはこの2基のみで、東半からは確認されていない。

遺物 十三善提式や暗ヶ峯式といった前期末業土器群が主体的に出土している。床面に近い位置のものは4、16くらいで、他はみな床面から浮いた位置である。埋没土上位から暗ヶ峯式の大形破片(17)が出土している。

時期 十三善提式期と考えられる。



第130図 II-1号住居遺物出土状況

II 縄紋時代の調査



第131図 II - 1号住居出土遺物

● II-2号住居

位置 820、825-715

形状 削平が著しく、壁の立ち上がりが残存するのは住居の南東部分のみである。そのため全体の構造は不明であるが、柱穴の配置から判断する限り、北東-南西方向に長軸をもつ楕円形状を呈すると思われる。推定で長径4.2m×短径3.8mを測る。

床面 北西半は削平されて残っていない。南部分と東部分に扁平な川原石を敷き詰めており、その間には小礫が見られる。

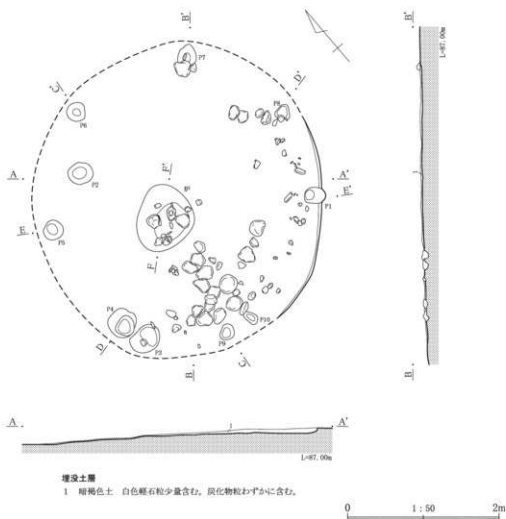
炉 中央やや南西寄りで見出された。長径90cm×短径75cm×深さ25cmの規模で、下底面に焼土粒が散在する。炉内から石囲いの痕跡と見られる礫が見出

されている。

柱穴 10基が見出された。規模(径×深さ)はP1:26×30cm、P2:33×24cm、P3:42×25cm、P4:36×20cm、P5:26×33cm、P6:24×40cm、P7:32×27cm、P8:18×25cm、P9:21×33cm、P10:22×8cm。P1の位置から判断すると壁際を巡る配置と推察される。

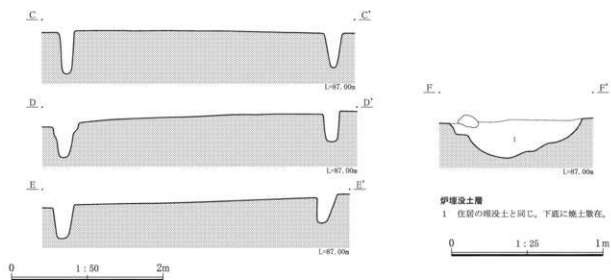
遺物 加曽利E系、称名寺I式が出土している。18、19、20、22の台石や多孔石が、敷石として見出されている。また炉内から21が割れた状態で出土した。住居廃絶に伴い、廃棄したものであろう。

時期 出土遺物は少ないが、称名寺I式期と考えられる。

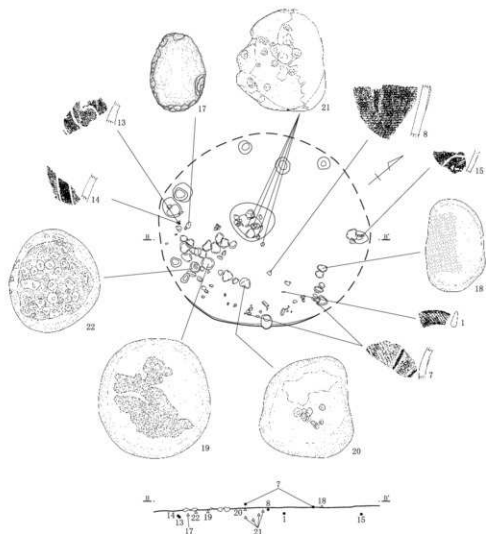


第132図 II-2号住居

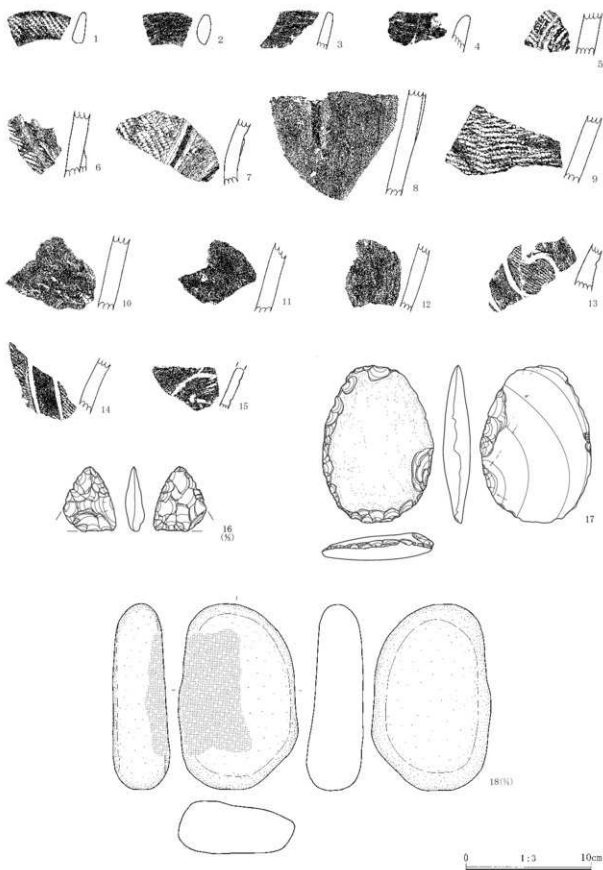
II 縄紋時代の調査



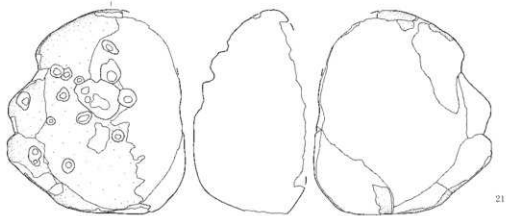
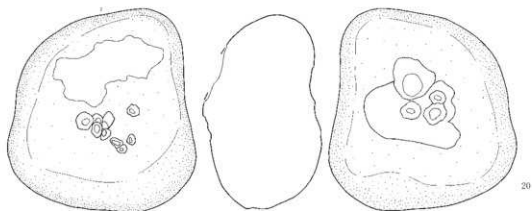
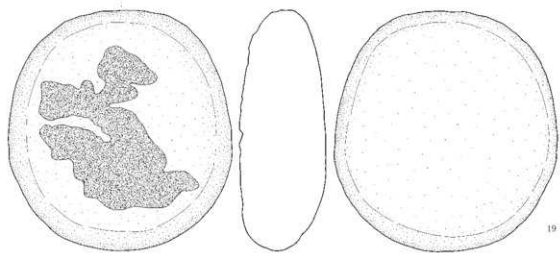
第133図 II-2号住居断面・炉



第134図 II-2号住居遺物出土状況

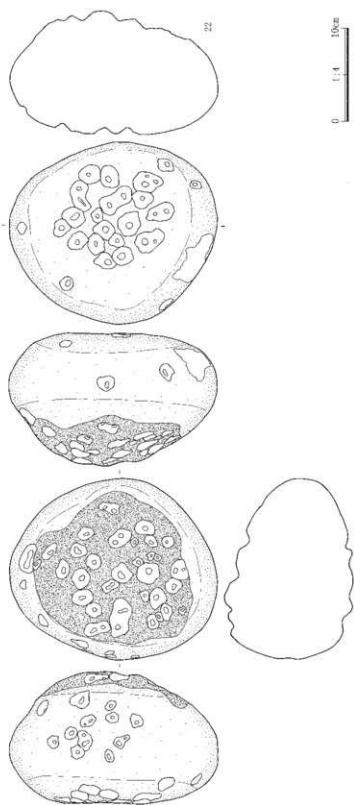


第135图 II-2号住居出土遺物(1)



0 1:4 10cm

第136図 II-2号住居出土遺物(2)



第137图 II-2号住居出土遺物(3)

●II-3号住居

位置 825, 830-730

形状 西半が攪乱により残っていないため、全体の構造は不明だが、東西に長軸をもつ楕円形状を呈すと思われる。調査した部分の最大長は3.8mを測る。

床面 確認面から最大23cm掘り込んで床面を構築し、ほぼ平坦である。南東部を除き、周縁部に扁平な川原石を敷き詰めているが、P4-P1間、P1-P2間で、それぞれ直線的に配置した意図がうかがえる。また南半部にも東西方向に帯状に川原石を敷き詰めている。一部、磨石や台石、多孔石を転用している。

炉 住居のほぼ中央で検出された。西半部は攪乱により残っていないが、最大長70cm、深さ26cmを測

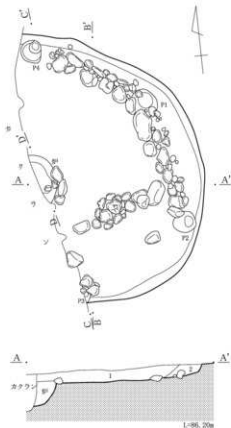
る。東縁に石囲いの礫が配置されている。底面付近から焼土粒や炭化物粒の混入が認められる。

柱穴 壁際をめぐるように4基検出された。規模(径×深さ)はP1:37×43cm、P2:31×46cm、P3:21×53cm、P4:32×41cm。

遺物 加曾利E系、称名寺I式が出土している。床面に近接した位置で、1、15がまとめて出土しており、同時に廃棄されたものと考えられよう。このことから1は後期加曾利E系と判断できよう。

礫石器の多くは敷石に転用されている(第140図)。また北壁際で、石棒が敷石の間から出土した。

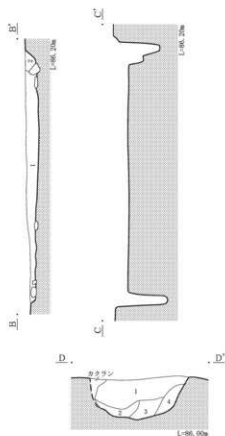
時期 称名寺I式(後期加曾利E系)期と考えられる。



埋没土層

- 1 暗褐色土 白色軽石粒わずかに含む。炭化物粒ごくわずかに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

0 1:50 2m

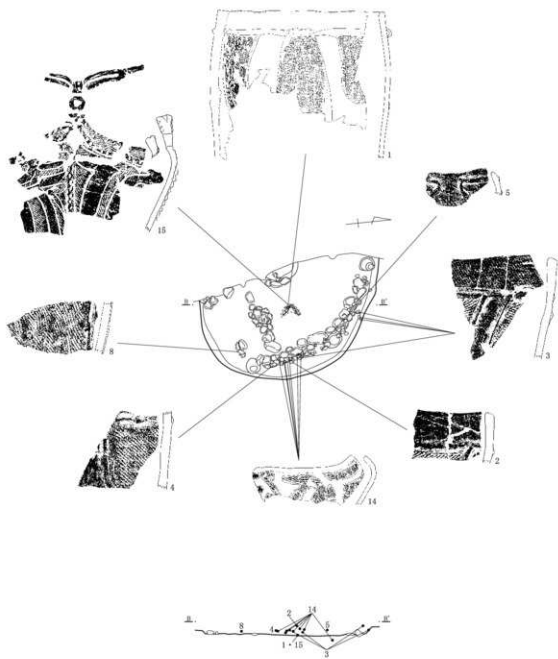


伊理段土層

- 1 暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒、炭化物粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 焼土塊わずかに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒わずかに含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

0 1:25 1m

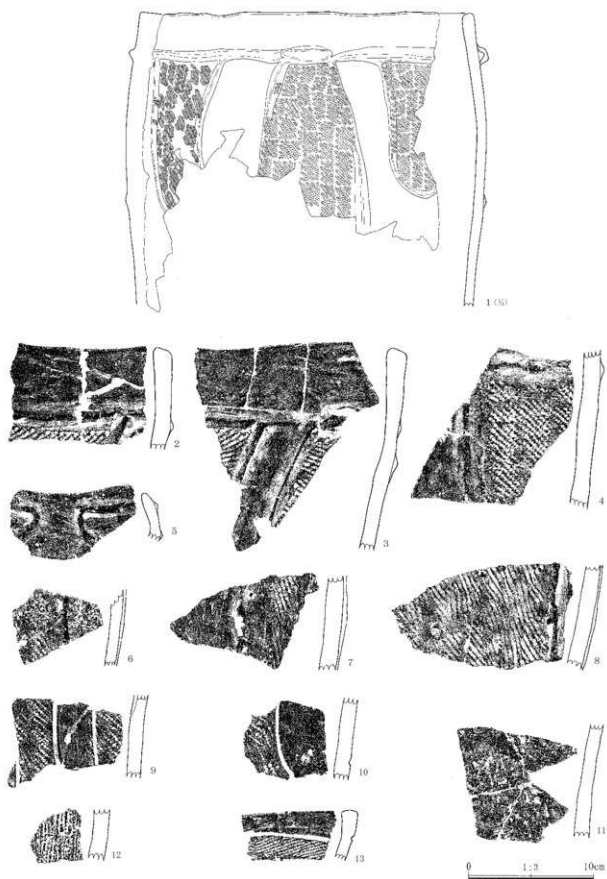
第138図 II-3号住居



第139图 II-3号住居遺物出土状況(土器)

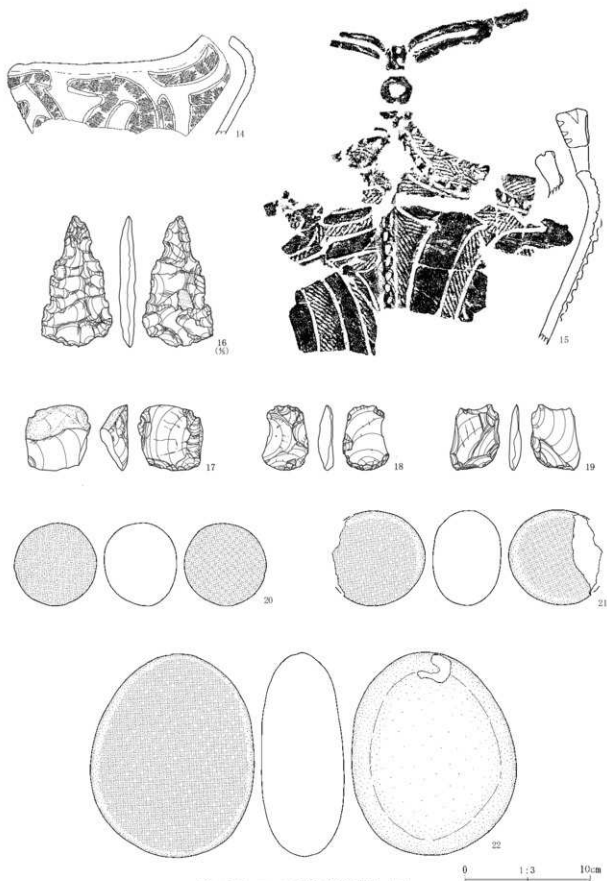


第140図 II-3号住居遺物出土状況(石器)

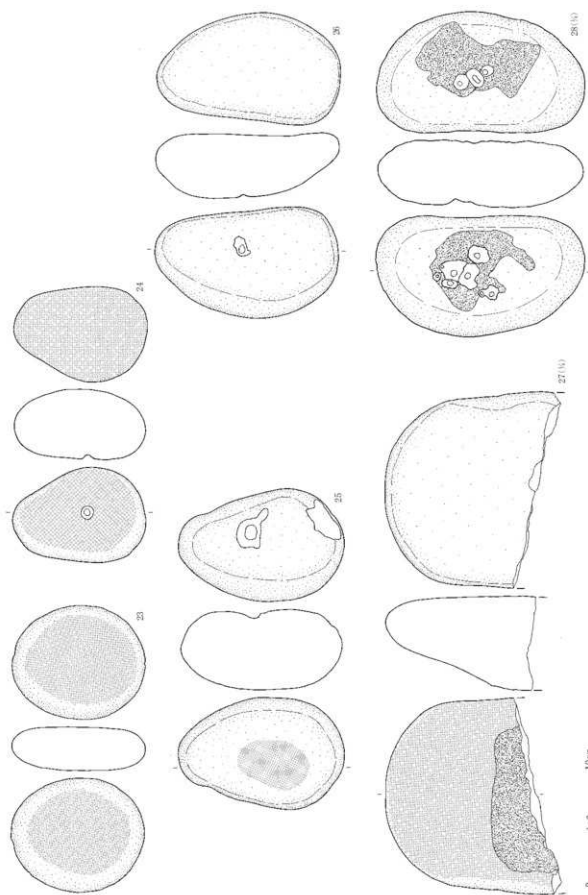


第141图 II-3号住居出土遺物(1)

II 縄紋時代の調査

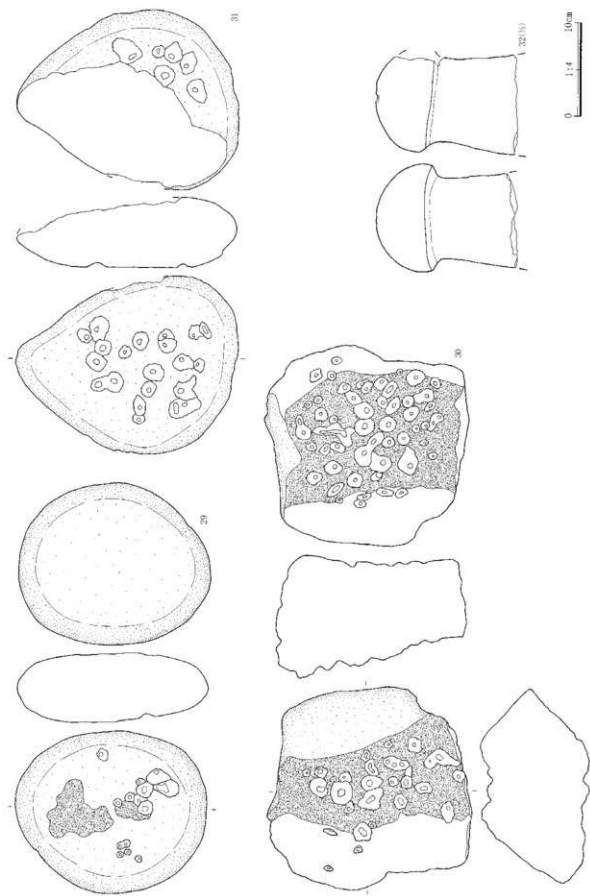


第142図 II-3号住居出土遺物(2)



第143図 Ⅱ-3号住居出土遺物(3)

1:3 10cm



第144図 II-3号住居出土遺物(4)

住居出土遺物観察表

I-4号住居 土器				紋様の特徴等	備考
番号	器種 出土位置	①胎土色 ②胎土色 ③色	①胎土色 ②胎土色 ③色		
1	深鉢 口一側 1号埋菜 伊体土器	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	①細砂多 ②ふつう ③にふい橙	推定口径33.5cm。頭部ですばまり、口縁に向かって外反する器形。単節R L縄紋を横位、斜位に施紋する。	前期後半 Ⅲ-7住と接合 講議c式
2	深鉢 側部 2号埋菜 伊体土器	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	胴部下平の部位。縦位集合沈線とX字状の集合沈線を施す。全面に貼付紋を貼付する。	下筒式 Ⅲ-7住と接合
3	深鉢 胴部 3号埋菜 伊体土器	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	口縁に向かって横やかに開く器形。横位2条の結節浮線をめぐるせて紋帯を区画。口縁部紋帯には結節浮線により渦巻紋を描く。胴部紋帯には波状の結節浮線で縦位区画し、区画内にはレンズ状やV字状のモチーフを描く。モチーフの間隙に小さめのギンタ状貼付紋を貼付。地紋に横位集合沈線を施す。	下筒式 Ⅲ-7住と接合
4	深鉢 胴部 4号埋菜 伊体土器	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	頭部で屈曲する器形。頭部のくびれ部に横位集合沈線、張り出し部には斜交列と貼付紋を施す。胴部紋帯には縦位、X字状、縦面状の集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講議c式
5	深鉢 口縁部 86.67m	①細砂多 ②良好 ③橙	①細砂多 ②良好 ③橙	推定口径17.6cm。頭部で緩く屈曲する器形。口縁部紋帯は横位集合沈線と貼付紋を施す。胴部紋帯は集合沈線によって縦位分割し、レンズ状の中にX字状モチーフを描く。屈曲部下に横位2段の貼付紋とレンズ状内面に貼付紋を貼付する。	講議c式 Ⅲ-7住と接合
6	深鉢 口縁一側部 86.84 ~ 86.99m	①細砂多 ②ふつう ③にふい赤褐	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	頭部で屈曲する器形。口縁部紋帯には横位集合沈線と貼付紋、屈曲部付近まで垂下する棒状貼付紋を施す。胴部紋帯には斜位の集合沈線と貼付紋を施す。口縁内面にも斜位の集合沈線と貼付紋を施す。やや乱雑な施紋。	講議c式
7	深鉢 底部 86.74m	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	①細砂多 ②ふつう ③明赤褐	底径13.9cm。底部が張り出す器形。集合沈線により、X字状、レンズ状のモチーフを描く。	下筒式 PS1内
8	深鉢 底部 86.79m	①細砂多 ②ふつう ③明赤褐	①細砂多 ②ふつう ③明赤褐	底径13.2cm。底部が張り出す器形。平行沈線による横位縦面状紋を重畳させる。	下筒式
9	深鉢 口一底 86.80m	①細砂少 ②ふつう ③にふい赤褐	①細砂少 ②ふつう ③にふい赤褐	推定口径18.3cm。底径1.6cm。底部から直線的に立ち上る器形。口縁下から底部まで、間隔を空けて縦位にロッキングを施す。	浮筒式
10	深鉢 口縁一側部 86.82 ~ 86.83m	①細砂少 ②良好 ③にふい赤褐	①細砂少 ②良好 ③にふい赤褐	平行沈線による横位多段構成で、横帯内に横位縦面状や連弧状モチーフを施し、半枝竹管内皮による斜交列を施す。口縁下に決るような斜交列をめぐるせて、口唇部には刻みを付す。	浮筒式 Ⅲ-7住と接合
11	深鉢 埋没土中 口縁部	①細砂少 ②良好 ③にふい橙	①細砂少 ②良好 ③にふい橙	推定口径30.0cm。頭部ですばまり、口縁に向かって外反する器形。ロッキングを施し、沈線で楕円状に区画する。口唇部に波状の隆線を貼付。内面研磨。	興洋式 Ⅲ-7住、Ⅲ-11土と接合
12	深鉢 口縁部 86.77 ~ 86.99m	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄褐	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄褐	推定口径33.0cm。頭部ですばまり、口縁に向かって外反する器形。平行沈線により横位区画を2帯つくり、口縁部には縦位斜交沈線、頭部区画には半枝竹管の斜交列を2条めぐるす。頭部以下は単節L R、R Lの結節縄紋を横位施紋。内面研磨。	興洋式 Ⅲ-7住、Ⅱ-329土と接合
13	深鉢 口縁部 86.84 ~ 86.98m	①細砂多 ②ふつう ③橙	①細砂多 ②ふつう ③橙	胴部が膨らむ器形。単節R Lの結節縄紋を横位施紋する。	前期後半
14	深鉢 埋没土中 胴部	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	単節R L縄紋を施紋とし、横位集合沈線を施す。	講議b式
15	深鉢 埋没土中 口縁部	①細砂少 ②良好 ③にふい橙	①細砂少 ②良好 ③にふい橙	波状口縁の突起部。口縁内折。口縁に沿って集合沈線を施す。突起部周囲には矢羽根状の集合沈線を施す。	講議c式
16	深鉢 埋没土中 口縁部	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	口縁部端と口縁部に刻みを付した隆線を2条めぐるせて、横位集合沈線を施す。内面研磨。	講議c式
17	深鉢 埋没土中 口縁部	①結晶片岩 ②ふつう ③赤褐	①結晶片岩 ②ふつう ③赤褐	横位集合沈線と縦位貼付紋を施す。口縁部に刻みを付す。	講議c式
18	深鉢 埋没土中 口縁部	①細砂多 ②ふつう ③黒褐	①細砂多 ②ふつう ③黒褐	やや外反する器形。横位平行沈線で幅状口縁部紋帯を区画し、紋帯内には横位集合沈線を部分的に施す。胴部紋帯は集合沈線でレンズ状のモチーフを描く。地紋に単節R L縄紋を施紋。	講議c式
19	深鉢 埋没土中 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明黄褐	①細砂少 ②ふつう ③明黄褐	外反する器形。上端に口縁部と胴部紋帯を両方集合沈線が確認できる。胴部紋帯はレンズ状にX字状と矢羽根状の集合沈線を描く。地紋に単節L R縄紋を施紋。内面研磨。	講議c式
20	深鉢 埋没土中 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	縦位レンズ状、弧状の沈線を施す。	講議c式
21	深鉢 埋没土中 口縁部	①細砂多 ②ふつう ③黄橙	①細砂多 ②ふつう ③黄橙	矢羽根状集合沈線を扶む集合沈線で縦位区画し、区画内は斜位の集合沈線を施す。	講議c式
22	深鉢 埋没土中 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	横位集合沈線を施した後に斜位の集合沈線を施し、棒状貼付紋を貼付。口縁部に突起を付す。口縁内面を肥厚させ、斜位沈線と貼付紋を施す。	講議c式
23	深鉢 埋没土中 口縁部	①細砂多 ②良好 ③にふい橙	①細砂多 ②良好 ③にふい橙	横位沈線と貼付紋を施す。口唇部に突起を付す。口縁内面を肥厚させ、斜位沈線と貼付紋を施す。	講議c式
24	深鉢 埋没土中 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	横位沈線による紋帯区画が見られる。集合沈線によって縦位区画し、区画内は弧状の集合沈線が施される。縦位集合沈線に貼付。	講議c式
25	深鉢 P 8内	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄褐	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄褐	縦位集合沈線と斜位の集合沈線、貼付紋を施す。	講議c式

II 縄紋時代の調査

I-4号住居 土器		紋様の特徴等		備考	
番号	器種 出土位置	①胎土②地色③色調	紋様の特徴等	備考	
26	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③黒褐	斜位の集合沈線と貼付紋を施す。	講義c式	
27	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③黒	縦位、斜位の集合沈線と2個一對の貼付紋を施す。	講義c式	
28	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③にふい貴僧	平行沈線を格子目状に施し、貼付紋を貼付する。	講義c式	
29	深鉢 埋没土中 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	小波状の口縁部で、液滴部が内湾するようである。曲線状の赤線を斜位に施す。	講義c式	
30	深鉢 86.81～ 86.89m 口縁部	①細礫多 ②ふつう ③黒褐	直線的に立ち上がる器形で、口唇部が短く外反する。平行沈線を斜格子目状に施し、貼付紋を貼付する。	講義c式	
31	深鉢 87.02～ 87.07m 口縁部	①細礫少 ②真好 ③赤褐	口縁部を外側に折り返して段をつけた痕跡が見られる。集合沈線を縦位面曲状に施し、貼付紋を貼付する。	講義c式	
32	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③にふい貴僧	斜位の集合沈線を施す。	講義c式	
33	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③黒褐	斜位、弧状の集合沈線を施す。やや乱雑な施紋である。	講義c式	
34	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③黒褐	縦位、斜位の集合沈線を施す。	講義c式	
35	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③暗赤褐	斜位の集合沈線を施す。縦位面曲状になるようだが、やや乱雑な施紋である。	講義c式	
36	深鉢 埋没土中 口縁部	①細礫少 ②ふつう ③にふい赤褐	単筋R1横線を横位施した後、棒状貼付紋を貼付する。口縁内面を肥厚させ、R1横紋と貼付を施す。	講義c式	
37	深鉢 埋没土中 胴部	87.04m	N36と同一個体。胴部上半の屈曲する部位にあたる。R1横位施紋と貼付を施す。	講義c式	
38	深鉢 埋没土中 胴部	87.21m	①細礫少 ②ふつう ③黒	無紋地に2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。	講義c式
39	深鉢 埋没土中 口縁部	①細礫少 ②ふつう ③黒	貼付紋の部位。正面、側面とも結節沈線を施す。	講義c式	
40	深鉢 埋没土中 口縁部	①細礫多 ②ふつう ③黒	内湾する器形。高さのある結節浮線を口縁に沿って3条施す。	講義c式	
41	深鉢 埋没土中 口縁部	①細礫少 ②ふつう ③にふい貴僧	集合沈線と結節沈線により縦位区画し、区画内に結節沈線によりレンズ状のモチーフを描く。	講義c式?	
42	深鉢 埋没土中 口縁部	①細礫少 ②ふつう ③赤褐	集合沈線を斜位に施し、高さのある結節浮線を口縁に沿って1条横位に、その下は斜位に貼付する。口唇部には、中央に刺突を加えた短隆線を貼付する。	下鳥式?	
43	深鉢 埋没土中 胴部	86.89m	①細礫少 ②ふつう ③暗赤褐	集合沈線を横位、斜位に施し、結節浮線を縦位、斜位に貼付する。	下鳥式
44	深鉢 埋没土中 口縁部	①細礫少 ②真好 ③にふい貴僧	集合沈線を斜位に施し、結節浮線を縦位に貼付する。	下鳥式	
45	深鉢 埋没土中 口縁部	①細礫少 ②真好 ③黒褐	波状口縁でやや外反する。地紋に横位、斜位の集合沈線を施し、口縁に沿って3条、縦位に4条のへう切り浮線を貼付する。2個一對の貼付紋を施す。	下鳥式	
46	深鉢 埋没土中 胴部	87.06m	①細礫少 ②真好 ③にふい貴僧	集合沈線を横位、斜位に施し、4条1単位のへう切り浮線を縦位に貼付する。2個一對の貼付紋を施す。	下鳥式
47	深鉢 埋没土中 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐	結節浮線を横位、レンズ状、弧状に施す。2個一對の貼付紋を施す。内面研磨。	下鳥式	
48	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②真好 ③赤褐	横位集合沈線を施し、結節浮線により渦巻紋を施す。	下鳥式	
49	深鉢 埋没土中 胴部	86.88m	①細礫多 ②ふつう ③貴僧	横位2条の結節浮線で紋様帯を区画。上下ともに結節浮線により渦巻モチーフを施す。地紋横位集合沈線。	下鳥式
50	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②真好 ③赤褐	集合沈線を横位に施し、結節浮線により左右対称の渦巻紋を描く。	下鳥式	
51	深鉢 埋没土中 胴部	①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐	胴部で外側に屈曲する器形を呈し、屈曲部に2条の結節浮線をめぐらせて口縁部と胴部の紋様帯を区画する。口縁部、胴部紋様帯ともに結節浮線により渦巻紋が描かれると思われる。地紋横位集合沈線、内面研磨。	下鳥式	
52	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③黒褐	2条の平行沈線を横位にめぐらせて紋様帯を区画。上下ともに集合沈線による同心円状のモチーフを描く。	十三善提式	
53	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③黒	集合沈線により、一部途切れて連結するような同心円状のモチーフを描く。	十三善提式	
54	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫少 ②ふつう ③黒	斜位、弧状の集合沈線を施す。	十三善提式	
55	深鉢 埋没土中 底部	86.94m	①細礫多 ②ふつう ③にふい貴僧	底部が張り出す器形。球胴形の可能性が高い。横位集合沈線で区画し、区画内は横位面曲状の集合沈線を施す。沈線間の三角形区画に印刻を施す。	十三善提式
56	深鉢 埋没土中 胴部	①細礫多、結晶片若 ②ふつう ③明赤褐	結節凹線に類似する施紋技法の結節沈線により、左右対称の渦巻モチーフを描く。	暗々茶式	

I-4号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②地色③色調	紋様の特徴等	備考
57	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③青	斜位のロッキングを施す。内面研磨。	浮島式
58	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③にふい塵	斜位のロッキングを施す。内外面研磨。	浮島式
59	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	外反する器形。口縁部に横位集合沈線帯を施し、紋様帯内は斜位の沈線が確認できる。口唇部に刻みを付す。内面研磨。	興津式
60	深鉢 胴部	埋設土中		No59と同一個体。胴部ですばまり外反する部位。集合沈線を斜位に施す。内面研磨。	興津式
61	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③にふい塵	直線的に立ち上がる器形。8単位ほどの間隔で、口縁部が部分的に内湾する。口縁部に半截竹管の刺突列を4条めぐらせ、以下は無紋となる。口縁端部に刻みを付す。	興津式 Ⅲ-105、109土
62	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③にふい塵	爪形状刺突を多段に施す。	興津式
63	深鉢 口縁部	86.79m	①細砂少 ②ふつ ③にふい塵	口縁下に2条の負押状刺突をめぐらせ、以下は単節LR縄紋を横位施紋する。	興津式
64	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③明赤釉	平円形の刺突を多段に施す。横から挟むように施すため、粘土がめくれあがっている。	興津式
65	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③赤釉	縄紋主体圧痕を口縁に沿って1条、さらにその下に2条施し、間に斜位に充填施紋する。口唇部にも縄紋主体圧痕を深く押捺する。	興津式
66	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③にふい塵	やや外反する器形。波状口縁の波頂部に刺突を施す。波頂下に円形の隆線を貼付する。	興津式?
67	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③にふい塵	単節LR縄紋を横位施紋し、貼付紋と波状素浮線を貼付する。口唇直下に半截竹管内皮による刺突をめぐらす。	大木5式
68	深鉢 胴部	86.80m		No67と同一個体。	大木5式
69	深鉢 胴部	埋設土中		No67と同一個体。	大木5式
70	深鉢 胴部	86.91～ 86.94m	①細砂少 ②良好 ③明赤釉	強く外反する器形。上位に横位集合沈線帯、下位に縦位、斜位の集合沈線帯を施し、波状素浮線を貼付する。横位集合沈線帯に縦位の結節沈線が2条認められる。	大木5式
71	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③にふい塵	頂部で大きく屈曲し、口縁部が外側に開く器形。おそらく球胴形の器形と思われる。太沈線をクランク状に重畳する。	大木6式
72	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少、金雲母 ②良好 ③青	平行沈線で楕円状に区画し、内部を平行沈線で充填する。中央に三角形の印刻を施す。	前期末～中期初
73	浅鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少、金雲母 ②良好 ③赤釉	口縁部の屈曲は明瞭ではなく、強く外反するといったほうが適当である。外反する転換部に円孔を穿つ。外面研磨。	前期後半
74	浅鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③赤釉	肩の部位。段をもたずにU字状に折り返す。外面研磨。	前期後半
75	浅鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③にふい塵	肩直下の部位。外面研磨。	前期後半
76	浅鉢 胴部	埋設土中	①細砂少、金雲母 ②ふつ ③赤釉	肩より下の部位。段を有する。	前期後半
77	深鉢	86.95～ 87.15m	①細砂少 ②ふつ ③青	折り返し状口縁で、口縁外面を肥厚させる。肥厚部下から単節LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
78	深鉢 口縁部	87.00m	①細砂多 ②ふつ ③にふい塵	折り返し状口縁で、口縁外面を肥厚させる。単節LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
79	深鉢 胴部	86.70m	①細砂多 ②良好 ③にふい塵	単節LR、LRの結束羽状縄紋を施す。途中で向きを変えて施し、菱形の効果を出している。	前期後半
80	深鉢 胴部	87.12m	①細砂少 ②ふつ ③明赤釉	外側に湾曲する器形。単節LR、LRの結束羽状縄紋を施す。部分的に向きを転載させる。	前期後半
81	深鉢 胴部	86.92～ 87.04m	①細砂少 ②ふつ ③にふい塵	無紋。縦位の擦痕が認められる。	前期後半
82	深鉢 胴部	86.97～ 87.00m	①細砂少 ②ふつ ③赤釉	無紋。内外面とも器面調整は丸雑で、凹凸が顕著である。	前期後半
83	深鉢 底部	86.84～ 86.86m	①細砂多②やや不良 ③明赤釉	底部が張り出す器形。横位平行沈線を乱雑に施紋。底径14.4cm。	隣鏡c式
84	深鉢 底部	86.83m	①細砂少②やや不良 ③明赤釉	無紋。底径11.7cm。	前期後半
85	深鉢 底部	埋設土中	①細砂少 ②ふつ ③明赤釉	やや底部が張り出す器形。無紋。外面研磨。	前期後半 Ⅲ-7住と接合

II 縄紋時代の調査

I-4号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量(mm.g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm.g)	石材	備考
86	石蔵	埋没土中	長 11.8 幅 11.8 厚 2.2 重 0.2	黒曜石		87	石蔵	86.76m	長 13.1 幅 12.5 厚 2.5 重 0.3	黒曜石	諏訪産
88	石蔵	埋没土中	長 16.5 幅 13.6 厚 3.5 重 0.5	黒曜石	諏訪産	89	石蔵	埋没土中	長 18.0 幅 11.8 厚 4.1 重 0.7	黒曜石	
90	石蔵	86.96m	長 18.3 幅 14.6 厚 2.8 重 0.5	黒曜石	諏訪産	91	石蔵	86.54m	長 19.7 幅 17.9 厚 3.1 重 0.7	黒曜石	諏訪産 P45内
92	石蔵	86.64m	長 21.3 幅 17.6 厚 2.8 重 0.7	黒曜石	諏訪産 P45内	93	石蔵	埋没土中	長 23.9 幅 20.0 厚 6.4 重 2.5	黒曜石	諏訪産
94	石蔵	P 4内	長 24.5 幅 14.6 厚 4.9 重 1.8	黒曜石	諏訪産	95	石蔵	86.97m	長 24.5 幅 20.2 厚 3.3 重 0.9	チャート	
96	石蔵	埋没土中	長 23.3 幅 20.1 厚 5.7 重 1.9	チャート	未製品	97	石蔵	埋没土中	長 21.8 幅 22.4 厚 7.2 重 2.5	黒曜石	諏訪産 未製品
98	石蔵	埋没土中	長 27.0 幅 18.0 厚 4.9 重 2.2	黒曜石	諏訪産 未製品	99	模形石器	埋没土中	長 18.9 幅 31.2 厚 9.4 重 2.6	黒曜石	
100	模形石器	埋没土中	長 37.3 幅 42.6 厚 13.9 重 16.9	チャート		101	石蔵	86.95m	長 43.2 幅 20.0 厚 13.2 重 5.3	黒曜石	
102	石蔵	埋没土中	長 30.5 幅 7.5 厚 6.3 重 1.1	黒曜石		103	スクレイパー	86.77m	長 13.1 幅 48.1 厚 7.1 重 16.0	黒色頁岩	
104	スクレイパー	埋没土中	長 42.1 幅 58.5 厚 8.0 重 22.5	黒色頁岩		105	スクレイパー	埋没土中	長 47.3 幅 64.4 厚 9.1 重 29.8	黒色頁岩	
106	スクレイパー	P54内	長 53.1 幅 76.4 厚 13.0 重 62.1	黒色頁岩		107	スクレイパー	埋没土中	長 58.7 幅 50.3 厚 7.0 重 25.7	黒色頁岩	
108	スクレイパー	埋没土中	長 53.8 幅 77.6 厚 17.7 重 64.4	黒色頁岩		109	スクレイパー	埋没土中	長 39.6 幅 46.0 厚 13.3 重 17.3	黒色頁岩	
110	スクレイパー	埋没土中	長 74.7 幅 43.3 厚 13.1 重 45.5	黒色頁岩		111	スクレイパー	86.81m	長 96.1 幅 43.3 厚 14.3 重 50.2	黒色頁岩	
112	スクレイパー	86.87m	長 118.7 幅 78.0 厚 17.6 重 164.2	黒色頁岩		113	スクレイパー	埋没土中	長 71.6 幅 62.4 厚 23.6 重 92.0	黒色頁岩	
114	打製石斧	P 8内	長 53.6 幅 34.1 厚 17.8 重 37.5	ホルンフェルス		115	打製石斧	P 8内	長 44.7 幅 56.3 厚 13.4 重 42.3	黒色頁岩	
116	打製石斧	86.96m	長 68.7 幅 43.8 厚 19.0 重 58.5	黒色頁岩		117	打製石斧	埋没土中	長 80.3 幅 49.9 厚 21.4 重 115.1	黒色頁岩	
118	打製石斧	埋没土中	長 78.5 幅 66.7 厚 19.4 重 124.9	黒色頁岩		119	打製石斧	86.95m	長 111.2 幅 64.6 厚 10.6 重 83.3	ホルンフェルス	
120	打製石斧	埋没土中	長 114.9 幅 79.0 厚 43.8 重 347.6	黒色頁岩		121	打製石斧	86.99m	長 88.9 幅 74.5 厚 42.9 重 310.5	黒色頁岩	
122	石核	埋没土中	長 35.9 幅 29.6 厚 18.8 重 18.3	チャート		123	石核	埋没土中	長 18.8 幅 18.2 厚 11.9 重 3.5	黒曜石	諏訪産
124	石核	埋没土中	長 18.1 幅 31.5 厚 11.4 重 5.4	黒曜石	諏訪産	125	石核	86.74m	長 27.0 幅 29.6 厚 12.6 重 7.8	黒曜石	諏訪産
126	卑石	埋没土中	長 25.1 幅 13.6 厚 12.9 重 2.4	黒曜石	諏訪産	127	卑石	埋没土中	長 35.0 幅 22.2 厚 16.5 重 15.3	チャート	
128	砥石	86.85m	長 58 幅 47 厚 9 重 24	牛伏砂岩		129	砥石	86.85m	長 54 幅 46 厚 16 重 49.7	牛伏砂岩	
130	磨石	86.63m	長 86 幅 79 厚 19 重 190	粗粒輝石 安山岩		131	磨石	86.99m	長 120 幅 69 厚 45 重 599	ひん岩	
132	磨・凹石	86.87m	長 100 幅 72 厚 46 重 494	粗粒輝石 安山岩		133	磨・凹石	86.94m	長 89 幅 86 厚 46 重 487	粗粒輝石 安山岩	
134	磨・凹石	埋没土中	長 106 幅 94 厚 50 重 560	粗粒輝石 安山岩		135	凹石	86.55m	長 100 幅 74 厚 36 重 404	粗粒輝石 安山岩	P 43内
136	台石	86.97m	長 158 幅 120 厚 76 重 1565	粗粒輝石 安山岩		137	石皿 多孔石	86.51m	長 180 幅 172 厚 92 重 2260	粗粒輝石 安山岩	P 9内
138	台石	86.54m	長 155 幅 145 厚 82 重 2445	粗粒輝石 安山岩	P 66内	139	台石 多孔石	86.78m	長 239 幅 224 厚 114 重 6910	粗粒輝石 安山岩	

Ⅱ-1号住居 土器				紋様の特徴等	備考
番号	器種	出土位置	①胎土②地色③色調		
1	深鉢 口縁部	床直 ～10cm	①細粒少 ②ふつう ③にふい塵	口径51.0cm。外側に開く器形で、胴部に屈曲をもつ。口縁部紋様帯には横位集合沈線と貼付紋を施す。胴部の張り出し部には縦交列をめぐらせ、貼付紋を貼付。胴部紋様帯は集合沈線による縦位区画と、斜位の集合沈線、ボタン状貼付紋を施す。口縁内面を肥厚させ、平行沈線と貼付紋を施す。口唇部には、おそく4単位に大振りな突起を付し、その間に等間隔に縦長の貼付紋とボタン状貼付紋を施す。	講義c式
2	深鉢 胴部	床上16cm	①白色粒少 ②良好 ③赤褐色	集合沈線による横帯構成。地紋に単節R1、L1Rの結束羽状縄紋を施す。	講義b式 Ⅱ-31土と接合
3	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③明赤褐色	集合沈線による横帯構成。沈線間に斜位の集合沈線を施す。内面研磨。	講義b式
4	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい塵	集合沈線による横帯構成。	講義b式
5	深鉢 胴部	床上7cm	①細粒少 ②ふつう ③暗赤褐色	横位に集合沈線を施す。	講義b式
6	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい塵	集合沈線による横帯構成。沈線間に平行沈線によるX字状、顕面状のモチーフを描く。	講義b式
7	深鉢 胴部	床上6cm	①細粒少 ②ふつう ③暗赤褐色	内側に屈曲する部位。横位集合沈線を施す。	講義b式
8	深鉢 底部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③赤褐色	底径7.2cm。横位帯状に集合沈線を施す。	講義b式
9	深鉢 底部	床上11cm	①細粒少 ②ふつう ③にふい塵	底部から外反して外側に開く器形。集合沈線による横帯構成。沈線間に矢羽根状集合沈線を施す。	講義b式
10	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③明赤褐色	波状口縁。波頂部に向向する挟り込みを入れ、内湾させる。横位集合沈線で幅狭な口縁部紋様帯を区画。矢羽根状集合沈線を充填施紋し、貼付紋を貼付する。胴部紋様帯には縦位区画、レンズ状、斜位の集合沈線を施す。	講義c式
11	深鉢 口縁部	床上5cm	①細粒少 ②良好 ③にふい塵	波状口縁の突起の部位。外面は口縁に沿って弧状に集合沈線を施す。内面は口縁に沿って平直竹管の刺突を施し、集合沈線を施す。	講義c式
12	深鉢 胴部	床上18cm	①細粒少 ②良好 ③塵	斜位に集合沈線を施す。レンズ状区画と区画内の部位と思われる。	講義c式
13	深鉢 胴部	床直	①細粒少 ②ふつう ③黒褐色	集合沈線で縦位区画し、区画内に斜位、レンズ状に集合沈線を施す。	講義c式
14	深鉢 胴部	床上11cm	①細粒少 ②ふつう ③塵	斜位、レンズ状に集合沈線を施す。地紋に単節R1縄紋を施す。	講義c式
15	深鉢 胴部	床上5cm	①細粒少 ②ふつう ③黒褐色	外反する器形。集合沈線により縦位区画。区画内をさらにレンズ状に区画し、顕面状集合沈線を充填施紋する。内面研磨。	講義c式
16	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③塵	集合沈線により縦位区画。区画内をさらにレンズ状に区画し、矢羽根状集合沈線を充填施紋する。	講義c式
17	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③にふい塵	集合沈線により縦位区画し、区画内は平行沈線による斜格子目紋を施す。	講義c式
18	深鉢 胴部	床上13cm	①細粒少 ②ふつう ③にふい塵	集合沈線を横位、斜位に施す。内面研磨。	講義c式
19	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい塵	底部に近い部位で内湾する器形。胴部紋様帯下端を横位帯が確認できる。縦位区画と斜位の集合沈線を施す。地紋に単節R1縄紋を施す。	講義c式
20	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③帯	底部に近い部位で内湾する器形。底部付近に横位集合沈線を施して胴部紋様帯下端を区画。胴部紋様帯にはレンズ状の集合沈線を施す。	講義c式
21	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい塵	大きく外反する器形。横位集合沈線と貼付紋を施す。	講義c式
22	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい塵	欠損のため判然としないが、口縁が内折するあるいは屈曲する部位と思われる。斜位の集合沈線と貼付紋を施す。	講義c式
23	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③暗赤褐色	口縁部と胴部の紋様帯を横位帯を施し、区画状上に貼付紋を貼付する。胴部にはレンズ状モチーフに斜位の集合沈線を充填する。	講義c式
24	深鉢 底部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③明赤褐色	推定底径9.3cm。顕面状の集合沈線と貼付紋を施す。底部付近に平行沈線を2条横位に短く施す。	講義c式
25	深鉢 底部	床上15cm	①細粒少 ②ふつう ③にふい塵	底部が張り出す器形。推定底径9.7cm。横位集合沈線を施した上から顕面状の集合沈線を施す。ボタン状貼付紋を貼付する。	講義c式
26	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐色	斜位に集合沈線を施す。縦位顕面状になるとと思われる。	講義c式
27	深鉢 口縁部	床上12cm	①細粒少 ②良好 ③明赤褐色	斜位に集合沈線を施す。縦位顕面状になるとと思われる。内面研磨。	講義c式
28	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③にふい塵	大振りな波状口縁で、やや外反する。紋様帯内は集合沈線により左右対称の渦巻紋を施すが、右側の渦巻紋は結節沈線で描く。渦巻紋と波頂部との空間には平行沈線でレンズ状紋を描き、さらに脇の空間には弧状の平行沈線を施す。	下島式
29	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③塵	横位集合沈線を施し、結節浮線を弧状、くの字状に施す。	下島式

II 縄紋時代の調査

■-1号住居 土器				紋様の特徴等		備考
番号	器種	出土位置	①胎土②地色③色調			
30	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③白	横位平行沈線により区画し、沈線間に横位歯状の集合沈線を施す。		十三善提式
31	深鉢 底部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	推定直径6.9cm。やや底部が張り出す器形。底部付近に平行沈線を2条めぐらせて区画。紋様帯内はV字状に平行沈線を施し、貝殻縦線紋を沈線に直交させて充填押捺する。		十三善提式?
32	深鉢 胴部	床直	①細砂少 ②良好 ③赤褐	施紋にR L縄紋を施し、横位、弧状の集合沈線を施す。内面研磨。		浮島式
33	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③暗赤褐	沈線を横位に施す。内面研磨。		浮島・興津系
34	深鉢 胴部	床上16cm	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	細く浅い沈線を斜格子目状に施す。施紋の後に部分的に縦位に磨きがかけられるため、沈線が途切れている。内面研磨。		浮島・興津系
35	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	細く浅い沈線を斜位に施す。部分的に交差する。内面研磨。		浮島・興津系
36	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐	横位のロッピングを施す。		浮島式
37	深鉢 胴部	床直	①細砂多、石英 ②ふつう ③暗赤褐	アナタラ風の貝殻背圧痕を横位に施す。		浮島・興津系
38	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	貝殻縦線紋と貝殻条痕を施し、沈線で帯状区画して幾何学模モチーフを拡く。内面研磨。		興津式
39	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂多 ②ふつう ③赤褐	2個1単位の刺突列を横位多段にめぐらす。		興津式
40	深鉢 口縁部	埋没土中	①白色粒少 ②良好 ③にふい塵	口唇外面に刷みを付す。口縁部に刺突列をめぐらせ、平行沈線を施す。		興津式
41	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	矢頭状の口唇部。口唇直下に半軌竹管の押捺による刷みを付す。以下、横位平行沈線と刺突列を交互に配す。括るように刺突を施すため、粘土が盛り上がっている。内面研磨。		興津式
42	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	口唇直下に半軌竹管の押捺による縦位の刷みを付す。口縁部に半軌竹管の刺突列をめぐらせ、以下は沈線が施されるようであるが判然としない。内面研磨。		興津式
43	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	小波状の口縁。胴部上位に2条の沈線をめぐらせて紋様帯を区画し、紋様帯内は歯状の沈線を施す。		興津式?
44	深鉢 口縁部	床直	①細砂少 ②ふつう ③塵	推定口径14.4cm。直立する器形。口縁部を外側に2段階り高。無紋。		浮島・興津系
45	深鉢 口縁部	床上2cm	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	単筋L L縄紋を横位施紋。口唇部に波状の隆線を貼付し、その上にも縄紋を施す。地修孔は貫通せず。内面研磨。		大木5式or 興津式
46	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③黒褐	単筋R L縄紋を横位施紋する。		前期後半
47	深鉢 胴部	床直	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	後筋R L R縄紋を横位施紋する。		前期後半
48	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐	小波状の口縁。波頂部が内湾するようである。無紋。		前期後半

■-1号住居 石器

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
49	石鏃	埋没土中	長 20.1 幅 17.5 厚 3.1 重 0.7	黒曜石	諏訪産	50	石鏃	埋没土中	長 21.3 幅 13.6 厚 4.9 重 1.1	チャート	
51	楔形石斧	床直	長 21.0 幅 31.3 厚 11.8 重 5.7	黒曜石		52	楔形石斧	埋没土中	長 35.1 幅 30.1 厚 10.9 重 10.7	チャート	
53	楔形石斧	埋没土中	長 21.5 幅 24.7 厚 8.0 重 3.3	黒曜石		54	石鏃	埋没土中	長 26.3 幅 15.6 厚 5.6 重 1.8	黒曜石	
55	石鏃	埋没土中	長 37.8 幅 14.6 厚 4.6 重 2.4	黒色頁岩		56	石鏃	埋没土中	長 49.2 幅 22.3 厚 5.0 重 5.9	黒色頁岩	
57	石鏃	埋没土中	長 45.4 幅 26.0 厚 10.9 重 10.2	チャート		58	スクレイパー	床上3cm	長 58.2 幅 82.8 厚 12.2 重 63.9	黒色頁岩	
59	スクレイパー	床上3cm	長 45.7 幅 81.6 厚 9.0 重 34.3	埴貫頁岩		60	スクレイパー	床上6cm	長 59.7 幅 91.3 厚 13.2 重 78.9	黒色頁岩	
61	スクレイパー	床上6cm	長 91.7 幅 61.1 厚 15.3 重 97.5	ホルンフェルス		62	スクレイパー	P11内	長 88.5 幅 82.6 厚 20.0 重 125.7	ホルンフェルス	
63	スクレイパー	床上3cm	長 87.7 幅 83.5 厚 21.3 重 151.1	ホルンフェルス		64	打製石斧	床上14cm	長 105.4 幅 63.9 厚 37.0 重 276.5	黒色安山岩	
65	打製石斧	埋没土中	長 88.1 幅 62.7 厚 18.1 重 106.7	黒色頁岩		66	打製石斧	埋没土中	長 90.0 幅 31.4 厚 10.7 重 37.0	黒色頁岩	
67	打製石斧	埋没土中	長 83.5 幅 42.9 厚 18.3 重 67.0	黒色頁岩		68	打製石斧	床上13cm	長 107.1 幅 37.3 厚 17.1 重 63.4	黒色頁岩	

Ⅱ-1号住居 石造

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
69	打製石斧	床上24cm	長162.4 幅78.6 厚22.5 重322.2	黒色頁岩		70	石核	埋設土中	長34.0 幅28.5 厚17.4 重15.1	黒曜石	諏訪産
71	礫石	床直	長67 幅55 厚12 重48	牛伏砂岩		72	磨石	床直	長43 幅39 厚37 重55	粗粒輝石 安山岩	
73	磨・凹石	床下18cm	長90 幅76 厚52 重491	粗粒輝石 安山岩	P9内	74	磨・凹 礫石	埋設土中	長131 幅85 厚52 重856	粗粒輝石 安山岩	
75	礫石	埋設土中	長74 幅66 厚43 重298	粗粒輝石 安山岩		76	多孔石	床直	長115 幅99 厚52 重750	粗粒輝石 安山岩	
77	多孔石	床直	長134 幅94 厚91 重1449	粗粒輝石 安山岩							

Ⅱ-2号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 胴一底	1号埋土 如体土器	①細粒多 ②ふつう ③明赤褐	胴部下半に膨らみをもつ器形。横位集合沈線を施し、その下に三角形の沈線 を施す。	講談c式
2	深鉢 胴部	2号埋土 如体土器	①細粒少 ②真好 ③明赤褐	胴部で外側に開く器形。胴部に横位集合沈線を施して紋様帯を区画。胴部紋様 帯には縦位扇面状の集合沈線を施して貼付紋を貼付する。	講談c式
3	深鉢 口一胴 如体土器	3号埋土 如体土器	①細粒少 ②ふつう ③浅黄橙	直線の開く器形。口径24.0cm。無紋で、手執管管内底による突起を施したボ タン状貼付紋のみの紋様となる。	講談c式
4	深鉢 口縁一 胴部	4号埋土 如体土器	①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	縁やかに外反しなげら開く器形。推定口径32.5cm。胴部に段を有し、斜位の集 合沈線で紋様帯を区画。口縁部紋様帯には横位集合沈線を施して棒状、ボタン 状貼付紋を施す。口唇部にも貼付紋を貼付する。胴部紋様帯はX字状に集合沈 線を施し、貼付紋を全面に施す。埋土調査時には口縁部はない。	講談c式 Ⅱ-9住と接合
5	深鉢 胴部	5号埋土 如体土器	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐	単節R L縄紋を施紋。	前期後半
6	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	口縁部付近と胴部の部位。集合沈線による横帯構成。沈線間に斜位の集合沈線 を施す。胴部の区画にはX字状の平行沈線を挟んで縦位集合沈線を施す。	講談b式 Ⅱ-45住と接合
7	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②真好 ③にふい橙	横位集合沈線と斜位の集合沈線を施す。	講談b式
8	深鉢 胴部	86.34m	①白色粒少②ふつう ③にふい黄橙	集合沈線による横帯構成。地紋に単節R L縄紋を横位施紋する。	講談b式
9	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	内側に留まる部位。横位集合沈線を幅広く施す。	講談b式
10	深鉢 口縁部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐	口唇部は平坦で外側に張り出し、張り出し部に刻みを付す。横位集合沈線を施 し、貼付紋を施す。	講談c式
11	深鉢 口縁部	埋設土中	①白色粒少 ②真好 ③明赤褐	口縁部に横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。以下は斜位の集合沈線を施 す。地紋に無節L r縄紋を施紋。内面磨着。	講談c式
12	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②真好 ③にふい橙	縦位、矢羽根状、弧状の集合沈線を施す。	講談c式
13	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③明赤	縦位と弧状の集合沈線を施す。地紋に単節R L縄紋を施紋。	講談c式
14	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	斜位の集合沈線帯を挟み、縦位の集合沈線を施す。	講談c式
15	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	横位集合沈線で紋様帯下端を画し、紋様帯内は斜位の平行沈線を施す。	講談c式
16	深鉢 底部	86.67m	①細粒少 ②ふつう ③橙	底径9.6cm。集合沈線を横位扇面状に施す。	講談c式
17	深鉢 口縁部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	口縁部が開く器形。横位集合沈線を施し、棒状や縦長の貼付紋を施す。口唇部 におそらく4単位に配されると思われる大振りな突起を付す。口縁内面の肥厚 部にも、斜位の集合沈線とボタン状貼付紋を施す。	講談c式
18	深鉢 胴部	86.14m	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐	胴部に近い部位で外側に開く。横位集合沈線と貼付紋を施す。	講談c式
19	深鉢 胴部	86.29m	①細粒少 ②ふつう ③にふい赤褐	横位扇面状に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講談c式
20	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい赤褐	平行沈線を斜位、X字状に施し、貼付紋を貼付する。	講談c式
21	深鉢 胴部	86.28m	①細粒少 ②ふつう ③黄橙	平行沈線を縦位、斜位に施し、貼付紋を貼付する。	講談c式
22	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③明赤	平行沈線を縦位、斜位に施し、棒状、ボタン状貼付紋を貼付する。	講談c式
23	深鉢 胴部	86.31m	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	縦位、斜位に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講談c式
24	深鉢 胴部	86.19～ 86.51m	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	胴部紋様帯の部位で、区画状の横位沈線が上部に見られる。斜位、X字状に集 合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講談c式

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-2号住居 土器		紋様の特徴等		備考
番号	器種 出土位置	①胎土色地色②色調		
25	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐色	集合沈線を副歯状に施し、刺突を施した棒状貼付紋を貼付する。	講議c式
26	深鉢 胴部	86.29m ①細砂少 ②ふつう ③にふい豊	縦位、斜位の浅い平行沈線を貼付する。紋線帯の下端と見られ、下半は無紋となる。紋線帯を区画する横位沈線等は施されない。	講議c式
27	深鉢 底部	86.31m ①細砂少、結晶片若 ②ふつう③にふい豊	縦位、斜位に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講議c式
28	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②真好 ③豊	底部に近い部位で縦く外反して開く器形。集合沈線を縦位、斜位に施し、貼付紋を貼付する。紋線帯を区画する横位沈線等は描かれず、そのまま無紋となる。	講議c式
29	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③にふい豊	平行沈線により斜格子目状のモチーフを描く。	講議c式
30	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細確、白色粒少 ②ふつう ③暗赤褐色	集合沈線を横位、斜位に施すが、やや乱雑に感じられる。ボタン状貼付紋を施す。内面研磨。	講議c式
31	深鉢 口縁部	86.36m ①細砂少 ②ふつう ③豊	集合沈線を斜位に施して、幾何学状のモチーフを描く。器壁は1.0cmと厚め。	講議c式
32	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②真好 ③明赤褐色	平行沈線を縦位、斜位に施す。	講議c式
33	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③にふい豊	集合沈線を副歯状に施す。	講議c式
34	深鉢 口縁部	86.34- 86.39m ①細砂少 ②ふつう ③にふい豊	口縁部には無筋R1、胴部には単筋L R縄紋を施し、口縁下に2個一對の貼付紋、胴部にボタン状貼付紋を貼付する。	講議c式
35	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③にふい豊	波状口縁。口縁部紋線帯は横位集合沈線、縦位結節浮線、ボタン状貼付紋を施す。部分的に剥落して判然としないが、波状赤浮線も貼付されていたようである。胴部紋線帯には縦位の集合沈線を施す。	下島式
36	深鉢 胴部	86.28m ①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐色	施紋に横位集合沈線を施し、結節浮線により渦巻状モチーフを描く。	下島式
37	深鉢 底部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③豊	集合沈線を斜位に施す。1本書きのようにも見えるが、半軌竹管の片方のみを深く引いているようである。	下島式
38	深鉢 胴部	86.40m ①細砂少 ②真好 ③明赤褐色	集合沈線により対向する連弧状モチーフを描く。下端には横位集合沈線が認識できる。無紋部に小さなボタン状貼付紋を貼付する。	十三番提式
39	深鉢 口縁部	86.31m ①細砂少 ②真好 ③にふい赤褐色	折り返し状の肥厚口縁で、部分的に下端を三角形に彫り取る。集合沈線を横位、斜位、縦位に施し、無紋部に印刺を施す。	十三番提式
40	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐色	波状口縁。集合沈線を口縁に沿わせ、また横位、弧状に施し、無紋部に印刺を施す。	十三番提式
41	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細砂少 ②真好 ③豊	推定口径15.5cm。縦やかに内湾する器形。平行沈線により変形状や同心円状のモチーフを描く。同心円状モチーフは沈線間に半軌竹管内皮による刺突を施す。断面三角形の高さのある貼付紋を貼付する。内面研磨。	興津式 講議c式の特徴ももつ
42	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐色	具段腹線紋を横位に押し引く。内面研磨。	興津式
43	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐色	具段腹線紋を横位、斜位に押し引く。内面研磨。	興津式
44	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③黒褐色	横位沈線を施し、具段腹線紋を横位に押し引く。内面研磨。	興津式
45	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③黒褐色	爪形状の刺突列を横位多段に施す。	興津式
46	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細砂少 ②真好 ③豊	口縁が短く外反する器形。口縁下に具段腹線紋と刺突列をめぐらせ、単筋R L縄紋を横位施紋する。	興津式
47	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③黒褐色	口縁下に縄紋原体坯を横位に3条めぐらせ、単筋R L縄紋を横位施紋する。	興津式
48	深鉢 口縁部	86.58m ①細砂多 ②ふつう ③浅黄褐色	外反する口縁部。単筋L R縄紋を横位施紋する。口唇部には竹管の押捺によると思われる刻みを付す。	前期後半
49	深鉢 口縁部	P 7内 ①細砂少 ②ふつう ③黒褐色	無筋L R縄紋を斜位施紋する。内面研磨。	前期後半
50	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③にふい豊	単筋R L縄紋を横位、縦位に施紋する。	前期後半
51	深鉢 底部	86.38m ①細砂少 ②ふつう ③にふい豊	底径5.9cm。単筋R L縄紋を横位施紋する。	前期後半
52	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③にふい豊	無紋。内面研磨。	前期後半
53	深鉢 底部	86.37m ①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	推定底径9.0cm。底部が張り出す器形。無紋。	前期後半
54	深鉢 底部	86.34m ①細砂少 ②ふつう ③にふい豊	底径10.8cm。底部が張り出す器形。無紋。	前期後半

Ⅱ-2号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
55	石蔵	埋没土中	長 11.5 幅 11.8 厚 3.9 重 0.3	黒曜石	諏訪産	56	石蔵	86.64m	長 13.4 幅 11.9 厚 4.1 重 0.6	黒曜石	諏訪産
57	石蔵	86.47m	長 14.2 幅 12.5 厚 3.8 重 0.5	黒曜石	諏訪産	58	石蔵	埋没土中	長 14.8 幅 15.8 厚 3.3 重 0.5	チャート	
59	石蔵	86.58m	長 16.6 幅 11.3 厚 3.5 重 0.4	黒曜石	諏訪産	60	石蔵	P24内	長 15.8 幅 15.8 厚 3.6 重 0.5	黒曜石	諏訪産
61	石蔵	埋没土中	長 13.1 幅 12.0 厚 2.7 重 0.2	黒曜石	諏訪産	62	石蔵	86.55m	長 15.0 幅 11.2 厚 4.7 重 0.4	黒曜石	諏訪産
63	石蔵	86.19m	長 15.0 幅 16.3 厚 2.8 重 0.4	黒曜石	諏訪産	64	石蔵	86.37m	長 13.4 幅 17.3 厚 3.2 重 0.6	黒曜石	諏訪産
65	石蔵	埋没土中	長 16.2 幅 19.2 厚 4.2 重 0.9	チャート		66	石蔵	埋没土中	長 18.0 幅 16.9 厚 3.7 重 0.8	黒曜石	諏訪産
67	石蔵	埋没土中	長 19.2 幅 12.2 厚 3.3 重 0.5	黒色安山岩		68	石蔵	86.20m	長 20.7 幅 11.5 厚 3.3 重 0.4	黒曜石	諏訪産
69	石蔵	86.59m	長 24.3 幅 13.4 厚 4.1 重 0.6	チャート		70	石蔵	86.19m	長 30.3 幅 18.1 厚 3.7 重 0.9	チャート	
71	石蔵	86.43m	長 33.1 幅 20.5 厚 3.4 重 0.3	チャート		72	石蔵	埋没土中	長 35.9 幅 21.2 厚 9.4 重 2.8	チャート	
73	石蔵	86.40m	長 34.9 幅 15.0 厚 7.4 重 3.2	チャート		74	打製石斧	埋没土中	長 59.9 幅 41.0 厚 14.5 重 47.1	黒色頁岩	
75	打製石斧	埋没土中	長 67.4 幅 49.9 厚 12.3 重 47.9	黒色頁岩		76	スクレイパー	86.39m	長 122.7 幅 59.6 厚 13.1 重 88.1	黒色頁岩	
77	石核	埋没土中	長 22.1 幅 47.2 厚 16.4 重 14.3	黒曜石	諏訪産	78	原石	86.31m	長 39.5 幅 19.7 厚 15.0 重 11.4	黒曜石	和田産
79	磨・敲石	86.34m	長 74 幅 51 厚 40 重 228	粗粒輝石 安山岩		80	石皿	埋没土中	長 117 幅 134 厚 55 重 1356	粗粒輝石 安山岩	
81	石核	86.19m	長 28.5 幅 23.8 厚 12.1 重 6.0	黒曜石	諏訪産	82	石核	86.20m	長 21.7 幅 31.7 厚 15.5 重 8.0	黒曜石	諏訪産
83	石核	86.20m	長 37.9 幅 26.5 厚 18.8 重 13.8	黒曜石	諏訪産	84	石核	86.18m	長 33.6 幅 17.9 厚 13.6 重 7.9	黒曜石	諏訪産
85	石核	86.20m	長 32.2 幅 23.4 厚 15.1 重 7.1	黒曜石	諏訪産	86	潤片	86.19m	長 17.9 幅 12.2 厚 6.7 重 0.9	黒曜石	諏訪産
87	潤片	86.20m	長 37.5 幅 24.4 厚 10.0 重 5.7	黒曜石	諏訪産	88	楔形石器	86.16m	長 40.7 幅 32.6 厚 13.7 重 17.7	チャート	P23内
89	石核	86.14m	長 32.1 幅 38.0 厚 15.3 重 15.1	チャート	P23内	90	石核	86.14m	長 39.3 幅 36.6 厚 18.8 重 27.8	チャート	P23内
91	石核	86.14m	長 39.3 幅 41.1 厚 18.8 重 31.2	チャート	P23内	92	石核	86.14m	長 36.6 幅 60.5 厚 13.6 重 32.2	チャート	P23内
93	潤片	86.15m	長 26.8 幅 33.0 厚 7.4 重 5.3	チャート	P23内	94	潤片	86.14m	長 17.9 幅 19.2 厚 5.2 重 1.1	チャート	P23内
95	潤片	86.17m	長 30.7 幅 46.8 厚 11.1 重 13.5	チャート	P23内	96	潤片	86.14m	長 42.8 幅 32.4 厚 11.1 重 9.1	チャート	P23内

Ⅱ-3号住居 土蔵

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい垂れ	口縁に内折する器形。地紋に単節LR縄紋を施し、平行沈線を横位施す。	諏訪b式
2	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③明赤釉	地紋に単節LR縄紋を施し、横位集合沈線を施す。内面研磨。	諏訪b式
3	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい垂	集合沈線を横位、斜位に施す。	諏訪b式
4	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③澄	集合沈線による横帯構成。地紋に単節LR縄紋を施す。	諏訪b式
5	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③黒釉	集合沈線による横帯構成。	諏訪b式
6	深鉢 胴部	床直	①細砂少 ②ふつう ③黒釉	集合沈線による横帯構成。下部は銀面状になっており、集合沈線間に描かれるモチーフと思われる。地紋に単節LR縄紋を施す。	諏訪b式
7	深鉢 胴部	床上4cm	①細砂少 ②ふつう ③黒釉	横位集合沈線を施す。	諏訪b式
8	深鉢 口縁部	床上9cm	①細砂少 ②良好 ③にふい垂	縦や外に反する器形。中心の小突起部を残して口縁部は欠損しており、対向する挟り込みを入れた口縁になると思われる。口縁に沿って集合沈線を施す。小突起部から矢羽根状集合沈線を含んだ集合沈線で縦位区画し、区画内にレンズ状、幾何学状集合沈線を施す。小突起下に2割一對の貼付粘を貼付する。	諏訪c式

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-3号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②地色③色調	紋様の特徴等	備考
9	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒多 ②良好 ③不明赤褐色	波状口縁の突起部。外面の両側縁が張り出し、Y字状の断面形態を呈す。側面は細線に沿った集合沈線と弧状の集合沈線を施す。	講議c式
10	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒多 ②ふつう ③黒褐色	集合沈線と縦位区画し、レンズ状、矢羽根状集合沈線を施す。上端には区画線としての横位沈線が確認できる。	講議c式
11	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③不明赤褐色	矢羽根状縁を嵌めた集合沈線により縦位区画。レンズ状モチーフを描く。	講議c式
12	深鉢 底部	床直	①細粒少 ②ふつう ③不明赤褐色	底径8.5cm。横位集合沈線によって胴部紋様帯の下端を区画。縦位区画、レンズ状集合沈線を施す。	講議c式
13	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③ふい豊	尖頭状の口唇。横位集合沈線を施す。剥落しているが、棒状貼付紋が貼付されていた痕跡が確認できる。口縁内面の肥厚部に、縦位集合沈線を施す。	講議c式
14	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③豊	横位集合沈線と貼付紋を施す。	講議c式
15	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③ふい豊	横位、縦位、斜位の集合沈線と貼付紋を施す。	講議c式
16	深鉢 胴部	埋没土中		Ns15と同一個体。	講議c式
17	深鉢 口縁部	埋没土中	①白色粒少②ふつう ③ふい豊	単筋R L縄紋を横位施紋し、ボタン状貼付紋を貼付する。口縁端部に刻みを付す。	講議c式
18	深鉢 胴部	床直	①細粒少 ②ふつう ③不明赤褐色	具股旋縁紋を横位に押し引く。	判別式
19	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②良好 ③豊	縦やかに外反する器形。口唇下に平載竹管による縦位短沈線を施し、横位刺突列で区画。刺突列下は具股背圧痕を施す。口唇部、内面ともに非常によく研磨される。	判別式
20	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③不明赤褐色	波状口縁。口縁に沿って刺突列を多段に施す。波頂部下に貼付紋を施し、その下から刺突列を垂下させる。	判別式
21	深鉢 口縁部	床下4cm	①細粒少 ②ふつう ③黒褐色	口縁部に平載竹管による刺突列を2条めぐらす。	判別式
22	深鉢 口縁部	埋没土中	①白色粒少②ふつう ③ふい豊	口縁部に刺突を施した段線をめぐらす。	判別式
23	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒多 ②ふつう ③ふい豊	単筋R L縄紋を横位施紋する。	前期後半
24	深鉢 胴部	床直	①細粒多 ②良好 ③ふい豊	底部付近から内湾しながら立ち上がる器形。上端に細い沈線が横位施紋されているのが確認できる。	前期後半

Ⅱ-3号住居 石器

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
25	石鏃	埋没土中	長 28.5 幅 25.0 厚 8.3 重 4.4	チャート	未製品	26	楔形石器	床下9cm	長 49.5 幅 35.1 厚 15.3 重 30.3	チャート	
27	スクレイパー	床上24cm	長 83.9 幅 91.7 厚 24.3 重211.5	黒色頁岩		28	スクレイパー	床直	長 86.5 幅 98.5 厚 22.2 重248.9	灰色安山岩	
29	打製石斧	床上13cm	長 64.5 幅 47.0 厚 8.6 重 29.8	黒色頁岩		30	石核	床上4cm	長104.3 幅 62.6 厚 32.8 重231.6	黒色安山岩	
31	磨・敲石	床上24cm	長 115 幅 59 厚 35 重 373	滑結凝灰岩		32	磨石	床直	長 96 幅 53 厚 39 重 290	粗粒輝石安山岩	
33	磨・凹敲石	床上4cm	長 83 幅 66 厚 50 重 363	粗粒輝石安山岩							

Ⅱ-4号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②地色③色調	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 胴部	1号埋奥伊体土器	①細粒多 ②ふつう ③ふい豊	単筋L R縄紋をまばらに横位施紋する。	前期後半
2	深鉢 口縁部	床上20cm	①細粒多 ②ふつう ③赤褐色	波状口縁の突起部で、口縁部が内折する。地紋に単筋R L縄紋を施紋し、集合沈線を施す。	講議b式
3	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③黒褐色	横位集合沈線と弧状の集合沈線を施す。	講議b式
4	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③ふい豊	横位集合沈線を施す。	講議b式
5	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒多 ②ふつう ③豊	胴部下平の膨らむ部位と思われる。集合沈線による横帯構成。集合沈線間に菱形モチーフを描く。	講議b式
6	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③ふい豊	口縁部が縦やかに外反する器形。集合沈線を横位、斜位に施す。口縁端部に刻みを付す。	講議c式
7	深鉢 口縁部	床上26cm	①細粒少 ②ふつう ③赤褐色	既定口径18.3cm。口縁部が縦やかに外反する器形。口縁部に横位集合沈線を施し、以下は胴部紋様帯のモチーフが展開する。口縁端部に刻みを施し、4単位と思われる貼付紋を貼付する。内面研磨。	講議c式

Ⅱ-4号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②地色③調色	紋様の特徴等	備考
8	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③暗赤褐	口縁部に横位、以下、縦位に集合沈線を施し、中央に剣突を施した2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。口縁部に刻みを付す。内面研磨。	講談c式 Ⅱ-4号と接合 Ⅱ-5住居と同一
9	深鉢 口縁部	床上13cm	①細砂少 ②ふつう ③黄橙	口縁部が横やかに外反する器形。口縁部部に刻みを付す。口縁部にも刻みを付した沈線をめぐらせ、その間に矢羽根状沈線を充填施す。隆線以下は横位集合沈線帯を成形し、以下、胴部紋様帯のモチーフが展開する。隆線下に2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。内面研磨。	講談c式
10	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③黄橙	口縁部に横位、以下、縦位に集合沈線を施す。地紋に単節S1縄紋を施す。	講談c式
11	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	口縁部に横位、以下、縦位に集合沈線を施す。地紋に単節S1縄紋を施す。口唇部、内面研磨。	講談c式
12	深鉢 胴部	P 6内	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	縦位区画と弧状の集合沈線を施す。	講談c式
13	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	縦位区画と弧状の集合沈線を施す。	講談c式
14	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	縦位区画と弧状の集合沈線を施す。	講談c式
15	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③橙	縦位区画と弧状の集合沈線を施す。レンズ状紋内は面状の集合沈線を充填施す。	講談c式
16	深鉢 胴部	床上7cm	①細砂少 ②良好 ③黄橙	底部付近の湾曲する部位。横位集合沈線により胴部紋様帯下層を区画。紋様帯内は縦位区画と弧状の集合沈線を施す。	講談c式
17	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	底部付近の湾曲する部位。矢羽根状沈線を横位にめぐらす。	講談c式
18	深鉢 底部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	横位集合沈線により胴部紋様帯下層を区画。紋様帯内は縦位、斜位の集合沈線を施す。	講談c式
19	深鉢 口縁部	床上14cm	①細砂少 ②良好 ③赤褐	口縁部が強く内折する器形。斜位に集合沈線を施した後、素浮線とボタン状貼付紋を貼付する。単位紋としての貼付紋と弧状の隆線を貼付する。	講談c式
20	深鉢 胴部	床上14cm	①細砂少②やや不良 ③にふい塵	胴部の屈曲する部位。斜位の集合沈線を施し、屈曲部下に大きな縦長の貼付紋とボタン状貼付紋を施す。以下は小さな貼付紋を多段に施す。	講談c式
21	深鉢 胴部	P 5内	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	集合沈線を斜位に施し、貼付紋を多段に貼付する。	講談c式
22	深鉢 底部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③橙	帯定底径12.8cm。集合沈線を面状に施し、貼付紋を貼付する。	講談c式
23	深鉢 口縁部	埋没土中	①白色粒少 ②良好 ③にふい塵	斜位、弧状に集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。口唇部に斜位の刻みを付す。	講談c式
24	深鉢 胴部	床上7cm ~11cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	平行沈線を斜位、菱形状、弧状にやや乱雑に施す。	講談c式
25	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	横位に貝殻線紋を押し引いた後、部分的に横位沈線を施す。内面研磨。	興洋式
26	深鉢 胴部	床上8cm	①細砂少 ②良好 ③暗赤褐	沈線で帯状の菱形モチーフを描き、貝殻線紋を充填施す。	興洋式
27	浅鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	口縁部がくの字状に屈曲して立ち上がる器形。	前期後半
28	浅鉢 胴部	埋没土中	①細砂少、金雲母 ②ふつう ③明赤褐	肩直下の部位。赤色塗彩の痕跡が確認できる。	前期後半
29	浅鉢 胴部	床上8cm	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	肩直下の部位。段を有する。	前期後半
30	深鉢 口縁部	床上13cm	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	単節S1縄紋を横位、斜位に施す。口唇部にも施が見られる。	前期後半
31	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③にふい塵	単節S1縄紋を横位施す。	前期後半
32	深鉢 口縁部	床上10cm	①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐	内湾する器形。調整痕が残る。	前期後半

Ⅱ-4号住居 石器

番号	器種	出土位置	法量(mn. g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mn. g)	石材	備考
33	石鏃	埋没土中	長 15.1 幅 14.2 厚 3.6 重 0.5	黒曜石	諏訪産	34	石鏃	埋没土中	長 17.3 幅 17.9 厚 2.5 重 0.5	黒曜石	諏訪産
35	石鏃	埋没土中	長 22.9 幅 17.3 厚 4.5 重 1.1	黒色安山岩		36	石鏃	埋没土中	長 27.7 幅 22.0 厚 4.9 重 1.9	チャート	
37	楔形石器	埋没土中	長 16.4 幅 22.5 厚 9.5 重 2.8	黒曜石		38	楔形石器	埋没土中	長 22.9 幅 18.6 厚 7.1 重 2.1	黒曜石	
39	スクレイパー	埋没土中	長 65.5 幅 47.1 厚 11.8 重 35.1	黒色頁岩		40	スクレイパー	床上5cm	長 81.0 幅 35.1 厚 11.4 重 20.8	黒色頁岩	
41	石匙	床上19cm	長 37.3 幅 32.7 厚 9.5 重 6.6	黒曜石		42	磨・敲石	床直	長 60 幅 52 厚 39 重 175	粗粒輝石 安山岩	

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-5号住居 土器			紋様の特徴等	備考
番号	器種	出土位置		
1	深鉢 胴部	1号埋栗 炉体土器	①細砂少 ②真好 ③黄	縦位区画とレンズ状、扇面状の集合沈線を施す。
2	深鉢 底部	2号埋栗 炉体土器	①細砂少②やや不良 ③にふい	底径10.2cm。横位沈線を施す。
3	深鉢 胴部	3号埋栗 炉体土器	①細砂少 ②ふつ ③にふい	縦位区画とレンズ状、矢羽根状の集合沈線を施す。
4	深鉢 胴部	P13内	①細砂少 ②ふつ ③にふい	胴部下で膨らみもち、底部がすぼまる器形。膨らみ部下に横位集合沈線を施して胴部紋様帯下端を区画。紋様帯内は縦位区画とレンズ状、矢羽根状の集合沈線を施す。
5	深鉢 口縁一 胴部	床直一 床上13cm	①細砂少 ②ふつ ③黄	キャリバー状で底部がすぼまる器形。口径21.3cm。横位平行沈線により紋様帯を区画。口縁部紋様帯には矢羽根状集合沈線と貼付紋を施す。口唇直下に刺突列をめくらす。胴部紋様帯は縦位区画とレンズ状、扇面状、斜格子目状の集合沈線を施す。地紋に単節R L織紋を施す。
6	深鉢 口縁部	P23内	①細砂少 ②ふつ ③にふい	波状口縁。集合沈線を口縁に沿って斜位に施す。
7	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつ ③にふい赤褐	強く外反する部位。集合沈線による條帯構成。沈線間に斜位の平行沈線を施す。
8	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつ ③黄	屈曲する部位。横位集合沈線を施す。
9	深鉢 胴部	埋没土中	①白色粒少②ふつ ③黄	屈曲する部位。横位集合沈線を施す。
10	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつ ③暗赤褐	波状口縁。内湾した皮頂部に貼付紋を施す。単節R L織紋を施す。
11	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつ ③暗赤褐	口縁部に横位、以下、縦位、斜位に集合沈線を施し、中央に刺突を施した2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。口縁端部に刻みを付す。内面研磨。
12	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつ ③黄	口縁部が内折する器形だが、内折部は欠損。口縁部に横位集合沈線を施し、以下胴部紋様帯が展開する。口縁部に貼付紋を施す。貫通していないが、焼成後に外面から穿たれた孔が2ヶ所認められる。
13	深鉢 胴部	床上4cm	①細砂少 ②ふつ ③黒褐	外反する器形。上端に紋様帯を区画する横位集合沈線が確認できる。胴部紋様帯は斜格子目状線を帯込んだ縦位集合沈線で区画、区画内にレンズ状、X字状の集合沈線を施す。
14	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②真好 ③にふい黄	縦位とX字状の集合沈線を施す。
15	深鉢 胴部	床上5cm	①細砂少 ②真好 ③赤褐	縦位と扇面状の集合沈線を施す。
16	深鉢 胴部	床上27cm	①細砂少 ②ふつ ③暗赤褐	胴部下、底部に向かってすぼまる部位。縦位とレンズ状の集合沈線を施す。下部には胴部紋様帯を区画する横位集合沈線が施される。
17	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつ ③赤褐	胴部下、屈曲する部位。縦位、レンズ状集合沈線間に矢羽根状集合沈線を充填施す。
18	深鉢 底部	埋没土中	①細砂少 ②ふつ ③暗赤褐	横位平行沈線を施す。
19	深鉢 口縁部	埋没土中	①白色粒少②ふつ ③にふい	口縁が強く内湾する器形。扇面状に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。大抵りな貼付紋の両側縁には半軌管管内径の押し引きを施す。
20	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂多 ②ふつ ③黄	口縁の貼付の部位。両側縁に刻みを施す。
21	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②真好 ③赤褐	直線的に開く器形。口縁端部に刻みを施す。付加条織紋を施し、口縁部に貼付紋を貼付する。
22	深鉢 口縁部	埋没土中	①白色粒少②ふつ ③にふい黄	半軌管管内径による刺突列を2条と縦位扇面状の集合沈線を施す。口唇部にも半軌管管内径による刺突を施す。
23	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつ ③にふい黄	上端に紋様帯を区画する横位集合沈線。胴部紋様帯は横位扇面状の集合沈線を施す。
24	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②真好 ③黒褐	折り返し状の肥厚口縁で、部分的に下端を三角形状に取り除く。集合沈線と印刷を施す。
25	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②真好 ③暗赤褐	波状口縁で口唇部は肥厚する。連弧状の集合沈線を施す。
26	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつ ③暗赤褐	横位平行沈線で区画。上位に集合沈線による渦巻状モチーフを描き、下位に印刷を施す。
27	深鉢 口縁部	床直	①細砂少 ②ふつ ③黒褐	波状口縁。胴部で膨らみもち、口縁が強く外反する器形。口唇直下に縦位短沈線帯をつくり、以下は帯状の貝殻線紋で横位区画し、区画内に連結する菱形モチーフを描く。貝殻線紋に平行沈線を沿わせている。
28	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②真好 ③にふい	貝殻線紋を横位に施す。

Ⅱ-5号住居 土器			紋様の特徴等		備考
番号	器種	出土位置	①胎土②地色③色調		
29	深鉢 口縁部	床上5cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	口縁部に2条の刺突列をめぐらす。	興津式
30	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	波状隆線を横位に2条貼付し、それに沿わせるように竹管外皮による押し絞を施す。	興津式?
31	浅鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少、金雲母 ②良好 ③黒褐	口縁部はくの字状に屈曲する。外面、口縁内側研磨。	前期後半
32	浅鉢 肩部	埋没土中	①白色粒少、長石 ②良好 ③明赤褐	肩が張り出す器形。外面研磨。	前期後半
33	浅鉢 胴部	床上5cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	肩直下の部位、段を有する。	前期後半
34	深鉢 口縁部	床上3cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	付加条縄紋を横位施紋する。	前期後半
35	深鉢 口縁部	埋没土中	①白色粒少 ②良好 ③黒褐	単筋R L縄紋を横位施紋する。口唇部にも施紋。	前期後半
36	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂多 ②ふつう ③にふい塵	単筋R L、L Rの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
37	深鉢 底部	床上8cm	①細砂少②やや不貞 ③赤褐	底部が張り出す器形。無筋L r縄紋を横位施紋する。	前期後半
38	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	口唇を部分的に内湾させる。調整による横位の凹凸が認められる。	前期後半
39	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③塵	無紋。折り返し状口縁で口縁外面が肥厚する。	前期後半
40	深鉢 胴部	床上4cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい塵	無紋。	前期後半
41	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③浅黄褐	胴部下平、底部に近い部位で底部に向かってすぼまる器形。無紋。	前期後半
42	深鉢 底部	床上3cm	①細砂少 ②ふつう ③塵	底径9.7cm。無紋。外面研磨。	前期後半
43	深鉢 底部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③塵	底径5.3cm。無紋。	前期後半

Ⅱ-5号住居 石器

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
44	石鏃	床上22cm	長 11.9 幅 12.1 厚 2.3 重 0.2	黒曜石	諏訪産	45	石鏃	埋没土中	長 12.8 幅 15.2 厚 2.3 重 0.2	黒曜石	諏訪産
46	石鏃	埋没土中	長 17.1 幅 12.1 厚 3.0 重 0.4	黒曜石	諏訪産	47	石鏃	床直	長 19.0 幅 8.6 厚 2.0 重 0.2	黒曜石	和田産
48	石鏃	床直	長 25.5 幅 15.5 厚 4.3 重 1.0	黒曜石	和田産	49	石鏃	埋没土中	長 17.6 幅 16.7 厚 6.0 重 1.3	黒曜石	諏訪産 未製品
50	楕形石器	埋没土中	長 19.7 幅 32.7 厚 9.7 重 5.8	チャート		51	楕形石器	埋没土中	長 29.8 幅 23.2 厚 9.1 重 7.3	チャート	
52	石鏃	焼土内	長 20.4 幅 14.0 厚 3.7 重 0.6	黒曜石		53	石鏃	床上5cm	長 41.5 幅 8.9 厚 5.8 重 1.3	黒曜石	
54	石鏃	床上2cm	長 98.6 幅 74.5 厚 11.6 重 57.4	黒色頁岩		56	スクレイパー	埋没土中	長 38.2 幅 54.6 厚 6.6 重 14.3	黒色頁岩	
56	スクレイパー	埋没土中	長 56.8 幅 114.8 厚 10.2 重 60.8	黒色頁岩		57	スクレイパー	床直	長 69.4 幅 102.8 厚 18.2 重 154.3	黒色頁岩	
58	スクレイパー	床直	長 95.5 幅 84.8 厚 10.8 重 61.5	黒色頁岩		59	打撃石斧	埋没土中	長 91.3 幅 59.7 厚 12.3 重 68.1	黒色頁岩	
60	打撃石斧	P23内	長 107.1 幅 52.4 厚 18.0 重 104.7	黒色頁岩		61	打撃石斧	床直	長 73.4 幅 44.2 厚 17.8 重 63.9	黒色頁岩	
62	石核	1埋内	長 43.6 幅 48.0 厚 14.1 重 31.7	黒色頁岩		63	石核	床上26cm	長 78.2 幅 55.7 厚 41.8 重 219.1	黒色安山岩	
64	磨石	埋没土中	長 95 幅 85 厚 48 重 509	粗粒輝石 安山岩		65	凹・敲石	床直	長 100 幅 79 厚 42 重 338	粗粒輝石 安山岩	
66	凹石	埋没土中	長 66 幅 59 厚 37 重 178	粗粒輝石 安山岩		67	石皿 多孔石	床上12cm	長 124 幅 157 厚 76 重 1762	粗粒輝石 安山岩	
68	台石	P20内	長 116 幅 136 厚 68 重 1201	粗粒輝石 安山岩		69	台石 多孔石	P11内	長 235 幅 144 厚 99 重 3248	粗粒輝石 安山岩	
70	台石 多孔石	P11内	長 206 幅 170 厚 65 重 2177	粗粒輝石 安山岩							

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-6号住居 土器			紋様の特徴等	備考
番号	器種 出土位置	①胎土の地色②色調 ③にふい黄腹		
1	深鉢 口縁部 1号埋土器 伊体土器	①細線少 ②良好 ③にふい黄腹	推定口径30.2cm。縦やかに外反し、口縁が内湾する器形。横位集合沈線によって幅狭な口縁部紋様帯を区画し、面曲状集合沈線と貼付紋を施す。耳たぶ状貼付紋は胴部の縦位分割線上に2個一対で貼付される。胴部紋様帯は集合沈線によって縦位分割し、区画内にレンズ状、矢羽根状モチーフを描く。	諸磯c式
2	深鉢 口縁部 2号埋土器 伊体土器	①細線少 ②良好 ③橙	推定口径25.3cm。外反する器形、口縁部が広く内折し、肩曲部に斜突例、貼付紋を施す。肩曲部下に横位集合沈線を施し、以下に胴部紋様帯が展開する。胴部紋様帯は集合沈線によって縦位分割し、区画内にレンズ状、X字状モチーフを描く。内面研磨。	諸磯c式
4	深鉢 底部 3号埋土器 8号埋土器 伊体土器	①細線少 ②ふつう ③にふい黄	底径10.8cm。底部付近に横位集合沈線を施して胴部紋様帯下端を区画。胴部紋様帯はレンズ状の集合沈線を施す。	諸磯c式
5	深鉢 胴部 4号埋土器 伊体土器	①細線少 ②良好 ③橙	胴部下手で膨らみをもち、底部がすぼまる器形。膨らみ部下に横位集合沈線を施して胴部紋様帯下端を区画。胴部紋様帯は縦位区画やレンズ状集合沈線が展開する。底部付近にも横位集合沈線を施す。	諸磯c式
6	深鉢 胴部 5号埋土器 伊体土器	①細線少 ②ふつう ③赤褐色	胴部下手で屈曲する器形。無筋L形縄紋を横位施す。	前期後半
7	深鉢 胴部 6号埋土器 伊体土器	①細線少 ②ふつう ③にふい黄	胴部で屈曲する器形。肩曲部に斜位と横位の集合沈線を施して紋様帯を区画。胴部紋様帯は集合沈線によるレンズ状のモチーフを施す。	諸磯c式
8	深鉢 底部 7号埋土器 伊体土器	①細線多②やや不貞 ③明赤褐色	底径10.6cm。無紋。調整時の横位推底が認められる。	前期後半
9	深鉢 口縁部 胴部 86.33m	①細線少 ②良好 ③にふい黄腹	胴部で膨らみをもち、頂部ですぼまってから強く外反し、口縁部は内折する器形。液状口縁で推定口径は26.2cmを測る。集合沈線による横帯構成で、地紋に単筋R L縄紋を施す。	諸磯b式 Ⅱ-127土と接合 P33、P49内
10	深鉢 口縁部 86.65m	①細線多、結晶片若 ②良好 ③赤褐色	液状口縁は残っていないが、大液状口縁を呈すと考えられる。横位集合沈線によって紋様帯を区画。口縁部紋様帯は口縁に沿って三角形状の集合沈線を施し、胴部紋様帯は縦位やレンズ状の集合沈線を施す。	諸磯c式 P26内
11	深鉢 86.55～ 86.96m	①細線少 ②ふつう ③暗赤褐色	横位集合沈線によって紋様帯を区画。胴部紋様帯に斜位やレンズ状の集合沈線を施すが、施紋がやや乱雑に見える。ボタン状貼付紋を施す。	諸磯c式 P22内
12	深鉢 86.46～ 86.71m	①細線少 ②ふつう ③にふい黄	平行沈線を斜格子目状に施すが、施紋が乱雑である。ボタン状貼付紋を施す。	諸磯c式
13	深鉢 86.51～ 86.55m	①細線少 ②ふつう ③浅黄腹	胴部下手の部位。縦位や斜位の集合沈線を施すが、施紋がやや乱雑である。横位集合沈線によって胴部紋様帯下端を区画するが、沈線は横につながっていない。	諸磯c式
14	深鉢 口縁部 86.49m	①細線少 ②良好 ③にふい黄	キャリバー状の器形。推定口径14.5cmで小形。横位集合沈線によって紋様帯を区画。幅狭な口縁部紋様帯には矢羽根状集合沈線とボタン状貼付紋を施す。胴部紋様帯は縦位区画やレンズ状の集合沈線を施す。内面研磨。	諸磯c式 Ⅱ-4位と接合
15	深鉢 口縁～ 胴部 86.47～ 86.55m	①細線少 ②良好 ③にふい黄腹	胴部下手で膨らみをもち、底部がすぼまる器形。口縁部と膨らみ部下に横位集合沈線を施して紋様帯を区画。紋様帯内には縦位区画やレンズ状の集合沈線を施す。口縁部に棒状貼付紋を施す。	諸磯c式
16	深鉢 口縁部 86.49～ 86.89m	①細線少 ②ふつう ③にふい黄腹	推定口径30cm。直線的に開く器形。部分的に口縁部が内湾する。全面にロッキングを施す。	浮島式
17	深鉢 口縁部 86.69～ 86.72m	①細線少 ②ふつう ③にふい黄腹	地紋に単筋R L縄紋を施し、貼付紋と液状素浮線を貼付する。口唇直下に半軟竹管内皮の刺突をめぐらす。内面研磨。	大木5式
18	深鉢 P33内 口縁部	①細線少 ②ふつう ③にふい黄	内折する口縁部。集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
19	深鉢 口縁部 埋没土中	①細線少 ②ふつう ③にふい黄腹	液状口縁。横位集合沈線によって区画し、矢羽根状の集合沈線を充填施す。補修孔あり。	諸磯b式
20	深鉢 胴部 埋没土中	①細線少 ②ふつう ③にふい黄腹	集合沈線による横帯構成。無筋帯に渦巻紋を施す。	諸磯b式
21	深鉢 胴部 埋没土中	①細線少 ②ふつう ③にふい黄	集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
22	深鉢 胴部 86.66m	①細線少 ②ふつう ③明赤褐色	集合沈線による横帯構成。沈線間に斜位の集合沈線を施す。	諸磯b式
23	深鉢 胴部 86.58m	①細線少 ②良好 ③橙	集合沈線による横帯構成。地紋に無筋L形縄紋を施す。内面研磨。	諸磯b式
24	深鉢 底部 86.44m	①細線少 ②ふつう ③にふい黄	推定底径7.0cm。集合沈線による横帯構成。	諸磯b式 P3内
25	深鉢 底部 86.50～ 86.52m	①細線少 ②良好 ③橙	推定底径11.6cm。集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
26	深鉢 口縁部 86.71～ 86.74m	①細線少 ②ふつう ③にふい黄腹	小液状口縁で、液頂部が内湾する。液頂部に貼付紋が貼付されていた痕跡が観察される。集合沈線による横帯構成で、口縁部の三角形状区画には弧状の集合沈線を施す。	諸磯b-c式
27	深鉢 口縁部 埋没土中	①細線多 ②良好 ③赤褐色	小液状口縁で、液頂部が内湾する。横位集合沈線を施す。	諸磯b-c式

Ⅱ-6号住居 土蔵

番号	部種	出土位置	①胎土②地成③色調	紋様の特徴等	備考
28	深鉢 口縁部	埋没土中	①細礫少 ②真好 ③にふい骨	小波状口縁で、波頂部が強く内湾する。集合沈線による横帯構成。横位集合沈線と矢羽根状の集合沈線を施す。波頂部下に貼付紋を施す。	講義b-c式
29	深鉢 口縁部	86.53m	①細礫少 ②ふつう ③澄	波状口縁の突起部。口縁に沿った集合沈線と矢羽根状の集合沈線を施す。	講義c式
30	深鉢 口縁部	P63内	①細礫多 ②ふつう ③にふい骨	波状口縁の突起部。上部に透かしを入れる。集合沈線とボタン状貼付紋を施す。	講義c式
31	深鉢 口縁部	埋没土中	①細礫少 ②真好 ③にふい骨	口縁が内湾する器形。横位沈線で幅狭な口縁部紋様帯を区画し、矢羽根状集合沈線を充填施す。期みを付した貼付紋を横位に貼付する。	講義c式
32	深鉢 胴部	埋没土中	①細礫少 ②真好 ③明赤褐	期みを付した隆線を貼付。隆線の上下は集合沈線を施し、隆線の上位に円形刺突をめぐらす。	講義c式
33	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい骨	外反する器形。横位沈線で紋様帯を区画。口縁部紋様帯には斜位の集合沈線を施し、貼付紋を貼付。胴部紋様帯は縦位区画やレンズ状の集合沈線を施す。	講義c式
34	深鉢 胴部	P32内	①白色粒少②ふつう ③にふい骨	縦位区画紋の部位と思われる。矢羽根状集合沈線を扶人縦位集合沈線を施す。	講義c式
35	深鉢 胴部	埋没土中	①細礫少 ②真好 ③暗赤褐	縦位区画とレンズ状の集合沈線を施す。	講義c式
36	深鉢 胴部	86.69m	①細礫少 ②ふつう ③にふい骨	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。	講義c式
37	深鉢 胴部	埋没土中	①細礫少 ②ふつう ③浅黄	レンズ状区画の部位と思われる。V字状集合沈線を施す。	講義c式
38	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい骨	斜格子目状の平行沈線を施す。	講義c式
39	深鉢 口縁部	埋没土中	①細礫少 ②真好 ③浅黄	斜位の集合沈線と貼付紋を施す。口縁内面の肥厚部にも斜位の集合沈線を施紋。	講義c式
40	深鉢 口縁部	埋没土中	①細礫少 ②ふつう ③にふい骨	横位集合沈線と貼付紋を施す。口縁内面の肥厚部にも斜位の集合沈線を施紋。	講義c式
41	深鉢 口縁部	86.75～ 86.78m	①細礫少 ②ふつう ③暗赤褐	横位集合沈線と棒状貼付紋を施す。口縁内面の肥厚部にも斜位の集合沈線と貼付紋を施す。	講義c式
42	深鉢 埋没土中	①細砂少 ②真好 ③黄橙	頭部の屈曲する部位。縦位集合沈線と貼付紋を施す。	講義c式	
43	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③澄	斜位の集合沈線と貼付紋を施す。	講義c式
44	深鉢 底部	86.70m	①細礫少 ②ふつう ③黄橙	底面直径12cm。底部付近に横位集合沈線を施して胴部紋様帯下層を区画。胴部紋様帯には斜位の集合沈線が見られる。棒状貼付紋を貼付する。	講義c式
45	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③澄	集合沈線によるモチーフを描き、貼付紋を施す。貼付紋には平載竹管外皮を模した刺突が施される。	講義c式
46	深鉢 埋没土中	①白色粒少②ふつう ③にふい骨	口縁が内折する器形。斜位の集合沈線を施し、棒状、弧状、ボタン状貼付紋を貼付する。口唇直下に平載竹管内皮による刺突を施した浮線を施す。	講義c式	
47	深鉢 埋没土中	①細礫少 ②ふつう ③にふい骨	口縁部がやや外反する器形。集合沈線と円形刺突を模したボタン状貼付紋を施す。口縁端部に平載竹管内皮による刺突を施す。	講義c式	
48	深鉢 口縁部	86.83m	①細礫少 ②ふつう ③澄	単筋1本縦紋を横位施し、口縁部に貼付紋を貼付する。	講義c式
49	深鉢 口縁部	埋没土中	①細礫少 ②真好 ③明赤褐	直立する器形。縦位歯面状の集合沈線を施し、3条1単位の結節浮線とボタン状貼付紋を貼付する。	下島式
50	深鉢 胴部	埋没土中		No51と同一個体。	下島式
51	深鉢 胴部	86.73m	①細礫多 ②ふつう ③澄	地紋に横位集合沈線を施し、横位3条のヘラ切り浮線で紋様帯を区画。下部の紋様帯には4条1単位のヘラ切り浮線を縦位に貼付する。2個一對のボタン状貼付紋を施す。	下島式
52	深鉢 口縁部	埋没土中	①細礫少 ②ふつう ③明赤褐	波状口縁。地紋に横位集合沈線を施し、結節浮線でモチーフを描く。滑巻紋と思われる。	下島式
53	深鉢 口縁部	86.62m	①細礫少 ②ふつう ③にふい骨	波状口縁。地紋に集合沈線を施し、結節浮線で弧状のモチーフを描く。	下島式
54	深鉢 埋没土中	①細礫少 ②ふつう ③明赤褐	波状口縁。集合沈線で滑巻状のモチーフを描き、ボタン状と波状の貼付紋を貼付する。波頂部には3条の結節浮線を貼付する。	下島式	
55	深鉢 口縁部	埋没土中	①細礫少 ②真好 ③明赤褐	地紋に集合沈線を施し、結節浮線で左右対の滑巻紋を施す。	下島式
56	深鉢 口縁部	86.64m	①細礫少 ②ふつう ③にふい骨	地紋に横位集合沈線を施し、結節浮線による左右対の滑巻紋を施す。	下島式
57	深鉢 口縁部	86.61～ 86.69m	①細礫少 ②ふつう ③暗赤褐	波状口縁。胴部に膨らみをもた、くの字状に屈曲する器形。屈曲部に結節浮線を横位にめぐらせて紋様帯を区画し、紋様帯内には結節浮線による滑巻紋を上下2段に施す。	下島式
58	深鉢 口縁部	86.73～ 86.82m	①細礫少 ②真好 ③澄	波状口縁。結節浮線により、モチーフを描く。	下島式

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-6号住居 土器		紋様の特徴等		備考
番号	器種 出土位置	①胎土②地色③色調		
59	深鉢 胴部 86.60m	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	集合沈線により、渦巻状モチーフを描く。	下島式
60	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄褐色	集合沈線により、渦巻状モチーフを描く。	下島式
61	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②真好 ③褐色	沈線を1本垂下させて区画し、区画内に弧状の集合沈線を施す。部分的に縦位の短沈線によるへら切りの手法が見られる。	十三善提式
62	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	屈曲する器形。屈曲部に横位集合沈線を施して紋様帯を区画。紋様帯内には集合沈線によるモチーフを描く。上部の紋様帯には地紋に単筋LR縄紋を施す。	十三善提式
63	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③褐色	底部に近い部位と思われ、くの字状に外反する器形を呈す。屈曲部に横位集合沈線を施して紋様帯を区画し、紋様帯内には集合沈線によるモチーフを描く。	十三善提式
64	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③赤褐色	外反する器形。2帯の横位集合沈線によって区画。紋様帯内はM字状の集合沈線を施す。	十三善提式?
65	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③褐色	横位集合沈線によって多段に分割し、区画内に扇面状集合沈線を施す。区画紋との間にできる三角形の空間に印刷を施す。	十三善提式
66	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂多、石夷粒 ②ふつう ③褐色	同心円状のモチーフを描く。余白に印刷を施す。石夷粒多く含む、ざらつた胎土。	前期木本 北陸系
67	深鉢 口縁部 埋没土中	①白色粒少 ②真好 ③赤褐色	折り返し状口縁で口縁外面が肥厚する。横位にロッキングを施す。	浮島式
68	深鉢 口縁部 86.60m	①細砂少 ②ふつう ③黒褐色	横位にロッキングを施す。	浮島式
69	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄褐色	小形。貝殻微線紋や背圧痕紋、貝殻の先端の押し引きを施し、部分的に平行沈線を施す。	舞津式 Ⅱ-109土と接合
70	深鉢 口縁部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄褐色	口唇直下に粘土がめくれあがるような割突をめぐらせ、以下に横位集合沈線を施す。爪形割突を2ないし3段めぐらす。	舞津式
71	深鉢 口縁部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄褐色	口縁部に平截竹筒内皮による割突列を多段にめぐらす。口唇部に刺目を付す。	舞津式
72	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②真好 ③明赤褐色	縦やかに口縁が外反する。口縁部に横位単体沈線を3本めぐらせ、以下は単筋LR縄紋を横位施す。	舞津式
73	深鉢 口縁部 埋没土中	①白色粒少②ふつう ③黒褐色	口縁部を多段に外側に折り返して段を重ねる。残存している部分で、6段認められる。	浮島・舞津系
74	深鉢 胴部 86.60m	①細砂少 ②ふつう ③黄褐色	矢羽根状集合沈線を施し、波状貼付紋を貼付する。	木本5式
75	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②真好 ③褐色	単筋LR、LRの結束羽状縄紋を横位施す。波状素浮線を貼付する。	木本5式
76	深鉢 胴部 埋没土中	①細砂少 ②真好 ③赤褐色	単筋LR縄紋を横位施す。平行沈線を弧状に施す。	前期木～中期初
77	有孔鉢 口縁部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③褐色	胴部で膨らみ、口縁部に向かってすぼまる器形。口縁は短く外反する。	前期後半
78	浅鉢 口縁部 埋没土中	①細砂少、金雲母 ②真好 ③赤褐色	口縁部は直立。屈曲部から肩部の幅が狭く、開口部の広い器形を呈す。外面研磨。	前期後半
79	浅鉢 口縁部 埋没土中	①細砂少、金雲母 ②ふつう ③赤褐色	口縁がくの字状に立ち上がる器形。外面研磨。	前期後半
80	浅鉢 胴部 86.58m	①細砂少、金雲母 ②真好 ③明赤褐色	段を有する。外面研磨。	前期後半
81	浅鉢 胴部 86.62m	①細砂多 ②真好 ③明赤褐色	肩直下に凹みを有する。外面研磨。	前期後半
82	深鉢 口縁部 埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐色	外反する器形。筋の大きな単筋LR縄紋を横位施す。	前期後半
83	深鉢 胴部 86.54m	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄褐色	無筋LR縄紋を横位施す。	前期後半
84	深鉢 胴部 86.52～ 86.70m	①細砂少 ②ふつう ③褐色	単筋LR縄紋を部分的に横位施す。	前期後半
85	深鉢 口縁部 86.51～ 86.66m	①細砂少 ②真好 ③褐色	縦やかに外反しながら開く器形。内側ぎの口唇部形状を呈す。無紋だが、調整時による擦痕が認められる。	前期後半 P22内
86	深鉢 底部 86.83m	①細砂少 ②ふつう ③褐色	底径8.2cm。無紋。外面研磨。	前期後半

Ⅱ-6号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量 (mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量 (mm, g)	石材	備考
3	打製石斧	2埋内	長132.0 幅88.6 厚35.0 重545.9	ホルン フェルス		87	石蔵	埋没土中	長15.5 幅13.1 厚2.3 重0.2	黒曜石	諏訪産
88	石蔵	P43内	長15.0 幅14.7 厚2.8 重0.3	黒曜石	諏訪産	89	石蔵	86.46m	長12.9 幅11.0 厚3.3 重0.3	黒曜石	諏訪産 P55内
90	石蔵	埋没土中	長12.9 幅13.1 厚2.6 重0.4	黒曜石	諏訪産	91	石蔵	埋没土中	長16.0 幅13.2 厚3.9 重0.4	黒曜石	諏訪産
92	石蔵	埋没土中	長16.5 幅11.5 厚2.8 重0.3	チャート		93	石蔵	埋没土中	長18.1 幅11.3 厚2.8 重0.4	黒曜石	諏訪産
94	石蔵	埋没土中	長16.5 幅15.8 厚2.5 重0.5	黒曜石	諏訪産	95	石蔵	P23内	長17.1 幅14.6 厚2.5 重0.3	黒曜石	諏訪産
96	石蔵	埋没土中	長17.8 幅14.4 厚2.8 重0.5	黒曜石	諏訪産	97	石蔵	埋没土中	長19.4 幅14.4 厚2.8 重0.5	チャート	
98	石蔵	埋没土中	長18.1 幅15.4 厚3.9 重0.7	チャート		99	石蔵	埋没土中	長18.7 幅12.5 厚3.1 重0.4	黒曜石	諏訪産
100	石蔵	埋没土中	長17.3 幅14.9 厚4.5 重0.9	黒曜石	諏訪産	101	石蔵	埋没土中	長19.5 幅12.6 厚3.8 重0.7	黒色安山 岩	
102	石蔵	86.54m	長17.5 幅13.2 厚2.8 重0.6	黒曜石	諏訪産	103	石蔵	埋没土中	長16.9 幅12.8 厚2.8 重0.3	黒曜石	諏訪産
104	石蔵	埋没土中	長18.1 幅14.4 厚3.3 重0.6	チャート		105	石蔵	埋没土中	長19.8 幅14.4 厚3.0 重0.5	チャート	
106	石蔵	86.46m	長20.3 幅15.1 厚4.2 重0.7	チャート		107	石蔵	埋没土中	長19.9 幅14.4 厚3.3 重0.6	チャート	
108	石蔵	埋没土中	長19.7 幅14.7 厚6.2 重1.7	黒曜石	諏訪産	109	石蔵	埋没土中	長19.6 幅16.3 厚2.5 重0.5	黒曜石	諏訪産
110	石蔵	埋没土中	長14.6 幅15.8 厚2.9 重0.6	黒曜石	諏訪産	111	石蔵	埋没土中	長20.8 幅14.7 厚3.5 重0.6	黒曜石	諏訪産
112	石蔵	86.55m	長18.2 幅10.7 厚3.7 重0.6	黒曜石	和田産	113	石蔵	86.45m	長24.2 幅12.6 厚3.3 重0.6	黒曜石	諏訪産
114	石蔵	埋没土中	長24.4 幅13.7 厚2.3 重0.5	チャート		115	石蔵	埋没土中	長33.1 幅11.2 厚3.3 重1.2	チャート	
116	石蔵	埋没土中	長24.8 幅17.4 厚3.6 重1.4	黒色安山 岩		117	石蔵	P103内	長28.4 幅17.5 厚6.6 重2.9	チャート	
118	石蔵	埋没土中	長25.6 幅16.2 厚4.5 重1.5	黒曜石	諏訪産 未製品	119	石蔵	埋没土中	長20.9 幅14.3 厚6.0 重1.3	チャート	未製品
120	石蔵	埋没土中	長20.2 幅19.2 厚5.8 重2.0	チャート	未製品	121	石蔵	埋没土中	長23.2 幅14.4 厚5.3 重1.5	黒曜石	諏訪産
122	石蔵	埋没土中	長36.6 幅27.7 厚12.9 重10.1	チャート	未製品	123	楕形石器	86.51m	長14.2 幅21.0 厚11.2 重3.6	黒曜石	1号地床中 内
124	楕形石器	埋没土中	長24.2 幅15.9 厚10.2 重4.3	チャート		125	楕形石器	埋没土中	長21.7 幅20.6 厚13.6 重9.1	黒曜石	
126	楕形石器	埋没土中	長21.9 幅18.7 厚7.5 重2.9	黒曜石		127	石蔵	埋没土中	長32.4 幅11.0 厚7.5 重1.7	黒曜石	
128	石蔵	86.64m	長27.7 幅22.2 厚5.8 重2.3	黒曜石		129	石蔵	P117内	長21.5 幅10.3 厚7.8 重1.2	黒曜石	
130	石蔵	埋没土中	長41.3 幅16.0 厚6.2 重2.6	黒色頁岩		131	石蔵	埋没土中	長67.8 幅42.7 厚12.7 重27.2	黒色頁岩	
132	石蔵	P32内	長43.8 幅30.5 厚5.2 重6.9	黒色安山 岩		133	石蔵	埋没土中	長70.2 幅97.7 厚16.4 重38.5	黒色頁岩	
134	スクレイ パー	P41内	長23.3 幅53.1 厚4.5 重5.9	黒色頁岩		135	スクレイ パー	埋没土中	長36.1 幅73.2 厚9.9 重24.5	黒色頁岩	
136	スクレイ パー	P73内	長66.8 幅66.8 厚19.7 重82.3	黒色頁岩		137	スクレイ パー	P37内	長37.6 幅68.8 厚15.2 重31.2	黒色頁岩	
138	スクレイ パー	埋没土中	長44.4 幅64.2 厚5.6 重16.7	黒色頁岩		139	スクレイ パー	86.57m	長65.5 幅84.9 厚11.8 重78.8	黒色頁岩	
140	スクレイ パー	埋没土中	長78.5 幅129.1 厚27.0 重907.7	黒色頁岩		141	スクレイ パー	埋没土中	長57.8 幅40.3 厚13.2 重27.5	黒色頁岩	
142	スクレイ パー	埋没土中	長70.2 幅50.9 厚17.9 重52.0	黒色頁岩		143	スクレイ パー	P136内	長98.6 幅72.9 厚12.8 重108.2	黒色頁岩	
144	スクレイ パー	P121内	長70.5 幅31.9 厚13.6 重26.4	黒色頁岩		145	打製石斧	86.62m	長62.1 幅61.5 厚24.9 重106.4	黒色頁岩	
146	打製石斧	埋没土中	長58.9 幅49.1 厚13.5 重44.9	黒色頁岩		147	打製石斧	埋没土中	長80.9 幅38.4 厚16.0 重61.6	黒色頁岩	
148	打製石斧	86.52m	長78.9 幅47.7 厚11.4 重46.2	黒色頁岩		149	打製石斧	P99内	長75.7 幅60.0 厚12.6 重70.8	黒色頁岩	

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-6号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
150	打製石斧	86.71m	長 89.7 幅 52.5 厚 12.9 重 74.1	黒色頁岩		151	打製石斧	埋没土中	長 93.1 幅 46.6 厚 16.8 重 88.8	黒色頁岩	
152	打製石斧	埋没土中	長113.8 幅 34.2 厚 12.6 重 53.0	ホルン フェルス		153	打製石斧	86.61m	長129.1 幅 49.3 厚 17.5 重113.5	灰色安山 岩	
154	打製石斧	86.66m	長132.2 幅105.3 厚 41.5 重567.2	ホルン フェルス		155	石核	埋没土中	長 16.5 幅 13.3 厚 12.1 重 1.9	黒曜石	諏訪産
156	石核	埋没土中	長 15.6 幅 23.3 厚 12.1 重 2.7	黒曜石	諏訪産	157	石核	埋没土中	長 20.4 幅 31.5 厚 6.3 重 1.5	黒曜石	諏訪産
158	石核	埋没土中	長 17.4 幅 15.2 厚 11.3 重 2.6	黒曜石	諏訪産	159	石核	埋没土中	長 23.9 幅 17.4 厚 20.7 重 4.7	黒曜石	諏訪産
160	石核	埋没土中	長 49.7 幅 15.1 厚 10.6 重 7.0	黒曜石	諏訪産	161	石核	埋没土中	長 23.9 幅 17.4 厚 9.9 重 3.3	黒曜石	諏訪産
162	石核	埋没土中	長 57.9 幅 58.1 厚 38.7 重167.8	黒色安山 岩		163	石核	86.64m	長 74.0 幅 57.0 厚 28.7 重126.9	黒色安山 岩	
164	原石	P54内	長 33.5 幅 26.0 厚 16.5 重 11.3	黒曜石	諏訪産	165	原石	埋没土中	長 27.1 幅 18.3 厚 11.8 重 3.9	黒曜石	諏訪産
166	原石	P34内	長 43.7 幅 39.3 厚 26.3 重 32.1	黒曜石	諏訪産	167	砥石	埋没土中	長 105 幅 39 厚 17 重 61	牛伏砂岩	
168	砥石	埋没土中	長 68 幅 62 厚 9 重 57	牛伏砂岩		169	砥石	86.47m	長 55 幅 44 厚 13 重 44	牛伏砂岩	
170	砥石	埋没土中	長 60 幅 34 厚 14 重 32	牛伏砂岩		171	砥石	P20内	長 40 幅 60 厚 18 重 29	牛伏砂岩	
172	砥石	86.54m	長 85 幅 76 厚 16 重 103	牛伏砂岩		173	砥石	86.53~ 86.58m	長 114 幅 85 厚 18 重 216	粗粒輝石 安山岩	
174	砥石	86.47m	長 50 幅 42 厚 34 重 91	粗粒輝石 安山岩	P40内	175	砥石	埋没土中	長 114 幅 103 厚 64 重 1027	粗粒輝石 安山岩	
176	磨石	埋没土中	長 55 幅 44 厚 35 重 119	粗粒輝石 安山岩		177	磨石	埋没土中	長 65 幅 48 厚 16 重 74	砂質頁岩	
178	磨石	86.18m	長 170 幅 52 厚 49 重 449	凝灰質砂 岩	P34内	179	磨・凹石	P99内	長 88 幅 70 厚 37 重 358	粗粒輝石 安山岩	
180	磨・凹石	86.55m	長 55 幅 62 厚 50 重 247	粗粒輝石 安山岩		181	磨・凹 砥石	86.21m	長 77 幅 75 厚 48 重 394	粗粒輝石 安山岩	P152内
182	磨・凹 砥石	86.38m	長 130 幅 73 厚 30 重 441	石英閃緑 岩	P151内	183	凹石	86.51m	長 76 幅 67 厚 41 重 218	粗粒輝石 安山岩	
184	凹石	埋没土中	長 80 幅 64 厚 33 重 187	角閃石安 山岩		185	凹石	86.61m	長 114 幅 84 厚 40 重 459	粗粒輝石 安山岩	
186	凹石	86.58m	長 80 幅 80 厚 37 重 329	消結凝灰 岩	熱熱	187	凹石	86.28m	長 134 幅 105 厚 46 重 689	粗粒輝石 安山岩	P44内
188	凹石	86.54m	長 146 幅 105 厚 61 重 1178	粗粒輝石 安山岩		189	凹石	埋没土中	長 131 幅 126 厚 70 重 1359	粗粒輝石 安山岩	
190	凹・砥石	86.50m	長 84 幅 73 厚 46 重 340	粗粒輝石 安山岩	P145内	191	凹・砥石	埋没土中	長 110 幅 76 厚 33 重 323	粗粒輝石 安山岩	
192	石皿 多孔石	86.74m	長 129 幅 128 厚 74 重 1248	粗粒輝石 安山岩		193	台石	86.17m	長 173 幅 150 厚 80 重 2424	粗粒輝石 安山岩	P33内
194	台石 多孔石	85.95m	長 223 幅 199 厚 95 重 5949	粗粒輝石 安山岩	P104内	195	多孔石	86.13m	長 118 幅 140 厚 59 重 912	粗粒輝石 安山岩	P33内
196	石棒?	埋没土中	長 106 幅 31 厚 22 重 90	黒色片岩							

Ⅱ-7号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 口線部 胴体土器	1号埋栗	①細粒多 ②ふつう ③澄	波状口線で、縁やかに外反する器形。横位集合沈線によって紋帯を区画。口線部紋帯には縦位歯面状の集合沈線を描き、縦位の結節浮線とボタン状陥付紋を貼付。胴部紋帯には縦位区画やレンズ状の集合沈線を描き、2割一對のボタン状陥付紋を貼付する。	下島式
2	深鉢 胴一底 胴体土器	2号埋栗	①細粒多 ②ふつう ③明赤地	底部付近に横位集合沈線を描き、胴部紋帯下面を区画。胴部紋帯には縦位区画や弧状の集合沈線を描き、窪定底径11.1cm。	諏訪c式
3	深鉢 胴部 胴体土器	3号埋栗	①細粒多 ②ふつう ③黄澄	集合沈線による横帯構成。地紋に単距R.L.縄紋を横位施す。	諏訪b式
4	深鉢 胴部 胴体土器	4号埋栗	①細粒多 ②ふつう ③ふいぶ	縁やかに外反する器形。粘土がめくれあがるような割突を器面全面に施す。区画紋はないが器面を縦位に分割し、横、縦と割突の方向を変える。	判準式
5	深鉢 胴部 胴体土器	5号埋栗	①細粒多 ②ふつう ③澄	集合沈線による縦位区画とレンズ状モチーフを描く。	諏訪c式

Ⅱ-7号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②地色③色調	紋様の特徴等	備考
6	深鉢 胴部	6号埋栗 炉体土器	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	頸部で屈曲する器形。頸部に集合沈澱を施して紋様帯を区画。胴部紋様帯には集合沈澱による縦位区画やレンズ状モチーフを描き、貼付紋を貼付する。	講義c式
7	深鉢 胴部	7号埋栗 炉体土器	①細粒少 ②ふつう ③橙	胴部下平がはまる器形。集合沈澱による縦位区画やレンズ状などのモチーフを描くが、やや複雑な地紋である。2期-1対のボタン状貼付紋を貼付するが、手取竹管内皮による剝突を施すもの地さないものがある。	講義c式
8	深鉢 胴部	8号埋栗 炉体土器	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	縦やかに外反する器形。器面全面にまばらに無節L形縄紋を施す。	前期後半
9	深鉢 口縁部	86.90m	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	頸部でくの字状に屈曲する器形。縦位扇面状や斜位の集合沈澱を施すが、やや乱れている。紋様帯を横す区画は見られない。貼付紋を貼付する。	講義c式
10	深鉢 口縁部	86.88m	①細粒少 ②真好 ③にふい黄	口縁部の破片は小さいが、波状口縁と考えられる。集合沈澱によって縦位区画し、区画内は斜格子目状の平行沈澱を施す。全面に貼付紋を貼付する。	講義c式 Ⅱ-4住と接合
11	深鉢 口縁- 底部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③橙	大波状口縁で、大きく開く器形。胴部下平に横位集合沈澱を施して紋様帯を区画。口縁部紋様帯は連弧状の集合沈澱を対向させ、向かい合う部分にできるレンズ状区画に印刷を施す。波頭下にできる区画内にも縦位のレンズ状や三角形の印刷を施す。胴部紋様帯には縦位扇面状の集合沈澱を施す。	十三号掘式 Ⅱ-4住と接合
12	浅鉢 口縁部	埋没土中	①細粒多 ②ふつう ③黒黒	胴部が張り出す器形。胴部下に段を有する。外面研磨。	前期後半 Ⅱ-109, 111土 と接合
13	浅鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③橙	胴部下に段を有する。外面研磨。	前期後半 Ⅱ-9住と接合
14	深鉢 口縁部	86.83- 86.88m	①細粒多 ②ふつう ③赤黒	推定口径39.4cm。口縁がやや内湾する器形。単節R L、L Rの結束羽状縄紋を横位施す。	前期後半
15	深鉢 胴部	86.84m	①細粒少 ②真好 ③にふい黄橙	集合沈澱による横帯構成。沈澱面に縦位集合沈澱を充填施す。	講義b式
16	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	集合沈澱による横帯構成。	講義b式
17	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒多 ②ふつう ③明赤黒	集合沈澱による横帯構成。	講義b式
18	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少、結晶片岩 ②ふつう ③明赤黒	集合沈澱による横帯構成。地紋に単節R L縄紋を施す。	講義b式
19	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい赤黒	口縁部が部分的に内湾する部位。集合沈澱による横帯構成。沈澱面に菱形モチーフを描く。	講義b-c式
20	深鉢 口縁部	埋没土中	①白色粒多②ふつう ③にふい黄	波状口縁で外反する器形。横位集合沈澱を施す。	講義b-c式
21	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③橙	波状口縁の突起部。集合沈澱を施す。	講義c式
22	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少、結晶片岩 ②ふつう ③にふい赤黒	口縁が強く内湾する器形。先端に彫み付した貼付紋を施し、横位沈澱で口縁部紋様帯を区画。口縁部紋様帯には縦位の扇面状集合沈澱を充填施す。	講義c式
23	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	平行沈澱により紋様帯を区画。口縁部紋様帯には縦位扇面状集合沈澱を施し、口唇下に貼付紋を貼付。胴部紋様帯には斜位の集合沈澱を施す。	講義c式
24	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③橙	集合沈澱によるレンズ状区画内に、縦位扇面状集合沈澱を充填施す。	講義c式
25	深鉢 胴部	埋没土中	①白色粒少②ふつう ③にふい黄橙	集合沈澱によるレンズ状区画内に、斜格子目状平行沈澱を施す。	講義c式
26	深鉢 胴部	86.86m	①白色粒少②ふつう ③にふい黄橙	縦位や弧状の集合沈澱を施す。	講義c式
27	深鉢 胴部	86.82m	①細粒少 ②ふつう ③浅黄橙	集合沈澱によるレンズ状区画内に横位、矢羽根状集合沈澱を施す。	講義c式 Ⅱ-4住と接合
28	深鉢 胴部	86.90- 86.92m	①細粒少 ②ふつう ③橙	くの字状に屈曲する器形。屈曲部から上位は横位集合沈澱、下位は縦位、斜位の集合沈澱を施す。屈曲部下に貼付紋を貼付する。	講義c式 Ⅱ-4住と接合
29	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少、結晶片岩 ②ふつう ③暗赤黒	横位集合沈澱を施して梯状貼付紋を貼付する。口縁内面の肥厚部にも、斜位の沈澱を施して貼付紋を貼付。	講義c式
30	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③橙	横位集合沈澱と梯状貼付紋を施す。口縁内面の肥厚部にも貼付紋を貼付。	講義c式
31	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②真好 ③明赤黒	口唇部から貼付紋を施し、貼付を境に横位、縦位の集合沈澱を施す。ボタン状貼付紋を貼付する。	講義c式
32	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③橙	縦位、斜位の集合沈澱を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式
33	深鉢 胴部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③橙	縦位、斜位の集合沈澱を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式
34	深鉢 胴部	2埋栗土	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	縦位集合沈澱、斜格子目状の平行沈澱を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式

II 縄紋時代の調査

モノ7号住居 土器		紋様の特徴等		備考
番号	器種 出土位置	①胎土色地色②色調		
35	深鉢 胴部	埋没土中 ①細粒少、結晶片岩 ②ふつう③にふい橙	集合沈線を縦位、斜位に施し、貼付紋を全面に貼付する。	講議c式
36	深鉢 胴部	86.81m ①細粒、結晶片岩多 ②ふつう ③橙	縦位扇面状集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講議c式
37	深鉢 底部	埋没土中 ①細粒少 ②ふつう ③橙	推定底径13.6cm。横位集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。底部付近には無紋帯を残す。	講議c式
38	深鉢 口縁部	P35内 ①細粒少 ②ふつう ③橙	斜位の集合沈線を施し、平截竹管内皮による刺突を押捺したボタン状貼付紋を貼付する。口唇内面に刺突を付す。	講議c式
39	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細粒少 ②ふつう ③にふい黄橙	小波状口縁。集合沈線によるモチーフを描き、波頂部に2個一對の貼付紋を貼付する。	講議c式
40	深鉢 口縁部	86.77m ①細粒少 ②ふつう ③黄橙	集合沈線を斜位にやや乱雑に施して、棒状貼付紋を貼付する。貼付紋には先端の落れた三角形の刺突が施される。	講議c式
41	深鉢 口縁部	86.82m ①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	波状口縁。平行沈線を口縁から垂下させて区画するが、それにかまわず、やや乱雑に斜位に集合沈線を施している。波頂部に刺突を施したボタン状貼付紋を貼付する。	講議c式
42	深鉢 胴部	埋没土中 ①細粒少、結晶片岩 ②ふつう ③明赤褐	縦位扇面状の集合沈線を施し、粗大な結節浮線を縦位に貼付する。	下島式
43	深鉢 胴部	86.83m ①細粒少 ②真好 ③赤褐	横位集合沈線を施し、縦位の結節浮線を貼付する。内面磨滑。	下島式
44	深鉢 胴部	埋没土中 ①細粒少 ②真好 ③浅黄橙	横位集合沈線を施し、結節浮線により渦巻状モチーフを描く。	下島式
45	深鉢 胴部	埋没土中 ①細粒少 ②ふつう ③黒褐	横位集合沈線を施し、結節浮線により渦巻紋を描く。	下島式
46	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細粒少 ②ふつう ③明赤褐	結節沈線によるモチーフを描く。	下島式
47	深鉢 胴部	埋没土中	No46と同一個体。結節沈線により、幾何学状モチーフを描く。	下島式
48	深鉢 胴部	86.95m ①細粒少、結晶片岩 ②ふつう ③にふい黄橙	集合沈線を施し、2個一對のボタン状貼付紋、結節浮線を貼付する。振幅の大きい扇面状素浮線も貼付され、大木5式の要素を併せもつ。	下島式
49	深鉢 口縁部	86.93m ①細粒少 ②ふつう ③黒褐	平行沈線により横位区画し、横位扇面状沈線を多段に施す。	十三善提式
50	深鉢 胴部	埋没土中 ①細粒多、結晶片岩 ②ふつう③にふい橙	平行沈線により横位区画し、区画内にX字状モチーフを描く。	十三善提式
51	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細粒多 ②ふつう ③橙	波状口縁。折り返し状の肥厚口縁で、肥厚部に扇面状沈線を施す。部分的に下端を三角形に彫り取っている。肥厚部下は平行沈線によるモチーフを描く。	十三善提式
52	深鉢 口縁部	86.96m ①細粒少 ②ふつう ③赤褐	波状口縁。集合沈線により横位多段に区画し、区画内に扇面状の集合沈線を施す。沈線間にてきた三角形区画に印刷を施す。	十三善提式
53	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細粒少、結晶片岩 ②真好 ③明赤褐	大波状口縁。波頂下の部位で、縦位レンズ状や三角形の集合沈線を施し、印刷を施す。下は連弧状集合沈線と思われる。	十三善提式
54	深鉢 胴部	埋没土中 ①細粒少 ②真好 ③明赤褐	横位集合沈線により紋線帯を区画、紋線帯内には集合沈線により同心円状のモチーフを描く。沈線間に印刷を施す。	十三善提式
55	深鉢 胴部	埋没土中 ①細粒少、結晶片岩 ②真好 ③明赤褐	集合沈線により横位、同心円状のモチーフを描く。沈線間に印刷を施す。	十三善提式
56	深鉢 胴部	埋没土中 ①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	集合沈線により横位区画し、横位扇面状に集合沈線を施す。沈線間にてきた三角形区画に印刷を施す。	十三善提式
57	深鉢 胴部	86.93m ①細粒少 ②ふつう ③橙	弧状の集合沈線によってできた変形空間にレンズ状、三角形の印刷を施す。	十三善提式
58	深鉢 胴部	86.93m	No57と同一個体。	十三善提式
59	深鉢 底部	埋没土中	No57と同一。底部が張り出す彫形。	十三善提式
60	深鉢 胴部～ 底部	埋没土中 ①細粒少 ②ふつう ③橙	底部が少し張り出し、外反する彫形。推定底径10.8cm。集合沈線を横位多段に施し、区画内に横位扇面状の集合沈線を施す。沈線間に三角形や扇面状の印刷を施す。	十三善提式
61	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細粒少 ②真好 ③にふい赤褐	台形状の波状口縁。胴部が肥厚する。口縁に沿って集合沈線を施す。	真島式
62	深鉢 口縁部	86.95m ①細粒少 ②真好 ③明赤褐	台形状の波状口縁で内湾する。波頂部は筒状になる。結節浮線により幾何学状のモチーフを描き、上部に三角形の透かしを2ヶ所入れる。地紋に単純LR縦紋を施す。	真島式
63	深鉢 胴部	埋没土中 ①細粒少 ②真好 ③明赤褐	単純直し縄紋を施し、結節浮線を横位、縦位に貼付する。	前期末葉
64	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細粒少 ②ふつう ③黒褐	折り返し状の肥厚口縁。肥厚部下に沈線を斜格字目状に施す。	浮島・興津系

Ⅱ-7号住居 土器

番号	器種	出土位置		紋様の特徴等	備考
65	深鉢 胴部	埋設土中	①胎土黄褐色②色調③胎土	平行沈線により幾何学状のモチーフを描く。	浮島・興津系
66	深鉢 口縁部	埋設土中	①白色較多②ふつう③胎土	縦やかに外反する器形。口縁部に2本の刺突列をめぐらせ、以下はロッキングを施す。	浮島・興津系
67	深鉢 胴部	86.84m	②ふつう③胎土	横位ロッキングを施す。内外面研削。	浮島式
68	深鉢 胴部	埋設土中	①細線少②ふつう③赤褐色	横位ロッキングを施す。内面研削。	浮島式
69	深鉢 胴部	埋設土中	①細線少②ふつう③黄褐色	ロッキングを施し、沈線で囲む。内面研削。	興津式 Ⅱ-4住と接合
70	深鉢 胴部	埋設土中		N69と同一個体。	興津式
71	深鉢 口縁部	86.82m	①細線多②ふつう③胎土	胴部ですばまり、口縁部が外に固く器形。折り返し状の肥厚口縁で、下面に平截竹管内皮による刺突をめぐらす。段以下は単筋L R横線を横位施紋する。部分的に縦紋に直交させて、原形圧痕を施す。内面研削。	興津式
72	深鉢 口縁部	86.73m	①細線少②ふつう③ふい煙	折り返し状の肥厚口縁。2段確認できる。	浮島・興津系
73	深鉢 口縁部	埋設土中	①細線少②ふつう③ふい煙	折り返し状の肥厚口縁。	浮島・興津系
74	深鉢 胴部	埋設土中	①細線多②ふつう③細赤褐色	単筋L R、R Lの結束羽状横紋を施し、鋸歯状沈線を横位施紋する。	大木5式
75	深鉢 胴部	埋設土中	①細線少②ふつう③ふい黄褐色	集合沈線により、幾何学状モチーフを描く。集合沈線を施して、平行沈線で横位に囲んでいるようだ。	前期末～中期初
76	深鉢 胴部	埋設土中	①細線少、結晶片岩②ふつう③暗赤褐色	斜位の集合沈線を施して、鋸歯状沈線で囲む。	前期末～中期初
77	浅鉢 胴部	86.79m	①細線少②ふつう③黄褐色	肩以下の部位。外面研削。	前期後半
78	深鉢 口縁部	P 98内	①白色較多②ふつう③ふい黄褐色	縦やかに外反する器形。単筋R L横線を横位施紋し、平行沈線をまばらに施す。	前期後半
79	深鉢 口縁部	埋設土中	①細線少、余雲母②ふつう③明黄褐色	内削ぎの口唇部で、肥厚する。単筋L R横線を横位施紋する。	前期後半
80	深鉢 胴部	埋設土中	①細線少②ふつう③胎土	R L、L Rの結節横紋を横位施紋する。	前期後半 Ⅱ-4住と接合
81	深鉢 胴部	86.82m		N74と同一個体。	大木5式
82	深鉢 胴部	86.78m	①細線少②ふつう③胎土	R Lの結節横紋を横位施紋する。	前期後半
83	深鉢 胴部	1埋塞内	①細線多、結晶片岩②ふつう③胎土	無紋。調整による凹凸が著しい。	前期後半
84	深鉢 胴部	埋設土中	①細線少②ふつう③胎土	無紋。	前期後半
85	深鉢 胴部	P 5内	①細線少、長石②ふつう③胎土	無紋。厚手。	前期後半

Ⅱ-7号住居 石籠

番号	器種	出土位置	法量 (mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量 (mm, g)	石材	備考
86	石籠		長 12.3 幅 12.2 厚 2.3 重 0.2	黒曜石	諏訪産	87	石籠	埋設土中	長 13.8 幅 13.0 厚 2.2 重 0.3	黒曜石	諏訪産
88	石籠	埋設土中	長 10.2 幅 11.9 厚 2.8 重 0.2	黒曜石	諏訪産	89	石籠	埋設土中	長 12.1 幅 11.0 厚 2.5 重 0.2	黒曜石	諏訪産
90	石籠	埋設土中	長 15.0 幅 13.6 厚 2.5 重 0.3	黒曜石	諏訪産	91	石籠	埋設土中	長 15.1 幅 16.0 厚 2.8 重 0.4	黒曜石	諏訪産
92	石籠	埋設土中	長 16.4 幅 12.6 厚 3.1 重 0.3	黒曜石	諏訪産	93	石籠	埋設土中	長 14.2 幅 13.4 厚 2.5 重 0.4	黒曜石	諏訪産
94	石籠	埋設土中	長 19.5 幅 17.9 厚 3.1 重 0.6	黒曜石	諏訪産	95	石籠	埋設土中	長 19.0 幅 15.2 厚 4.0 重 0.8	チャート	
96	石籠	埋設土中	長 21.7 幅 18.4 厚 4.0 重 1.0	黒色安山岩		97	石籠	埋設土中	長 21.4 幅 14.4 厚 4.0 重 0.8	黒曜石	諏訪産
98	石籠	埋設土中	長 16.8 幅 15.0 厚 4.0 重 0.8	黒曜石	諏訪産	99	石籠	埋設土中	長 21.2 幅 16.6 厚 3.3 重 0.7	黒色頁岩	
100	石籠	埋設土中	長 18.1 幅 19.1 厚 3.1 重 0.8	黒曜石	諏訪産	101	石籠	埋設土中	長 27.0 幅 18.5 厚 4.6 重 1.5	黒色安山岩	
102	石籠	86.79m	長 31.1 幅 20.5 厚 4.1 重 1.5	黒曜石	和田産	103	石籠	埋設土中	長 26.1 幅 15.2 厚 4.5 重 1.1	チャート	

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-7号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
104	石蔵	埋没土中	長 22.4 幅 23.1 厚 4.1 重 1.4	埴貫頁岩		105	石蔵	埋没土中	長 26.4 幅 18.8 厚 6.2 重 2.1	チャート	未製品
106	石蔵	埋没土中	長 15.5 幅 14.3 厚 5.9 重 1.0	黒曜石	諏訪産 未製品	107	楔形石器	埋没土中	長 18.4 幅 15.3 厚 8.9 重 1.9	黒曜石	
108	楔形石器	埋没土中	長 22.0 幅 18.6 厚 11.3 重 3.4	黒曜石		109	楔形石器	埋没土中	長 31.2 幅 27.1 厚 11.1 重 8.9	チャート	
110	楔形石器	埋没土中	長 32.9 幅 24.5 厚 10.3 重 8.2	チャート		111	石鏃	86.78m	長 23.9 幅 17.1 厚 5.1 重 1.0	黒色安山 岩	
112	石鏃	埋没土中	長 32.3 幅 16.2 厚 6.9 重 2.1	黒色安山 岩		113	石鏃	埋没土中	長 37.4 幅 17.6 厚 6.0 重 3.4	黒色頁岩	
114	石鏃	P36内	長 34.0 幅 11.4 厚 10.2 重 2.0	黒曜石		115	石鏃	埋没土中	長 41.7 幅 21.3 厚 7.5 重 6.1	黒色安山 岩	
116	スクレイパー	埋没土中	長 30.5 幅 68.6 厚 5.9 重 13.3	黒色頁岩		117	スクレイパー	P28内	長 33.5 幅 52.6 厚 8.9 重 14.5	黒色頁岩	
118	スクレイパー	埋没土中	長 52.9 幅 85.7 厚 9.9 重 45.7	黒色頁岩		119	スクレイパー	86.89m	長 51.1 幅 74.8 厚 15.6 重 50.8	黒色頁岩	
120	スクレイパー	86.90m	長 60.7 幅 86.1 厚 21.3 重 103.5	黒色頁岩		121	スクレイパー	埋没土中	長 74.2 幅 55.2 厚 16.1 重 71.9	黒色頁岩	
122	スクレイパー	埋没土中	長 76.3 幅 36.9 厚 15.5 重 43.1	黒色安山 岩		123	打製石斧	86.75m	長 63.6 幅 34.3 厚 9.0 重 22.4	黒色頁岩	
124	打製石斧	86.80m	長 111.1 幅 65.4 厚 25.3 重 259.5	ホルン フェルス		125	石核	埋没土中	長 16.8 幅 17.9 厚 13.9 重 4.0	黒曜石	諏訪産
126	石核	埋没土中	長 17.0 幅 22.4 厚 7.8 重 2.3	黒曜石	諏訪産	127	石核	埋没土中	長 26.7 幅 20.1 厚 10.1 重 3.5	黒曜石	諏訪産
128	石核	P 3内	長 40.1 幅 22.5 厚 12.3 重 11.4	チャート		129	石核	埋没土中	長 31.3 幅 19.1 厚 12.8 重 6.7	チャート	
130	石核	埋没土中	長 26.6 幅 35.3 厚 15.5 重 10.6	チャート		131	石核	埋没土中	長 14.0 幅 29.2 厚 12.6 重 11.1	黒曜石	諏訪産
132	石核	86.98m	長 62.3 幅 64.9 厚 41.5 重 119.2	黒曜石	諏訪産	133	石核	埋没土中	長 18.6 幅 30.8 厚 11.2 重 4.9	黒曜石	諏訪産
134	原石	埋没土中	長 30.2 幅 16.3 厚 13.6 重 7.2	黒曜石	諏訪産	135	砥石	P25内	長 44 幅 40 厚 12 重 22	牛沢砂岩	
136	砥石	埋没土中	長 81 幅 21 厚 22 重 53	埴貫頁岩		137	砥石	埋没土中	長 88 幅 41 厚 16 重 55	流紋岩	
138	磨石	86.77m	長 86 幅 69 厚 42 重 388	粗粒輝石 安山岩		139	磨石	埋没土中	長 89 幅 84 厚 50 重 486	粗粒輝石 安山岩	
140	磨石	86.80m	長 94 幅 80 厚 37 重 439	緑輝岩		141	磨石	埋没土中	長 109 幅 91 厚 28 重 398	閃緑岩	
142	磨・凹石	86.82m	長 103 幅 81 厚 48 重 566	粗粒輝石 安山岩		143	台石	86.21m	長 241 幅 182 厚 165 重 9210	溶結凝灰 岩	P15内
144	台石	86.57m	長 319 幅 307 厚 147 重 12640	粗粒輝石 安山岩	P13内	145	珠状耳飾	86.96m	長 18 幅 9 厚 6 重 1.5	栗うろ石	?
146	石網	86.75m	長 117 幅 29 厚 9 重 53	黒色片岩							

Ⅱ-8号住居 土蔵

番号	器種	出土位置	特徴	備考	
1	深鉢 口縁~ 胴部	1号埋藏 炉体土器	①胎土②焼成③色調 ④形状	口径28.2cm。流紋口縁で、直線的に開く器形。口縁外側を肥厚させて幅広い沈線を施す。以下はR.L、L.Rの結束羽状襷を施し、鋸歯状赤漆層を貼付する。	大木5式
2	深鉢 胴部	2号埋藏 炉体土器	①編織少 ②ふつう ③明赤褐	やや乱雑に斜位の集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。	講談c式
3	深鉢 胴部	3号埋藏 炉体土器	①白色粒少②ふつう ③明赤褐	集合沈線による横帯構成。沈線間に斜位や矢羽状の集合沈線を充填抽絞する。	講談b式
4	深鉢 口縁~ 胴部	86.37~ 86.75m	①編織少 ②ふつう ③明赤褐	口縁が部分的に内湾する器形。口縁部紋様帯は、矢羽状集合沈線を挟み込ん集合沈線による横帯構成となる。以下は胴部紋様となり、レンズ状集合沈線など縦位展開する。口縁端部に刻みを施し、口縁の内湾する部分に2個一対の貼付紋を貼付する。	講談c式
5	深鉢 胴部~ 底部	86.59m	①編織少 ②ふつう ③にふい橙	球状の胴部に台がつく、いわゆる建胴形の器形。底径8.4cm。沈線により横位区画し、胴部上半は縦位、下半は横位の鋸歯状集合沈線を施す。沈線間のできる三角形の区画に印刷を施す。紋様の最下部は格子目状沈線を施し、台の部分は無紋となる。	十三番提式
6	深鉢 胴部	86.43m	①編織少 ②ふつう ③黒褐	集合沈線による横帯構成。	講談b式

Ⅱ-8号住居 土器		紋様の特徴等		備考
番号	器種 出土位置	①胎土色地色②色調 ③色		
7	深鉢 胴部	86.69m ①細砂少 ②良好 ③橙	横位集合沈線と弧状の集合沈線を施す。	講義b式
8	深鉢 口縁部	86.39m ①細砂少 ②良好 ③橙	キャリバー状の器形。波状口縁で、波頂部が内湾する。横位集合沈線を施し、波頂部に貼付紋を貼付する。内面研磨。	講義b-c式
9	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細砂多、結晶片岩 ②ふつう ③橙	平縁と思われるが、部分的に口縁部が内湾する器形を呈す。口縁部が縦く外反する。横位集合沈線を施し、その下に斜位の集合沈線を施す。平載竹管によるC字状刺突を施したボタン状貼付紋を貼付する。	講義b-c式
10	深鉢 口縁部	86.49m ①細砂少 ②ふつう ③にふい貴	口唇直下に刺突列をめぐらせ、横位集合沈線を施す。	講義c式
11	深鉢 口縁部	86.36m ①白色粒少②ふつう ③にふい貴	横位集合沈線を施し、口縁下に貼付紋を貼付する。	講義c式
12	深鉢 口縁部	86.61m ①細砂少 ②良好 ③橙	キャリバー状の器形。横位集合沈線で口縁部紋様帯を区画し、矢羽根状集合沈線を充填施す。貼付紋が貼付されていた痕跡が観察される。	講義c式
13	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂多、結晶片岩 ②ふつう ③にふい貴	矢羽根状沈線を挟んだ縦位集合沈線を施す。	講義c式
14	深鉢 胴部	86.52m ①細砂少 ②ふつう ③にふい貴	縦位区画、斜位の集合沈線を施す。	講義c式
15	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③橙	顕歯状集合沈線を挟んだ縦位集合沈線を施す。下層に胴部紋様帯下層を区画する横位沈線を調整される。	講義c式
16	深鉢 胴部	86.39m ①細砂少 ②ふつう ③橙	No15と同一側面。	講義c式
17	深鉢 胴部	86.83m ①細砂少 ②良好 ③にふい貴	紋様帯を区画する横位集合沈線と縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。横位沈線下にボタン状貼付紋を貼付する。	講義c式
18	深鉢 胴部	86.61～ 86.73m ①細砂少 ②ふつう ③にふい貴	縦位区画、レンズ状の集合沈線、斜格子目状の平行沈線を施す。地紋に無節L ₁ 縷紋を施す。	講義c式
19	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②ふつう ③にふい貴	集合沈線によるレンズ状区画に、斜格子目状の平行沈線を充填施す。	講義c式
20	深鉢 胴部	86.56m ①細砂少 ②ふつう ③橙	縦位区画、レンズ状集合沈線と斜格子目状の平行沈線を施す。	講義c式
21	深鉢 胴部	86.50～ 86.68m ①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	胴部下半で膨らみ、底部に向かってすぼまる部分。横位集合沈線で胴部紋様帯下層を区画。胴部紋様帯には縦位区画やレンズ状の集合沈線を施す。	講義c式 Ⅱ-34土と接合
22	深鉢 口縁部	86.49m ①細砂多、結晶片岩 ②良好 ③赤褐	口縁部が内湾する器形。口縁部に横位集合沈線を施して横載口縁部紋様帯とし、以下、胴部紋様帯が展開する。胴部の貼付紋は剥落しているが、口縁部、胴部紋様帯ともに貼付紋が貼付される。	講義c式
23	深鉢 口縁部	86.46m ①細砂少 ②ふつう ③赤褐	口縁部の貼付紋の部位。幅広い貼付紋で、縦位の平行沈線を2条並下させる。口縁部には平載竹管内皮の刺突が見られる。	講義c式
24	深鉢 底部	86.41m ①細砂少 ②ふつう ③にふい貴	球筒形の底部と思われる。屈曲部に胴部紋様帯を区画する横位集合沈線が見られる。底径8.0cm。	十三番提式
25	深鉢 底部	86.42m ①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐	小波状口縁で縦く外反する。地紋に単節R ₁ L縷紋を施し、集合沈線を顕歯状ないし変形状に施す。内面研磨。	浮島式
26	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②良好 ③橙	端部を用いたと思われる横載なロッキングと刺突列を多段にめぐらす。	浮島式
27	深鉢 胴部	86.65m ①細砂多、石英 ②ふつう ③暗赤褐	貝殻形圧痕、先端部の圧痕を施す。	浮島・興津系
28	深鉢 胴部	埋没土中 ①細砂少 ②良好 ③橙	刺突列を横位多段に施す。	興津式
29	深鉢 口縁部	86.40m ①細砂少 ②ふつう ③にふい貴	小波状口縁。縦やかに外反する口縁部で、口縁下に2条の刺突列をめぐらす。縦位に集合沈線を施した上から重ねて、横位に集合沈線を施す。	興津式
30	浅鉢 肩部	86.33m ①細砂多 ②ふつう ③暗赤褐	肩が張り出す器形。	前期後半
31	深鉢 胴部	86.56m ①白色粒多②ふつう ③橙	単節R ₁ L縷紋を横位施す。	前期後半
32	深鉢 胴部	86.51m ①細砂少、石英 ②ふつう ③赤褐	単節R ₁ L縷紋を横位施す。	前期後半
33	深鉢 口縁部	埋没土中 ①細砂多、結晶片岩 ②ふつう③にふい貴	口縁が部分的に内湾する器形。無紋。	講義b-c式
34	深鉢 胴部	埋没土中 ①白色粒多②ふつう ③橙	無紋。	前期後半
35	深鉢 胴部	86.64m ①細砂少 ②ふつう ③橙	無紋。内面研磨。	前期後半
36	深鉢 胴部	86.39m ①細砂多 ②ふつう ③赤褐	外反する器形。無紋。	前期後半
37	深鉢 胴部	86.49m ①細砂多、結晶片岩 ②ふつう ③明赤褐	横位平行沈線を施す。	前期後半

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-8号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
38	石蔵	埋設土中	長 15.3 幅 13.1 厚 4.2 重 0.5	黒曜石	諏訪産	39	石蔵	埋設土中	長 14.6 幅 13.7 厚 4.3 重 0.6	黒曜石	諏訪産
40	石蔵	埋設土中	長 18.1 幅 13.0 厚 5.4 重 0.9	黒曜石	諏訪産	41	石蔵	埋設土中	長 20.1 幅 13.9 厚 4.4 重 1.1	チャート	
42	石蔵	86.58m	長 25.1 幅 16.0 厚 3.6 重 0.8	黒曜石	諏訪産	43	石蔵	埋設土中	長 17.9 幅 13.6 厚 6.1 重 1.4	黒曜石	諏訪産 木製品
44	楔形石器	埋設土中	長 27.4 幅 33.9 厚 10.1 重 9.6	チャート		45	石蔵	埋設土中	長 28.8 幅 11.2 厚 5.4 重 1.6	黒色頁岩	
46	石蔵	86.44m	長 54.4 幅 18.9 厚 7.6 重 5.3	珪質頁岩		47	スクレイパー	86.51m	長 57.6 幅 45.1 厚 13.6 重 39.3	黒色頁岩	
48	スクレイパー	86.39m	長 85.6 幅 60.9 厚 17.9 重 83.3	黒色頁岩		49	スクレイパー	86.50m	長 55.0 幅 39.3 厚 12.4 重 63.2	黒色頁岩	
50	スクレイパー	埋設土中	長 42.9 幅 74.8 厚 11.8 重 40.8	黒色頁岩		51	打製石斧	埋設土中	長 61.8 幅 44.5 厚 11.3 重 36.6	黒色頁岩	
52	打製石斧	86.45m	長 62.3 幅 49.0 厚 22.6 重 77.6	黒色頁岩		53	打製石斧	86.65m	長 61.8 幅 66.8 厚 15.7 重 64.8	細粒輝石 安山岩	
54	石杖	86.42m	長 47.2 幅 44.8 厚 22.9 重 46.3	黒色安山岩		55	石杖	86.61m	長 66.8 幅 66.8 厚 25.0 重 133.5	黒色頁岩	
56	原石	86.66m	長 47.5 幅 33.3 厚 22.2 重 32.6	黒曜石	諏訪産	57	磨石	86.25m	長 52 幅 41 厚 39 重 105	粗粒輝石 安山岩	P 6内
58	磨石?	埋設土中	長 56 幅 36 厚 29 重 83	粗粒輝石 安山岩		59	磨・凹石	86.90m	長 97 幅 71 厚 36 重 361	粗粒輝石 安山岩	
60	台石	85.98m	長 361 幅 216 厚 148 重 13430	清結凝灰岩	P 1内						

Ⅱ-9号住居 土蔵

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 胴部 胴部	1号埋土 炉体土器	①細粒、白色粒少 ②良好 ③ふいべ	縦やかに外反しながら立ち上がる器形。口縁部に横位集合沈線を施し、以下は胴部紋様が展開する。胴部紋様帯は縦位区画線によって4分割され、レンズ状区画内にさらに上下2段のレンズ状紋を集合沈線により描く。幅狭な1区画はレンズ状紋が見れている。口縁部に大形なボタン状貼付紋を貼付する。	諏訪c式 9a号出土
2	深鉢 胴部	4号埋土 炉体土器	①細粒多 ②ふつう ③明赤褐色	胴部下半がくの字状に張り出す器形。肩曲部に横位集合沈線を施して胴部紋様帯下縁を区画。胴部紋様帯には縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。地紋に単距R L縄紋を施す。	諏訪c式 9a号出土
3	深鉢 口縁部	2号埋土 炉体土器	①細粒多 ②ふつう ③暗	胴部下縁部、口縁部が開く器形。横位集合沈線を施して棒状、ボタン状貼付紋を貼付する。	諏訪c式 9b号出土
4	深鉢 胴部	2号埋土 炉体土器	①細粒多 ②ふつう ③暗	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施し、全面に貼付紋を貼付する。器面の摩耗が著しく、ところどころ紋様が消滅している。	諏訪c式 9b号出土
5	深鉢 胴部	3号埋土 炉体土器	①細粒少 ②ふつう ③黒褐色	1条の沈線を垂下させて縦位区画。区画内は乱れた矢羽根状集合沈線を施す。	諏訪c式 9b号出土
6	深鉢 胴部	3号埋土 炉体土器		N5と同一個体。	諏訪c式 9b号出土
7	浅鉢 胴部	3号埋土 炉体土器	①細粒少、金雲母多 ②ふつう ③明赤褐色	外面研磨。	前期後半 9b号出土
8	深鉢 口縁～ 胴部	86.29～ 86.50m	①細粒少 ②ふつう ③ふいべ	大波状口縁で、頭部が屈曲する器形。集合沈線による横帯構成となり、沈線間に弧状、X字状、入組状の沈線を施す。肩曲部より下部には、地紋に単距R L縄紋を施す。	諏訪b式 9a・9b号出土
9	深鉢 胴部	埋設土中 Ⅱ-1別	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐色	胴部上位で屈曲をもち、一度すばまて開く器形。口縁部に横位集合沈線を施すのみで、紋様帯内は器形に関係なく縦位に展開する。	諏訪c式
10	深鉢 胴部	86.39～ 86.45m	①細粒少 ②良好 ③ふいべ	紋様帯を縦位に分割し、格子目状水平沈線帯と弧状を中心とした集合沈線帯を交互に3帯ずつ配す。明確な縦位区画線は見られない。上位に横位水平沈線が見られ、区画線の役割の可能性が考えられる。その上位には格子目状水平沈線が観察される。手軌竹管内皮による刺突を施したボタン状貼付紋を全面に貼付する。	諏訪c式 9b号出土
11	深鉢 口縁～ 胴部	86.36～ 86.70m	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐色	胴部下半から縦やかに底部にすばまる器形。紋様帯を縦位に分割し、斜格子目状水平沈線や弧状、X字状集合沈線を施す。上下の分帯は見られるが、2段重畳させる。全面に貼付紋を貼付する。口唇部は2個一対のやや大形な貼付紋がおおむら4単位に配置されるようである。	諏訪c式 9b号出土
12	深鉢 口縁部	86.51m	①細粒少 ②良好 ③ふいべ	波状口縁で、口縁が内折する。集合沈線によるモチーフを描く。	諏訪b式 9a号出土
13	深鉢 口縁部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐色	波状口縁で口縁が開く器形。集合沈線による横帯構成。内面研磨。	諏訪b式
14	深鉢 口縁部	埋設土中	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐色	集合沈線による横帯構成。地紋に無距L R縄紋を横位施す。口唇部にも縄紋を施す。	諏訪b式

Ⅱ-9号住居 土蔵

番号	器様	出土位置	紋様の特徴等	備考	
15	深鉢 胴部	86.41m	①胎土の焼成②色調 ③明赤釉	波状口縁の波頂部下の部位。口縁に沿って三角形の集合沈線を描く。	講読b式 9a号出土
16	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少②ふつう ③青	集合沈線による横帯構成。地紋に単節R L縄紋を横位施す。	講読b式
17	深鉢 胴部	86.23m	①細砂少②良好 ③明赤釉	集合沈線による横帯構成。沈線間に斜位の集合沈線を充填施す。	講読b式 9b号出土
18	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂多②やや不具 ③明赤釉	集合沈線による横帯区画内の紋様と考えられる。	講読c式
19	深鉢 胴部	86.29m	①細砂少②ふつう ③にふい貴	集合沈線による横帯構成。	講読b式 9b号出土
20	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少②ふつう ③赤釉	集合沈線による横帯構成。	講読b式
21	深鉢 胴部	86.40m	①細砂少②ふつう ③暗赤釉	縦やかに外反する器形。集合沈線による横帯構成。地紋に無節L r縄紋を施す。	講読b式 9b号出土
22	深鉢 胴部	86.42 ~ 86.57m	①細砂多、結晶片岩 ②ふつう③青	外反する器形。集合沈線による横帯構成。地紋に単節R L縄紋を施す。	講読b式
23	深鉢 底部	86.41m	①細砂少②ふつう ③明赤釉	やや底部が張り出す器形。底径8.5cm。集合沈線による横帯構成。地紋に単節R L縄紋を施す。	講読b式 9a号出土
24	深鉢 底部	86.57m	①細砂少②ふつう ③にふい貴	やや底部が張り出す器形。底径9.2cm。集合沈線による横帯構成。	講読b式 9a号出土
25	深鉢 底部	86.42m	①細砂少②ふつう ③青	やや底部が張り出す器形。底径9.0cm。横位集合沈線を描く。	講読b式 9b号出土
26	深鉢 底部	86.44m	①細砂少②ふつう ③暗赤釉	推定底径8.1cm。横位集合沈線を描く。	講読c式 9a号出土
27	深鉢 口縁部	86.23m	①細砂少②ふつう ③青	波状口縁の突起部分。頸縁に沿って集合沈線を描き、矢羽根状集合沈線を充填施す。	講読c式 9b号出土
28	深鉢 口縁部	86.26m	①細砂少②ふつう ③にふい貴	口縁部に横位集合沈線を描き、以下、胴部紋様が展開する。口唇直下に刺突列をめぐらせ、貼付紋を貼付する。	講読c式 9b号出土
29	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少②ふつう ③にふい貴	口縁部に横位集合沈線を描き、以下、矢羽根状集合沈線を描く。補修孔あり。	講読c式
30	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少②ふつう ③青	横位集合沈線を描き、貼付紋を貼付する。	講読c式
31	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少②ふつう ③青	横位集合沈線を描き、口唇部に大・小の貼付紋を貼付する。	講読c式
32	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少②良好 ③青	斜位に集合沈線を描き、貼付紋を貼付する。	講読c式
33	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少②良好 ③明赤釉	縦位に集合沈線を描き、貼付紋を貼付する。	講読c式
34	深鉢 胴部	86.63m	①細砂少②ふつう ③にふい貴	縦位に集合沈線を描き、貼付紋を貼付する。	講読c式 9b号出土
35	深鉢 胴部	86.24m	①細砂少②ふつう ③青	斜位に集合沈線を描き、貼付紋を貼付する。	講読c式 9b号出土
36	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少②良好 ③にふい貴	集合沈線、平行沈線を斜位に施し、貼付紋を貼付する。	講読c式
37	深鉢 胴部	86.24m	①細砂少②ふつう ③黒	縦位、レンズ状の集合沈線を描き、ボタン状貼付紋を貼付する。	講読c式 9b号出土
38	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂多②ふつう ③赤釉	口縁下から縦位鋸歯状に集合沈線を描く。	講読c式
39	深鉢 胴部	86.66m	①細砂少②ふつう ③青	斜位、斜格子目状に平行沈線を描く。	講読c式 9b号出土
40	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少②ふつう ③にふい貴	波状口縁。単節L R縄紋を施し、波頂部に貼付紋を貼付する。内面研磨。	講読c式
41	深鉢 口縁部	86.60m	①細砂多②ふつう ③にふい貴	縦やかに外反しながら立ち上がり、口縁部は若干内湾する。無紋だが、調整による形痕が顕著である。貼付紋を貼付する。	講読c式 9b号出土
42	深鉢 胴部	埋没土中		No.43と同一個体。	下鳥式
43	深鉢 胴部	86.27 ~ 86.29m	①細砂少②ふつう ③にふい貴	屈曲する器形。屈曲部に横位2条の結節浮線をめぐらせて紋様帯を区画。上位の紋様帯には横位集合沈線を描き、結節浮線による幾何学状モチーフを描く。下位の紋様帯には上位からの流れの横位集合沈線が残り、以下にレンズ状集合沈線を描く。さらに縦位の結節浮線と2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。	下鳥式 9b号出土
44	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少②ふつう ③にふい貴	縦位、レンズ状の集合沈線を描き、3条の結節浮線を縦位に貼付する。	下鳥式
45	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少②ふつう ③にふい貴	縦位、斜位に集合沈線を描き、3条の結節浮線を縦位に貼付する。	下鳥式

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-9号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
46	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③赤褐色	集合沈線により、同心円状のモチーフを描く。	下局式?
47	深鉢 胴部	86.30m	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	斜格子目状に細沈線を施す。	浮島式 9b号出土
48	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	三角形の刺突列をめぐらせ、以下に細沈線を横位に施す。施線後の縦位方向の調整のため、沈線が途切れている。	浮島式
49	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③褐色	縦やかに外反する器形。ロッキングを横位に施したのち、横位の沈線を施す。 内面研磨。	興津式
50	深鉢 胴部	埋設土中		N69と同一個体。	興津式
51	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	ロッキングと貝殻の先端を用いた背圧痕を施す。	興津式
52	深鉢 胴部	86.54m	①細砂少 ②良好 ③にぶい褐色	手載竹管内皮による刺突列と貝殻の先端を用いた背圧痕を横位にめぐらせ、以下は無紋となる。無紋部は研磨される。	興津式 9a号出土
53	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③にぶい黄褐色	手載竹管内皮による刺突列をめぐらせ、以下は無紋となる。	興津式
54	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③褐色	小波状口縁で縦やかに外反する器形。横位平行沈線により区画。口縁部に縦位短沈線を施し、区画紋下には刺突列をめぐらす。内面研磨。	興津式
55	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③黄褐色	波状口縁で若干外反する。沈線で区画し、口縁部に縦位の短沈線を施す。口唇部に筋目を付す。	興津式
56	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	波状口縁。口縁に沿って集合沈線を施し、断面状赤浮線を貼付する。口縁下に2条の結節浮線をめぐらせており、下局式の特徴も見える。	大木5式
57	深鉢 胴部	86.72m	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	縦位集合沈線を施し、断面状赤浮線を貼付する。	大木5式 9b号出土
58	浅鉢 胴部	埋設土中	①細砂少、金雲母 ②良好 ③明赤褐色	段を有する。内外面研磨。器壁4mmと薄い。	前期後半
59	浅鉢 胴部	86.49m		N58と同一個体。上端に段の痕跡が見られる。内外面研磨。	前期後半 9b号出土
60	浅鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③赤褐色	くの字状に口縁が立ち上がる。外面研磨。	前期後半
61	浅鉢 胴部	埋設土中		N60と同一個体。肩が張り出す器形。段を有する。	前期後半
62	浅鉢 胴部	86.26m	①細砂少 ②ふつう ③赤褐色	肩部下の部位。段を有する。内外面研磨。	前期後半 9b号出土
63	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂多 ②ふつう ③にぶい褐色	縦やかに外反する器形。折り返しによる段が3段認められる。単筋LR縄紋を横位に施す。	前期後半
64	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少、長石 ②ふつう③にぶい褐色	無筋LR縄紋を縦位に施す。	前期後半
65	深鉢 胴部	86.69m	①細砂多 ②ふつう ③にぶい黄褐色	単筋LR縄紋を施す。	前期後半 9b号出土
66	深鉢 胴部	86.32m	①細砂少 ②良好 ③暗赤褐色	縦やかに外反する器形。単筋LR縄紋を施す。	前期後半 9b号出土
67	深鉢 底部	86.65m	①細砂少 ②ふつう ③褐色	直立する底部。推定底径9.4cm。無筋LR縄紋を横位に施す。	前期後半 9a号出土
68	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂多 ②良好 ③にぶい黄褐色	無紋。	前期後半
69	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③褐色	無紋。	前期後半
70	深鉢 胴部	86.26m	①細砂少 ②良好 ③にぶい黄褐色	無紋。外面研磨。	前期後半 9b号出土
71	深鉢 底部	86.47m	①細砂少 ②ふつう ③にぶい褐色	直立する底部。無紋。外面研磨。	前期後半 9b号出土

Ⅱ-9号住居 石器

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
72	石鏃	埋設土中	長 9.6 幅 11.5 厚 2.5 重 0.2	黒曜石	調査産	73	石鏃	86.24m	長 18.7 幅 17.0 厚 5.2 重 1.1	チャート	
74	楔形石器	埋設土中	長 18.8 幅 16.5 厚 10.1 重 2.3	黒曜石		75	楔形石器	86.30m	長 21.3 幅 23.9 厚 9.5 重 3.8	黒曜石	
76	スクレイパー	86.31m	長 48.9 幅 76.2 厚 14.1 重 47.9	黒色頁岩		77	スクレイパー	86.46m	長 51.6 幅 84.0 厚 11.5 重 45.1	黒色頁岩	
78	スクレイパー	埋設土中	長 42.2 幅 17.1 厚 5.4 重 3.0	チャート		79	スクレイパー	86.33m	長 62.9 幅 64.4 厚 12.9 重 50.7	黒色頁岩	

Ⅱ-9号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
80	スクレイパー	86.43m	長 60.4 幅 21.0 厚 9.9 重 9.0	黒色頁岩		81	スクレイパー	埋設土中	長 93.0 幅 38.4 厚 17.3 重 43.7	黒色頁岩	
82	スクレイパー	埋設土中	長 98.0 幅 56.8 幅 21.0 重 136.4	黒色頁岩		83	打製石斧	86.21m	長 96.5 幅 50.6 厚 12.0 重 51.5	黒色頁岩	
84	打製石斧	埋設土中	長 48.3 幅 35.5 厚 15.6 重 25.6	珧質頁岩		85	打製石斧	86.75m	長 113.8 幅 59.9 厚 29.5 重 223.0	黒色頁岩	
86	打製石斧	86.79m	長 216.0 幅 82.2 厚 26.9 重 579.0	ホルンフェルス		87	石杖	埋設土中	長 20.8 幅 28.4 厚 12.4 重 7.3	黒曜石	諏訪産
88	磨石	埋設土中	長 58 幅 50 厚 40 重 43	粗粒輝石 安山岩		89	磨石	86.07m	長 93 幅 84 厚 59 重 631	溶結凝灰 安山岩	P 1内
90	磨石	86.50m	長 34 幅 36 厚 29 重 164	アブライト		91	磨石	埋設土中	長 78 幅 70 厚 40 重 349	粗粒輝石 安山岩	
92	磨石	埋設土中	長 85 幅 66 厚 32 重 278	粗粒輝石 安山岩		93	磨・敲石	埋設土中	長 37 幅 31 厚 17 重 28	粗粒輝石 安山岩	
94	磨・敲石	86.37m	長 89 幅 77 厚 58 重 557	石英閃緑 岩		95	磨・敲石	埋設土中	長 155 幅 56 厚 32 重 332	粗粒輝石 安山岩	
96	凹石	86.24m	長 96 幅 95 厚 53 重 509	粗粒輝石 安山岩		97	白石 多孔石	86.28m	長 202 幅 103 厚 105 重 2515	粗粒輝石 安山岩	

Ⅱ-10号住居 土蔵

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 口縁部	埋設土中	①細粒少 ②良好 ③にふい塵	波状口縁で口縁部が内折する。集合沈線により幾何学状モチーフを描く。	講義b式
2	深鉢 胴部	埋設土中	①白色粒多②ふつつ ③塵	斜位、横位の集合沈線を施す。	講義b式
3	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつつ ③にふい塵	縦位区画の集合沈線と斜格子目状の平行沈線を施す。	講義c式
4	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつつ ③にふい塵	胴部下半の部位。縦位扇面状に集合沈線を施し、下端を横位集合沈線で潤す。	講義c式
5	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②良好 ③塵	集合沈線により、幾何学状モチーフを描く。	十三書提提?
6	深鉢 口縁部	埋設土中	①白色粒多②ふつつ ③にふい塵	縦やかに外反する器形。単筋L・R縄紋を横位施設する。	前期後半
7	深鉢 胴部	埋設土中	①白色粒多 ②良好 ③にふい塵	単筋R・L縄紋を施設する。	前期後半
8	深鉢 胴部	埋設土中	①細粒少 ②ふつつ ③塵	無筋L・r縄紋を横位施設する。	前期後半

Ⅱ-10号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
9	石蔵	P 5内	長 19.2 幅 13.7 厚 3.6 重 0.7	チャート		10	スクレイパー	埋設土中	長 59.7 幅 64.6 厚 13.6 重 54.0	黒色頁岩	
11	打製石斧	埋設土中	長 60.6 幅 58.1 厚 18.1 重 78.9	黒色頁岩		12	打製石斧	床上14cm	長 65.0 幅 54.1 厚 19.4 重 71.4	黒色頁岩	
13	打製石斧	床上11cm	長 69.3 幅 54.6 厚 20.5 重 60.3	黒色頁岩		14	石杖	床上6cm	長 42.5 幅 34.2 厚 23.0 重 32.9	黒曜石	諏訪産
15	原石	床上13cm	長 46.5 幅 38.7 厚 15.9 重 27.5	黒曜石	諏訪産						

Ⅱ-1号住居 土蔵

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 胴部	1号埋裏 和体土器	①細粒少 ②ふつつ ③にふい塵	胴部下半に影らみもち、底部がすばまる器形。影らみ部下に横位集合沈線を施して胴部紋様帯下端を区画。胴部紋様帯には縦位区画やレンズ状集合沈線を施す。	講義c式
2	深鉢 胴部	床上21cm	①細粒少 ②ふつつ ③赤褐色	集合沈線による横帯構成。沈線間に矢羽根状集合沈線を充填施設する。	講義b式
3	深鉢 胴部	床上15cm	①細粒少 ②ふつつ ③塵	斜位、横位の集合沈線を施す。	講義b式
4	深鉢 胴部	床上15cm	①細粒少 ②ふつつ ③明赤褐色	横位集合沈線を施す。	講義b式
5	深鉢 口縁部	床上10cm	①細粒少 ②ふつつ ③塵	口縁部に横位集合沈線を施し、以下、斜位の集合沈線を施す。	講義c式
6	深鉢 胴部	床上9cm	①細粒少 ②ふつつ ③暗赤褐色	縦位区画の部位。矢羽根状集合沈線を挟んだ縦位集合沈線を施す。	講義c式

II 縄紋時代の調査

IV-1号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
7	深鉢 胴部	床上11cm	①白色粘土②ふつう ③にぶい黄褐色	斜位の集合沈線を施し、2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。貼付紋には半軌竹管によるC字状の刺突が施される。	講議c式
8	深鉢 胴部	床上14cm	①細砂少 ②ふつう ③黄褐色	横位集合沈線で胴部紋様帯下縁を区画。胴部紋様帯には縦位区画、矢羽根状集合沈線を施す。区画紋との境に貼付紋を貼付する。	講議c式
9	深鉢 底部	床上20cm	①細砂少 ②ふつう ③黄褐色	推定底径8.0cm。斜位に平行沈線を施し、底部付近にボタン状貼付紋を貼付する。	講議c式
10	深鉢 口縁部	床上14cm	①細砂少 ②ふつう ③赤褐色	横位扇歯状に集合沈線を施し、短い結節浮線を口縁下に3条縦位に、胴部には斜位に貼付する。	下鳥式
11	深鉢 胴部	床上11cm		No10と同一個体。	下鳥式
12	深鉢 底部	床上23cm	①細砂多 ②良好 ③赤褐色	推定底径14.6cm。横位扇歯状と横位の集合沈線を施し、沈線間にできる三角形状区画に印刷を施す。	十三書様式
13	深鉢 口縁部	床上11cm	①細砂少 ②良好 ③明赤褐色	小波状口縁で、口縁部が強く外反する。貝殻散線紋を横位帯状に施す。口縁端部に刺みを付す。内面研磨。	興津式
14	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	横位平行沈線で区画し、区画内に波状の沈線を施す。	興津式
15	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	貝殻散線紋を施し、沈線で帯状に区画する。	興津式
16	浅鉢 口縁部	床上7～11cm	①細砂多 ②ふつう ③赤褐色	口縁部が強くくの字状に屈曲する器形を呈す。	前期後半
17	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	縦やかに外反する器形。単節R L縄紋を横位施す。	前期後半
18	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③黄褐色	無紋。	前期後半

IV-1号住居 石鏝

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
19	石鏝	埋設土中	長 13.0 幅 16.1 厚 2.2 重 0.3	黒曜石	諏訪産	20	石鏝	埋設土中	長 25.0 幅 14.1 厚 8.6 重 2.3	黒曜石	
21	スクレイパー	床上4cm	長 48.8 幅 103.8 厚 10.7 重 45.8	黒色頁岩		22	スクレイパー	床上12cm	長 52.6 幅 82.8 厚 11.3 重 41.9	黒色頁岩	
23	スクレイパー	床上2cm	長 71.3 幅 52.6 厚 17.5 重 78.2	黒色頁岩		24	打製石斧	床上8cm	長 78.4 幅 45.4 厚 17.6 重 66.1	ホルンフェルス	
25	打製石斧	床上8cm	長 105.4 幅 46.0 厚 22.2 重 96.2	黒色頁岩		26	磨・敲石	床上9cm	長 89 幅 60 厚 48 重 349	粗粒輝石 安山岩	

IV-2号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 底部	床上7cm	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	底径15.9cm。底部から直立して、外反する器形を呈す。地紋に無節L r縄紋を横位施す。斜位、横位の集合沈線を施す。	講議b式
2	深鉢 埋設土中	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	口縁部が強く内湾する器形。湾曲部上には矢羽根状集合沈線を施し、下位には横位集合沈線を施す。耳たぶ状、棒状、ボタン状などのさまざまな貼付紋を貼付する。横長の貼付紋には半軌竹管内壁による刺突が施される。	講議c式 IV-62土と接合
3	深鉢 口縁～ 底部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③赤褐色	胴部で屈曲する器形。屈曲部を境に口縁部と胴部の紋様帯に区画され、口縁部紋様帯には横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。口唇部は残っていないが、内湾する痕跡が観察される。胴部紋様帯は集合沈線で縦位区画し、斜格子目状平行沈線を施す。口縁部紋様帯に貼付される貼付紋に加えて、内形刺突を施したボタン状貼付紋を全面に貼付する。	講議c式
4	深鉢 胴部	床上4cm	①細砂少 ②ふつう ③黄褐色	集合沈線による横帯構成。地紋に単節R L縄紋を施す。	講議b式
5	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③赤褐色	横位集合沈線を施す。	講議b式
6	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③明赤褐色	口縁が内湾する器形。縦位扇歯状の集合沈線を施して、貼付紋を横位に貼付する。口縁端部に刺みを付す。	講議c式
7	深鉢 胴部	埋設土中	①白色粘土 ②良好 ③明赤褐色	口縁部紋様帯と胴部紋様帯の境の部位。横位集合沈線と縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。横位集合沈線上に貼付紋が剥落した痕跡が観察される。無紋部に単節R L縄紋を施す。内面研磨。	講議c式
8	深鉢 胴部	埋設土中		No7と同一個体。	講議c式
9	深鉢 胴部	床上7cm	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	横位集合沈線により紋様帯を区画。上位には斜位の集合沈線を施す。下位にはレンズ状集合沈線を施し、斜格子目状平行沈線を施す。	講議c式
10	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	口縁に近い部位と思われ、器壁が急に薄くなる。横位集合沈線を施し、以下に縦位、斜位の集合沈線を施す。	講議c式

M-2号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③着色	紋様の特徴等	備考
11	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい	斜位の集合沈線を施す。	講義c式
12	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい	集合沈線によるレンズ状区画に矢羽根状集合沈線を充満施す。	講義c式
13	深鉢 胴部	床上3cm	①細砂少 ②ふつう ③浅黄緑	縦位、レンズ状、弧状の集合沈線を施す。	下島式
14	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄緑	頂部で屈曲し、緩やかに外反する器形。横位集合沈線を施す。	興洋式?
15	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③橙	単筋L R縞紋を横位施す。	前期後半
16	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少、白色紋 ②ふつう ③明赤褐	無紋。	前期後半
17	土俵	床上21cm	①細砂少、白色紋 ②ふつう③にぶい	長さ6.5cm、幅4.0cm、厚さ1.6cm。頂部と思われる部分を除き、縞線が肥厚する。	前期後半

M-2号住居 石器

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
18	磨・敲石	床上5cm	長 111 幅 90 厚 49 重 720	粗粒輝石 安山岩	

M-3号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③着色	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 口縁～ 胴部	86.56～ 86.60m	①細砂少 ②ふつう ③橙	底部がすぼまり、緩やかに開く器形。口唇直下に刺突列をめぐらす。集合沈線で縦位区画し、斜位、斜格子目状平行沈線を充満施したレンズ状紋を施す。紋様帯下端を画す区画紋は見られず、底部付近は無紋となる。	講義c式
2	深鉢 胴～底	86.57m	①細砂少 ②ふつう ③橙	菱形ないしX字状に集合沈線を施し、全面に貼付紋を貼付する。	講義c式
3	深鉢 口縁～ 胴部	86.57m	①細砂少 ②ふつう ③にぶい	球状の器形。推定口径9.3cm。口縁部がくの字状に屈曲する。斜位に集合沈線を施すが、特に意匠を意識しているようには見えない。口縁部に刺突列を施したボタン状貼付紋と短めの棒状貼付紋を貼付する。口唇部にも平行沈線を施す。	講義c式 興洋式の要素が強い
4	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②良好 ③橙	胴部下半に膨らみをもち、頂部でややすぼまって緩やかに開く器形。全面に、粘土がめくれあがるような刺突を施す。	興洋式
5	深鉢 口～胴	86.49m	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	推定口径34cm。直線的に開く器形。無紋。	前期後半
6	鉢 底部	86.62m	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄緑	推定口径12.8cm。無紋。内外面磨滑。	前期後半
7	深鉢 胴部	86.43m	①白色粒少②ふつう ③にぶい黄緑	集合沈線による横帯構成。地紋に単筋L R縞紋を横位施す。	講義b式
8	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄緑	集合沈線による横帯構成。横位沈線間に斜位の沈線を施す。	講義b式
9	深鉢 胴部	86.49m	①細砂少 ②ふつう ③にぶい	横位、弧状の集合沈線を施す。	講義b式
10	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	小波状口縁で波頂部に対向する抉り込みを入れ、内湾させる。口唇直下に刺突列を施し、以下は集合沈線を施す。	講義b～c式
11	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄緑	口縁部に隆線をめぐらせて無紋帯を形成。以下、横位、斜位の集合沈線を施す。	講義c式
12	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③橙	胴部下半の部位。縦位区画、斜位、側面斜位の集合沈線を施す。	講義c式
13	深鉢 胴部	86.42m	①細砂少 ②ふつう ③にぶい	レンズ状に集合沈線を施す。	講義c式
14	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③橙	開く器形で、口縁部が内湾する。横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。口唇部にも斜位の沈線を施して、貼付紋を貼付する。	講義c式
15	深鉢 胴部	86.47m	①細砂少 ②ふつう ③橙	くの字状に内折する器形。屈曲部に横位集合沈線を施して、2個一対のボタン状貼付紋を貼付。横位集合沈線下には、矢羽根状集合沈線を施す。	講義c式
16	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄緑	横位沈線で紋様帯を区画。レンズ状集合沈線を施す。区画紋下にボタン状貼付紋を貼付する。	講義c式
17	深鉢 底部	86.51m	①細砂少 ②良好 ③にぶい	推定口径10.2cm。斜位に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式
18	深鉢 胴部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	平行沈線をやや乱雑に斜格子目状に施す。多くは平行する一方しか施紋されない。	講義c式
19	深鉢 胴部	86.58m	①細砂少 ②ふつう ③橙	縦位、斜位にやや乱雑に集合沈線を施す。	講義c式
20	深鉢 口縁部	埋設土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄緑	単筋L R縞紋を横位施し、ボタン状貼付紋を貼付する。	講義c式

II 縄紋時代の調査

N-3号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
21	深鉢 口縁部	86.50m	①細砂少 ②良好 ③にぶい黄緑	波状口縁。地紋に集合沈線を施し、結節浮線による渦巻状モチーフを描く。	下局式
22	深鉢 口縁部	86.50 ~ 86.52m	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	波状口縁で関り器形。地紋に横位集合沈線を施し、波節下部に結節浮線による渦巻紋を大きく描く。モチーフ間には2個一対のボタン状貼付紋を施す。補修孔あり。	下局式
23	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③黄	地紋に横位集合沈線を施し、結節浮線により左右対称の渦巻紋を描く。内面研磨。	下局式
24	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄	地紋に横位集合沈線を施し、結節浮線によりレンズ状などの幾何学状モチーフを描く。ボタン状貼付紋を施す。	下局式
25	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	波状口縁で口縁部が肥厚する。集合沈線を横位、鋸歯状に施し、沈線間の三角形状区画に印刷を施す。口縁の肥厚部に結節凹線を2条施す。	十三善提式
26	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③黄	貝殻縁線を横位に押し引く。	浮島・興津系
27	深鉢 口縁部	86.48m	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	折り返し状の肥厚口縁。全面にロッキングを施す。内面研磨。	浮島式
28	深鉢 口縁部	86.48m	①細砂多 ②ふつう ③明赤褐	縦やかに外反する器形。折り返し状口縁で幅広い肥厚部をつくり、無紋帯とする。肥厚部下には単筋L縄紋を横位施し、横位鋸歯状の沈線を2条施す。	興津式
29	浅鉢 胴部	86.45m	①細砂少 ②良好 ③赤褐	明確な屈曲をもたない器形。外面研磨。	前期後半
30	深鉢 口縁部	86.47 ~ 86.49m	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄	胴部ですばまり、縦く外反する器形。無筋L縄紋を斜位に施紋する。口唇部にも施紋。	前期後半
31	深鉢 口縁部	86.51m	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄	小波状口縁で胴部がややすばまる器形。単筋L縄紋を横位施紋する。補修孔あり。	前期後半
32	深鉢 埋没土中		①細砂少 ②良好 ③明赤褐	縦く外反する器形。単筋L縄紋を横位施紋する。	前期後半
33	深鉢 胴部	86.49m	①細砂少 ②良好 ③にぶい黄	無筋L縄紋を斜位に施紋する。部分的に原沈線を重ねて施紋する。	前期後半
34	深鉢 底部	86.64m	①細砂多 ②ふつう ③黄	直立する器形。底径9.3cm。無紋。	前期後半

N-3号住居 石器

番号	器種	出土位置	法量 (mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量 (mm, g)	石材	備考
35	石鏃	埋没土中	長 12.9 幅 15.5 厚 3.3 重 0.6	黒曜石	諏訪産	36	石鏃	埋没土中	長 14.1 幅 16.4 厚 3.1 重 0.5	黒曜石	諏訪産
37	石鏃	埋没土中	長 17.5 幅 16.0 厚 3.8 重 0.7	チャート		38	石鏃	86.52m	長 18.1 幅 13.9 厚 3.5 重 0.6	黒曜石	諏訪産
39	石鏃	86.32m	長 19.8 幅 17.3 厚 3.8 重 0.9	黒曜石	諏訪産	40	石鏃	埋没土中	長 22.1 幅 11.5 厚 3.3 重 0.5	チャート	
41	楔形石器	埋没土中	長 21.7 幅 19.6 厚 5.5 重 1.7	黒曜石		42	楔形石器	埋没土中	長 20.9 幅 13.4 厚 8.7 重 2.1	黒曜石	
43	石鏃	P3内	長 23.5 幅 17.9 厚 5.5 重 1.7	黒曜石		44	スクレイパー	86.53m	長 48.7 幅 57.2 厚 11.5 重 23.8	黒色頁岩	
45	スクレイパー	86.62m	長101.0 幅 90.1 厚 25.3 重231.2	ホルンフェルス		46	スクレイパー	埋没土中	長 75.4 幅 48.1 厚 14.2 重 52.6	黒色頁岩	
47	打製石斧	86.53m	長 50.4 幅 73.6 厚 10.4 重 43.5	粗粒輝石 安山岩		48	打製石斧	埋没土中	長 76.7 幅 53.1 厚 17.0 重 63.7	ホルンフェルス	
49	打製石斧	埋没土中	長 76.7 幅 65.0 厚 16.1 重 77.3	ホルンフェルス		50	石核	86.40cm	長 19.9 幅 57.5 厚 17.9 重 19.5	黒曜石	諏訪産
51	石核	埋没土中	長 74.7 幅 87.2 厚 39.7 重304.5	黒色安山岩		52	原石	埋没土中	長 24.0 幅 12.3 厚 11.5 重 2.7	黒曜石	諏訪産
53	原石	埋没土中	長 38.5 幅 52.8 厚 39.6 重 93.1	黒曜石	諏訪産	54	磨石	埋没土中	長 116 幅 60 厚 36 重 316	粗粒輝石 安山岩	
55	磨石	埋没土中	長 73 幅 58 厚 39 重 235	粗粒輝石 安山岩		56	磨・凹石	86.65m	長 82 幅 59 厚 63 重 335	粗粒輝石 安山岩	
57	凹石	86.54m	長 108 幅 82 厚 73 重 753	角閃石 安山岩		58	凹・敲石	埋没土中	長 96 幅 66 厚 44 重 292	粗粒輝石 安山岩	
59	凹・敲石	86.58m	長 111 幅 86 厚 43 重 403	粗粒輝石 安山岩		60	台石 多孔石	86.66m	長 162 幅 112 厚 43 重 712	粗粒輝石 安山岩	
61	多孔石	86.39m	長 237 幅 145 厚 107 重 4088	粗粒輝石 安山岩		62	多孔石	埋没土中	長 173 幅 118 厚 102 重 2705	溶結凝灰 岩	酸熱

E-1号住居 土籍

番号	寄棟 出土位置	①胎土(白焼成)②色調 ①細砂少 ②ふつう ③にふい黄塵	紋様の特徴等	備考	
1	深鉢 胴部	埋没土中	屈曲する器形。地紋に単筋LR縄紋を施し、横位集合沈線を施す。	深織り式	
2	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③橙	連続状集合沈線を施す。	十三善提式
3	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③橙	横位集合沈線により紋様帯を区画。上位に曲線状、下位に斜位の集合沈線を施す。	十三善提式
4	深鉢 胴部	床上2cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	横位弧状の集合沈線を施す。	十三善提式
5	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②真好 ③明赤釉	斜位の集合沈線を施す。矢羽根状ないし扇面状になると思われる。破片下層に区画紋と思われる横位沈線が確認できる。	十三善提式
6	深鉢 胴部	床上 4～9cm	①結晶片岩②ふつう ③赤釉	横位平行沈線で区画。区画内に横位扇面状に集合沈線を施す。	十三善提式
7	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②真好 ③橙	幾何学状に平行沈線を施す。	十三善提式?
8	深鉢 底部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③暗赤釉	矢羽根状集合沈線を施す。	前期未葉
9	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄塵	横位集合沈線により多段に区画。区画内は上から横位扇面状、渦巻状(ワラビ手状)、横位扇面状の集合沈線を施す。それぞれ沈線間に印刷を施す。	十三善提式 北陸系
10	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい赤釉	集合沈線によるレンズ状紋。内部に小さな三角形の印刷を施す。	十三善提式
11	深鉢 胴部	床上13cm	①細砂多 ②ふつう ③明赤釉	曲線状の集合沈線を施す。沈線間に印刷を施す。	十三善提式
12	深鉢 底部	床上6cm	①石英 ②ふつう ③赤釉	曲線状の集合沈線を施す。沈線間に印刷を施す。上層に区画紋と思われる横位沈線が確認できる。ざらつく胎土。	前期未葉 北陸系
13	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄塵	横位集合沈線で区画。区画内に横位扇面状集合沈線を施し、沈線間に印刷を施す。	十三善提式
14	深鉢 胴部	床上14cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	No11と同様の構成。	十三善提式
15	深鉢 底部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③赤釉	横位集合沈線により胴部紋様帯下層を区画。紋様帯内には斜位の集合沈線と三角形の印刷が確認できる。	十三善提式
16	深鉢 口縁部	床上2cm	①細砂少 ②ふつう ③暗赤釉	横位集合沈線により、胴部紋様帯下層を区画。胴部紋様帯には縦位、レンズ状の集合沈線を施す。沈線の脇に印刷が見られる。	前期未葉
17	深鉢 口縁部	床上37cm	①石英、金雲母 ②ふつう ③橙	口縁部が内折する器形。口縁部に素浮線を扇面状に貼付し、屈曲部下に刻みを施した隆帯を1巻めぐらす。隆帯以下は無紋帯となる。ざらつく胎土。	暗々革式
18	深鉢 胴部	床上6cm	①細砂少 ②ふつう ⑤暗赤釉	続く屈曲する器形。屈曲部の上位に斜突列、下位に結節浮線、横位平行沈線を施す。	暗々革式
19	深鉢 胴部	床上26cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄塵	斜突列を横位2段施す。	興津式
20	深鉢 胴部	床上12cm	①細砂少 ②ふつう ③暗赤釉	太沈線により、渦巻状モチーフを描く。	大木6式
21	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②真好 ③橙	平行沈線により幾何学状のモチーフを描き、モチーフ間に印刷を施す。	前期末～中期初
22	深鉢 胴部	床上27cm	①細砂少 ②ふつう ③明赤釉	無筋LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
23	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③明釉	単筋LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
24	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③明釉	単筋LR、RLの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
25	深鉢 胴部	埋没土中	①結晶片岩②ふつう ③明赤釉	コノ字状に屈曲する器形。単筋LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
26	深鉢 底部	床上6cm	①細砂少 ②真好 ③明赤釉	底径約5cm。無筋LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
27	深鉢 胴部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ⑤にふい黄塵	単筋RLの結節縄紋を縦位施紋する。	前期末～中期初

II 縄紋時代の調査

I-1号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
28	石蔵	床上6cm	長 21.8 幅 13.6 厚 3.2 重 0.7	チャート		29	石蔵	埋没土中	長 21.3 幅 17.2 厚 3.0 重 0.7	チャート	
30	石蔵	埋没土中	長 21.6 幅 17.1 幅 6.0 重 1.6	チャート	未製品	31	石蔵	埋没土中	長 20.7 幅 15.5 厚 6.4 重 1.7	チャート	未製品
32	石蔵	埋没土中	長 29.8 幅 15.4 厚 3.9 重 1.2	黒色頁岩		33	楔形石器	埋没土中	長 28.8 幅 25.8 厚 8.8 重 7.2	黒色頁岩	
34	スクレイパー	埋没土中	長 22.8 幅 17.7 厚 9.0 重 2.8	チャート		35	石杖	埋没土中	長 19.9 幅 16.6 厚 16.1 重 4.8	黒曜石	諏訪産
36	石杖	床上10cm	長 29.8 幅 14.1 厚 14.8 重 4.4	黒曜石	諏訪産	37	原石	埋没土中	長 26.2 幅 23.3 厚 12.3 重 4.6	黒曜石	諏訪産

I-2号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②地色③色調	紋様の特徴等	備考
1	深鉢 口縁部	床下14cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい貴橙	口縁部の突起部。単節LR縄紋を施す。	称名寺1式
2	深鉢 口縁部	床下6cm	①細砂少 ②ふつう ③改貴橙	口縁部の突起部。	称名寺1式
3	深鉢 口縁部	床下8cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	口縁部の無紋帯部。	加曾利E式
4	深鉢 口縁部	埋没土中	①細砂少 ②ふつう ③明赤紅	小波状口縁。口縁部の無紋帯部。	加曾利E式
5	深鉢 胴部	床下6cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい貴橙	弧状の隆線を貼付し、単節LR縄紋を縦位施紋する。	加曾利E式
6	深鉢 胴部	床下6cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい貴橙	弧状の隆線を貼付し、単節LR縄紋を縦位施紋する。	加曾利E式
7	深鉢 胴部	床直～ 床上5cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい貴橙	弧状の隆線で区画。区画内は単節LR縄紋を縦位施紋する。	加曾利E式
8	深鉢 胴部	床下4cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい貴橙	隆線を垂下させる。無紋。	加曾利E式
9	深鉢 胴部	床下7cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	単節LR縄紋を斜位施紋する。	加曾利E式
10	深鉢 胴部	床直	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	無紋。	加曾利E式
11	深鉢 胴部	床下4cm	①細砂少 ②ふつう ③橙	無紋。	加曾利E式
12	深鉢 胴部	床下10cm	①細砂少 ②ふつう ③にふい貴橙	無紋。	加曾利E式
13	深鉢 胴部	床下8cm	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	沈線によりJ字状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式
14	深鉢 胴部	床下5cm		No13と同一個体。	称名寺1式
15	深鉢 胴部	床下14cm P 7内	①細砂少 ②ふつう ③にふい貴橙	沈線により幾何学状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式

I-2号住居 石蔵

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
16	石蔵	埋没土中	長 21.5 幅 17.5 厚 6.2 重 2.1	黒色安山岩		17	スクレイパー	床下7cm	長124.8 幅 88.0 厚 21.6 重28.1	黒色頁岩	
18	台石	床上9cm	長 196 幅 127 厚 60 重 2248	粗粒輝石 安山岩		19	台石	床下6cm	長 253 幅 235 厚 93 重 6210	角閃石安 山岩	炉内
20	多孔石	床下6cm	長 214 幅 98 厚 127 重 6320	粗粒輝石 安山岩		21	多孔石	床下8～ 23cm	長 216 幅 188 厚 123 重 5485	角閃石安 山岩	炉内
22	台石 多孔石	床下6cm	長 218 幅 191 厚 140 重 6620	粗粒輝石 安山岩							

I-3号住居 土器

番号	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特等号	備考
1	深鉢 口縁部	床下5cm	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	横位隆線により、口縁部無紋帯を区画。横位隆線上に部分的に横長の突起を付す。以下は縦位隆線によって区画し、区画内に単節LR縄紋を充填施紋する。	後期加曾利E系
2	深鉢 口縁部	床上14cm	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	横位隆線により、口縁部無紋帯を区画。以下は縦位隆線によって区画し、区画内に単節LR縄紋を充填施紋する。	後期加曾利E系
3	深鉢 口縁部	床直～ 床上14cm		No.2と同一個体。	後期加曾利E系
4	深鉢 胴部	床上2cm		No.2と同一個体。	後期加曾利E系
5	深鉢 口縁部	床上5cm	①細粒少 ②ふつう ③浅黄橙	内湾する口縁部。隆線を横位凸凹状に貼付する。	後期加曾利E系
6	深鉢 胴部	床上2cm	①細粒少 ②ふつう ③橙	隆線により縦位区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	加曾利E式
7	深鉢 胴部	床上6cm	①細粒少 ②ふつう ③にぶい橙	隆線により縦位区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	加曾利E式
8	深鉢 胴部	床上4cm		No.7と同一個体。	後期加曾利E系
9	深鉢 胴部	床上9cm	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	沈線により縦位区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	加曾利E式
10	深鉢 胴部	床上11cm		No.9と同一個体。	加曾利E式
11	深鉢 胴部	床上9cm	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	無紋。	加曾利E式
12	深鉢 胴部	床上10cm	①細粒少 ②ふつう ③橙	熱赤紋Lを縦位施紋する。	加曾利E式
13	深鉢 口縁部	埋没土中	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	口唇部が肥厚する。沈線で帯状区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式
14	深鉢 口縁部	床直～ 床上8cm	①細粒少 ②ふつう ③にぶい橙	口縁部が内湾する器形。沈線で帯状区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式
15	深鉢 口縁部	床下4cm	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	口縁部が内湾する器形。波状口縁で突起が付き、波頂部に透かしが入る。刺突を施した隆線を口縁に沿って貼付、また波頂部下に垂下させる。沈線で帯状区画し、無節LR縄紋を充填施紋する。口縁隆部に刻みを施し、口唇部に沈線、突起頂部と内面に凹形刺突を施す。	称名寺1式 突起部のみ住居 内出土

I-3号住居 石器

番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考	番号	器種	出土位置	法量(mm, g)	石材	備考
16	石鏃	床直	長 43.5 幅 23.6 厚 5.7 重 4.5	黒曜石	諏訪産	17	スタレイ バー	床上7cm	長 52.2 幅 51.3 長 22.1 長 67.1	黒色頁岩	
18	スタレイ バー	埋没土中	長 51.3 幅 36.7 厚 12.2 重 21.3	黒色安山 岩		19	打製石斧	埋没土中	長 52.0 幅 39.2 厚 9.6 重 18.8	黒色頁岩	
20	磨石	床上8cm	長 64 幅 64 厚 5.7 重 288	粗粒輝石 安山岩		21	磨石	床上8cm	長 74 幅 73 厚 5.4 重 370	粗粒輝石 安山岩	
22	磨石	床直	長 160 幅 129 厚 6.4 重 1954	粗粒輝石 安山岩		23	磨石	床直	長 105 幅 89 厚 3.4 重 488	粗粒輝石 安山岩	
24	磨・凹石	床直	長 105 幅 75 厚 5.6 重 613	粗粒輝石 安山岩		25	磨・凹石	床上4cm	長 131 幅 89 厚 6.4 重 1085	粗粒輝石 安山岩	
26	凹石	床上3cm	長 144 幅 88 厚 5.2 重 954	粗粒輝石 安山岩		27	白石	床直	長 186 幅 208 厚 10.7 重 5076	粗粒輝石 安山岩	
28	白石 多孔石	床直	長 220 幅 128 厚 7.1 重 2700	角閃石安 山岩		29	白石 多孔石	床直	長 202 幅 171 厚 7.4 重 3163	粗粒輝石 安山岩	
30	多孔石	床直	長 215 幅 214 厚 13.7 重 5381	粗粒輝石 安山岩		31	多孔石	床直	長 234 幅 189 厚 7.6 重 3127	角閃石安 山岩	
32	石棒	床下5cm	長 110 幅 85 厚 7.8 重 910	アイサイ ト							

II 縄紋時代の調査

住居別石器数量一覧

I-4号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	石鏃	楔形	石鏃	スクレ	打斧	二次	石杖	原石	砥石	磨石	凹石	石皿	台石	多孔石	調片
点数	19	6	3	25	14	19	18	2	2	7	1	4	3	2	466

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			楔形石器			石鏃			スクレイパー			打製石斧				
石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石	黒頁	石材	黒頁	石材	黒頁	ホルン	石材	黒頁	ホルン
点数	8	1	2	1	5	2	2	1	1	25	1	1	1	1	1	3
重量	14.9	2.8		2.6	51.4	6.4	0.8		944.8					1243.7	189.2	
二次加工			石杖			原石			緑色片岩							
石材	黒曜石	チャート	黒頁	石材	黒曜石	チャート	黒頁	黒安	石材	黒曜石	チャート					
点数	8	1	10	9	6	1	2		1	1						
重量	10.9	11.0	320.7	32.4	114.6	6.6	24.4		2.4	15.3						
石皿				粗輝安	ひん岩	未確定			粗輝安		粗輝安	未確定		粗輝安		多孔石
石材	牛状砂岩			粗輝安	ひん岩	未確定			粗輝安		粗輝安	未確定		粗輝安		粗輝安
点数	2			4	1	2			1		1	3		1		未確定
重量	74			1731	599	未計測			404		2260	未計測		10920		未計測
調片			調片(黒曜石)			調片(チャート)										
石材	黒曜石	チャート	黒頁	珪頁	黒安	灰安	ホルン									
点数	223	32	182	1	26	1	1									
重量	87.76	40.30	1332.6	28.1	182.4	1.6	2.3									
調片(黒曜石)			調片(チャート)													
点数	71	127	23	1	1											
重量	5.55	43.40	28.93	1.58	8.30											

II-1号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	石鏃	楔形	石鏃	スクレ	打斧	二次	石杖	砥石	磨石	凹石	磨石	多孔石	調片
点数	7	6	5	11	12	2	6	1	1	8	2	2	474

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			楔形石器			石鏃			スクレイパー					
石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石	チャート	黒頁	石材	黒頁	珪頁	黒安	ホルン
点数	4	3	3	3	3	1	2	2		4	2	1	1	4
重量	2.4	3.7		10.2	45.4	1.8	14.1	8.3		289.3	165.4	62.3	476.2	
打製石斧			二次加工			石杖								
石材	黒頁	黒安	ホルン	石材	黒曜石	珪頁	石材	黒曜石	黒頁					
点数	10	1	1	1	1	1	4	2						
重量	813.4	276.5	25.5	3.2	63.20		23.0	164.0						
砥石				粗輝安		粗輝安	未確定		粗輝安		多孔石			
石材	牛状砂岩			粗輝安		粗輝安	未確定		粗輝安		多孔石			
点数	1			1		3	5		2					
重量	48			298		1402	未計測		2199					
調片			調片(黒曜石)			調片(チャート)								
石材	黒曜石	チャート	黒頁	黒安	灰安	ホルン								
点数	336	22	78	31	1	6								
重量	119.91	63.66	770.2	159.7	29.6	53.9								
調片(黒曜石)			調片(チャート)											
点数	157	141	29	6	3									
重量	8.77	31.82	37.44	16.64	25.24									

II-2号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	石鏃	楔形	石鏃	スクレ	打斧	二次	石杖	原石	磨石	石皿	調片
点数	21	7	4	3	3	8	23	1	3	1	647

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			楔形石器			石鏃			スクレイパー			打製石斧		
石材	黒曜石	チャート	黒安	石材	黒曜石	チャート	石材	チャート	石材	黒頁	石材	黒頁	石材	黒頁
点数	16	4	1	5	2		2		3	3			3	
重量	7.8	2.9	0.5	16.4	34.7		6.9		300.8				154.3	

Ⅱ-2号住居各種石筋の石材別数量・重量一覧

二次加工			石枕			原石							
石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石						
点数	7	1	点数	12	11	点数	1						
重量	10.8	13.6	重量	89.8	199.8	重量	11.4						
磨石			石皿			調片							
石材	粗輝安	未鑑定	石材	粗輝安		石材	黒曜石	チャート	黒頁	珪頁	黒安	ホルン	その他
点数	1	2	点数	1		点数	514	26	77	2	15	8	2
重量	228	未計測	重量	1356		重量	230.05	51.78	850.1	47.2	45.2	33.5	41.8
調片 (黒曜石)						調片 (チャート)							
	～1cm	1～2m	2～3m	3～4m	4cm～		～1cm	1～2m	2～3m	4cm～			
点数	255	197	51	9	2	点数	2	14	7	3			
重量	11.11	106.72	74.39	29.40	8.43	重量	0.19	6.88	13.12	31.59			

Ⅱ-3号住居出土石筋 器種別数量一覧

器種	石鏡	楕形	スケレ	打斧	二次	石枕	磨石	調片
点数	2	2	2	1	1	2	5	84

各種石筋の石材別数量・重量一覧

石鏡		楕形石器		スケレイバー		打製石斧		二次加工		石枕			
石材	チャート	石材	チャート	石材	黒頁	灰安	石材	黒頁	石材	黒曜石	石材	チャート	黒安
点数	2	点数	2	点数	1	1	点数	1	点数	1	点数	1	1
重量	4.8	重量	32.4	重量	211.5	248.9	重量	29.8	重量	1.4	重量	37.4	231.6
磨石		緑色片岩		調片									
石材	粗輝安	湯結凝	未鑑定	点数	2	石材	黒曜石	チャート	黒頁	珪頁	黒安		
点数	2	1	2	重量	19.6	点数	35	10	32	1	6		
重量	653	373	未計測			重量	7.80	18.72	533.8	35.5	67.1		
調片 (黒曜石)				調片 (チャート)									
	～1cm	1～2m	2～3m		～1cm	1～2m	2～3m	3～4m					
点数	14	19	2	点数	2	4	3	1					
重量	0.57	5.00	2.23	重量	0.18	2.73	11.04	4.77					

Ⅱ-4号住居出土石筋 器種別数量一覧

器種	石鏡	楕形	石匙	スケレ	打斧	二次	石枕	磨石	石皿	調片
点数	8	3	1	5	1	13	5	1	1	218

各種石筋の石材別数量・重量一覧

石鏡		楕形石器		石匙		スケレイバー		打製石斧			
石材	黒曜石	チャート	黒安	石材	黒曜石	チャート	石材	黒頁	黒安	石材	黒頁
点数	6	1	1	点数	2	1	点数	2	3	点数	1
重量	2.3	1.9	1.1	重量	4.9	9.3	重量	6.6	重量	55.9	67.0
二次加工		石枕		磨石		石皿		石筋			
石材	黒曜石	チャート	黒頁	石材	黒曜石	チャート	黒頁	石材	粗輝安	石材	未鑑定
点数	6	3	4	点数	3	1	1	点数	1	点数	1
重量	7.8	8.5	268.6	重量	14.5	7.6	102.3	重量	175	重量	未計測
調片											
石材	黒曜石	チャート	黒頁	珪頁	黒安	灰安	ホルン				
点数	105	13	83	3	11	2	1				
重量	38.80	5.71	624.2	13.1	53.2	17.0	3.4				
調片 (黒曜石)								調片 (チャート)			
	～1cm	1～2m	2～3m	3～4m		～1cm	1～2m	2～3m			
点数	26	64	13	2	点数	2	8	3			
重量	1.24	19.49	14.60	3.47	重量	0.19	1.89	3.63			

II 縄紋時代の調査

Ⅱ-5号住居出土石器 種類別数量一覧

器種	石鏃	楔形	石鏃	石匙	スケル	打斧	二次	石核	磨石	凹石	石皿	台石	多孔石	網片
点数	12	2	3	1	6	6	5	5	4	2	1	1	2	245

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃	楔形石鏃		石鏃	石匙	スケレイバー	打製石斧		
石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石	石材	黒頁	黒安	ホルン
点数	12	2	3	1	5	1	3	2
重量	8.7	13.1	4.7	4.7	268.3	154.3		170.7

二次加工	石核	石核	石核	石核	石核
石材	黒曜石	チャート	黒頁	黒安	黒安
点数	2	1	1	1	1
重量	1.9	1.4	2.7	46.9	

凹石	石皿	台石	多孔石				
石材	粗輝安	未鑑定	石材	粗輝安	黒安	粗輝安	粗輝安
点数	1	3	2	1	1	1	2
重量	509	未計測	515	1762	1201	5425	

網片	石材	黒曜石	チャート	黒頁	珪頁	黒安	ホルン
点数	100	19	96	2	26	2	
重量	41.93	56.48	1014.2	34.4	188.4	64.4	

網片(黒曜石)	網片(チャート)	
～1cm	～1cm	
1～2cm	1～2cm	
2～3cm	2～3cm	
3～4cm	3～4cm	
点数	39	40
重量	2.09	13.97

Ⅱ-6号住居出土石器 種類別数量一覧

器種	石鏃	楔形	石鏃	石匙	スケル	打斧	二次	石核	磨石	凹石	磨石	磨石	凹石	石皿	台石	多孔石
点数	41	9	8	2	23	20	41	27	3	7	2	17	9	3	2	1
器種	網片															
点数	1276															

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃	楔形石鏃		石鏃	石匙	スケレイバー	打製石斧	二次加工	
石材	黒曜石	チャート	黒安	石材	黒曜石	チャート	黒頁	珪頁
点数	25	14	2	5	4	4	1	3
重量	17.3	24.2	2.1	25.8	24.6	5.7	1.8	33.7

石核	石核	石核	石核	石核	石核
石材	黒曜石	チャート	黒頁	黒安	黒安
点数	20	1	4	2	2
重量	103.8	22.4	501.2	294.7	

石核	石核	石核	石核	石核	石核
石材	黒曜石	チャート	黒頁	黒安	黒安
点数	20	1	4	2	2
重量	103.8	22.4	501.2	294.7	

凹石	磨石	磨石	凹石
石材	粗輝安	粗輝安	粗輝安
点数	6	1	2
重量	336	216	1118

石皿	台石	網片	網片				
石材	粗輝安	未鑑定	石材	粗輝安	黒安	粗輝安	粗輝安
点数	1	2	2	1	1	10	7
重量	1248	未計測	8373	912	339.55	184.60	2650.1

網片(黒曜石)	網片(チャート)	
～1cm	～1cm	
1～2cm	1～2cm	
2～3cm	2～3cm	
3～4cm	3～4cm	
4cm～	4cm～	
点数	199	388
重量	11.87	130.81

Ⅱ-7号住居出土石器 種類別数量一覧

器種	石鏃	楔形	石鏃	石匙	スクレ	打斧	二次	石核	原石	砥石	砥石	磨石	台石	其角	石錐	剥片
点数	32	8	5	2	17	6	19	22	1	1	2	11	2	1	1	1326

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			楔形石器			石鏃			石匙					
石材	黒曜石	チャート	黒頁	瑠頁	黒安	石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石	黒頁	黒安	石材	黒安
点数	25	3	1	1	2	点数	5	3	点数	2	1	2	点数	2
重量	12.9	4.0	0.7	1.4	2.5	重量	14.4	24.5	重量	2.8	3.4	3.1	重量	8.0
スクレイパー			打製石斧			二次加工			石核					
石材	チャート	黒頁	黒安	石材	黒頁	ホルン	石材	黒曜石	チャート	黒頁	石材	黒曜石	チャート	
点数	1	14	2	点数	3	3	点数	7	9	3	点数	13	9	
重量	4.4	653.7	69.2	重量	66.9	363.4	重量	10.0	32.0	154.1	重量	164.1	98.4	
原石			砥石			磨石			台石					
石材	黒曜石	石材	浮休砂岩	石材	瑠頁	流紋岩	石材	粗理安	閃緑岩	輝緑岩	未鑑定	石材	粗理安	黒結燧灰
点数	1	1	1	点数	1	1	点数	3	1	1	6	点数	1	1
重量	7.2	重量	22	重量	53	55	重量	1440	398	439	未計測	重量	13640	9210
珠状貝殻			石網			剥片			その他					
石材	黒ろうり	石材	黒色片岩	石材	黒曜石	チャート	黒頁	瑠頁	黒安	灰安	ホルン	その他	石材	黒曜石
点数	1	点数	1	重量	839	75	315	1	82	1	11	2	重量	1
重量	1.5	重量	53.0	重量	282.66	91.29	2883.7	61.5	609.5	1.3	273.9	14.5		
剥片(黒曜石)			剥片(チャート)											
点数	~1cm	1~2cm	2~3cm	3~4cm	4cm~	点数	~1cm	1~2cm	2~3cm	3~4cm	4cm~			
重量	362	384	80	9	4	重量	29	28	9	8	1			
	17.02	118.18	87.74	32.78	26.94		2.05	12.43	14.10	32.08	30.63			

Ⅱ-8号住居出土石器 種類別数量一覧

器種	石鏃	楔形	石鏃	スクレ	打斧	二次	石核	原石	磨石	石皿	台石	剥片
点数	8	5	3	7	4	9	6	1	8	1	1	240

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			楔形石器			石鏃			スクレイパー				
石材	黒曜石	チャート	黒安	石材	黒曜石	チャート	石材	チャート	黒頁	瑠頁	石材	黒頁	
点数	6	1	1	点数	3	2	点数	1	1	1	点数	7	
重量	4.4	1.1	0.7	重量	9.6	12.8	重量	7.1	1.6	5.3	重量	272.9	
打製石斧			二次加工			石核			原石				
石材	黒頁	黒安	粗理安	石材	黒曜石	黒頁	黒安	石材	黒曜石	黒頁	黒安	石材	黒曜石
点数	2	1	1	点数	2	6	1	点数	1	3	2	点数	1
重量	114.2	70.0	64.8	重量	4.7	184.6	16.6	重量	3.6	188.1	74.5	重量	32.6
磨石			砥石			台石			結晶片岩				
石材	粗理安	未鑑定	石材	未鑑定	石材	黒結燧灰	点数	1	重量	0.3			
点数	3	5	点数	1	重量	13430							
重量	549	未計測	重量	未計測	重量	13430							
剥片			剥片(チャート)										
石材	黒曜石	チャート	黒頁	瑠頁	黒安	灰安	ホルン	その他	石材	1~2cm	2~3cm	3~4cm	4cm~
点数	105	19	75	1	28	1	9	2	点数	6	7	4	2
重量	48.12	64.34	555.6	19.1	188.7	13.3	64.6	28.1	重量	1.97	22.48	24.53	15.36
剥片(黒曜石)			剥片(チャート)										
点数	~1cm	1~2cm	2~3cm	3~4cm	4cm~	点数	1~2cm	2~3cm	3~4cm	4cm~			
重量	29	63	11	2		重量	6	7	4	2			
	2.64	25.77	12.66	7.65			1.97	22.48	24.53	15.36			

Ⅱ-9号住居出土石器 種類別数量一覧

器種	石鏃	楔形	スクレ	打斧	二次	石核	磨石	凹石	台石	剥片
点数	7	3	13	9	17	5	9	1	1	225

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			楔形石器			スクレイパー			打製石斧				
石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石	石材	チャート	黒頁	その他	石材	黒頁	ホルン	瑠頁	その他
点数	6	1	点数	3	点数	1	11	1	重量	6	1	1	1
重量	2.8	1.1	重量	7.8	重量	3.0	499.2	14.0	重量	421.6	579.0	25.6	22.9

II 縄紋時代の調査

Ⅲ-9号住居各種石器の石材別数量・重量一覧

二次加工				石核			結晶片岩	
石材	黒曜石	チャート	黒頁	ホルン	石材	黒曜石	チャート	点数 10 重量 45.7
点数	9	1	6	1	点数	3	2	重量 14.2
重量	10.6	0.8	37.8	37.5	重量	14.2	12.4	

磨石						凹石		台石		
石材	粗輝安	細輝安	赤結晶灰	石炭閃緑	アフリカ	未鑑定	石材	粗輝安	石材	粗輝安
点数	4	1	1	1	1	1	点数	1	点数	1
重量	698	332	631	557	164	未計測	重量	509	重量	2515

割片						
石材	黒曜石	チャート	黒頁	黒安	ホルン	その他
点数	68	15	106	29	5	2
重量	32.73	20.47	1725.8	218.1	136.6	71.8

割片 (黒曜石)				割片 (チャート)				
	～1cm	1～2cm	2～3cm	3～4cm		1～2cm	2～3cm	3～4cm
点数	18	32	15	3	点数	5	9	1
重量	1.12	11.38	15.21	5.02	重量	3.21	14.84	2.42

Ⅲ-10号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	石鏃	楔形	スクレ	打斧	二次	石核	磨石	割片
点数	2	1	1	4	2	1	1	67

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃		楔形石器		スクレイパー		打製石斧		二次加工		石核		磨石	
石材	チャート	石材	チャート	石材	黒頁	石材	黒頁	石材	黒曜石	石材	黒曜石	石材	黒曜石
点数	2	点数	1	点数	1	点数	4	点数	2	点数	1	点数	1
重量	1.3	重量	13.9	重量	54.0	重量	229.1	重量	0.8	重量	32.9	重量	27.5

割片					割片 (黒曜石)				割片 (チャート)				
石材	黒曜石	チャート	黒頁	黒安	ホルン								
点数	27	2	25	11	2	点数	12	11	3	1	点数	1	1
重量	7.68	1.59	256.7	35.4	28.0	重量	0.74	1.61	4.44	0.89	重量	0.22	1.37

Ⅲ-1号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	石鏃	楔形	石鏃	スクレ	打斧	二次	石核	磨石	割片
点数	2	2	2	4	3	3	3	2	58

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃		楔形石器		石鏃			スクレイパー		打製石斧			二次加工	
石材	黒曜石	石材	黒曜石	石材	黒曜石	チャート	石材	黒頁	石材	黒頁	ホルン	石材	黒曜石
点数	2	点数	2	点数	1	1	点数	4	点数	2	1	点数	3
重量	1.1	重量	3.9	重量	2.3	3.0	重量	199.9	重量	167.9	66.1	重量	5.1

石核			磨石			割片					
石材	黒曜石	チャート	黒安	石材	粗輝安	未鑑定	石材	黒曜石	チャート	黒頁	黒安
点数	1	1	1	点数	1	1	点数	29	1	26	2
重量	7.7	46.0	104.6	重量	349	未計測	重量	25.73	27.21	155.3	32.1

割片 (黒曜石)				割片 (チャート)			
	～1cm	1～2cm	2～3cm	3～4cm			4cm～
点数	4	13	8	4	点数	1	1
重量	0.22	4.54	6.57	14.40	重量	27.21	

Ⅲ-2号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	二次	磨石	割片
点数	1	1	8

各種石器の石材別数量・重量一覧

二次加工		磨石		割片		割片 (黒曜石)			
石材	黒頁	石材	粗輝安	石材	黒曜石	黒頁	～1cm	1～2cm	
点数	1	点数	1	点数	4	4	点数	1	3
重量	117.3	重量	720	重量	1.01	3.0	重量	0.08	0.93

Ⅴ-3号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	石鏃	楔形	石錐	スケレ	打斧	二次	石核	原石	礫石	凹石	多孔石	剥片
点数	7	6	1	7	7	9	6	2	4	3	3	707

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			楔形石器			石錐			スケレイバー				
石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石		石材	黒曜石		石材	黒質	黒安	ホルン	
点数	5	2		6			1			5	1	1	
重量	2.8	1.2		9.2			1.7			142.2	25.5	231.2	
打撃石斧			二次加工			石核			原石				
石材	黒質	粗輝安	ホルン	その他		石材	黒曜石	黒質	石材	黒曜石	黒安	石材	黒曜石
点数	3	1	2	1			7	2		4	2		2
重量	130.8	43.5	141.0	4.7			19.7	37.6		27.3	372.5		96.8
礫石			凹石			多孔石							
石材	粗輝安	未鑑定	石材	粗輝安	角閃安	石材	粗輝安	粗輝安					
点数	3	1		2	1		2	1					
重量	886	未計測		695	753		4810	2705					

剥片				剥片(黒曜石)				剥片(チャート)					
石材	黒曜石	チャート	黒質	黒安	～1cm	1～2cm	2～3cm	3～4cm	～1cm	1～2cm	2～3cm	3～4cm	4cm～
点数	695	16	81	5	310	251	39	5	7	4	4	1	
重量	121.46	25.22	326.5	156.0	13.44	54.10	40.05	13.87	0.66	6.34	11.99	6.23	

Ⅴ-1号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	石鏃	楔形	スケレ	二次	石核	原石	剥片
点数	5	2	5	3	7	1	79

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			楔形石器			スケレイバー			二次加工			石核		
石材	チャート	黒質	石材	チャート	黒質	石材	チャート	黒質	石材	黒曜石	チャート	石材	黒曜石	チャート
点数	4	1		3	1		2	3		1	2		6	1
重量	4.7	1.2		3.3	7.2		22.5	41.4		1.0	11.7		24.0	5.0
原石			剥片			剥片(黒曜石)			剥片(チャート)					
石材	黒曜石		石材	黒曜石	チャート	黒質	～1cm	1～2cm	2～3cm	～1cm	1～2cm	2～3cm	3～4cm	4cm～
点数	1			25	20	34	5	12	8	6	7	5	1	1
重量	4.6			18.54	59.81	120.0	0.54	6.90	11.10	0.81	5.88	8.85	24.28	19.99

Ⅴ-2号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	石鏃	スケレ	石核	石皿	台石	多孔石	剥片
点数	1	1	3	2	2	2	8

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			スケレイバー			石核			石皿			台石			
石材	黒安		石材	黒質		石材	黒曜石	黒質	ホルン	石材	未鑑定		石材	粗輝安	角閃安
点数	1			1			1	1	1		2			1	1
重量	2.1			228.1			7.1	19.2	1021.1		未計測			4798	6210
多孔石			剥片			剥片(黒曜石)			剥片(チャート)						
石材	粗輝安	角閃安	石材	黒曜石	チャート	黒質	ホルン	～1cm	2～3cm	～1cm	2～3cm				
点数	1	1		3	1	3	1	2	1				1		
重量	6330	5485		1.71	0.89	189.6	0.7	0.12	1.59				0.89		

Ⅴ-3号住居出土石器 器種別数量一覧

器種	石鏃	スケレ	打斧	二次	礫石	凹石	台石	多孔石	石核	剥片
点数	1	4	1	3	8	1	3	2	1	16

各種石器の石材別数量・重量一覧

石鏃			スケレイバー			打撃石斧			二次加工			礫石			凹石		
石材	黒曜石		石材	黒質	黒安	石材	黒質		石材	チャート	ホルン	石材	粗輝安		石材	粗輝安	
点数	1			3	1		1			2	1		6		1		
重量	4.5			83.5	21.3		18.8			7.2	36.1		4798		954		
台石			多孔石			石核			剥片			剥片(チャート)					
石材	粗輝安	角閃安	石材	粗輝安	角閃安	石材	チャート		石材	チャート	黒質	～1cm	2～3cm				
点数	2	1		1	1		1			2	14		2				
重量	8239	2700		3163	3127		910			1.26	45.3		1.26				

3 掘立柱建物

掘立柱建物は2棟が検出された。それぞれ1×1間の小形の建物である。

●Ⅲ-1号掘立

位置 835、840-565、570

形状 東西方向に長軸をもつ長方形を呈す。規模は長軸2.6~2.65m、短軸1.7~1.8mを測る。

柱穴 長・短軸各2本の4本柱構造である。各柱穴の規模(径×深さ)は、P1:36×24cm、P2:47×27cm、P3:45×20cm、P4:38×16cm。

遺物 出土しなかった。

時期 遺物の出土が皆無のため確定はできないが、住居に伴う時期(前期諸磯b~c式期)と考えるのが妥当であろう。

が妥当であろう。

●Ⅳ-1号掘立

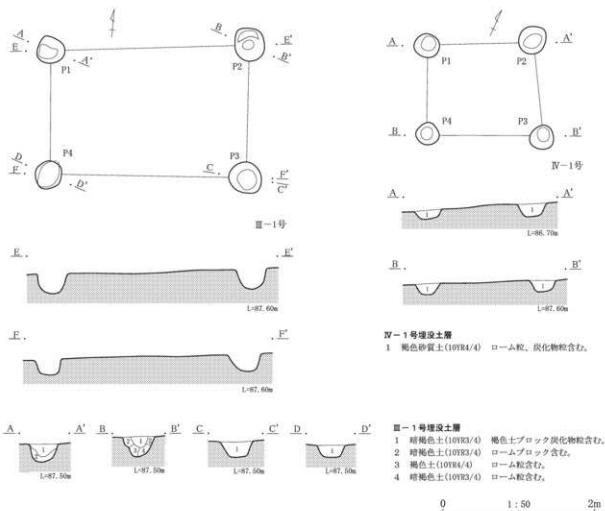
位置 775-530

形状 北東-南西方向に長軸をもつ正方形に近い長方形を呈す。規模は長軸1.4~1.55m、短軸1.2~1.25mを測る。

柱穴 長・短軸各2本の4本柱構造である。各柱穴の規模(径×深さ)は、P1:34×11cm、P2:39×17cm、P3:32×15cm、P4:31×14cmを測る。

遺物 出土しなかった。

時期 遺物の出土が皆無のため確定はできないが、住居に伴う時期(前期諸磯b~c式期)と考えるのが妥当であろう。



第145図 Ⅲ-1・Ⅳ-1号掘立柱建物

4 土坑

土坑は台地部において計341基が検出された。区毎ではⅡ区185基、Ⅲ区131基、Ⅳ区21基、Ⅵ区4基となる。Ⅱ区からの検出がもっとも多く、区全域にわたる分布を示す。それに対してⅢ区は、住居の周縁にのみ濃密な分布が見られ、住居が取り囲む中央の低地での検出は皆無である。Ⅳ区は検出数自体も少なく、分布も散在的である。Ⅵ区はⅡ区からの続きとしてとらえられるだろう。

時期別となると、出土する遺物が皆無であったり土器が小破片であったりと、帰属時期の判断が困難であるが、Ⅱ区の32号、79号、239号、242号、243号、246号、247号、293号、310号、323号、330号の11基については出土遺物から、中期末葉～後期初頭に位置づけることができるであろう。これらはⅡ区においても西方、台地縁辺部に近い位置に分布しており、同時期の住居の分布とも一致する。これら以外のものについては、若干、中期末葉～後期初頭に帰属するものもある可能性はあるが、多くは諸磯b式～前期末葉期に位置づけられるものである。また、さらに区によって時期差が見られ、Ⅲ、Ⅳ区は諸磯b式～諸磯c式が主体であるのに対し、Ⅱ区は前期末葉が多い傾向にある。

土坑の形状、規模については、別表の通りである。平面形は円形あるいは楕円形ものがほとんどであるが、断面形状はいくつかのタイプが認められるため、以下の6タイプに分類を試みた。

- 楕円状…その名の通り楕円状を呈し、底面に明確な平坦面をもたないもの
- 浅楕円状…楕円状のなかで、平面の長径に対して深さが $1/3$ 以下の浅いもの
- 皿状…楕円状のなかで、平面の長径に対して深さが $1/5$ 以下のさらに浅いもの
- 円筒状…壁の立ち上がりが垂直に近く、底面に平坦面をもつもの
- 浅円筒状…円筒状のなかで、平面の長径に対して深さが $1/3$ 以下の浅いもの

袋状…開口部の径よりも、底面あるいは壁面の径が大きいもの

Ⅱ区については、浅円筒状が55基と最も多く、楕円状33基、円筒状32基、浅楕円状29基、皿状28基、袋状8基と続く。Ⅲ区は円筒状が44基と最も多く、浅円筒状39基、楕円状20基、浅楕円状15基、袋状8基、皿状5基となる。Ⅳ区は浅楕円状9基、円筒状5基、浅円筒状4基、楕円状2基、皿状1基、Ⅵ区は楕円状3基、浅楕円状1基である。ただしⅢ区の円筒状については、14号や20号、31号、46号、95号などのように、埋没土が底面付近は凸レンズ状に堆積し、その後ロームブロックを含む層が壁際に堆積する状況は、埋没途中においてオーバーハングしている壁が崩落したものと考えられるため、もともとは袋状だった可能性が高い。

また特筆すべき出土遺物として、Ⅱ-12号から変質蛇紋岩製の刀状石製品、Ⅱ-47号、Ⅱ-287号から垂飾、Ⅲ-50号から珠状耳飾が出土している。Ⅱ-12号からは花積下層式と諸磯c式の土器片が伴出しているが、本遺跡からは花積下層式期の住居や土坑は検出されておらず、遺物包含層から土器の散布が見られる程度であるため、花積下層式の土器片を混入ととらえ、諸磯c式期に帰属すると考えるのが妥当と思われる。Ⅱ-47号、Ⅱ-287号は前期末葉の土器が伴出しており、それが帰属時期を示しているとすれば前期末葉期だが確信は持てない。Ⅲ-50号は諸磯c式期ととらえられる。

谷地部であるⅠ区では、21基が検出された。形状は円筒状が8基でもっとも多く、浅円筒状5基、浅楕円状4基、楕円状3基、袋状1基となる。出土土器は諸磯c式や中期末葉～後期初頭に、住居と同時期を示している。出土土器は19号から打製石斧が出土したほか、磨り石や凹石、台石など植物質食料加工のための道具が多い。2～4号、10号、12～14号からはクルミが出土していることや、谷地に構築されているという立地状況から、Ⅰ区の土坑は木の実をアク抜きするための水さらしや貯蔵の用途が考えられよう。

I区土坑一覧表

I区土坑一覧表										単位cm					
番号	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	備考	番号	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	備考
6	875-765	不整形	浅部鉢状	140	128	35		20	880-755	楕円形	鉢状	-	79	49	
7	870-765	不整形	円筒状	308	80	37		13	875-760	楕円形	浅円筒状	228	186	58	ケルミ出土
8	880-760	不整形	円筒状	92	83	40		14	875-760	不整形	円筒状	215	175	58	ケルミ出土
9	880-760	不整形	楕円形	203	130	78		16	880-760	円形	浅円筒状	128	126	32	
10	875-760	円形	円筒状	135	123	62	ケルミ出土	17	875-755	不整形	円筒状	117	94	43	
11	875-760	円形	浅円筒状	115	105	26		18	880-755	不整形	浅部鉢状	156	148	47	
12	880-755	楕円形	円筒状	214	167	73	ケルミ出土	19	875-755	不整形	浅円筒状	194	165	56	
15	880-755	楕円形	鉢状	120	94	44									

埋没土層については、以下のように類型化した。
 類型化できないものについては、個別に記載してある。

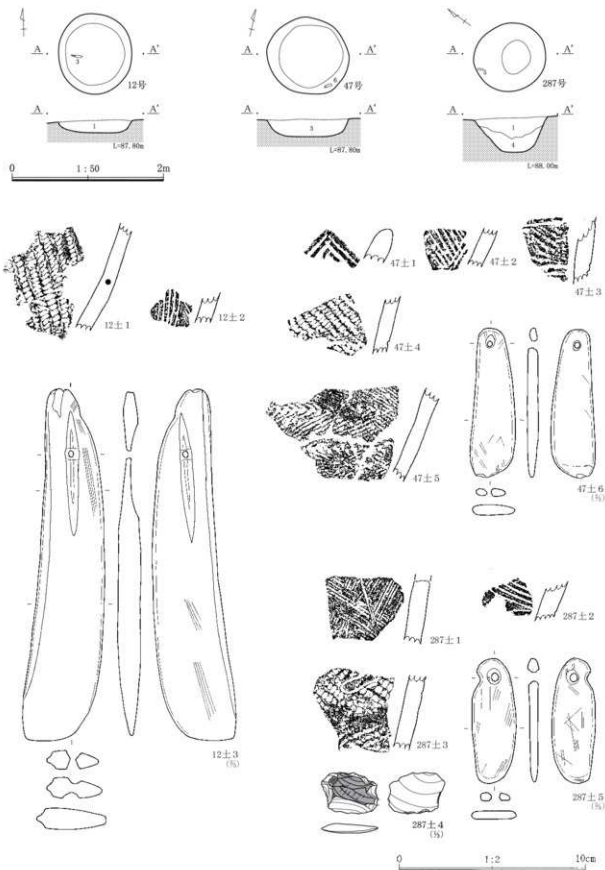
台地部（II～VI区）

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土ブロック、白色粒、炭化物粒を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、白色粒、炭化物粒を含む。黒色味強い。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒少量含む。白色粒、炭化物粒含む。
- 3' 褐色土(10YR4/4) 3層に同じ。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒多く含む。白色粒、炭化物粒含む。
- 4' 褐色土(10YR4/4) 4層に同じ。
- 5 褐色土(10YR4/6) ロームブロック多く含む。

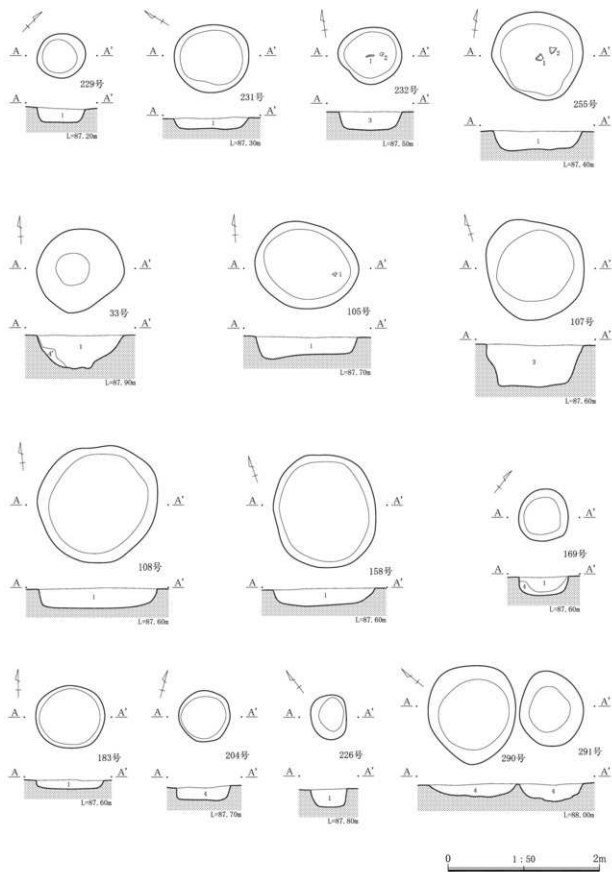
谷地部（I区）

- 1 黒色土 植物遺存体含む。
- 2 黒色土 灰色シルト粒含む。
- 3 黒色土 砂粒含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。
- 5 黒灰色土 砂粒含む。

II 縄紋時代の調査

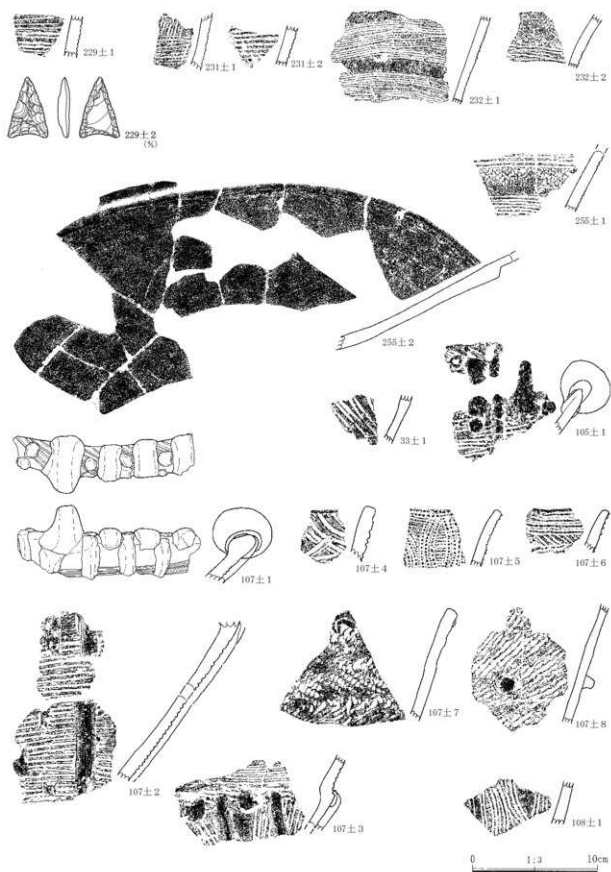


第146図 II-12・47・287号土坑と出土遺物

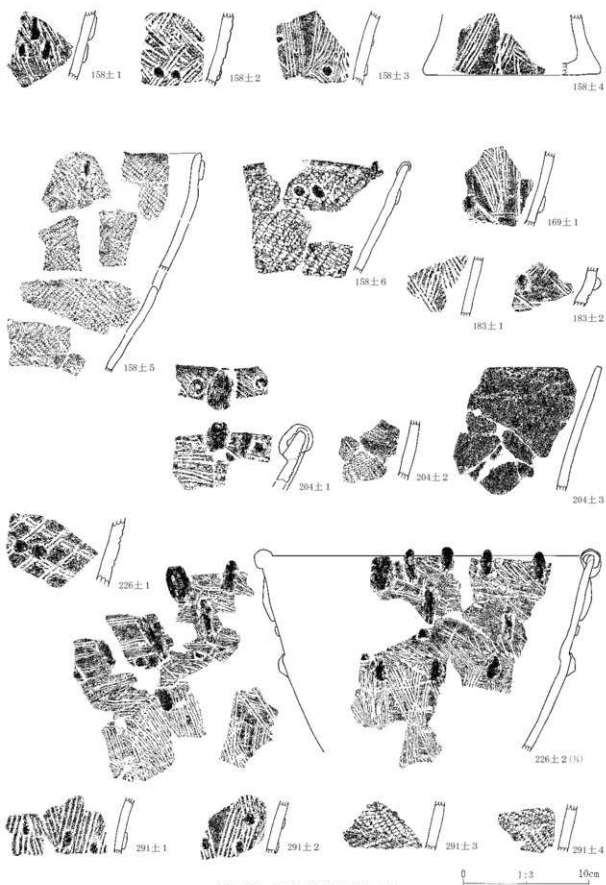


第147图 II区土坑(2)

II 縄紋時代の調査

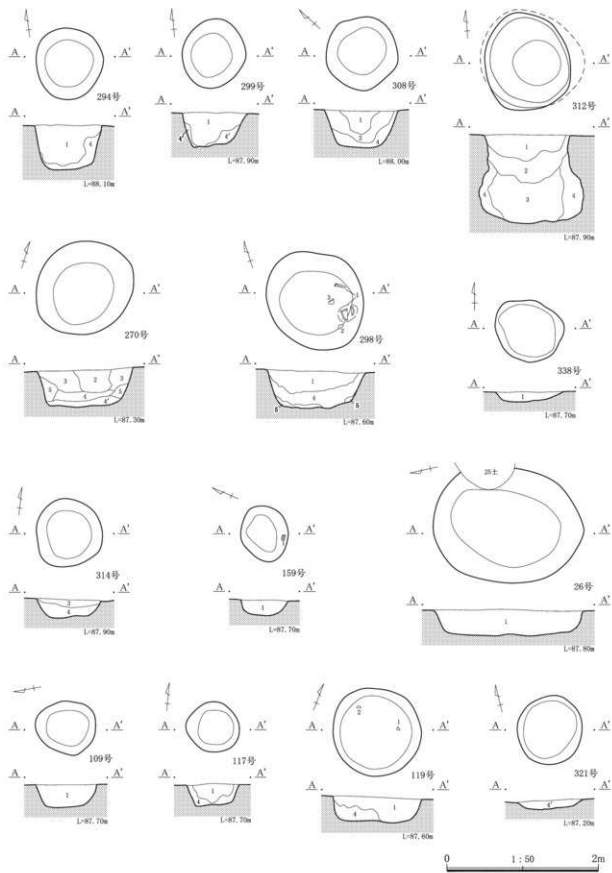


第148図 II区土坑出土遺物(1)

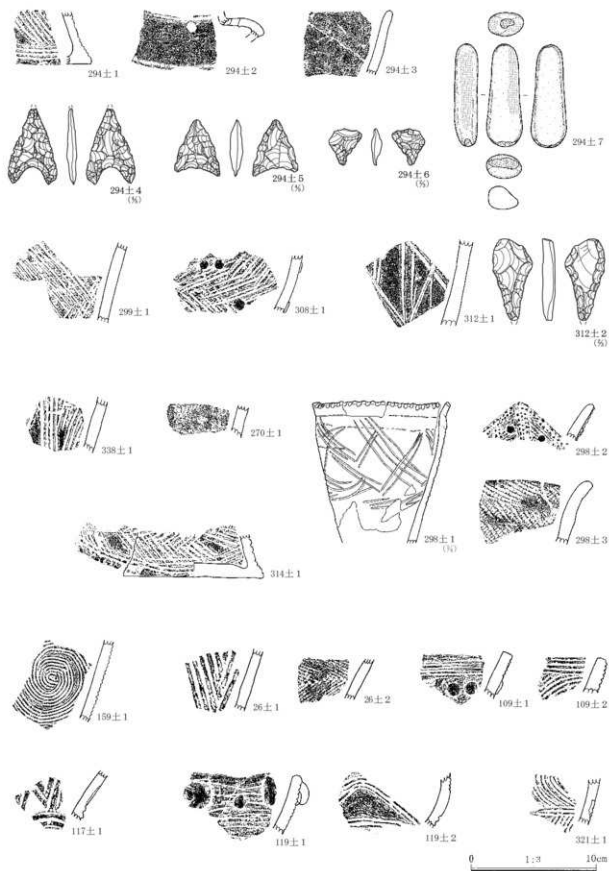


第149图 II区土坑出土遗物(2)

II 縄紋時代の調査

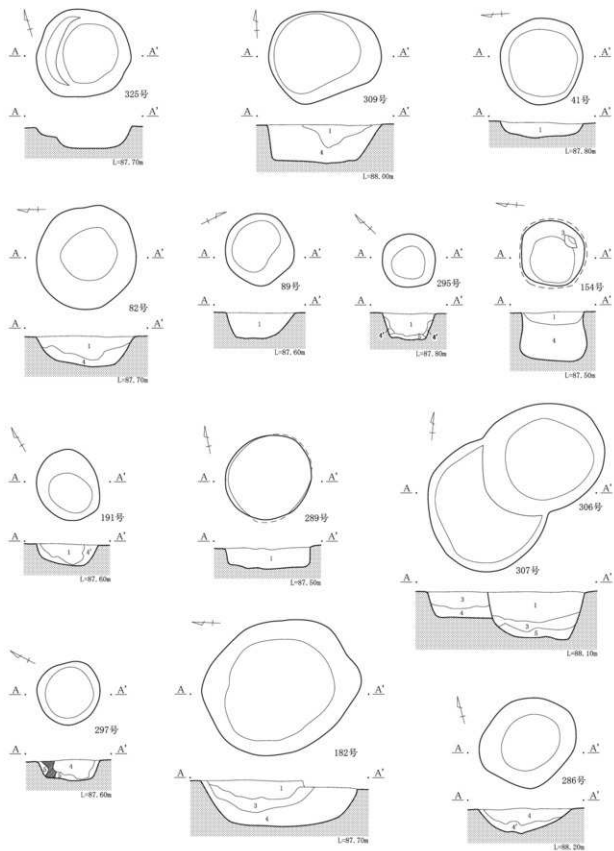


第150图 II区土坑(3)

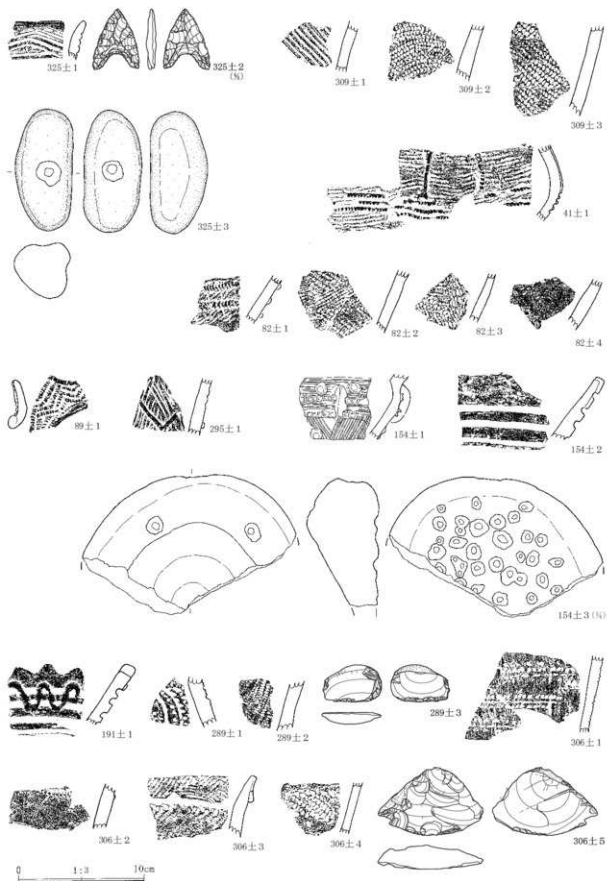


第151图 II区土坑出土遗物(3)

II 縄紋時代の調査

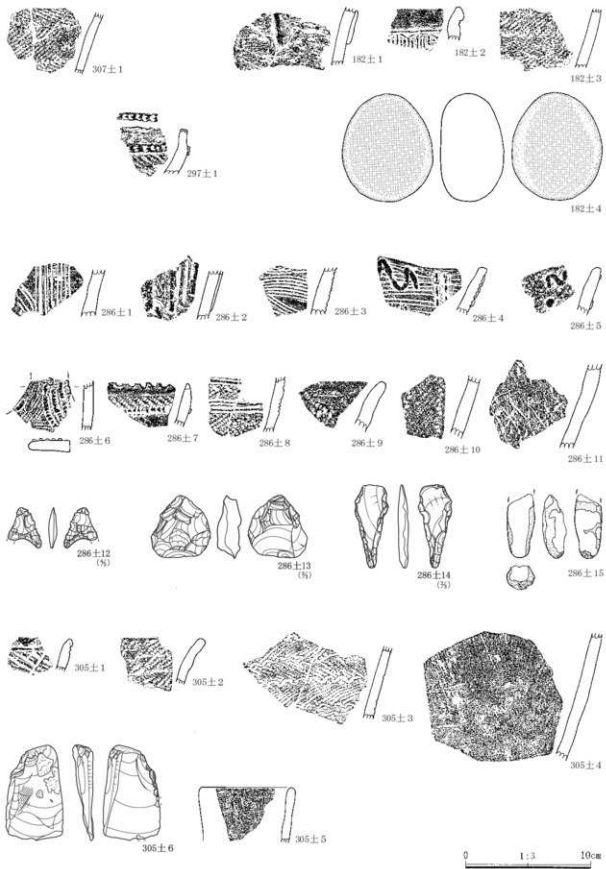


第152図 II区土坑(4)

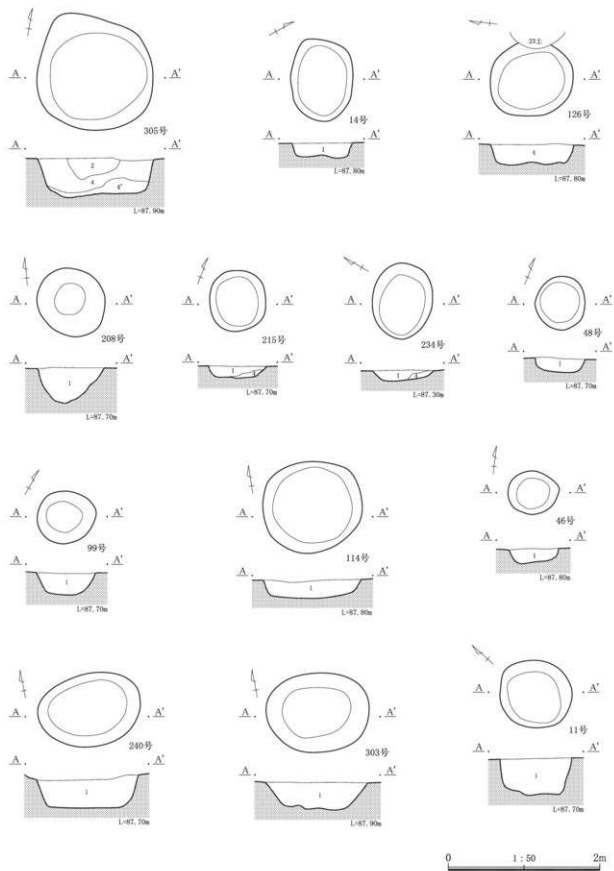


第153图 II区土坑出土遗物(4)

II 縄紋時代の調査

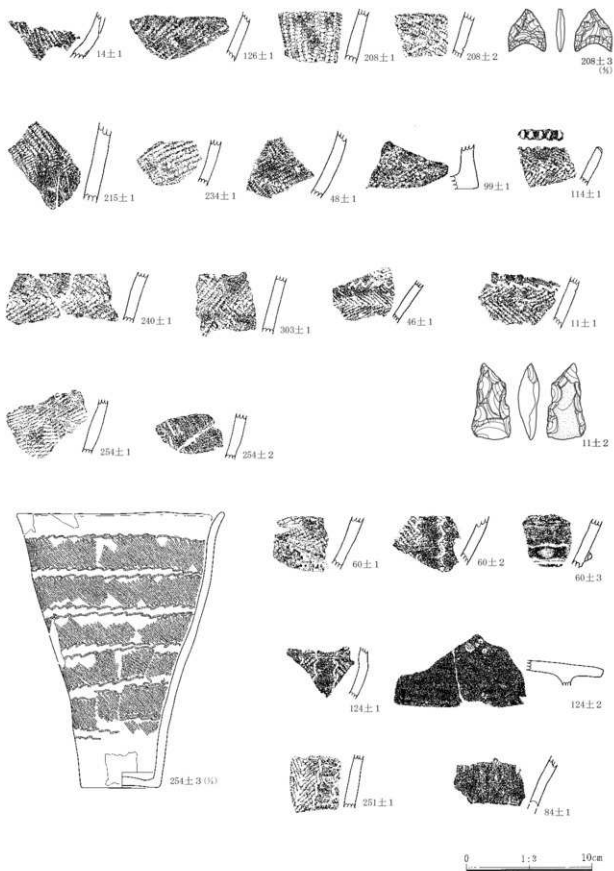


第154図 II区土坑出土遺物(5)

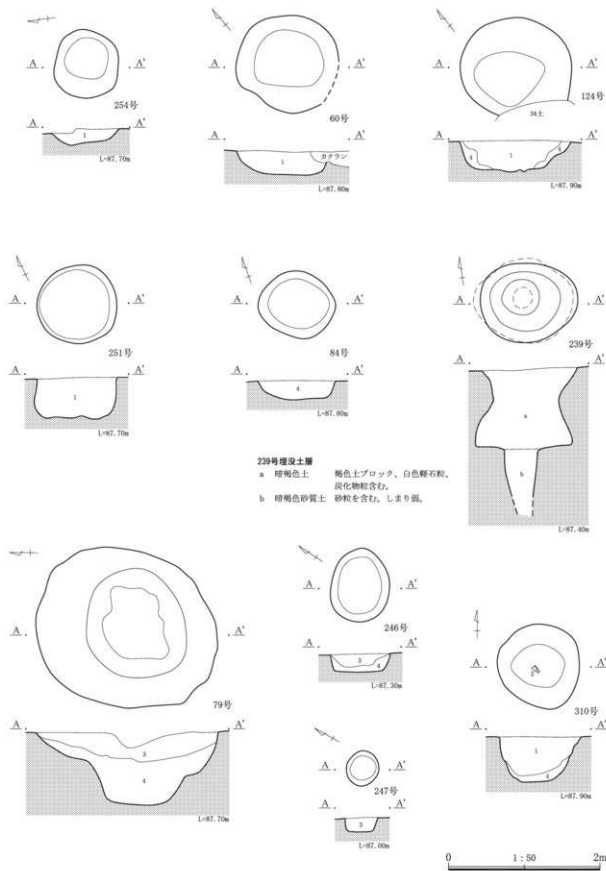


第155图 II区土坑(5)

II 縄紋時代の調査

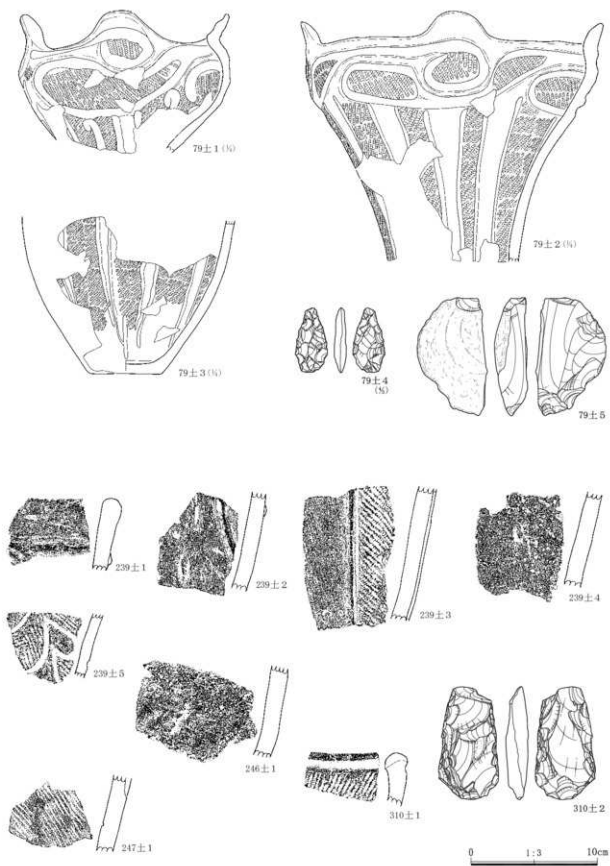


第156図 II区土坑出土遺物(6)

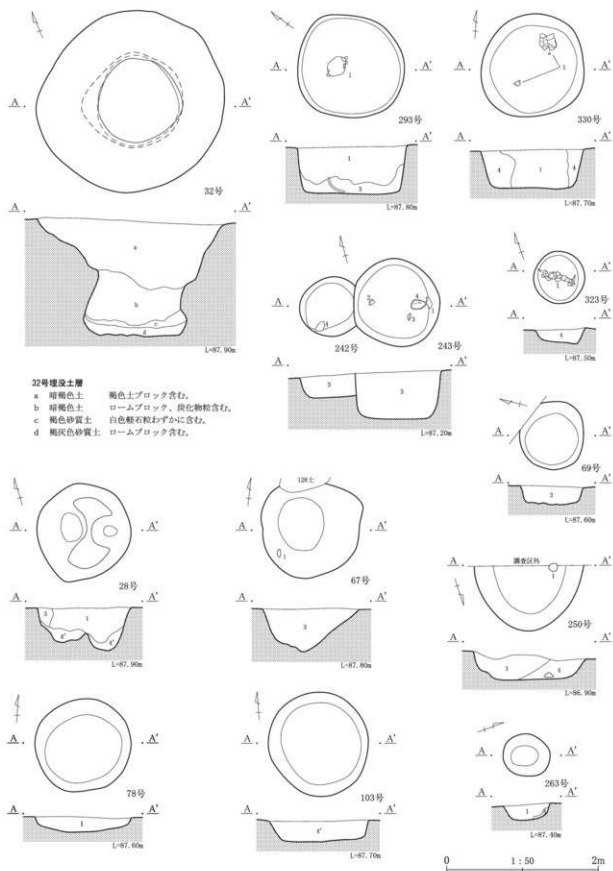


第157図 II区土坑(6)

II 縄紋時代の調査

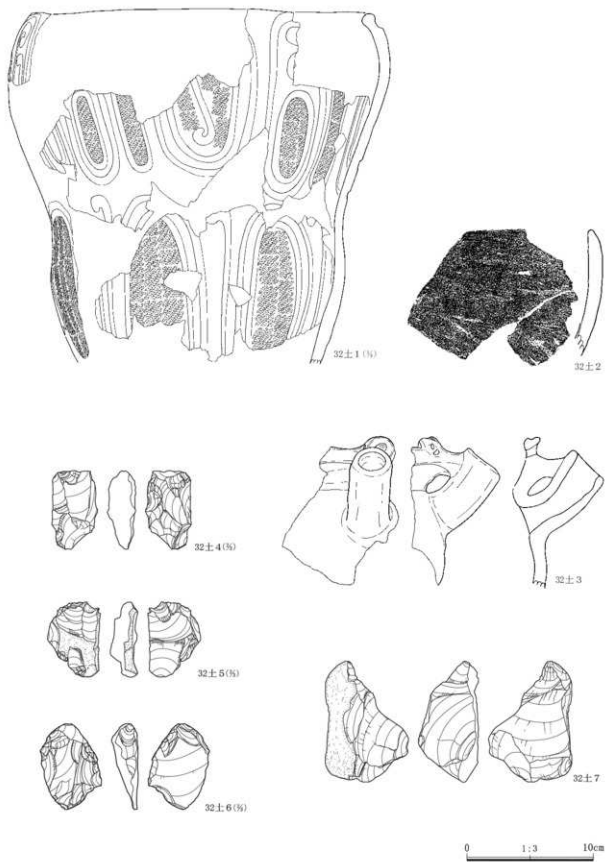


第158図 II区土坑出土遺物(7)

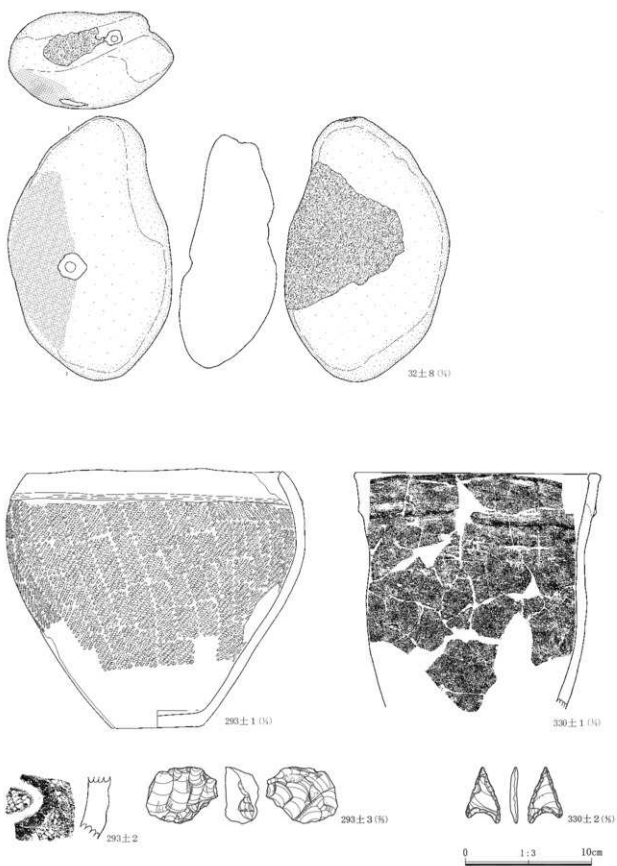


第159図 II区土坑(7)

II 縄紋時代の調査

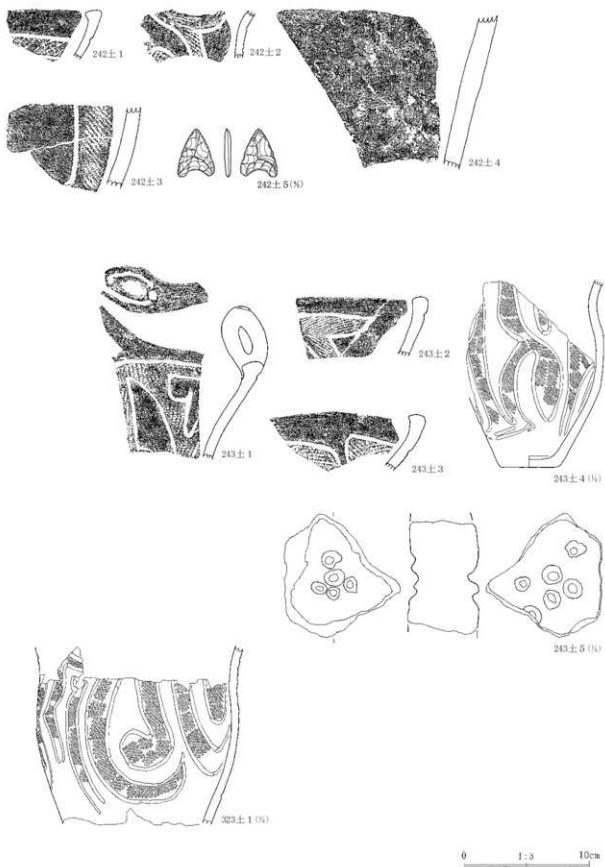


第160図 II区土坑出土遺物(8)

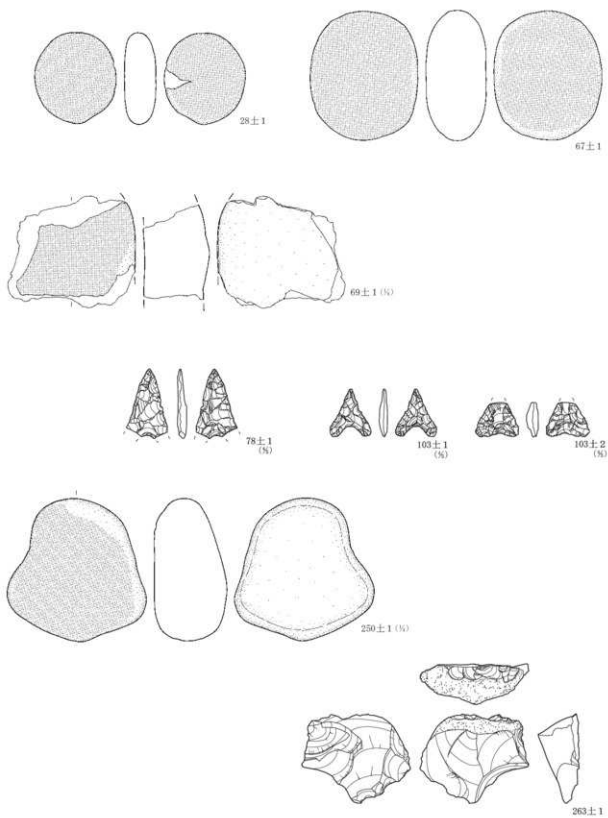


第161图 II区土坑出土遗物(9)

II 縄紋時代の調査

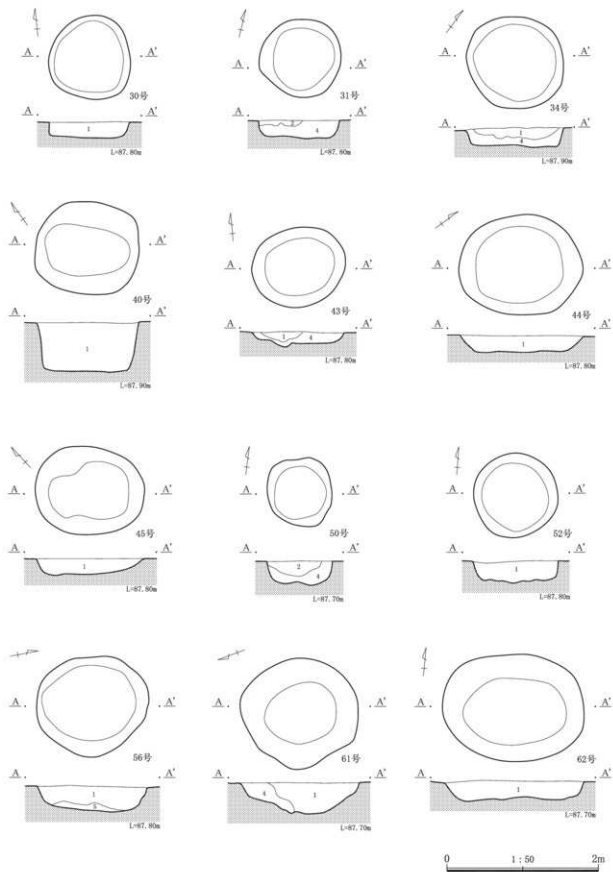


第162図 II区土坑出土遺物(10)

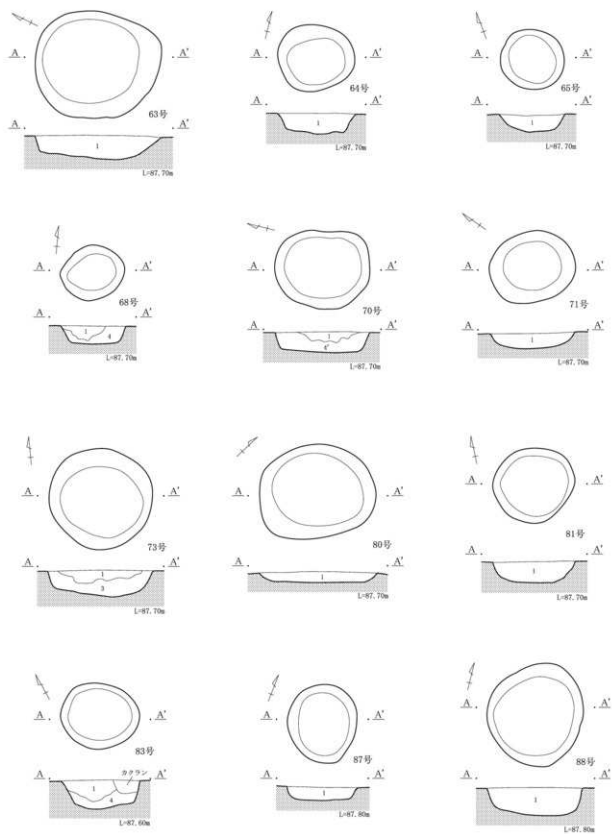


第163图 II区土坑出土遗物(11)

II 縄紋時代の調査



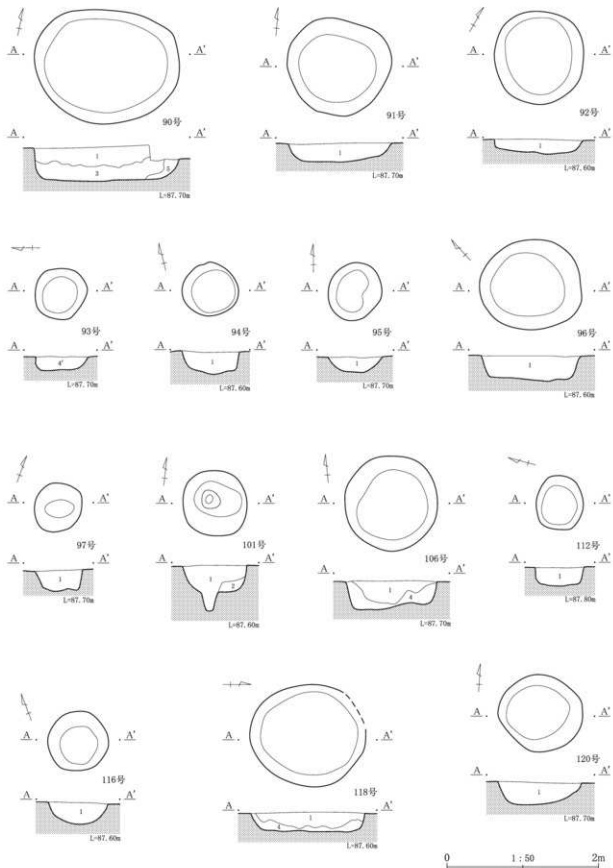
第164図 II区土坑(8)



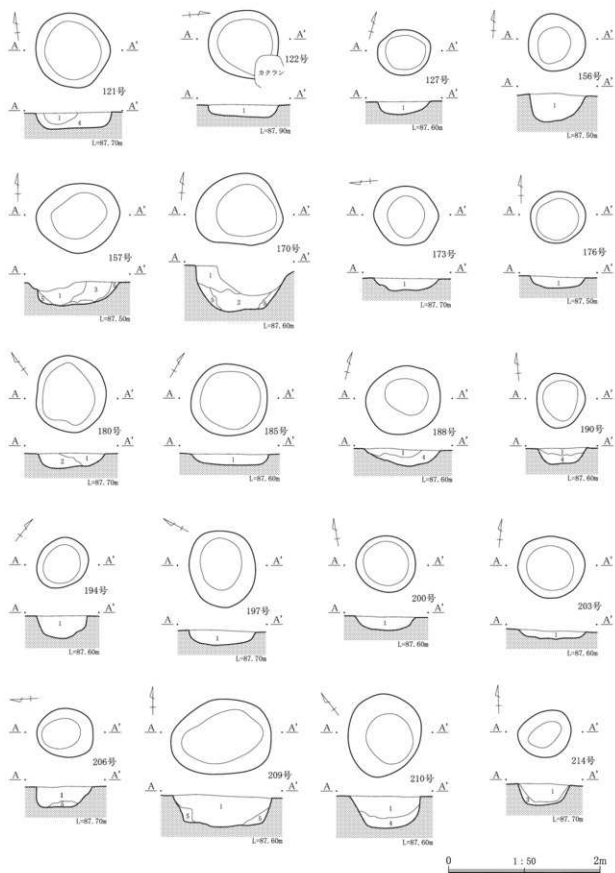
0 1 : 50 2m

第165図 II区土坑(9)

II 縄紋時代の調査

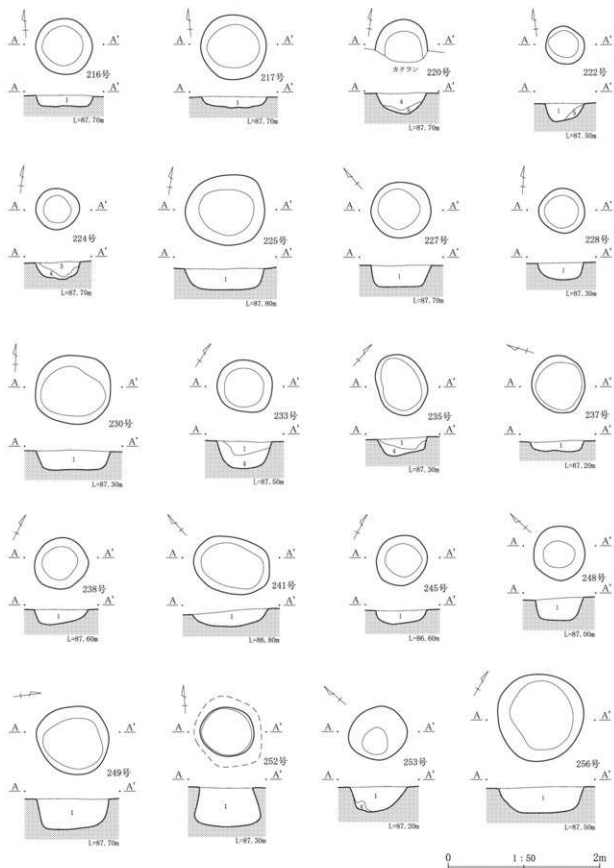


第166図 II区土坑 (10)

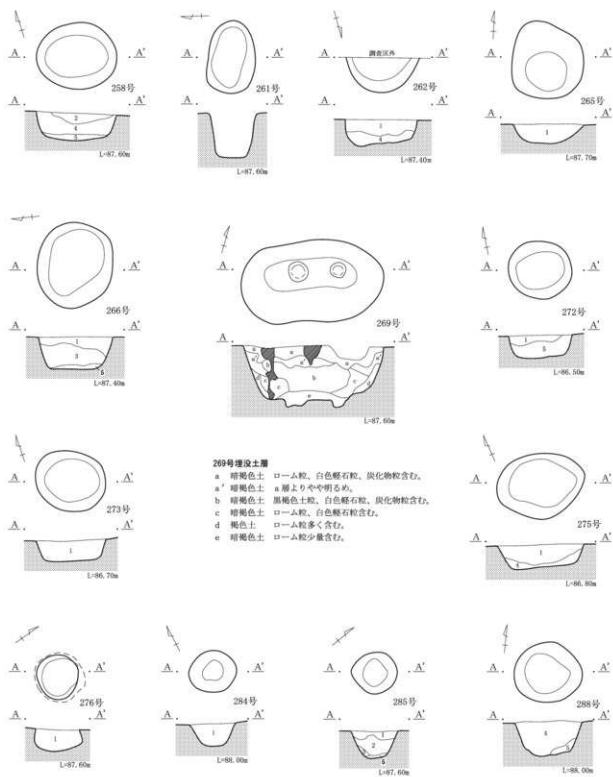


第167图 II区土坑(11)

II 縄紋時代の調査

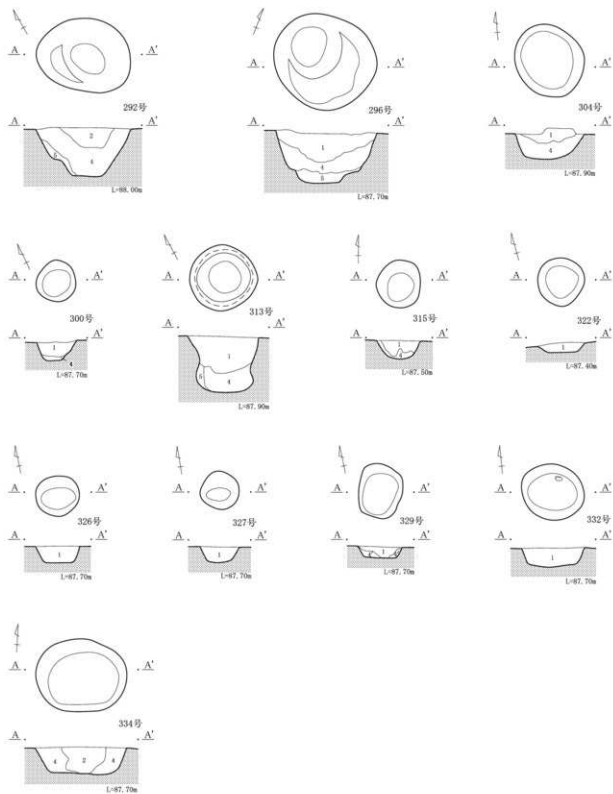


第168図 II区土坑(12)



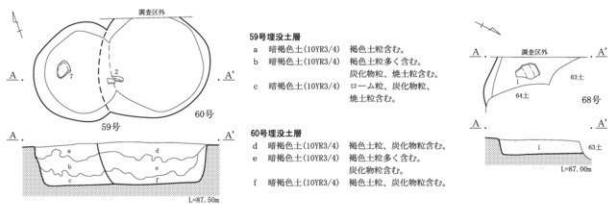
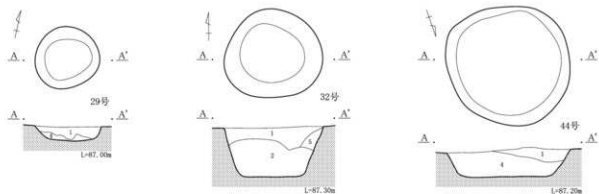
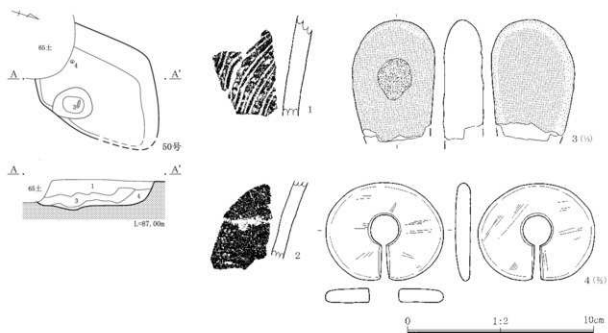
第169図 II区土坑 (13)

II 縄紋時代の調査



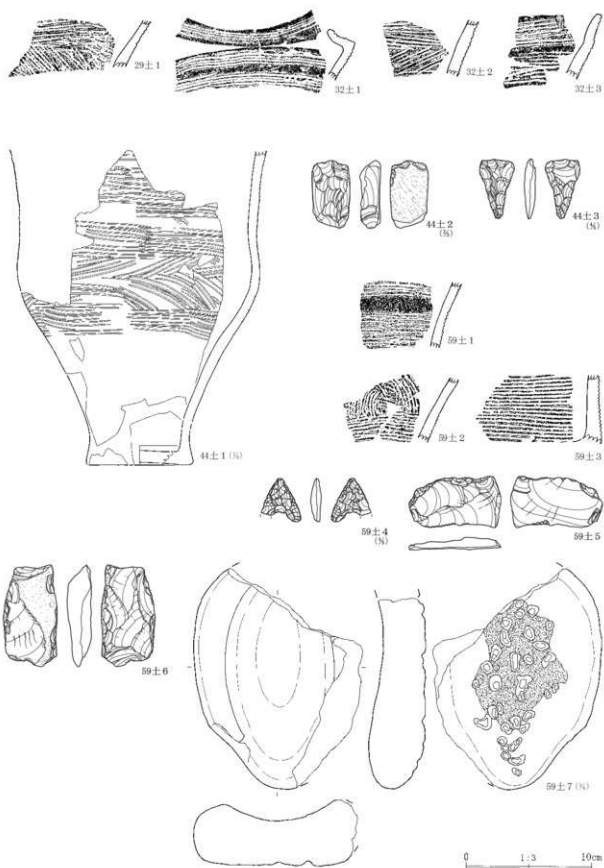
0 1:50 2m

第170図 II区土坑(14)

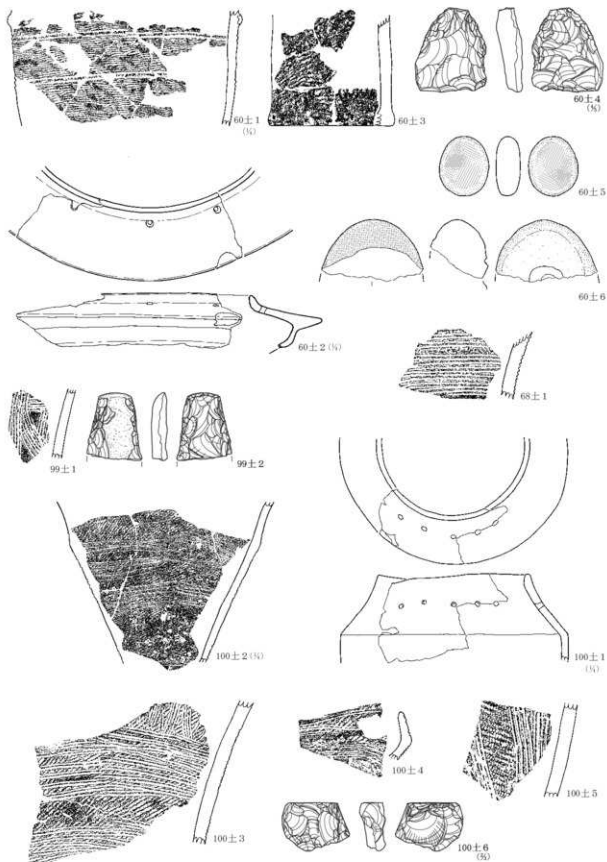


第171图 Ⅲ区土坑(1)

II 縄紋時代の調査

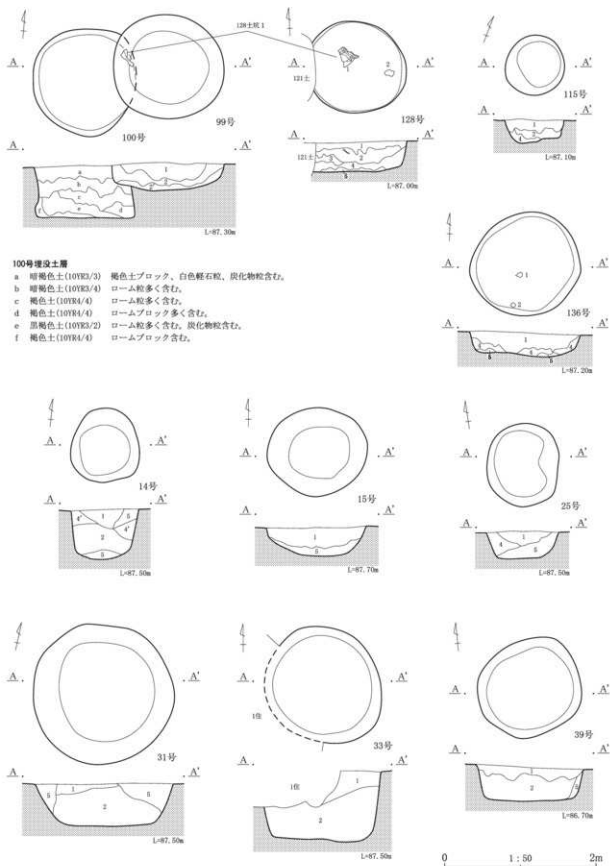


第172図 III区土坑出土遺物(1)

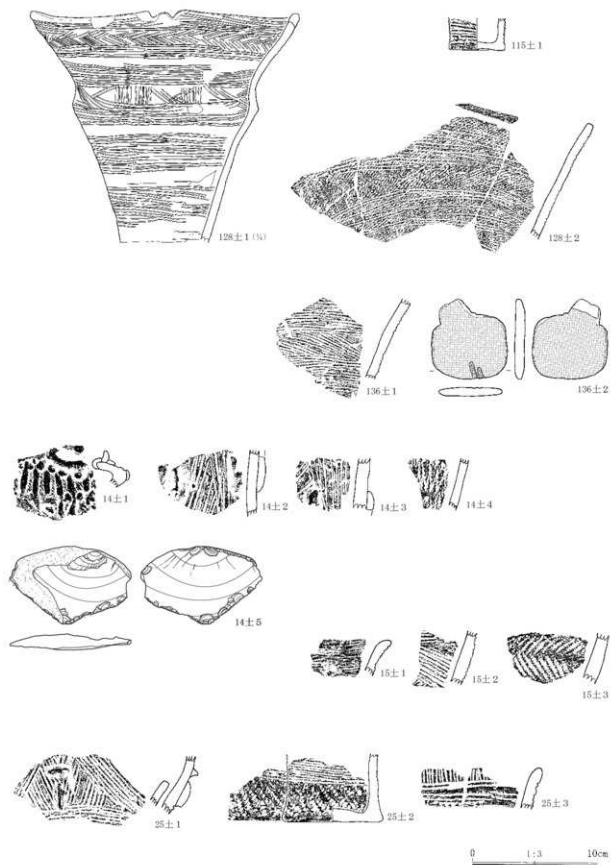


第173图 III区土坑出土遗物(2)

II 縄紋時代の調査

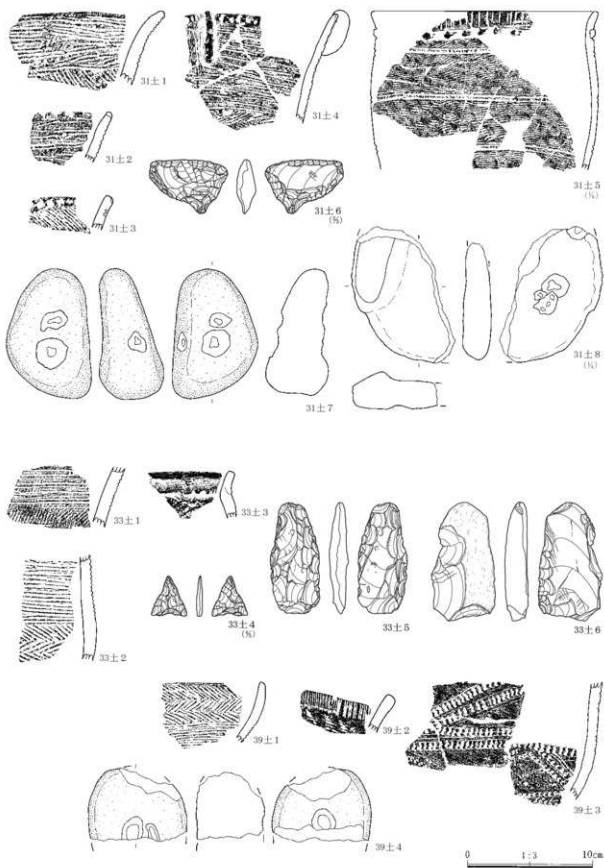


第174図 III区土坑(2)

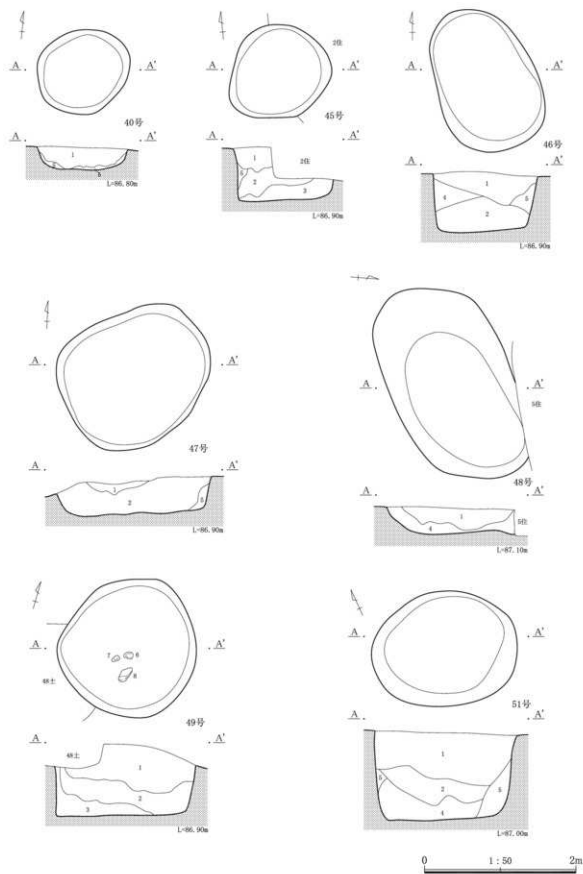


第175图 Ⅲ区土坑出土遗物(3)

II 縄紋時代の調査

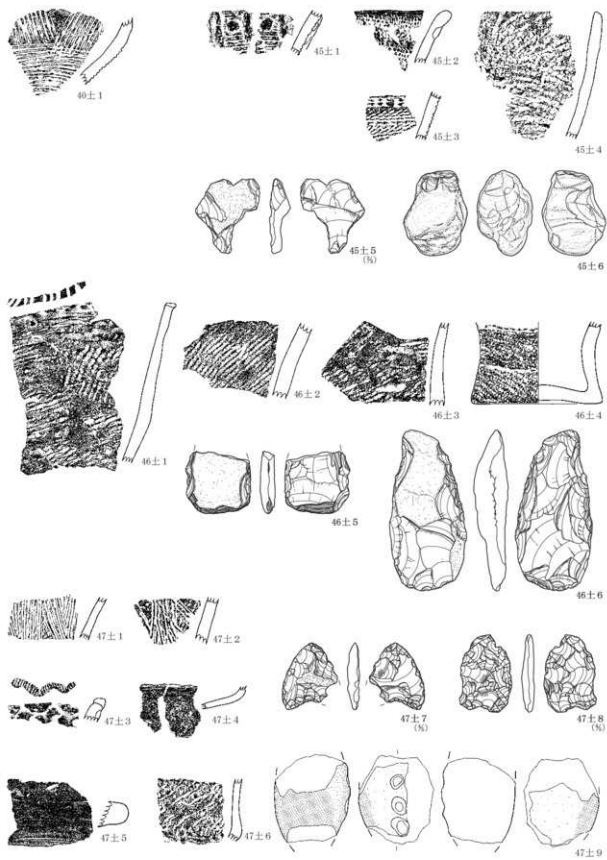


第176図 III区土坑出土遺物(4)



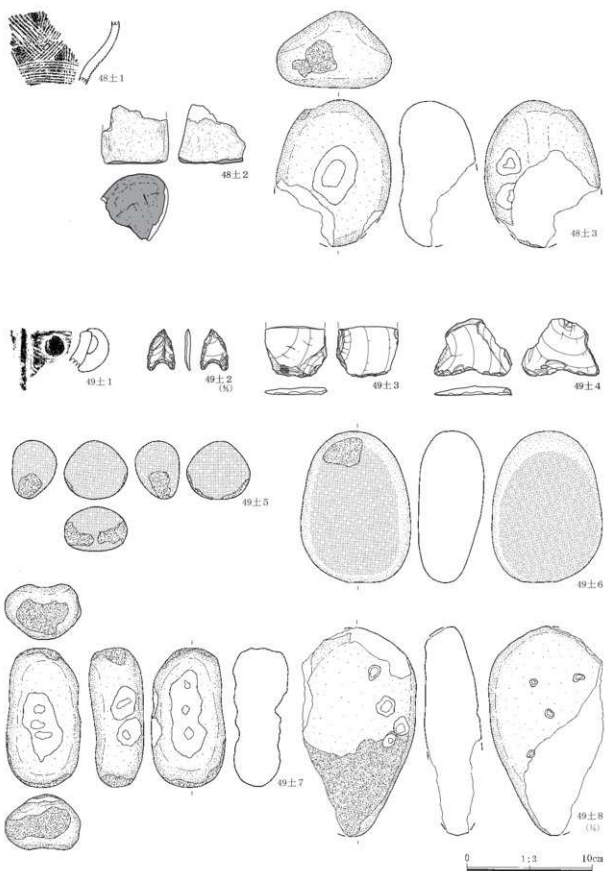
第177图 Ⅲ区土坑(3)

II 縄紋時代の調査



第178図 Ⅲ区土坑出土遺物(5)

0 1:3 10cm



第179图 Ⅲ区土坑出土遗物(6)

II 縄紋時代の調査

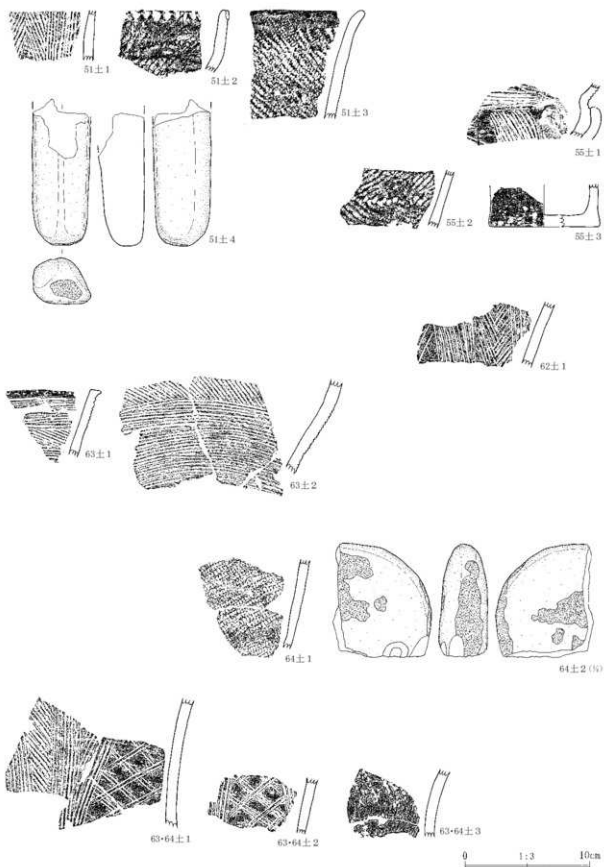


91号埋没土層

- a 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土ブロック、白色軽石粒、炭化物粒含む。
 b 褐色土(10YR4/4) ローム粒多く含む、白色軽石粒、炭化物粒含む。
 c 褐色土(10YR4/6) ローム主体。
 d 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石粒含む。
 e 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。
 f 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石粒含む。
 g 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒多く含む。

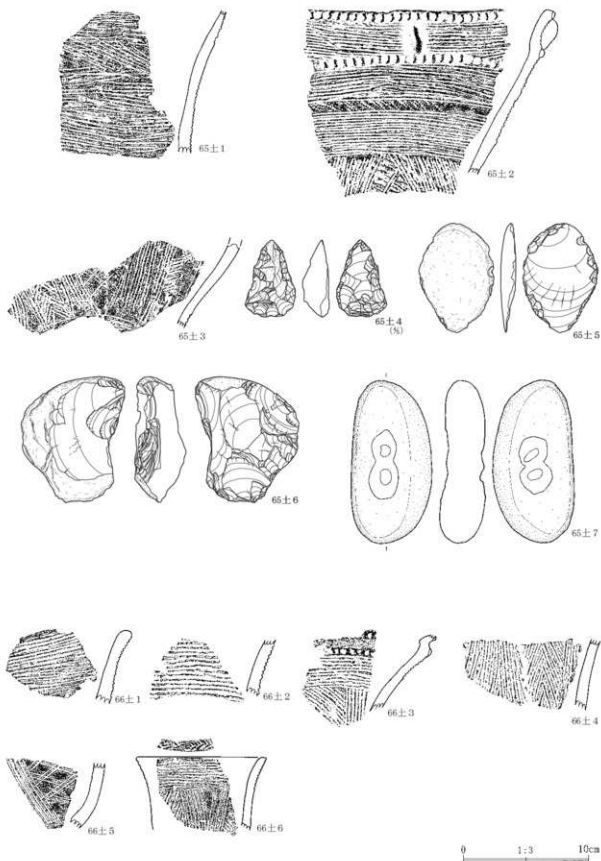
0 1:50 2m

第180図 III区土坑(4)

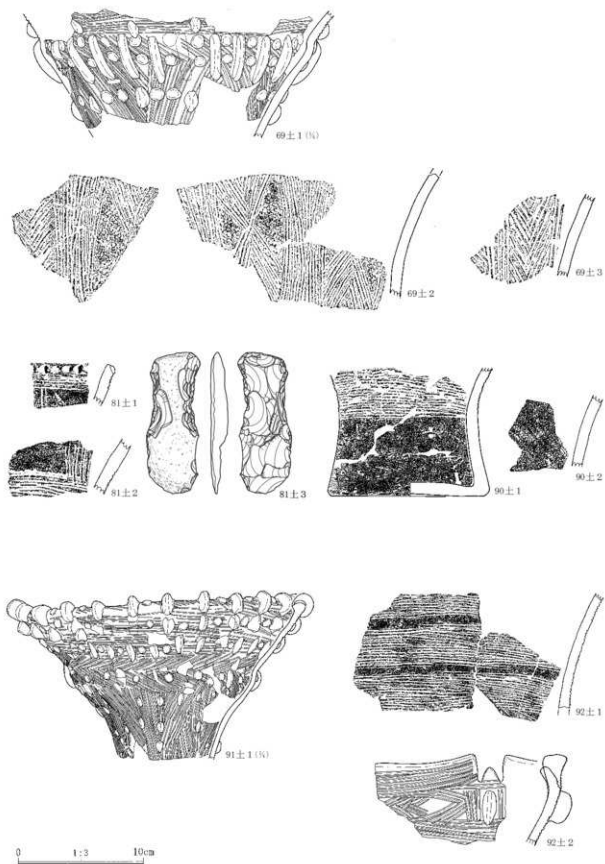


第181图 Ⅲ区土坑出土遗物(7)

II 縄紋時代の調査

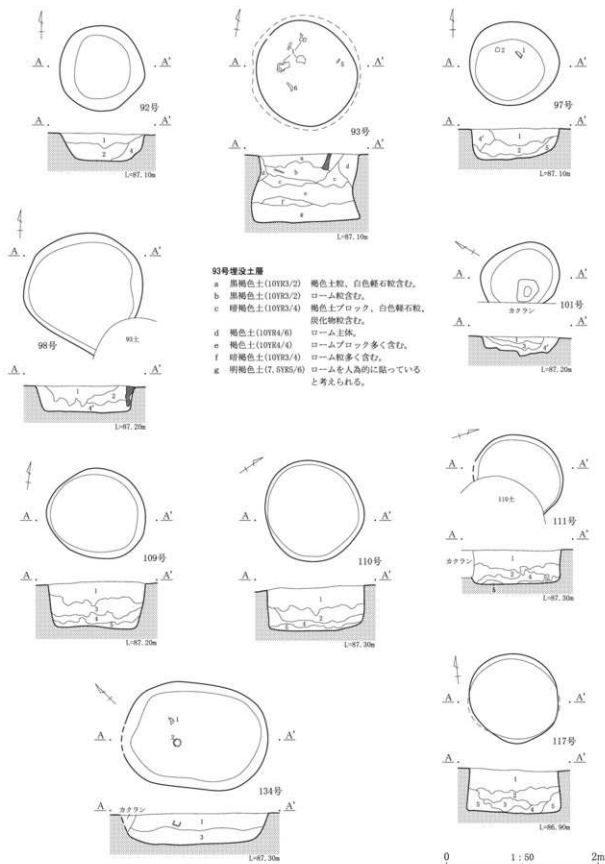


第182図 III区土坑出土遺物(8)

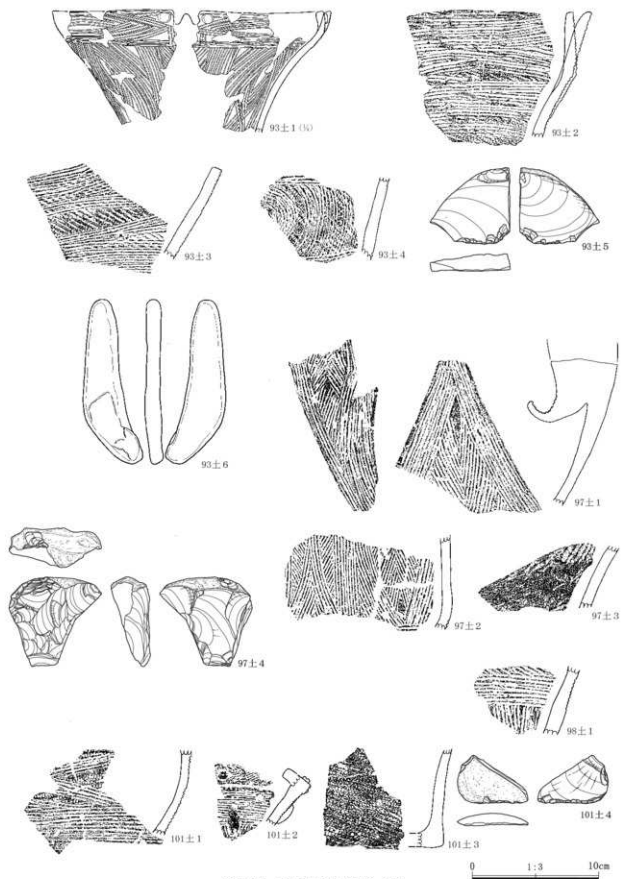


第183图 Ⅲ区土坑出土遗物(9)

II 縄紋時代の調査

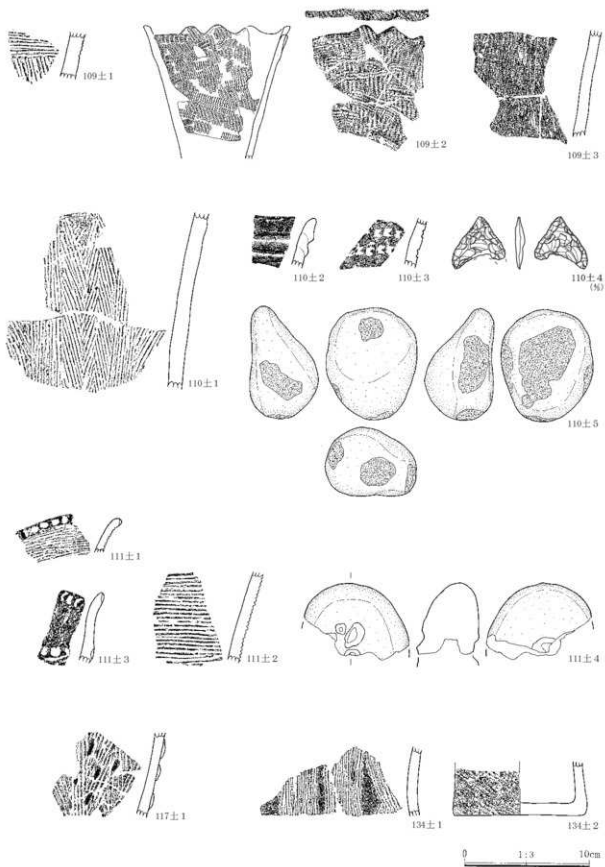


第184図 III区土坑(5)

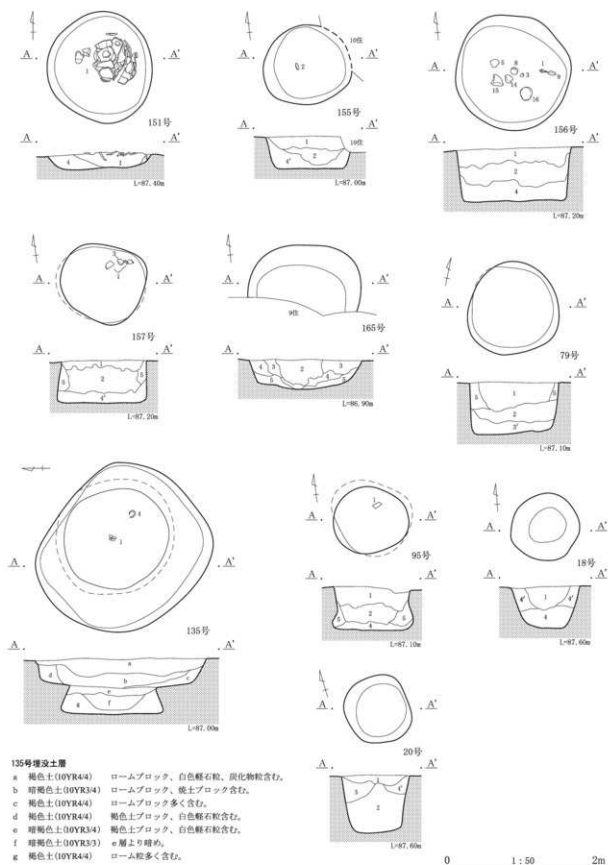


第185图 Ⅲ区土坑出土遗物 (10)

II 縄紋時代の調査

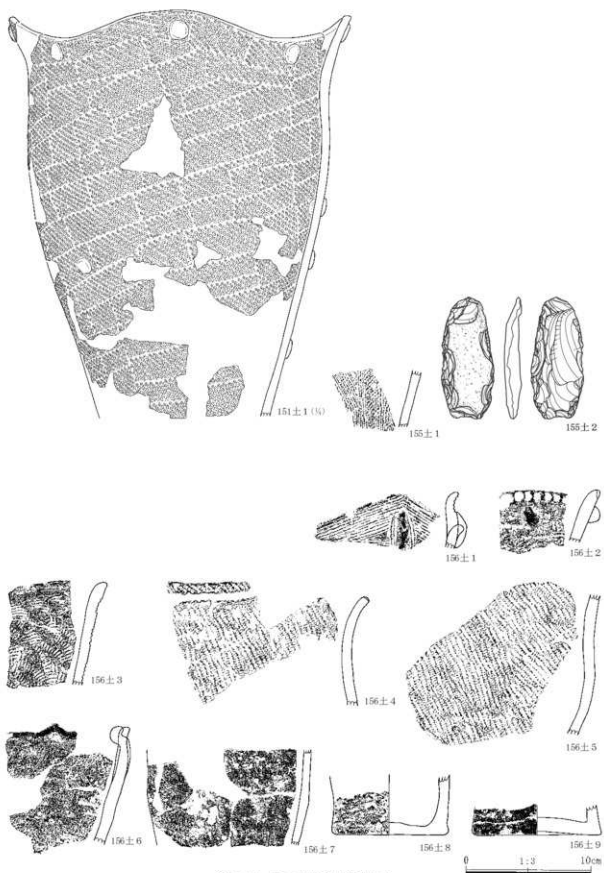


第186図 III区土坑出土遺物(11)

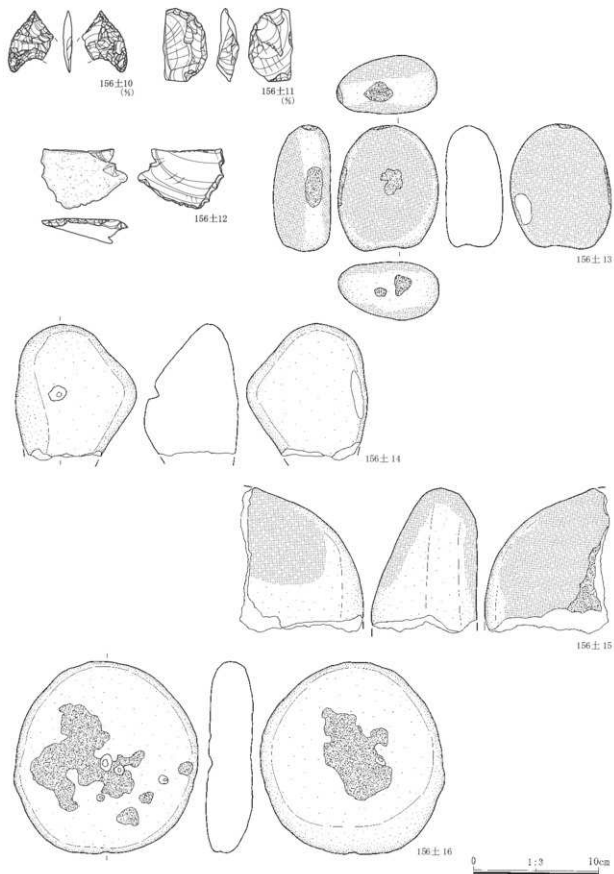


第187図 III区土坑(6)

II 縄紋時代の調査

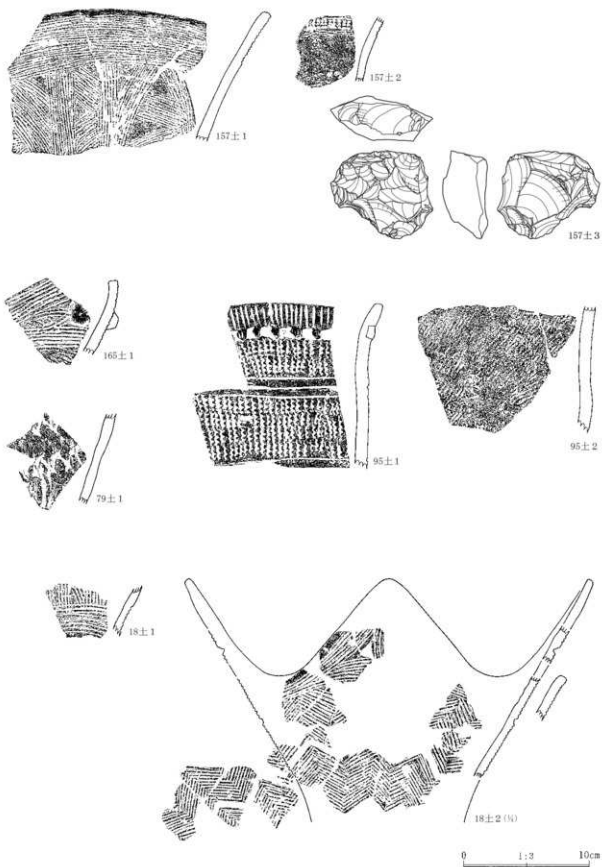


第188図 III区土坑出土遺物(12)

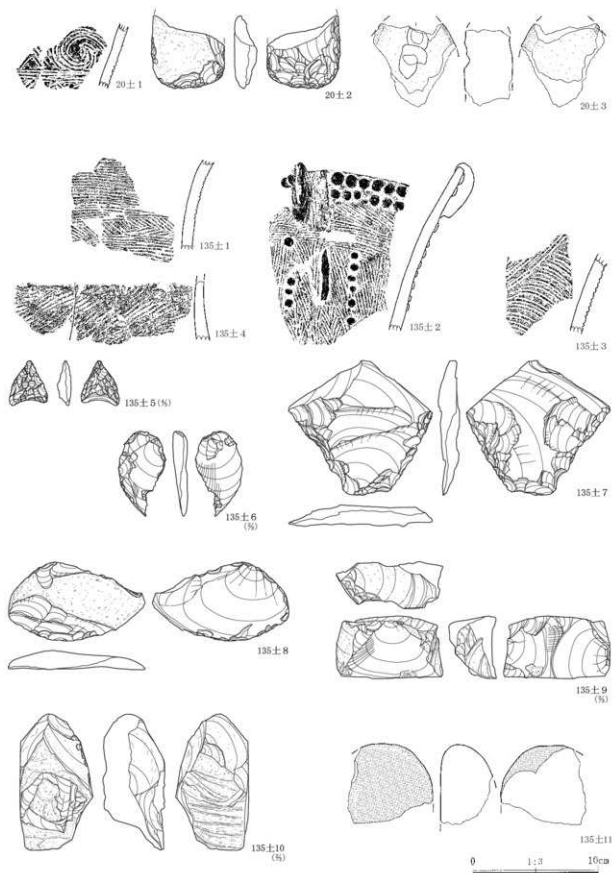


第189图 Ⅲ区土坑出土遗物(13)

II 縄紋時代の調査

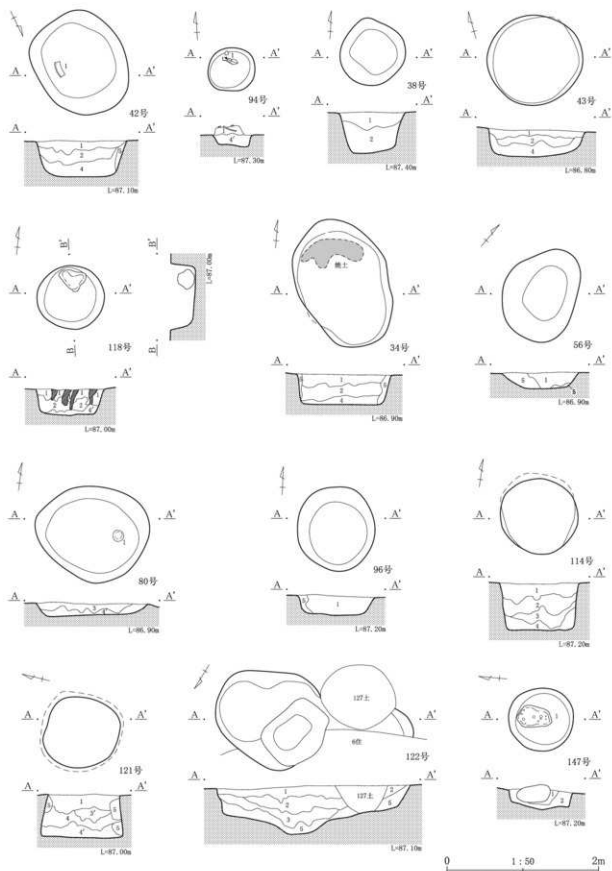


第190図 III区土坑出土遺物 (14)

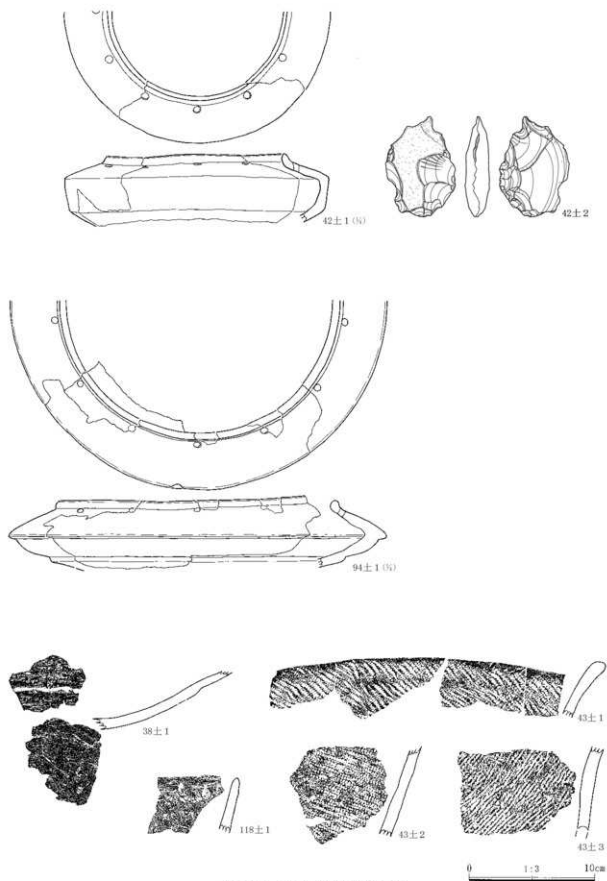


第191图 Ⅲ区土坑出土遗物(15)

II 縄紋時代の調査

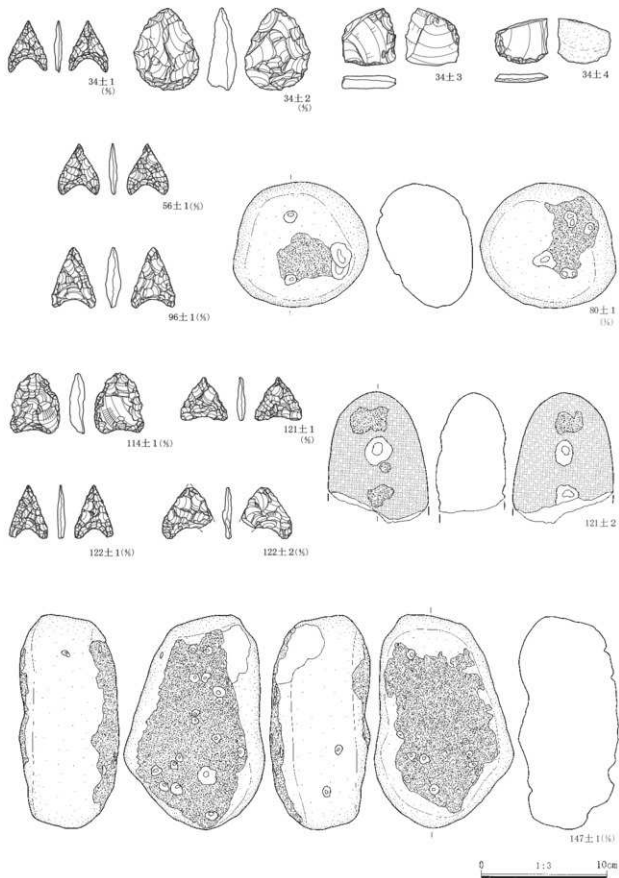


第192図 III区土坑(7)

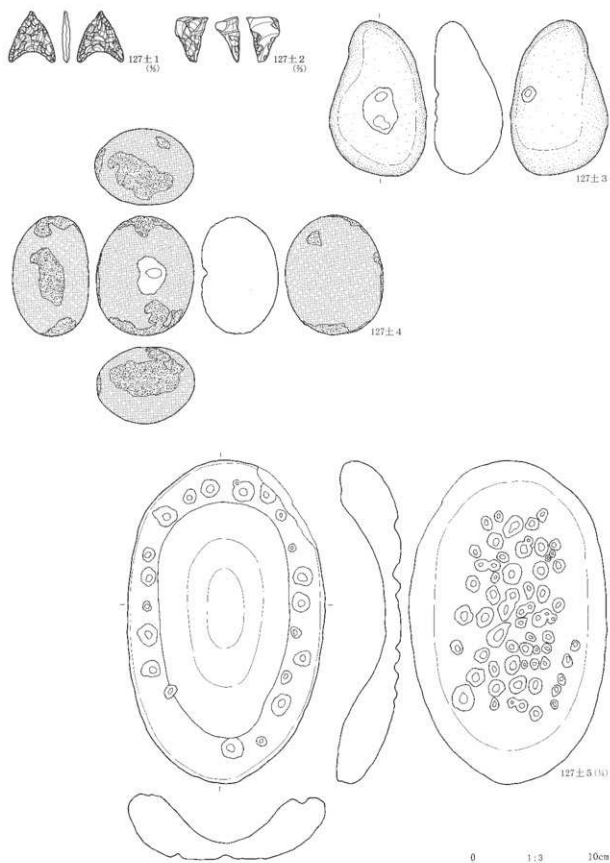


第193图 Ⅲ区土坑出土遗物(16)

II 縄文時代の調査

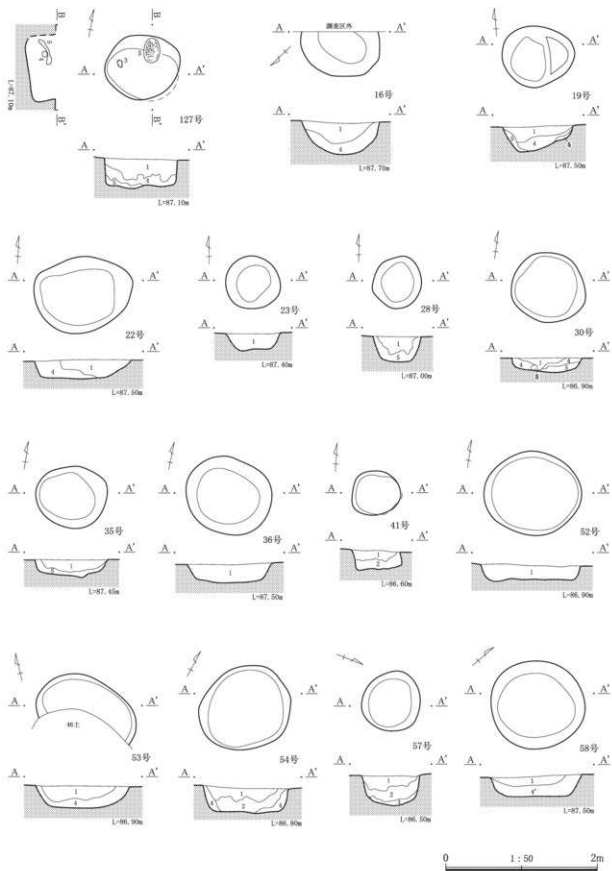


第194図 III区土坑出土遺物 (17)

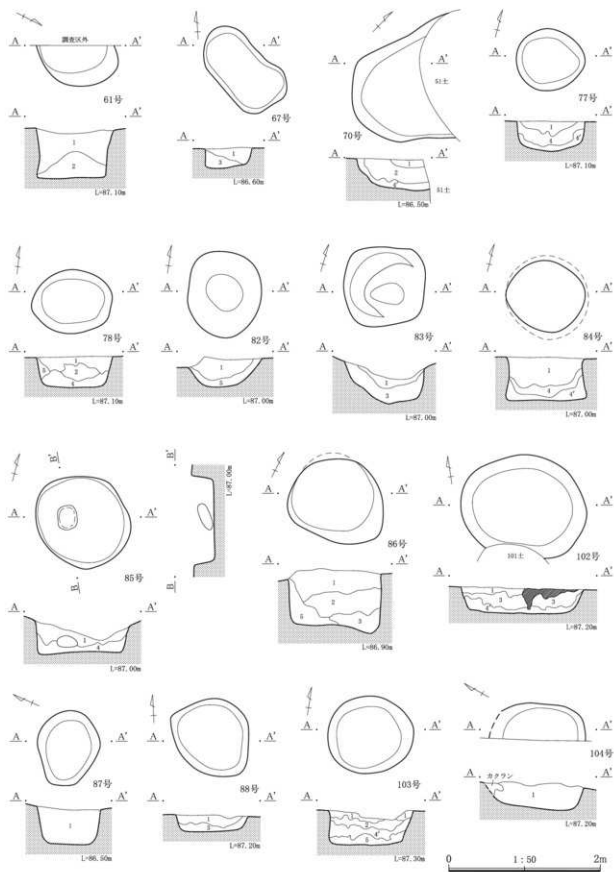


第195图 III区土坑出土遗物 (18)

II 縄紋時代の調査

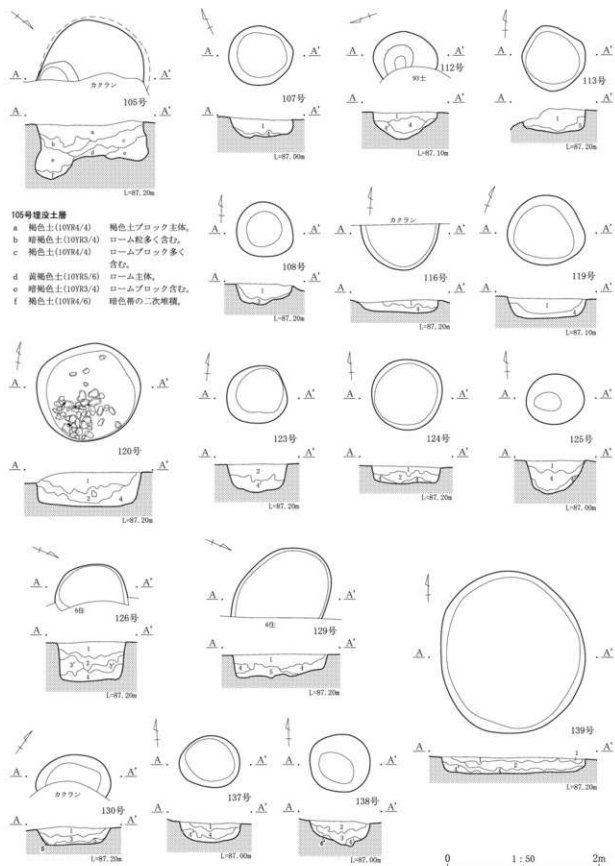


第196図 III区土坑(8)

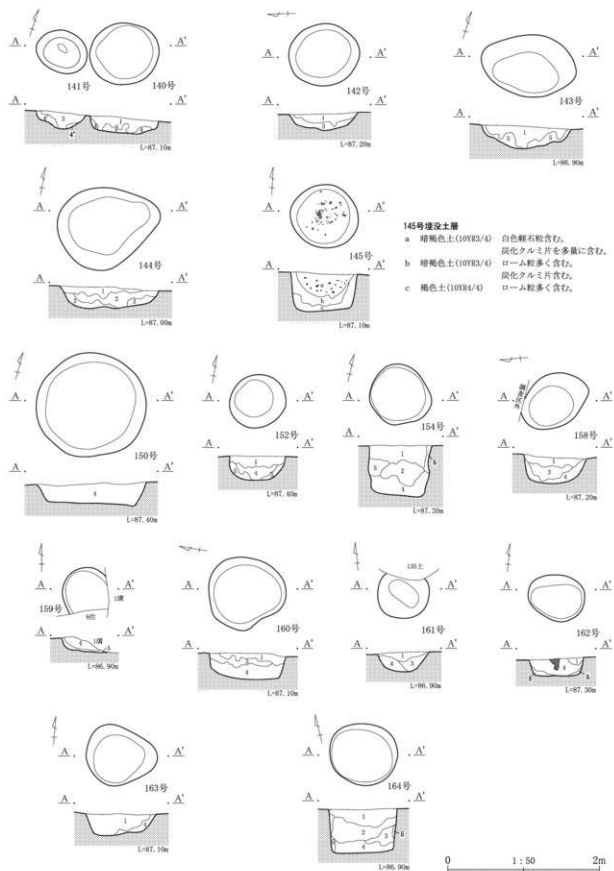


第197图 III区土坑(9)

II 縄紋時代の調査

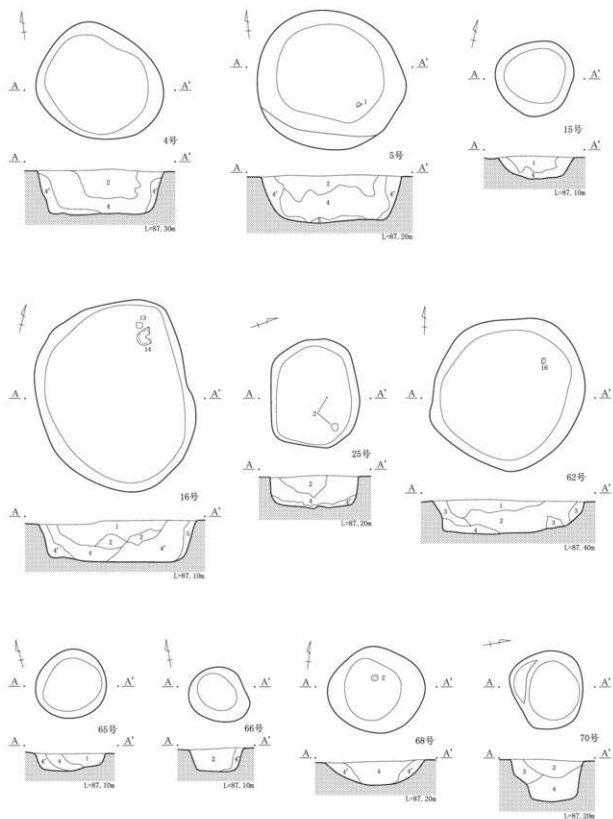


第198図 III区土坑(10)



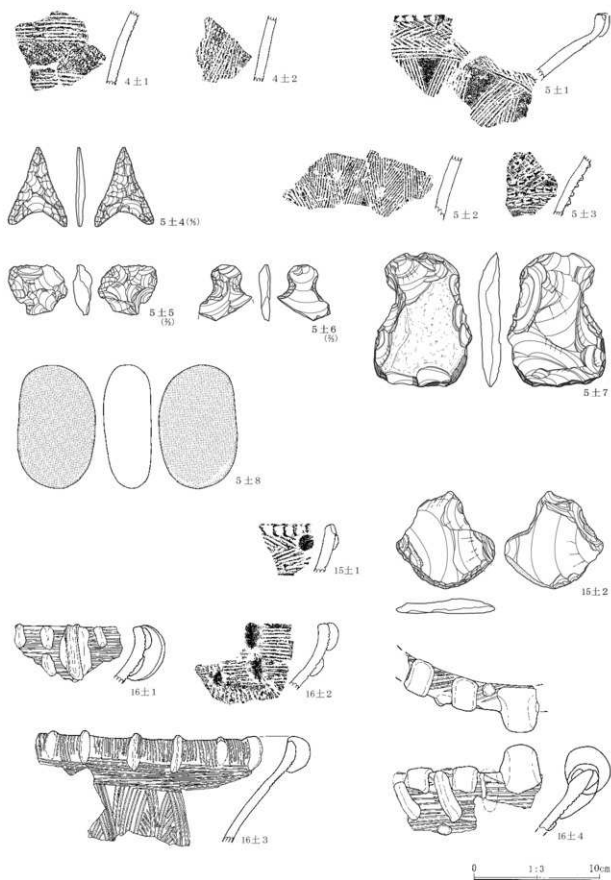
第199図 III区土坑 (11)

II 縄紋時代の調査



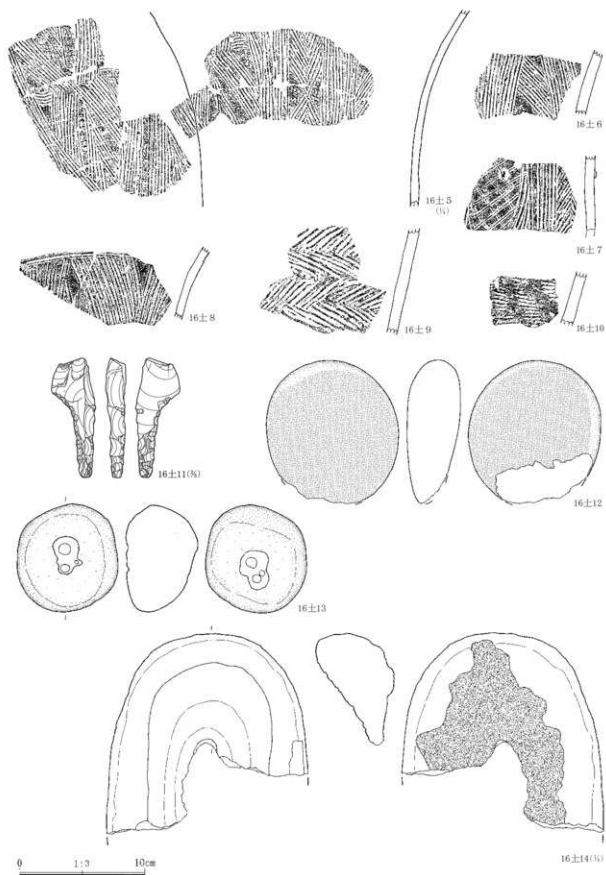
0 1 : 50 2m

第200図 IV区土坑(1)

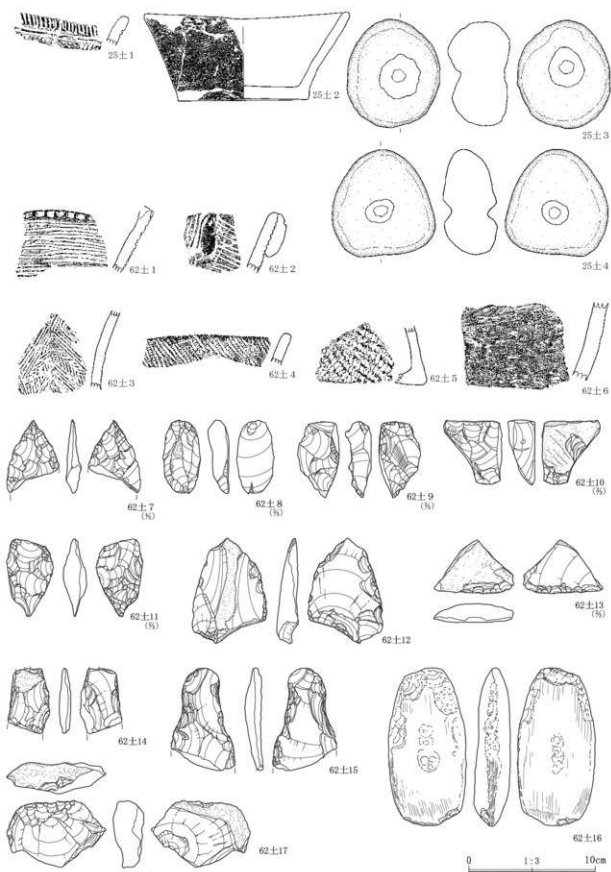


第201图 IV区土坑出土遗物(1)

II 縄紋時代の調査

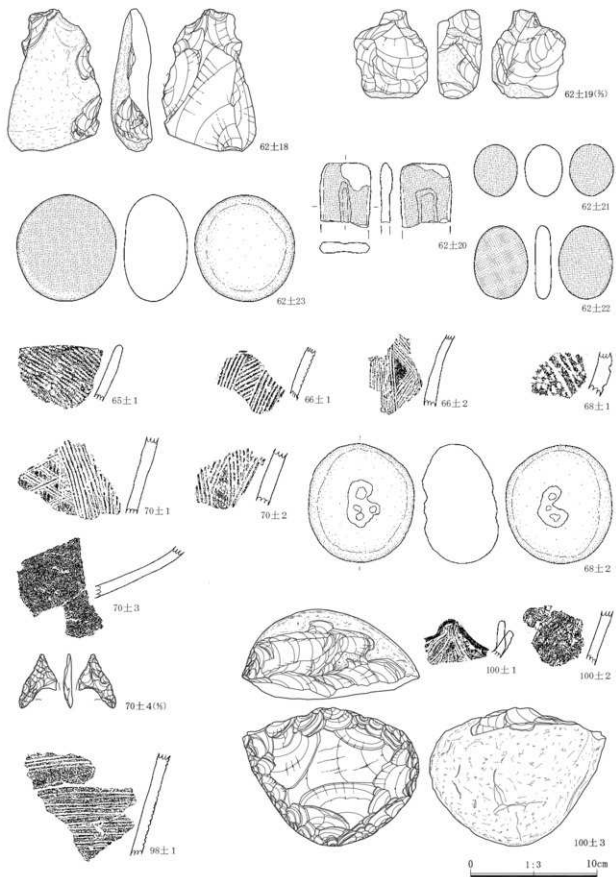


第202図 IV区土坑出土遺物(2)

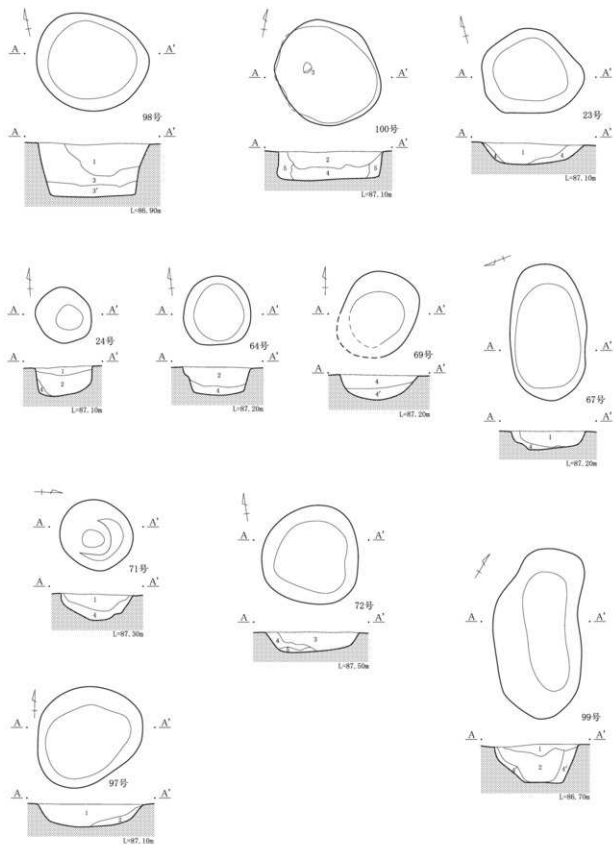


第203图 IV区土坑出土遗物(3)

II 縄紋時代の調査



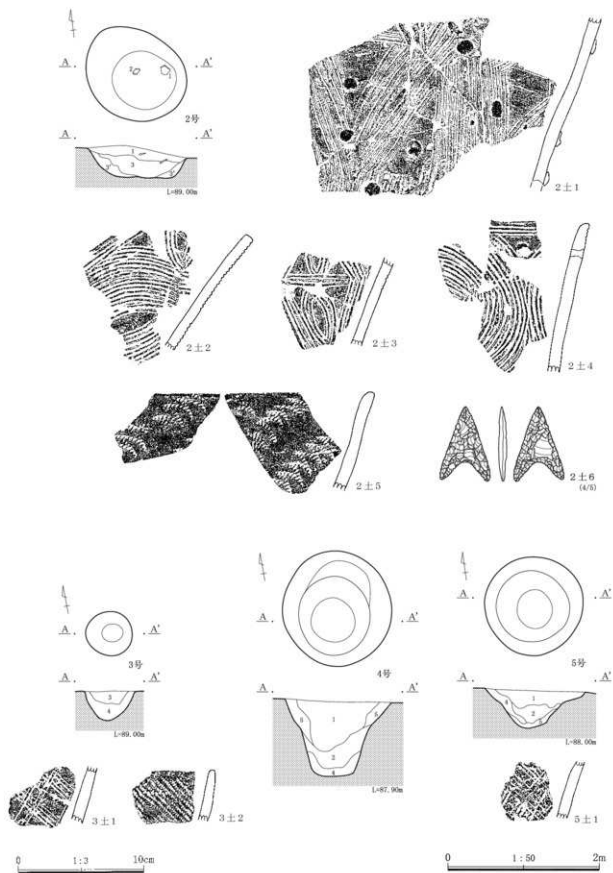
第204図 IV区土坑出土遺物(4)



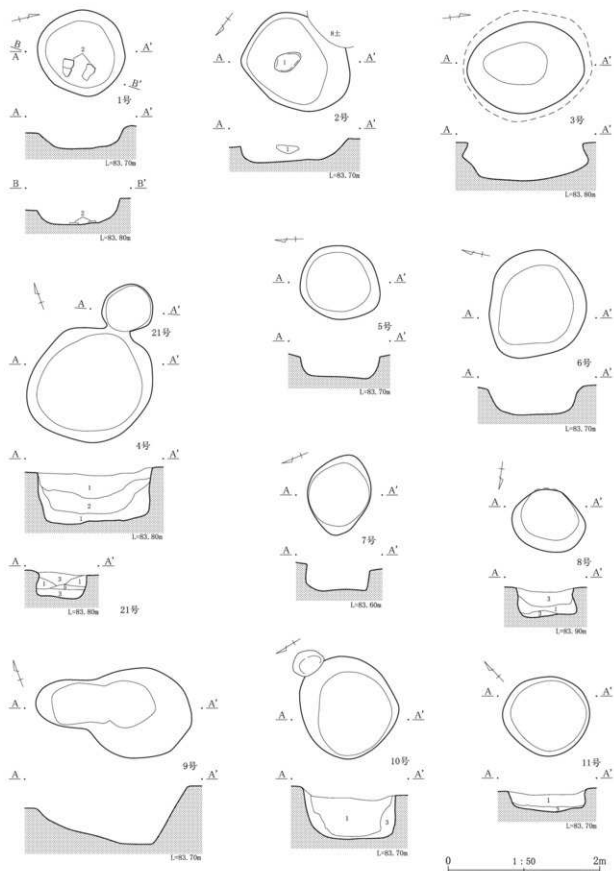
0 1:50 2m

第205图 IV区土坑(2)

II 縄紋時代の調査

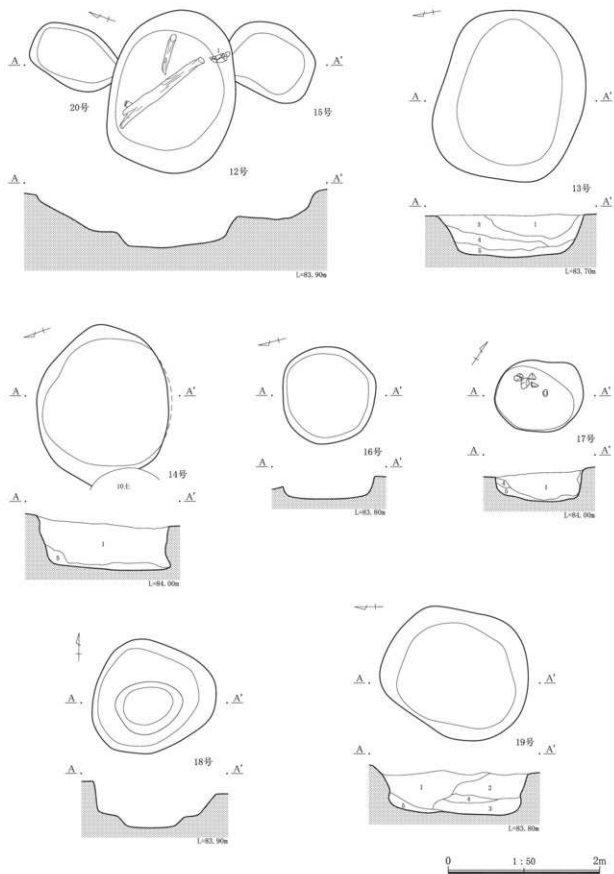


第206図 VI区土坑と出土遺物

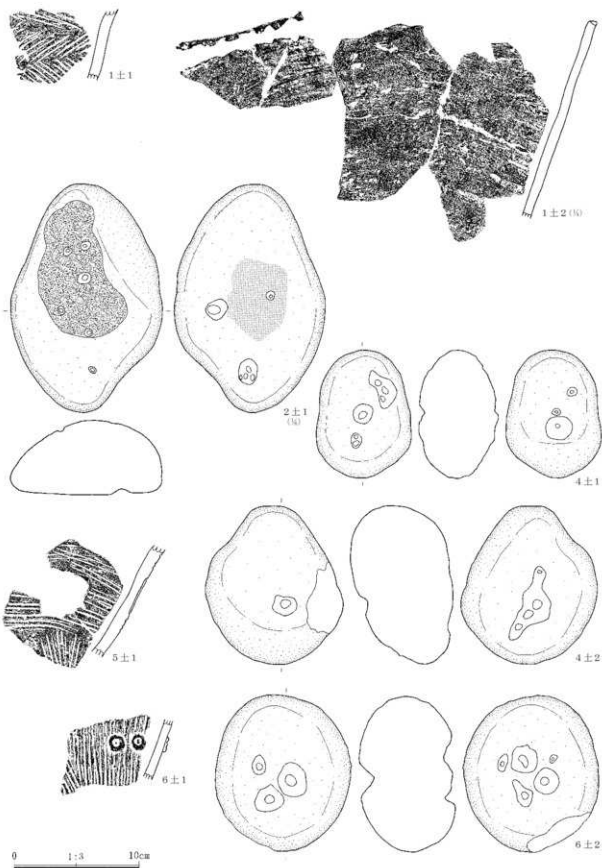


第207图 I区土坑(1)

II 縄紋時代の調査

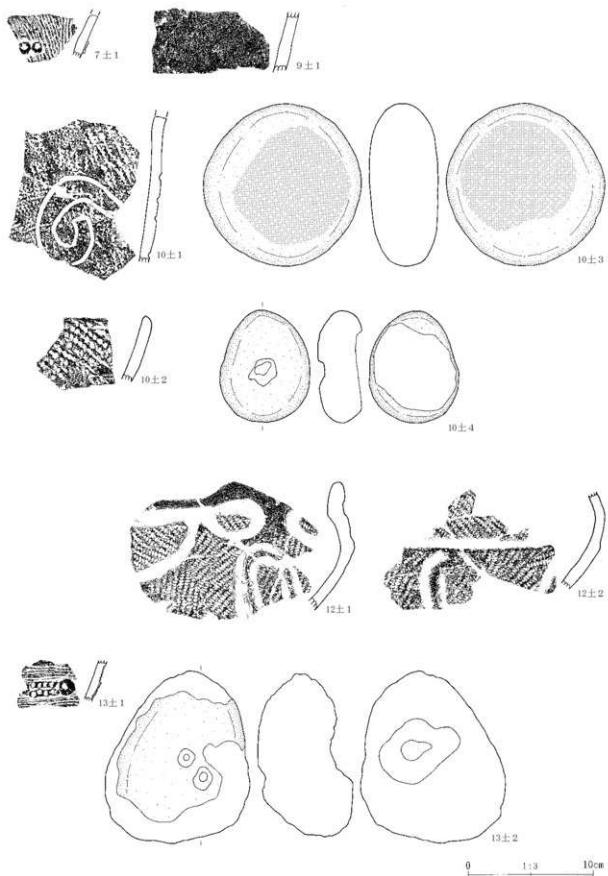


第208図 1区土坑(2)

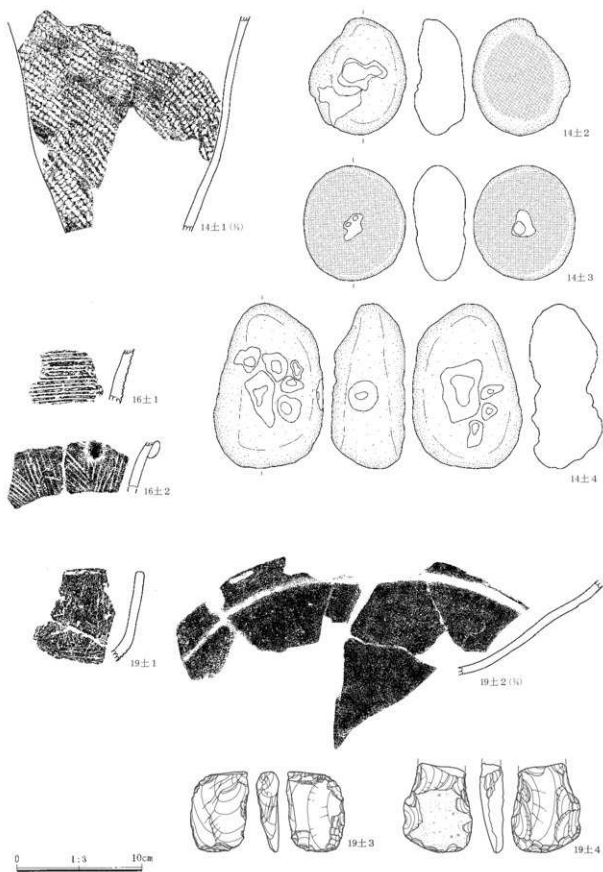


第209图 1区土坑出土遗物(1)

II 縄紋時代の調査



第210図 I区土坑出土遺物(2)



第211图 I区土坑出土遗物(3)

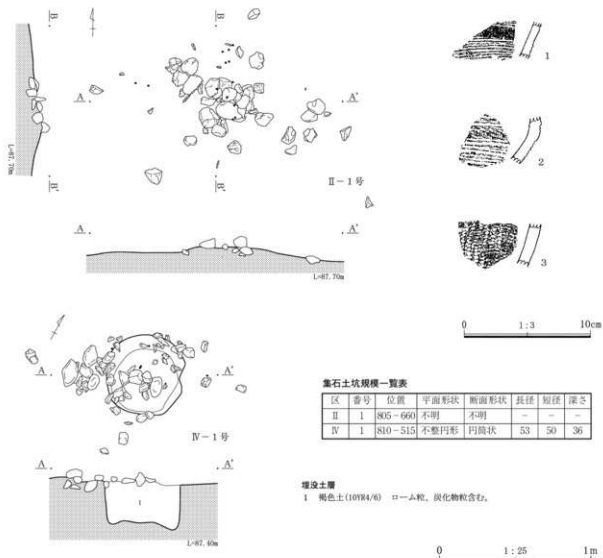
5 集石土坑

集石土坑は、2基が検出された。

II-1号は、II区南東隅で検出された。径80cmほどの範囲に特に礫が集中し、周囲に散在する礫を含めると径1.8mほどの広がりをもつ。素材は数cm～40cmほどの円礫や垂角礫を用いており、その多くに被熱による赤化が認められる。調査時には明瞭な掘り込みは確認されていない。遺物は、諸磯b式、縄紋施紋の土器片が出土していることから、諸磯b式期の所産と考えられようか。

IV-1号は、IV区中央北西寄りで検出された。径

1.5mほどの範囲に礫が分布するが、ややまとまりに欠ける。素材は数cm～40cmほどの円礫や垂角礫を用いている。礫は被熱による赤化が認められるものもあるが、ほとんどは熱を受けていないようであり、II-1号とはやや様相が異なる。礫の下部からは円筒状の掘り込みが確認されているが、礫の分布範囲とは一致せず、また掘り込みも深いことから集石に伴うものではなく、別の土坑の可能性が考えられよう。出土遺物は皆無であるため帰属時期は確定できないが、住居と同時期の前期後半諸磯b式～c式期と考えるのが妥当と思われる。



第212図 II-1・IV-1号集石と出土遺物

土坑出土遺物観察表

Ⅱ区土坑 土器		器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
12	1	深鉢 胴部	①織蓮 ②ふつう ③橙	0段多糸縄紋を横位施紋する。	花積下層式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	縦位、斜位に集合沈線を施す。	諸磯c式
47	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②真好 ③にぶい橙	波状口縁。口縁に沿って集合沈線を施す。	十三善提式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい赤褐	横位弧面状に集合沈線を施す。	十三善提式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	横位に平行沈線を施し、沈線間に単筋R L縄紋を横位施紋する。	前期末葉～ 中期初頭
	4	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	単筋R Lの結節縄紋を横位施紋する。	前期後半
	5	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	単筋R L、L Rの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
287	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	条線を斜位に施す。	諸磯c式?
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	平行沈線により横位区画し、紋様帯内に同心円状モチーフを描く。	十三善提式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐	単筋R L、L Rの羽状縄紋を施す。	前期後半
229	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③浅黄橙	横位に集合沈線を施す。	諸磯b式
231	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	集合沈線による横帯構成。地紋に無筋L r縄紋を施紋。	諸磯b式
	2	深鉢 胴部	①細砂多 ②真好 ③橙	横位に集合沈線を施す。	諸磯b式
232	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	集合沈線による横帯構成。地紋に単筋R L縄紋を施紋。	諸磯b式
255	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	集合沈線による横帯構成。地紋に単筋R L縄紋を横位施紋する。	諸磯b式
	2	浅鉢 胴部	①細砂少 ②真好 ③明赤褐	胴部下の部位で段を有する。内外面研磨。	Ⅱ-81、93土 と接合
33	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	斜位に集合沈線を施す。	諸磯c式
105	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。口縁内面の肥厚部にも斜位の集合沈線と貼付を施す。	諸磯c式
107	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄橙	横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。口縁内面の肥厚部にも斜位の集合沈線と貼付を施す。	諸磯c式
	2	深鉢 胴部		No.1と同一個体。口縁下の部位。横位集合沈線を施し、棒状貼付紋を貼付する。	諸磯c式
	3	深鉢 胴部		No.1と同一個体。屈曲する部位。屈曲部下は斜位の集合沈線と棒状貼付紋を施す。	諸磯c式
	4	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③橙	平行沈線により幾何学状モチーフを描く。	諸磯c式?
	5	深鉢 口縁部	①細砂少 ②真好 ③にぶい黄橙	波状口縁。地紋に横位集合沈線を施し、結節浮線によりレンズ状モチーフを描く。内面研磨。	下島式
	6	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③赤褐	地紋に斜位の集合沈線を施し、結節浮線を横位多段に貼付する。	下島式
	7	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	波状口縁。単筋R L、L Rの結束羽状縄紋を施し、口縁下に波状条浮線を貼付する。	大木5式
	8	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	無筋L r縄紋を施し、瘤状の貼付紋を貼付する。	諸磯c式
108	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	レンズ状集合沈線を施す。	諸磯c式
158	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	斜位に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	諸磯c式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	縦位弧面状に集合沈線を施し、2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。	諸磯c式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	縦位区画、弧状などの集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。	下島式

II 縄紋時代の調査

I 区土坑 土器		紋様の特徴等		備考	
土坑番号	番号	器種			
158	4	深鉢 底部	①胎土は焼成③色調 ①細線多 ②真好 ③赤褐色	底部が張り出す器形。斜位に集合沈線を施す。	下島式
	5	深鉢 口縁部	①細線多 ②真好 ③赤褐色	単筋LR、RLの結束羽状縄紋を横位施紋し、口縁部に短い素浮線状の貼付紋を貼付する。	隣織c式
	6	深鉢 口縁部	①細線少 ②ふつう ③にふい貴焼	単筋LR縄紋を横位施紋し、2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。口唇部にも素浮線状の貼付紋を貼付する。	隣織c式
169	1	深鉢 胴部	①細線少 ②真好 ③澄	縦位や弧状の集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	隣織c式
183	1	深鉢 胴部	①細線少 ②真好 ③にふい赤焼	斜位、弧面状に集合沈線を施す。	隣織c式
	2	深鉢 胴部	①細線少 ②真好 ③澄	やや丸腰に斜位に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	隣織c式
204	1	深鉢 口縁部	①細線少 ②ふつう ③暗赤焼	横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。口縁内面の肥厚部にも斜位の集合沈線と貼付紋を施す。	隣織c式
	2	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③暗赤焼	単筋RL縄紋を施紋する。	前期後半
	3	深鉢 口縁部	①細線少 ②ふつう ③澄	無紋。	前期後半
226	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③澄	平行沈線を斜格子目状に施し、2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。	隣織c式
	2	深鉢 口縁～ 胴部	①細線少 ②ふつう ③赤褐色	頸部で屈曲する器形。口縁部紋様帯は斜位の集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。胴部紋様帯は縦位やレンズ状、X字状の集合沈線を施す。沈線は全体的にやや丸腰に見える。屈曲部にも貼付紋を貼付する。	隣織c式
291	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にふい貴焼	横位弧面状に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	隣織c式
	2	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③明赤焼	斜位に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	隣織c式
	3	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③明赤焼	単筋RL縄紋を横位施紋する。	前期後半
	4	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にふい貴焼	単筋RLの結節縄紋を横位施紋する。	前期後半
294	1	深鉢 底部	①細線少 ②真好 ③明赤焼	底部が張り出す器形。底部付近に横位集合沈線を施して区画。紋様帯内は斜位の集合沈線を施す。	下島式
	2	浅鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③明赤焼	外面研磨。	前期後半
	3	深鉢 口縁部	①細線少 ②ふつう ③にふい貴焼	無紋。	前期後半
299	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③暗赤焼	斜位に集合沈線を施す。	隣織c式
308	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にふい貴焼	縦位弧面状に集合沈線を施し、2個一對の貼付紋を貼付する。	隣織c式
312	1	深鉢 胴部	①細線少 ②真好 ③にふい貴焼	沈線を縦位、斜位に施す。内面研磨。	隣織c式
338	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にふい貴焼	縦位区画、斜位の集合沈線を施す。	隣織c式
270	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にふい貴焼	ロッキングを横位に施す。	浮島式
298	1	深鉢 口縁～ 胴部	①細線少 ②真好 ③にふい貴焼	想定口径14.5cm。直線的に立ち上がり、口縁部でややすぼまって口縁が開く器形。斜位にまばらに沈線を施す。口唇部に刻みを付す。口縁部に輪積み痕を4段ほど残している。	浮島式
	2	深鉢 口縁部	①細線少 ②真好 ③暗赤焼	弧状口縁。口縁に沿って集合沈線、結節浮線を施す。夜頂部から3条の結節浮線を垂下させ、ボタン状貼付紋を貼付する。内面研磨。	下島式
	3	深鉢 口縁部	①細線少 ②ふつう ③にふい貴焼	口縁部が強く外反する器形。単筋RL縄紋を横位施紋する。	前期後半
314	1	深鉢 底部	①細線多 ②ふつう ③明赤焼	底部が張り出す器形。縦位弧面状に集合沈線を施し、横位集合沈線で画す。	下島式 or 十三善提式
159	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③黒焼	集合沈線による渦巻紋を施す。	下島式
26	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③赤褐色	平縁起線を羽状に施す。印刷が見られる。	十三善提式
	2	深鉢 胴部	①細線少 ②真好 ③浅黄	単筋RL、LRの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
109	1	深鉢 口縁部	①細線少 ②ふつう ③にふい貴焼	口縁下に横位集合沈線を施し、2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。	隣織c式

Ⅱ区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
109	2	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③橙	集合沈線により同心円状モチーフを描く。内面研削。	十三善提式
117	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③橙	横位、扇面状に集合沈線を施し、沈線間に印刷を施す。	十三善提式
119	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③橙	横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式
	2	深鉢 胴部	①細粒少、石英粒 ②良好 ③明赤褐	三角形状に集合沈線を施す。破片上に印刷が見られる。	前期末葉
321	1	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③赤褐	横位集合沈線により紋様帯を区画。上位には同心円状に集合沈線を施し、印刷を施す。	十三善提式
325	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐	斜位に集合沈線を施す。	前期末葉
309	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にふい貴帯	斜位に半隆起線を施す。	前期末葉
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③橙	結節凹線を弧状に重畳させる。	壺ヶ塚式
	3	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③赤褐	単節L R縄紋を横位施紋する。	前期後半
41	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③明赤褐	胴部下平の張り出す部位と思われる。地紋に単節L R縄紋を斜位に施し、結節浮線を横位に3条めぐらす。胴部紋様帯は縦位に結節浮線を貼付する。	真島式
82	1	深鉢 胴部	①細粒多 ②良好 ③明赤褐	地紋に単節L R縄紋を施し、結節浮線を横位多段に貼付する。	前期末葉
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③にふい橙	単節L R、R Lの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
	3	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にふい貴帯	単節L R、R Lの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
	4	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③明赤褐	無紋。	前期後半
89	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	波状口縁の突起部で、透かしが入る筒状になるとと思われる。結節浮線を扇面状に重畳させる。	真島式
295	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③橙	斜位に集合沈線を施し、素浮線をV字状に貼付する。	大木5式
154	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③黒褐	屈曲する部位。屈曲部に2条の結節浮線をめぐらせて紋様帯を区画。上位の紋様帯には横位集合沈線とボタン状貼付紋。下位の紋様帯には扇面状集合沈線とボタン状貼付紋を施す。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	口縁下が脱落しているが、太沈線を横位多段に深く施す。口唇部にも刻みか施されているようだ。	大木6式
191	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	小突起を連ねる口縁部形状。太沈線を横位多段に深く施し、波状素浮線を貼付する。	大木6式
289	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③橙	球胴形の胴部下の部位。太く深い沈線で渦巻モチーフを描き、刺突を施す。	大木6式
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にふい貴帯	単節L R縄紋を横位施紋する。	前期後半
306	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③暗赤褐	平軌竹管と思われる刺突列を横位多段に施す。内面研削。	興津式
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③橙	太沈線を弧状に施し、手軌竹管によるC字状刺突を沿わせる。	大木6式
	3	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③赤褐	折り返し状の肥厚口縁で、一部下端を三角形状に彫り取る。単節L R、R Lの結束羽状縄紋を施紋する。	前期末葉
	4	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にふい橙	単節L R、R Lの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
307	1	深鉢 胴部	①石英、金雲母 ②ふつう③にふい橙	単節L R、R Lの結束羽状縄紋を横位施紋する。ざらつ胎土。	前期後半
297	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③赤褐	若干口縁部が内折する形態。単節L R縄紋を施し、結節浮線を横位にめぐらす。口唇部には平軌竹管内皮による刺突を施す。	前期末葉
182	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③赤褐	斜位に沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③明赤褐	口唇部を肥厚させ、無紋帯として残す。平行沈線による雲形紋を施す。口縁内面に段を有する。	前期末葉— 中期初頭
	3	深鉢 胴部	①細粒多 ②ふつう ③にふい橙	単節L Rの結節縄紋を横位施紋する。	前期後半
286	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③明赤褐	縦位、斜位の集合沈線を施す。	講義c式

II 縄紋時代の調査

I区土坑 土器		紋様の特徴等		備考	
土坑番号	番号	器種			
286	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	縦位、斜位の平行沈線と縦位の棒状貼付紋を施す。	諸磯一式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明黄褐色	横位レンズ状に集合沈線を施す。	十三番提式
	4	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	波状口縁。横位集合沈線を施し、結節浮線を縦位に2条と波状浮線を貼付する。	下島式と大木5式の折衷
	5	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	波状口縁。単節LR縄紋を施し、波状浮線とボタン状貼付紋を貼付する。	大木5式
	6	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③暗赤褐色	波状口縁の突起部で、透かしか入ると思われる。地紋に単節RL縄紋を施し、結節浮線を貼付する。	真島式
	7	深鉢 口縁部	①細砂少、余雲母 ②ふつう ③暗赤褐色	尖頭状の口唇部形状で刻みを付す。単節RL縄紋を施し、結節浮線を横位にのぐらす。	前期末葉
	8	深鉢 胴部	①白色粒少 ②真好 ③暗赤褐色	単節LRの結節縄紋と横位平行沈線を施す。沈線間にハの字状に刻突を施す。	前期末葉～ 中期初葉
	9	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③暗	単節RL、LRの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
	10	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③暗	単節LR、RLの結束羽状縄紋を縦位施紋する。	前期末葉～ 中期初葉
	11	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明黄褐色	横位にロッキングを施す。	浮島式
	305	1	深鉢 口縁部	①細砂少、結晶片多 ②ふつう ③明赤褐色	折り返し口縁で口唇部が肥厚する。斜位の沈線を施す。
2		深鉢 口縁部	①細砂少 ②真好 ③にぶい黄褐色	折り返しによる段が2段階確認できる。単節LR縄紋を横位施紋する。内面研磨。	浮島式
3		深鉢 胴部	①細砂少 ②真好 ③暗赤褐色	単節RL、LRの結節縄紋を横位施紋する。	前期後半
4		深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③にぶい黄褐色	無紋。	前期後半
5		深鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③にぶい黄褐色	窪定口径7.2cm。無紋。	ミニチュア
14	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②真好 ③暗	内面に段を有する器形。単節RL縄紋を横位施紋する。	前期後半
126	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③暗	単節LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
208	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	単節RL縄紋を斜位施紋する。	前期後半
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明褐色	単節RL縄紋を横位施紋する。	前期後半
215	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②真好 ③黄褐色	単節RL縄紋を横位施紋する。	前期後半
234	1	深鉢 胴部	①細砂多 ②ふつう ③にぶい黄褐色	単節LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
48	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②真好 ③暗	単節LR、RLの結束羽状縄紋を横位施紋する。内面研磨。	前期後半
99	1	深鉢 底部	①細砂少 ②真好 ③暗	施紋が浅く判然としないが、結束羽状縄紋が施されているようだ。	前期後半
114	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②真好 ③にぶい黄褐色	単節RL、LRの結束羽状縄紋を横位施紋する。口唇部には原体窪痕のような刻みを施す。	前期後半
240	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	単節LR、LRの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
303	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②真好 ③暗	単節LR、RLの結束羽状縄紋を横位施紋する。	前期後半
46	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	単節RL、LRの結節、結束羽状縄紋を横位施紋する。無紋部には横位圓歯状に意図的に原体を押し込んでいるようだ。	前期後半
11	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②真好 ③明褐色	単節LRの結節縄紋と単節RL縄紋を横位施紋する。	前期後半
254	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	無節LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③暗	無紋。	前期後半
	3	深鉢 口縁～ 底部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	窪定口径21.9cm、底径8.3cm、器高29.0cm。やや胴部に膨らみをもち、直線的に立ち上がる器形。口縁部に無紋帯を残し、単節RLの結節縄紋を横位多段に施す。内面は丁寧に磨かれる。	前期末葉

Ⅱ区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
60	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	単節LR縄紋を横位施紋する。	前期後半
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③橙	単節LRの結節縄紋を縦位帯状施紋する。	前期末葉～ 中期初葉
	3	深鉢 胴部	①細砂少、石英粒 ②ふつう ③橙	指頭によると思われる押捺を施した隆帯を横位に貼付し、その下に平行沈線をはわせる。	略々茶式
124	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄橙	縦い段を有する器形。単節LR、Lの結節縄紋を縦位帯状施紋する。	前期末葉～ 中期初葉
	2	浅鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	肩が張り出す器形。外面磨滑。	前期後半
251	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③橙	単節LR、RLの結節、結束引状縄紋を縦位帯状施紋する。	前期末葉～ 中期初葉
84	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	無紋。	前期後半
79	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	4単位の波状口縁。口縁部に楕円状区画。以下は垂下沈線を施し、単節RL縄紋を充填施紋する。	加曾利E3式
	2	深鉢 口～胴	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	№1と同様の構成。	加曾利E3式
	3	深鉢 底部	①細砂、白色粒 ②ふつう ③橙	垂下沈線と単節RL縄紋を縦位施紋する。	加曾利E3式
239	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③にぶい黄橙	口縁部に隆線をめぐらせて無紋帯を成形。内面磨滑。	加曾利E4式
	2	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③浅黄橙	隆線を弧状に貼付する。	加曾利E4式
	3	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③浅黄橙	隆線を垂下させ、単節LR縄紋を縦位施紋する。	加曾利E4式
	4	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③浅黄橙	無紋。	加曾利E4式
	5	深鉢 胴部	①細砂多 ②ふつう ③橙	沈線で幾何学状に区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式
246	1	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③明黄橙	無紋。	加曾利E4式
247	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③浅黄橙	単節LR縄紋を縦位施紋する。	加曾利E4式
310	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ④玉橙	横位区画に単節LR縄紋を充填施紋する。	加曾利E3式
32	1	深鉢 口～胴	①細砂多 ②良好 ③浅黄橙	胴部上位で1度すばまり、口縁が内湾する器形。くびれ部を境に縦位楕円区画を2段施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	加曾利E4式
	2	深鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③浅黄	やや内湾する器形。無紋。	加曾利E4式
	3	注口 口縁部	①白色粒少②ふつう ③浅黄	口縁部でくびれをもち、口縁が内折する。注口部上の口縁に透かしを入れた小突起を付す。	後期初葉
293	1	深鉢 口縁～ 底部	①細砂少 ②ふつう ③浅黄橙	推定口径27.2cm、推定底径9.4cm、器高27.1cm。鉢形で口縁が内湾する器形。口縁部に隆線を1条めぐらせて無紋帯をつくり、隆線以下は単節LR縄紋を縦位施紋する。	加曾利E4式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄橙	口縁部様帯部の部位。楕円状区画に単節LR縄紋を充填施紋する。	加曾利E3式
330	1	深鉢 口～胴	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄橙	推定口径25.9cm。口縁部に段を有する。無紋。	加曾利E5式
242	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③にぶい黄橙	口管内側が肥厚する。沈線を縦位帯状に区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③にぶい黄橙	すばまる部位。沈線で帯状区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③橙	沈線で帯状区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式
	4	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	無紋。	加曾利E4式
243	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	口縁部に橋状突起がつく。沈線で帯状区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式
	2	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄橙	沈線で帯状区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式
	3	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③橙	口管内側が肥厚する。沈線で帯状区画し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺1式

II 縄紋時代の調査

I 区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
243	4	深鉢 胴部～底	①細粒少 ②良好 ③にぶい黄橙	胴部上位ですばまり、胴部下半が膨らむ器形。沈線で帯状区画し、単筋L R縄紋を充填施紋する。	称名寺I式
323	1	深鉢 胴部	①細粒多 ②ふつう ③にぶい橙	胴部上位ですばまり、胴部下半が膨らむ器形。沈線で帯状区画し、単筋L R縄紋を充填施紋する。	称名寺I式
1集	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③明赤褐	集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③橙	屈曲する部位。集合沈線による横帯構成で、地紋に単筋R L縄紋を施紋。	諸磯b式
	3	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい橙	単筋R L縄紋を斜位施紋する。	前期後半

II 区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
50	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③黒褐	縦位区画、レンズ状集合沈線を施す。	諸磯c式
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい橙	施紋が浅く判然としなが、部分的に貝殻敷線紋を押し引いているようだ。	興津式
29	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③橙	横位、斜位の集合沈線を施す。	諸磯b式
32	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③にぶい褐	波状口縁で口縁が内折する。集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
	2	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③黒褐	集合沈線による横帯構成。沈線間に矢羽根状集合沈線を充填施紋する。	諸磯b式
	3	深鉢 口縁部	①細粒少、結晶片岩 ②良好 ③暗赤褐	頸部で緩く内折する器形。部分的に口縁が内折するとされる。横位集合沈線を施す。	諸磯b～c式
44	1	深鉢 胴部～ 底部	①細粒、白色粒 ②ふつう ③にぶい橙	胴部下半に膨らみをもつ器形。集合沈線による横帯構成で、沈線間に矢羽根状集合沈線を充填施紋する。地紋に単筋R L縄紋を施紋。	諸磯b式 Ⅲ-63.64.66, 68土と接合
59	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③橙	集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
	2	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③黒褐	横位、入り組み状の集合沈線を施す。	諸磯b式
	3	深鉢 底部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	横位集合沈線を施す。	諸磯b式
60	1	深鉢 口～胴	①細粒少 ②ふつう ③黄橙	Ⅲ-31土と同一個体と思われる。全面に貝殻質圧痕を施し、刻みを施した平行沈線を間隔を空けて横位にめぐらす。	興津式
	2	浅鉢 口～胴	①細粒少 ②良好 ③橙	肩が張り出す器形。外面磨滑。	前期後半
	3	深鉢 底部	①白色粒少②ふつう ③にぶい橙	直立する器形。推定底径10cm。無筋L R縄紋をまばらに施紋する。	前期後半
68	1	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③にぶい橙	集合沈線による横帯構成。地紋に単筋R L縄紋を施紋する。	諸磯b式
99	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③暗赤褐	縦位区画、レンズ状集合沈線を施す。	諸磯c式
100	1	有孔鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③にぶい黄橙	くの字状に内折する器形。	前期後半 Ⅲ-95土と接合
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい橙	緩く屈曲する器形。集合沈線による横帯構成で、地紋に単筋L R縄紋を横位施紋する。	諸磯b式 Ⅲ-95土と接合
	3	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③黒褐	集合沈線による横帯構成。沈線間に扇状の集合沈線を施す。地紋に無筋L R縄紋を施紋。	諸磯b式
	4	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③橙	波状口縁で口縁が内折する。集合沈線による横帯構成で、地紋に無筋L R縄紋を施紋する。	諸磯b式
	5	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	レンズ状集合沈線を施す。地紋に単筋R L縄紋を横位施紋する。	諸磯c式
115	1	深鉢 底部	①細粒多 ②ふつう ③にぶい橙	ミニチュア。底径4.4cm。横位集合沈線を施す。	諸磯b式
128	1	深鉢 口縁～ 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	口径28.2cm。現有器高24.3cm。屈曲する器形。小波状口縁で、液頂部に挟りを入れる。集合沈線による横帯構成で、沈線間に矢羽根状集合沈線や縦位の集合沈線を施す。	諸磯b式 Ⅲ-100土と接合
	2	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③明褐	集合沈線による横帯構成。地紋に無筋L R縄紋を横位施紋する。口唇部に縄紋を施紋。	諸磯b式
136	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③暗赤褐	集合沈線による横帯構成。沈線間に斜位の集合沈線を施す。	諸磯b式
14	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③暗赤褐	口縁部が強く内折する器形。斜位の集合沈線を施し、素浮線とボタン状貼付紋を貼付する。口唇部に弧状の貼付紋を貼付する。	諸磯c式

■区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
14	2	深鉢 胴部	①細稜少 ②ふつう ③橙	縦位区画、斜位の集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式
	3	深鉢 胴部	①細稜少 ②ふつう ③橙	縦位、斜位の集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式
	4	深鉢 胴部	①白色粒少 ②良好 ③橙	横位のロッキングを施す。	浮島式
15	1	深鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③にぶい黄褐色	縦く外反する器形。横位集合沈線を施す。	講義b式
	2	深鉢 胴部	①細稜少 ②ふつう ③黒褐	縦位扇面状の集合沈線を施す。	講義c式
	3	深鉢 胴部	①細稜少 ②良好 ③にぶい黄褐色	単節L R、R Lの羽状織紋を横位施紋する。	前期後半
25	1	深鉢 口縁部	①細稜少 ②良好 ③明黄褐色	大波状口縁で、波頂部が内湾する。三角形に集合沈線を施し、内部を集合沈線でV字状に充填。貼付紋を横、縦に貼付する。	講義c式
	2	深鉢 底部	①細稜多 ②ふつう ③明赤褐色	底径8.1cm。地紋に単節R L織紋を横位施紋し、横位集合沈線を施す。	講義b式
	3	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③赤褐	口縁下に縦位短沈線帯を設け、横位結節沈線を多段に施す。	興津式
31	1	深鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③にぶい黄褐色	口縁部が縦く外反する器形。口縁部に横位集合沈線を施し、以下、斜位の集合沈線を施す。	講義b式
	2	深鉢 口縁部	①細稜少 ②ふつう ③赤褐	横位集合沈線を施す。口唇部に部分的に深い刻みを付す。	講義b式
	3	深鉢 口縁部	①細稜少 ②ふつう ③明赤褐色	斜位の集合沈線を施し、平軌竹管によるC字状刺突を施す。口縁端部に刻みを付す。	講義c式
	4	深鉢 口縁部	①細稜少 ②ふつう ③橙	口縁部が縦く外反する器形。口縁部に横位集合沈線を施し、以下、矢羽根状集合沈線を施す。口縁端部に刻みを付し、貼付紋を貼付する。	講義c式
	5	深鉢 口縁～ 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	小波状口縁。頂部ですばまり、口縁が開く器形。口縁下に縦位短沈線帯を設け、挟むような刺突列を施す。以下は全面に具散背直線を施し、刻みを施した平行沈線を間隔を空けて横位にめぐらす。Ⅲ-60土Ⅰと同一個体と思われる。	興津式
33	1	深鉢 胴部	①細稜少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	集合沈線による横帯構成。地紋に無節L r織紋を横位施紋する。	講義b式
	2	深鉢 胴部	①細稜少 ②良好 ③にぶい赤褐色	横位、縦位扇面状の集合沈線を施す。	講義c式
	3	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐色	折り返し口縁で、口縁が外反する器形。肥厚部の下端を部分的に三角形に形取り取る。肥厚部下は単節L Rの結節織紋を横位施紋する。内面研磨。	前期未集
39	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄褐色	キャリバー状の器形。横位集合沈線により幅狭な口縁部紋様帯を区画し、紋様帯内に縦位扇面状の集合沈線を施す。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細稜少 ②良好 ③黒褐	口縁下に縦位短沈線帯を設け、同一工具による刺突を施して区画する。以下は、具散光端部の圧痕を施す。内面研磨。	興津式
	3	深鉢 胴部	①細稜少 ②ふつう ③橙	平軌竹管による刺突列を幾何学状に施し、平行沈線で帯状区画する。平軌竹管の刺突を横に連ねることによって、具散散縁紋に似せている。	興津式
40	1	深鉢 胴部	①細稜少 ②良好 ③明赤褐色	胴部紋様帯下端の部位。横位集合沈線で胴部紋様帯の下端を区画し、紋様帯内はレンズ状集合沈線を施す。	講義c式
45	1	深鉢 胴部	①細稜少 ②ふつう ③橙	横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③にぶい橙	具散散縁紋を密接施紋し、同一の具散によると思われる刺突を口縁部にめぐらす。内面研磨。	興津式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③黒褐	平軌竹管内皮による刺突列と具散光端部の圧痕を施す。	興津式
	4	深鉢 口縁部	①細稜少 ②ふつう ③黒褐	無節L r織紋を横位、斜位に施す。	前期後半
46	1	深鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③黒褐	小波状口縁。無節L r織紋をまばらに横位、斜位に施す。口唇部に刻みを付す。	前期後半
	2	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③黒褐	単節L R織紋を横位施紋する。	前期後半
	3	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③黄褐色	無節L r織紋を横位施紋する。	前期後半
	4	深鉢 底部	①細稜多 ②ふつう ③にぶい橙	底部が張り出す器形。単節R L織紋を横位施紋する。	前期後半
47	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③暗赤褐色	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。	講義c式
	2	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③明赤褐色	縦位、斜位の集合沈線を施す。	講義c式

II 縄紋時代の調査

B区土坑 土器				紋様の特徴等	備考
土坑番号	番号	器種	①胎土の焼成②色調		
47	3	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	口縁下に半截竹管による抉るような刺突列をめぐらす。口唇部に波状沈線を貼付し、縁線には貝殻模様を密接施す。	辨洋式
	4	浅鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	肩直下の部位。内外面に赤色塗彩あり。	前期後半
	5	浅鉢 肩部	①細砂少、金雲母 ②良好 ③赤褐	肩が張り出す器形。外面研磨。赤色塗彩あり。	前期後半
	6	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③にふい黄橙	屈曲する器形。無節しr縄紋を横位施す。	前期後半
48	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	胴部紋様帯下端の部位。縦位。レンズ状の集合沈線を施し、横位集合沈線で囲す。	講談c式
49	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	口縁が内湾する器形。無節しr縄紋を施し、貼付紋を貼付する。内面研磨。	講談c式
51	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	縦位区画、矢羽根状の集合沈線を施す。	講談c式
	2	深鉢 口縁部	①白色粒少 ②良好 ③にふい黄橙	縦く内折する器形。無節しr縄紋をまばらに施す。口縁端部に刻みを付す。	前期後半
	3	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③暗赤褐	口縁が縦く外反する器形。無節しr縄紋を横位施す。内面研磨。	前期後半
55	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③にふい黄橙	胴部で屈曲する器形。屈曲部に横位集合沈線を施し、以下、胴部紋様帯展開する。屈曲部下に貼付紋を施す。内面研磨。	講談c式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③にふい橙	無節しr、R1の結束羽状縄紋を横位施す。	前期後半
	3	深鉢 底部	①細砂少 ②良好 ③赤褐	推定底径8.8cm。無紋。外面研磨。	前期後半
62	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③にふい赤褐	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。	講談c式
63	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③暗赤褐	口唇をやや肥厚させ、口唇部に平坦面をつくる。集合沈線による横帯構成で、沈線間に斜位の集合沈線を充填施す。	講談b式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	胴部下の部位と思われ、縦く内湾する。斜位、横位の集合沈線を施す。	講談b式
64	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	単節しR縄紋を横位施す。	前期後半
63-64	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。レンズ状区画には斜格子目状平行沈線を充填施す。	講談c式
	2	深鉢 胴部		№1と同一個体。	講談c式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にふい黄橙	単節しR縄紋を横位施す。	前期後半
65	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にふい橙	外反する器形。集合沈線による横帯構成で、沈線間に斜位の集合沈線を充填施す。	講談b式
	2	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③にふい褐	波状口縁で、口縁が縦く内折する器形。屈曲部と口縁端部に刺突列をめぐらす。集合沈線による横帯構成と縦位展開の紋様が複合する。底部下に貼付紋を貼付する。	講談c式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	胴部紋様帯下端の部位。縦位区画、レンズ状を施し、横位集合沈線で囲す。	講談c式 Ⅲ-64土と接合
66	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③橙	波状口縁で、口縁が縦く外反する器形。斜位の集合沈線を施す。	講談c式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	横位集合沈線を施す。	講談c式
	3	深鉢 胴部	①細砂多、結晶片若 ②ふつう ③橙	屈曲する器形。屈曲部に刺突列をめぐらせ、屈曲部下に横位、縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。	講談c式
	4	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③黒褐	レンズ状集合沈線を施す。内面研磨。	講談c式
	5	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	レンズ状区画に斜格子目状平行沈線を充填施す。	講談c式
	6	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	推定口径10.2cm。口縁部に横位集合沈線を施し、以下、縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。口唇部に矢羽根状集合沈線を施す。	講談c式
69	1	深鉢 胴部	①細砂多 ②ふつう ③にふい橙	胴部で屈曲する器形。屈曲部に斜位の集合沈線を施して紋様帯を区画。口縁部紋様帯は横位集合沈線を施して貼付紋を貼付。胴部紋様帯はレンズ状集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講談c式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③黒褐	縦く外反する器形。縦位区画、レンズ状、X字状の集合沈線を施す。内面研磨。	講談c式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③橙	矢羽根状集合沈線を挟んだ縦位集合沈線を施す。	講談c式

■区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
81	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③瘦	口縁部に横位集合沈線を施し、以下、縦位に平行沈線を施す。口縁端部に刷みを付す。	講義c式
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にふい瘦	縦位、横位の集合沈線を施す。	講義b式
90	1	深鉢 底部	①細粒少 ②良好 ③瘦	底径12cm。横位集合沈線を施し、底部付近は無紋となる。	講義b式
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③瘦	単節R L縄紋を横位施す。	前期後半
91	1	深鉢 口縁～ 胴部	①細粒少 ②ふつう ③粗肌	胴部で屈曲する器形。屈曲部に矢羽根状集合沈線を施して紋様帯を区画。口縁部紋様帯は横位集合沈線を施して貼付紋を貼付する。胴部には縦位区画、レンズ状集合沈線を施して貼付紋を貼付する。口唇部にも斜位の集合沈線と貼付紋を施す。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③明赤瘦	縦く外反する器形。集合沈線による横帯構成。	講義b式
93	1	深鉢 口縁～ 胴部	①白色粒多②ふつう ③粗肌	小波状口縁で、波頂部に対向する抉りが入り、内湾する器形。集合沈線による横帯構成で、沈線間にレンズ状、矢羽根状集合沈線を充填施す。波頂部に貼付紋を貼付する。	講義b-c式
	2	深鉢 口縁部	①細粒少、結晶片岩 ②ふつう ③明赤瘦	キャリバー状の器形で、口縁部に対向する抉りを入れる。幅狭な口縁部紋様帯には斜位の集合沈線を施し、抉りの脇にボタン状貼付紋を貼付する。胴部紋様帯は縦位区画やレンズ状集合沈線を施す。	講義c式
	3	深鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③にふい黄瘦	縦くうの字状に内折する器形で、口縁部が部分的に内湾する。集合沈線による横帯構成で、地紋に単節R L縄紋を横位施す。	講義b式
	4	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③にふい赤瘦	波状口縁。集合沈線による横帯構成で、地紋に単節R L縄紋を横位施す。	講義b式
97	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③明赤瘦	横位集合沈線間に向心円状、弧状集合沈線を施す。地紋に単節R L縄紋を横位施す。	講義b式
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③明赤瘦	大波状口縁の突起部で、口縁が内折する。口縁、胴縁に沿って集合沈線を施し、矢羽根状集合沈線を充填施す。	講義c式
	3	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③明赤瘦	胴部紋様帯下部の部位。横位集合沈線区画し、紋様帯内は縦位区画、レンズ状集合沈線を施す。	講義c式
98	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③明赤瘦	無節R L縄紋をまばらに施す。内面磨削。	前期後半
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③粗肌	斜位、横位集合沈線を施し、以下、縦位、斜位の胴部紋様が展開する。	講義c式
101	1	深鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③にふい瘦	横位、斜位の集合沈線を施す。地紋に単節R L縄紋を施す。	講義b式
	2	深鉢 口縁部	①細粒多 ②良好 ③瘦	口縁が内折する器形。屈曲部に結節浮線と2条のくらす。口縁部には矢羽根状集合沈線と貼付紋を施し、屈曲部下には横位集合沈線帯を設け、以下は胴部紋様が展開、貼付紋を貼付する。	講義c式
	3	深鉢 底部	①細粒少 ②ふつう ③にふい瘦	単節R L縄紋を横位施す。	前期後半
109	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③明赤瘦	横位、斜位に集合沈線を施す。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③にふい瘦	小突起をもつ口縁部。具殻煎線紋、具殻先端部の圧痕を帯状に施す。地紋に単節R L縄紋を施す。口唇部にも縄紋を施す。	興洋式
	3	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にふい瘦	無紋。縦位の擦痕が見られる。	前期後半
110	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③赤瘦	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。	講義c式 Ⅱ-11土と接合
	2	深鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③にふい瘦	折り返し口縁で、段をもつ器形。	浮島式
	3	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にふい黄瘦	手載竹管内皮による刺突列を横位多段に施す。	興洋式
111	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③にふい赤瘦	小波状口縁。横位集合沈線を施す。口縁端部に刷みを付す。	講義c式
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にふい瘦	横位集合沈線を施す。	講義b式
	3	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③にふい瘦	波状口縁。胴部で屈曲する器形。屈曲部と口縁下に刺突を施す。	興洋式
117	1	深鉢 胴部	①細粒少、結晶片岩 ②ふつう ③粗肌	縦位区画、斜位の集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講義c式
134	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③明赤瘦	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。	講義c式

II 縄紋時代の調査

Ⅱ区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	特徴	紋様の特徴等	備考
134	2	深鉢 底部	①細線少 ②ふつう ③明赤地	底径10.4cm。単節R L縄紋を横位施紋する。	前期後半
151	1	深鉢 口縁部	①細線少 ②ふつう ③にぶい黄地	4単位の波状口縁。推定口径36.2cm。現存器高43.2cm。頸部ですままり、口縁が関く器形。後節R L耳を全面に施紋し、波頂部下と波底部下に大振りなボタン状貼付紋を貼付する。胴部にも貼付が見られる。	講義c式
155	1	深鉢 胴部	①細線少 ②良好 ③明赤地	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。地紋に無節L R縄紋を施紋。	講義c式
156	1	深鉢 口縁部	①細線多 ②ふつう ③明赤地	波状口縁で、波頂部が内湾する器形。口縁に沿って三角形に集合沈線を施し、波頂部下に貼付紋を貼付する。	講義b-c式
	2	深鉢 口縁部	①細線少 ②ふつう ③にぶい黄	無節L R縄紋を施し、貼付紋を貼付する。口縁部に刻みを付す。	講義c式
	3	深鉢 口縁部	①細線多 ②ふつう ③黒地	小波状口縁。貝殻背任痕を施す。	興津式
	4	深鉢 口縁部	①細線少 ②良好 ③黄	口縁が緩く外反する器形。単節R L縄紋を横位施紋する。口唇部にも縄紋を施す。矢張りして判然としないが、口唇部に波状縁線が貼付されていた痕跡が見られる。内面研磨。	興津式
	5	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③明赤地	No.4と同一個体。単節R L縄紋を横位施紋する。	興津式
	6	深鉢 口縁部	①細線少 ②ふつう ③明赤地	口縁が部分的に内湾する器形。無紋。	講義b-c式
	7	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にぶい黄	無紋。	前期後半
	8	深鉢 底部	①細線少 ②ふつう ③明赤地	底径9.1cm。無紋。	前期後半
	9	深鉢 底部	①細線多 ②ふつう ③明赤地	底径10.1cm。無紋。	前期後半
157	1	深鉢 口縁部	①細線少 ②良好 ③黒地	直立する器形。口縁部に横位集合沈線帯を設け、以下、胴部紋様が展開する。胴部紋様帯には縦位区画やレンズ状の集合沈線を施す。	講義c式 Ⅱ-10住と接合
	2	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にぶい赤地	平軌竹管外皮による刺突を3段横位に連ね、平行沈線で帯状区画する。	興津式
165	1	深鉢 口縁部	①細線多 ②良好 ③黄	波状口縁で、波頂部が内湾する器形。口縁に沿って三角形に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。貼付紋の脇にレンズ状沈線を施す。地紋に無節R L縄紋を施紋。	講義b-c式
79	1	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③黒地	横位にロッキングを施す。	浮島式
95	1	深鉢 口縁部	①細線少 ②良好 ③にぶい赤地	口縁下に縦位別沈線帯を設け、平軌竹管による抉るような刺突列をめぐらす。沈線で横位に区画し、貝殻腹縁紋を充填施紋する。内面研磨。	興津式 Ⅱ-93土と接合
	2	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にぶい黄	無節L R縄紋をまばらに施紋する。	前期後半
18	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③明赤地	胴部紋様帯の下端の部位。縦位、斜位の集合沈線を施して、横位集合沈線で画す。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細線多 ②ふつう ③にぶい黄	大波状口縁。横位扇歯状に集合沈線を施し、沈線間に扇歯状の印刷を施す。波頂部下の三角形区画には縦位レンズ状紋と印刷を施す。土坑内出土は破片1点のみで、ほとんどは周囲の包含層出土のものが接合した。	十三善提式
20	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にぶい黄	横位沈線により紋様帯を区画し、上位にはワジビ手状。下位には横位扇歯状と思われる集合沈線を施す。	十三善提式
135	1	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③明赤地	集合沈線による横帯構成。沈線間に斜位、矢張り状集合沈線を充填施紋する。	講義b式
	2	深鉢 口縁部	①細線少 ②良好 ③赤地	横位集合沈線により紋様帯を区画。口縁部紋様帯には斜位の集合沈線を施し、2個一対の貼付紋を縦位に、ボタン状貼付紋を口縁下に2段横位に貼付する。胴部紋様帯は縦位やレンズ状の集合沈線を施し、素直線とボタン状貼付紋を縦位に貼付する。	講義c式
	3	深鉢 口縁部	①細線少 ②良好 ③黄	大波状口縁。横位弧状に集合沈線を施す。部分的にヘラ切り手法を用いる。	十三善提式
	4	深鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③浅黄地	無節L R縄紋を横位施紋する。	前期後半
42	1	浅鉢 口-胴	①細線多 ②良好 ③にぶい黄地	胴部がフの字状に屈曲する器形。丁寧に磨かれる。	前期後半 Ⅱ-45土と接合
94	1	浅鉢 口-胴	①細線多 ②良好 ③明赤地	口縁が緩く立ち上がり、肩が張り出す器形。肩部下に1段の段を有する。	前期後半
38	1	浅鉢 胴部	①細線少 ②ふつう ③にぶい黄	肩部下の部位。段を有する。	前期後半
43	1	深鉢 口縁部	①細線少 ②良好 ③にぶい黄地	口縁が緩く外反する器形。単節R L縄紋を横位施紋する。内面研磨。	前期後半 Ⅱ-42土と接合

Ⅱ区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
43	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐	単節 R L 縄紋を横位施紋する。	前期後半
	3	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい橙	無節 L r 縄紋を横位施紋する。	前期後半
118	1	深鉢 口縁部	①白色粒少 ②良好 ③黒褐	無紋。	前期後半

Ⅲ区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
4	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい橙	集合沈線による横帯構成で、地紋に単節 R L 縄紋を横位施紋する。	講読 b 式
	2	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③橙	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。地紋に単節 R L 縄紋を施紋。	講読 c 式
5	1	深鉢 口縁部	①白色粒少②ふつう ③黒褐	キャリバー状の器形。幅狭な口縁部紋様帯には縦位扇面状の集合沈線を施し、 以下は胴部紋様が展開する。口縁端部に刻みを付す。口縁部に貼付紋が貼付さ れていた痕跡が観察される。	講読 c 式
	2	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③にぶい赤褐	斜位、レンズ状、矢羽根状の集合沈線を施す。	講読 c 式
	3	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐	横位之条の結節浮線をめくらせて紋様帯を区画。紋様帯内には結節浮線により 渦巻状モチーフを描く。地紋に横位、斜位の集合沈線を施紋。	下局式
15	1	深鉢 口縁部	①細粒少、結晶片若 ②ふつう ③赤褐	縦く内湾する器形。矢羽根状集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。口縁端部に 刻みを付す。	講読 c 式
16	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	内湾する器形。横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講読 c 式
	2	深鉢 口縁部		No1 と同一個体。	講読 c 式
	3	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③にぶい黄橙	口縁が縦く内湾する器形。横位集合沈線を施して幅狭な口縁部紋様帯を区画。 口縁部紋様帯内は縦位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。胴部紋様帯はレン ズ状集合沈線を施す。	講読 c 式
	4	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③にぶい黄橙	横位集合沈線を施して貼付紋を貼付する。口縁内面の肥厚部にも斜位の集合沈 線と貼付紋を貼付する。	講読 c 式
	5	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	外反する器形。縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。	講読 c 式
	6	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③橙	レンズ状集合沈線を施す。	講読 c 式
	7	深鉢 胴部	①細粒少、結晶片若 ②良好 ③明赤褐	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講読 c 式
	8	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③にぶい黄橙	胴部紋様帯上端の部位。横位集合沈線で紋様帯を区画。胴部紋様帯にはレン ズ状集合沈線を施す。	講読 c 式
	9	深鉢 胴部	①細粒少 ②良好 ③明赤褐	縦位扇面状集合沈線を施す。	講読 c 式
	10	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③黒褐	無節 L r 縄紋を斜位施紋する。	前期後半
25	1	深鉢 口縁部	①白色粒少 ②良好 ③にぶい黄橙	液状口縁。口縁下に縦位短沈線帯を設け、以下は具段縁紋を施し、平行沈線 で面す。	興津式
	2	鉢 口～底	①細粒少 ②良好 ③にぶい橙	推定口径16.2cm、底径10.3cm、器高7.0cm。無紋。	前期後半
62	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③赤褐	横位集合沈線を施す。口縁端部に刻みを付す。	講読 c 式
	2	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③赤褐	縦位、斜位の集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。	講読 c 式
	3	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③黒褐	斜位に集合沈線を施し、矢羽根状集合沈線を充填施紋する。	講読 c 式
	4	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③黒褐	単節 R L 縄紋を横位施紋する。内面研磨。	前期後半
	5	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③橙	単節 R L 縄紋を横位施紋する。	前期後半
	6	深鉢 胴部	①白色粒多②ふつう ③にぶい黄橙	無紋。	前期後半
65	1	深鉢 口縁部	①細粒少 ②良好 ③明赤褐	単節 R L 縄紋を横位施紋する。	前期後半
66	1	深鉢 胴部	①細粒少 ②ふつう ③明赤褐	斜位の集合沈線を施す。	講読 c 式

II 縄紋時代の調査

IV区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
66	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。	講義c式
68	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③明赤褐	弧状の平行沈線と刺突を施す。	興洋式
70	1	深鉢 胴部	①白色粒少②ふつう ③黒褐	縦位区画、レンズ状の集合沈線を施す。	講義c式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③にぶい橙	レンズ状集合沈線を施す。単節R.L縄紋を施す。	講義c式
	3	浅鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③暗赤褐	肩部下の部位。内外面研磨。	前期後半
98	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄橙	集合沈線による横帯構成。	講義b式
100	1	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③暗赤褐	波状口縁で、波頂部が内湾する。口縁に沿って集合沈線を施す。	講義b式
	2	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	無節L.L縄紋をまばらに施す。	前期後半

V区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
2	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	条線状の集合沈線を斜位や鋸歯状に施し、ボタン状貼付紋を貼付する。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい赤褐	波状口縁。対向する連弧紋を重畳させる。波頂部下にレンズ状紋を施す。	十三善提式
	3	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい赤褐	集合沈線により菱形状モチーフを描き、内部にレンズ状紋を上下に配置する。	十三善提式
	4	深鉢 口縁部	①細砂少 ②良好 ③橙	集合沈線により、左右対称の同心円状モチーフを描く。挿飾孔あり。	十三善提式
	5	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	斜位にロッキングを施す。	浮島式
3	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	平行沈線により斜格子目状モチーフを描く。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③明赤褐	単節R.L縄紋を横位施す。	前期後半
5	1	深鉢 胴部	①細砂多、結晶片岩 ②ふつう ③明赤褐	斜格子目状に集合沈線を施す。	講義c式

I区土坑 土器

土坑番号	番号	器種	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
1	1	深鉢 胴部	①細砂多、結晶片岩 ②ふつう ③にぶい橙	縦位鋸歯状の集合沈線を施す。	講義c式
	2	深鉢 口縁部	①細砂多、結晶片岩 ②ふつう ③にぶい褐	無紋。口縁部に一部、沈線状の凹みが見られる。口唇部に削みを付す。	前期後半
5	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄橙	横位集合沈線を施し、以下、胴部紋様が気関する。	講義c式
6	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄橙	縦位、斜位の集合沈線を施し、2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。貼付紋には内影竹管による刺突が押除される。	講義c式
7	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい黄橙	縦位、レンズ状の集合沈線を施し、2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。	講義c式
9	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	無紋。	前期後半
10	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②良好 ③黒褐	貝殻敷線紋を全面に施し、太沈線でワラビ手状モチーフを描く。	興洋式
	2	深鉢 口縁部	①細砂少 ②ふつう ③黒褐	若干内湾する器形。単節R.L縄紋を横位施す。	前期後半
12	1	深鉢 口縁部	①細砂少、白色粒多 ②ふつう ③にぶい褐	波状口縁、キャバー状の器形。口縁部に楕円状区画を施し、以下は沈線を垂下させる。単節R.L縄紋を充填施す。	加曾利E3式
	2	深鉢 頸部		No1と同一個体。	加曾利E3式
13	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい橙	横位集合沈線を施し、ボタン状貼付紋、結節浮線を貼付する。ボタン状貼付紋を横位に並べ、間に横位2条の結節浮線を貼付して連結するように配置させる。	講義c式
14	1	深鉢 胴部	①細砂少 ②ふつう ③にぶい褐	単節R.L縄紋を横位施す。	前期後半

II 縄紋時代の調査

Ⅳ区土坑 石器

土坑番号	番号	器種	法量(mm, g)	石材	備考
2	6	石鏃	長 24.8 幅 16.7	黒曜石	諏訪産
			厚 2.8 重 0.8		

Ⅰ区土坑 石器

土坑番号	番号	器種	法量(mm, g)	石材	備考	土坑番号	番号	器種	法量(mm, g)	石材	備考
2	1	台石	長 306 幅 242	粗粒輝石 安山岩		13	2	凹石	長 136 幅 114	粗粒輝石 安山岩	表面人為的 調整
			厚 126 重 12970						厚 71 重 1260		
4	1	凹石	長 101 幅 75	粗粒輝石 安山岩		14	2	磨・凹石	長 92 幅 77	粗粒輝石 安山岩	
			厚 63 重 577						厚 41 重 374		
	2	凹石	長 125 幅 107	粗粒輝石 安山岩			3	磨・凹石	長 90 幅 80	粗粒輝石 安山岩	
			厚 83 重 1313						厚 42 重 406		
6	2	多孔石	長 124 幅 107	粗粒輝石 安山岩			4	多孔石	長 131 幅 86	粗粒輝石 安山岩	
			厚 74 重 1131						厚 58 重 632		
10	3	磨石	長 129 幅 125	角凹石安 山岩		19	3	打製石斧	長 63.6 幅 45.8	黑色頁岩	
			厚 54 重 1095						厚 18.0 重 49.3		
	4	凹石	長 88 幅 71	粗粒輝石 安山岩			4	打製石斧	長 71.1 幅 54.6	埴貫頁岩	
			厚 35 重 290						厚 18.7 重 89.7		



6 木材集中

I区調査時、Hr-F A下の黒色土を掘り下げるなかで、北東部において木材が集中して検出された。黒色土を除去した2面上面では浅い溝状の落ち込みが確認でき、木材の多くはその落ち込みの範囲にあることが分かった。溝状の落ち込みは最大幅約6m、深さ10~20cmほどで、北東方向から南西方向へと緩やかに蛇行しながら走行する。おそらく、あまが池からの湧水が流れていた旧流路的な落ち込みなのであろう。

木材は総数120点ほどが検出されたが、人為的な加工が認められるものはなく、みな自然木であった。そのうちの12点について樹種同定を行ったところ、ハンノキ属ハンノキ節9点、トネリコ属1点、コナラ属コナラ節1点、コナラ属クスギ節1点という結果が得られた(V-4参照)。これら木材が流れてきた時期は、縄文時代から古墳時代にかけてのいずれかの時期といえる。

第213図 I区木材集中部